令和 7 年

波佐見町議会定例会会議録

第2回
開会：令和 7年 6月 6日
閉会：令和 7年 6月16日

波佐見町議会

令和7年第2回（6月）波佐見町議会定例会会期日程

	月 日	曜	区 分	内 容
第1日	6月 6日	金	本会議	開会 諸報告 会議録署名議員の指名 会期の決定 提案要旨の説明 議案審議（質疑・討論・採決）等
第2日	6月 7日	土	休 会	
第3日	6月 8日	日	休 会	
第4日	6月 9日	月	本会議	一般質問（5名）
第5日	6月10日	火	本会議	一般質問（5名）
第6日	6月11日	水	休 会	議事整理
第7日	6月12日	木	休 会	議事整理
第8日	6月13日	金	休 会	議事整理
第9日	6月14日	土	休 会	
第10日	6月15日	日	休 会	
第11日	6月16日	月	本会議	議案審議（質疑・討論・採決）
以下余白				

令和7年第2回（6月）波佐見町議会定例会 目次

第1日目（6月6日）（金曜日）

○開会・開議	2
○諸報告 諸般の報告	2
○会議日程	
日程第1 会議録署名議員の指名	2
日程第2 会期の決定	2
日程第3 提案要旨の説明	2
議案審議（質疑・討論・採決）	
日程第4 議案第38号	5
日程第5 議案第47号	17
○散 会	20

第4日目（6月9日）（月曜日）

○開 議	22
○会議日程	
日程第1 町政に対する一般質問	22
岡村 達馬 議員	22
田添 有喜 議員	36
岡村 真由美 議員	52
城後 光 議員	68
横山 聖代 議員	84
○散 会	101

第5日目（6月10日）（火曜日）

○開 議	103
○会議日程	
日程第1 町政に対する一般質問	103
脇坂 正孝 議員	103
三石 孝 議員	117
前田 博司 議員	133
福田 勝也 議員	149
北村 清美 議員	163
○散 会	176

第 11 日目（6 月 16 日）（月曜日）

○開 議	178
○諸報告 諸般の報告	178
○会議日程	
議案審議（質疑・討論・採決）	
日程第 1 議案第 39 号	178
日程第 2 議案第 40 号	180
日程第 3 議案第 41 号	182
日程第 4 議案第 42 号	184
日程第 5 議案第 43 号	185
日程第 6 議案第 44 号	196
日程第 7 議案第 45 号	197
日程第 8 議案第 46 号	198
日程第 9 報告第 2 号	199
日程第 10 報告第 3 号	200
日程第 11 報告第 4 号	200
閉会中の継続調査	
日程第 12 閉会中の継続調査申出について	200
（文教厚生委員長、産業建設委員長、議会運営委員長）	
○閉 会	201

第 1 日目（6 月 6 日）（金曜日）

諸 報 告

1 諸般の報告

（1）委員会報告

（2）例月現金出納検査結果の報告（2、3、4 月分）

議事日程

第 1 会議録署名議員の指名

第 2 会期の決定

第 3 提案要旨の説明

第 4 議案第 38 号 令和 7 年度波佐見町一般会計補正予算（第 1 号）

第 5 議案第 47 号 財産の取得について

第1日目（6月6日）（金曜日）

1. 出席議員

1 番	前 田 博 司	2 番	脇 坂 正 孝
3 番	澤 田 昭 則	4 番	横 山 聖 代
5 番	岡 村 真由美	6 番	岡 村 達 馬
7 番	三 石 孝	8 番	城 後 光
9 番	福 田 勝 也	10 番	田 添 有 喜
11 番	北 村 清 美	12 番	尾 上 和 孝

2. 欠席議員

な し

3. 議会事務局職員出席者

議会事務局長 古賀 真悟 書 記 一瀬 若菜

4. 説明のために出席した者

町 長	前 川 芳 徳	副 町 長	村 山 弘 司
総 務 課 長	福 田 博 治	企画情報課長	澤 田 健 一
商工観光課長	太 田 誠 也	施設整備室長	大 橋 秀 一
税務財政課長	松 添 博	住民福祉課長	小佐々 慶 太
農 林 課 長 兼 農業委員会事務局長	朝 長 哲 也	農 林 課 長 参 事	太 田 克 宏
建 設 課 長	本 山 征 一 郎	水 道 課 長	伊 藤 幸 治
長 寿 支 援 課 長	井 関 昌 男	子ども・健康保険課長	石 橋 万 里 子
会 計 管 理 者 兼 会 計 課 長	串 島 佳 織	教 育 課 長	森 田 法 幸
教 育 次 長 兼 給食センター所長	林 田 孝 行	総務課課長補佐	坂 本 昌 俊
税務財政課課長補佐	鶴 田 秀 幸		

午前 10 時 開会・開議

○議長（尾上和孝君）

御起立ください。皆さんおはようございます。

ただいまから令和 7 年第 2 回波佐見町議会定例会を開会します。これから本日の会議を開きます。本日の議事日程はあらかじめお手元に配付のとおりです。

諸報告 諸般の報告

○議長（尾上和孝君）

これから諸般の報告を行います。委員会報告、例月現金出納検査結果の報告については、その写しを配付しておりますので、御了承願います。

これから議事に入ります。

日程第 1 会議録署名議員の指名

○議長（尾上和孝君）

日程第 1. 会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、会議規則第 136 条の規定により、11 番 北村清美議員、1 番 前田博司議員を指名します。

日程第 2 会期の決定

○議長（尾上和孝君）

日程第 2. 会期の決定の件を議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、本日から 6 月 16 日までの 11 日間としたいと思えます。御異議ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

異議なしと認めます。したがって、会期は本日から 6 月 16 日までの 11 日間と決定しました。

日程第 3 提案要旨の説明

○議長（尾上和孝君）

日程第 3. 提案要旨の説明を求めます。

前川町長。

○町長（前川芳徳君）

皆様おはようございます。本日ここに令和 7 年第 2 回波佐見町議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には御健勝にて出席を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、令和 7 年度も 2 か月が過ぎまして、各事務事業も順調にスタートが切れたところでござい

ます。4月1日に運行を開始しました「かわたな・はさみタウンバス」ですが、関係皆様の御支援と御協力によりまして、大きなトラブルもなく運行できていますことを御報告させていただきます。

特に時間帯によっては、始発場所やダイヤをやむを得ず見直したところもございますが、皆様の理解を賜り、安定的に運行できておりますことに深く感謝しております。これまでの運行で様々なお声を頂いており、今後の改善に生かしてまいりたいと考えていますので、引き続き御支援と御協力をお願いします。

さて、4月29日から5月5日まで開催されました波佐見陶器まつりは、12年ぶりの期間中晴天に恵まれ、昨年より1万人多い26万人のお客様をお迎えすることができ、大きなにぎわいを見せたところでした。

また、5月2日には福田真琳さんに対する、ふるさと大使の委嘱状交付式を開催いたしました。福田さんは小学生の時期を波佐見町で過ごし、現在アイドルグループ「つばきファクトリー」のメンバーとして活躍中であり、当日は全国から熱烈的なファンが集う中に、トークショーも盛会に行うことができました。

今後波佐見町のふるさと大使として、持ち前の明るさと知名度により、広く波佐見町をアピールしてほしいと願うとともに、さらなる御活躍を祈念するところです。

さて本町を含む九州北部の梅雨入りは、いまだに発表されておりませんが、昨日は波佐見町防災会議を関係機関の出席のもとで開催しました。气象台によると、今年の梅雨の降雨量は例年並みか、多いと公表されていますので、災害の備えを進めてまいりたいと考えています。

一方、国内の経済状況に目を向けますと、いわゆるトランプ関税に加え、世界情勢の不安定を発端とする燃料や物価高騰が経済活動に暗い影を落としており、国においては令和6年度予算からの経済対策に加え、令和7年度の予備費も投入の上、総合的な経済対策を講じることとされています。

またいわゆる令和の米騒動では、国が備蓄米の放出により、消費者への供給と価格の安定を図ろうとしていますが、残された課題も多いのではないかと考えております。

本定例会におきましては、令和6年度に実施した定額減税で対処し切れなかった不足額給付として国から定額減税補足給付金が支給されることに伴い、所要額の計上や、地域公共交通のデジタル化等を進める共創モデル実装運行事業費補助金など、一般会計の補正予算昨年度末の決算による各会計補正の専決処分に加え、条例の一部改正、財産の取得などを提案しております。

それでは、本定例会に提出しました議案の要旨について御説明をいたします。議案第38号 令和7年度波佐見町一般会計補正予算（第1号）は、歳入歳出の予算総額に9,500万円を追加し、補正後の予算総額を104億9,500万円とするものです。

主なものは、歳出では先ほど御説明しました定額減税補足給付金事業、地域公共交通に係る共創モデル実装運行事業などの追加で、歳入では歳出に対応する国庫補助金に加え、繰入金、町債を計

上しております。

議案第39号 波佐見町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例は、基幹系システムの標準化において「住登外者宛名番号管理機能」が実装され、他業務との個人番号による連携が必要になることから、所要の改正を行うものです。

議案第40号 波佐見町水道条例の一部を改正する条例は、災害その他非常の事態において、他の市町村長が指定した指定工事事業者等による給水装置工事等を行わせることができるよう、関係する条例について所要の改正を行うものです。

議案第41号（専決第2号）専決処分の承認を求めることについては、地方税法の一部が3月31日付で改正され、その一部が4月1日から施行されるため、所要の改正として波佐見町税条例の一部を改正する条例を地方自治法の規定に基づき、3月31日付で専決処分したので、議会の承認を求めます。

議案第42号（専決第3号）専決処分の承認を求めることについては、地方経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律の一部が改正され、4月1日から一部の規定が施行されるため、所要の改正として、波佐見町地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化のための固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例を3月31日付で専決処分したので議会の承認を求めます。

議案第43号（専決第4号）専決処分の承認を求めることについては、令和6年度波佐見町一般会計補正予算（第9号）について、地方自治法の規定に基づき、3月31日付で専決処分したので議会の承認を求めます。

補正の内容については、歳入歳出の予算総額から1億8,900万円を減額し、補正後の予算総額を104億円ちょうどとするものです。主な内容は、歳入については町税の納付実績による増額、各種交付金、国県支出金や地方交付税等の最終交付額に基づく増減のほか、基金繰入金及び町債の減額を行っています。

一方歳出については年度末実績に基づく減額補正が主なものであり、剰余金の処分については減債基金及び教育施設整備基金などへ積立てを行っています。

議案第44号（専決第5号）専決処分の承認を求めることについては、令和6年度波佐見町国民健康保険事業特別会計補正予算（第4号）について、地方自治法の規定に基づき3月31日付で専決処分したので、議会の承認を求めます。補正の内容については、歳入歳出の予算総額に500万円を増額し、補正後の予算総額を17億4,800万円とするものです。主な内容は年度末実績による補正で、歳入については保険料等の減額、国県支出金の増額、歳出については基金積立金の増額などとなっています。

議案第45号（専決第6号）専決処分の承認を求めることについては、令和6年度波佐見町後期高

齡者医療特別会計補正予算（第3号）について、地方自治法の規定に基づき3月31日付で専決処分したので、議会の承認を求めるものです。

補正の内容については、歳入歳出予算総額から120万円を減額し、補正後の予算総額を2億2,380万円とするものです。主な内容は年度末の実績によるものです。

議案第46号（専決第7号）専決処分の承認を求めることについては、令和6年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算（第4号）について、地方自治法の規定に基づき、3月31日付で専決処分したので議会の承認を求めるものです。補正の内容については、歳入歳出の予算総額から3,500万円を減額し、補正後の予算総額を14億300万円とするものです。主な内容は年度末の実績によるものです。

議案第47号 財産の取得については、小・中学校児童生徒用情報端末について、5月27日に実施された長崎県下参加自治体による共同調達による入札の結果、落札した扇精光ソリューションズ株式会社と契約を締結するため、地方自治法の規定に基づき、議会の議決を求めるものです。

報告第2号 波佐見町私債権管理条例に基づく債権放棄については、水道料の一部を放棄したので、同条例の規定に基づき報告するものです。

報告第3号 令和6年度波佐見町一般会計予算繰越明許費繰越計算書の報告については、諸般の事情により令和6年度内に完了できずに、令和7年度へ繰越明許費となった事務事業について、地方自治法の規定に基づき報告するものです。

報告第4号 令和6年度波佐見町一般会計予算事故繰越し繰越計算書の報告については、事故によりやむを得ず令和7年度に繰り越す事務事業について、地方自治法の規定に基づき報告するものです。

提出した議案等は以上であり、詳細については御審議の折に御説明をいたしますので、何とぞ慎重に御審議の上、適正なる御決定を賜りますようお願いをいたします。

日程第4 議案第38号

○議長（尾上和孝君）

日程第4. 議案第38号 令和7年度波佐見町一般会計補正予算（第1号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

議案第38号 令和7年度波佐見町一般会計補正予算（第1号）について説明いたします。

歳入歳出予算の補正ですが、歳入歳出それぞれに9,500万円を追加し、総額を104億9,500万円とするものです。今回の補正は、定額減税補足給付金の不足額給付金のほか、補助金の追加や増額、学校施設等の工事などについて所要額を計上しております。

それでは、歳入について御説明いたします。6ページをお願いいたします。14款、2項、1目。総務

費国庫補助金には、定額減税補足給付金の不足額給付分の財源となる物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金5,270万円を追加計上しております。

7ページをお願いいたします。18款,1項,基金繰入金ですが、1目.財政調整基金繰入金について1,200万円の増額となります。これにつきましては、今回の補正に必要な財源を一般財源として繰入れを行うものです。

3目.ふるさとづくり応援基金繰入金については、農業経営支援事業事業費補助金及び競争モデル実証運行事業費補助金の財源として、2,300万円増額しております。

次に、歳出に移りますが、こちらは各担当課から説明いたします。

まずは税務財政課所管分から説明いたします。9ページをお願いいたします。2款,1項,15目.定額減税補足給付金の不足額給付費として、5,270万円の追加補正でございます。令和6年度に実施いたしました定額減税及び定額減税補足給付金において、不足が生じた分について今回差額請求するもので、約1,700件分5,200万円の給付金と、事務に係る経費について追加計上しております。

税務財政課からは以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 小佐々住民福祉課長。

○住民福祉課長（小佐々慶太君）

住民福祉課所管分について説明いたします。10ページをお願いいたします。3款,1項,3目.障害者福祉費。これは障害者総合支援事業に新たに就労選択支援という制度が創設されたことに伴い、システムを改修するものです。国が2分の1を負担します。

以上で、住民福祉課所管の説明を終わります。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

それでは、農林課所管分の御説明をいたします11ページをお願いします。6款,1項,3目.農業振興費18節.負担金、補助金及び交付金の農業経営支援事業費補助金を300万円追加補正するものがございます。この事業につきましては、今年度から始めました新たな事業でございます。4月から受付を開始いたしましたが、予想以上に農業者からの申請が多く、当初予算枠を倍に広げるために300万円を補正するものがございます。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

それでは、商工観光課所管分について御説明をいたします。少し戻りまして9ページをお開きください。2款,1項,8目.諸費18節.負担金、補助及び交付金でございます。競争モデル実証運行事業費補助金として2,000万円を増額するものです。これは昨年度策定いたしました波佐見町地域公共交通計画に基づき、今後行う公共交通の見直しや利便性向上の取組への費用について、国から補助

金の採択が得られましたので、今回予算を増額計上するものです。

なお国からの支援につきましては、現在組織しております波佐見町地域公共交通プラットフォームが申請主体となりまして、この団体への補助金が交付されるため、今回歳入の予算計上はございません。事業費の内訳については、事業費総額が6,500万円、国の採択上限額が4,500万円の見込みとなっております。町からのプラットフォームへの差額の2,000万円を今回予算計上して補助することとしております。

なおプラットフォームの構成員は、交通事業者、川棚町、近隣県立高校、観光協会、社会福祉協議会、東彼商工会、窯業技術センター、学識経験者などとなっております。事業の主な内容といたしましては、「かわたな・はさみタウンバス」の利便性向上のための取り組みとして、キャッシュレスシステムやバスロケーションシステムの導入、高校生などによる車内アナウンスの録音、波佐見焼を活用した車内装飾を予定しております。また、予約制乗り合い交通につきましては、予約システムの導入、それから小型車両の導入などを予定しております。

その他、交通結節点となるモビリティハブの待合環境の整備、案内サインの設置や、実証運行の際の各種調査、それから実証運行費用を予定しております。

以上で、商工観光課所管分についての説明を終わります。

○議長（尾上和孝君） 林田教育次長。

○教育次長（林田孝行君）

それでは教育委員会関連を御説明いたします。予算書の12ページをお開きください。10款、3項、1目、中学校管理費14節、給水管修繕工事として、220万円計上しております。波佐見中学校においては、以前から漏水が確認されており、その都度修繕工事を行ってきたところですが、今回新たに3か所の漏水が確認され、緊急を要することから予算計上しているものでございます。

次に13ページをお開きください。10款、4項、6目、講堂管理費14節、講堂改修工事として50万円、また17節、空調機購入費として700万円を計上しております。まず、14節の講堂改修工事につきましては、先ほど申し上げました空調機購入費に伴う電圧引込みによる動力設備工事となります。

次に、17節、空調機購入費700万円について御説明いたします。現在、講堂ホールにおきましては空調が設置されておらず、近年の猛暑においては熱中症対策が喫緊の課題となっております。この問題に対応するため、空調機3台分を購入費用として計上しております。

また、本年9月14日から11月30日までの期間で「ながさきピース文化祭2025」が開催され、本町におきましても、講堂において複数のイベントが開催される予定となっております。これらの状況を鑑み、来場される皆様の安全と快適性を確保するため、今回の空調機の設置を予算計上いたしております。

以上で、議案第38号 令和7年度波佐見町一般会計補正予算（第1号）の説明を終わります。御審

議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（尾上和孝君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

岡村達馬議員。

○6番（岡村達馬君）

9ページ。歳出の2款, 1項, 8目と15目に共通することなんです。まだ新年度始まって2か月。8目については30%、15目については300%ぐらいの増額になっておりますが、これはもう4月の段階、本来ですと当初設計では見込まれなかったのかというのが一つと、申請が4月以降の申請で、決定日がこの時期になったと。よければ決定日を教えてほしいのですが。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

まず15目の定額減税補足給付金でございますが、こちらにつきましては昨年度からその不足分についての交付というのは計画をされておりました。7年度に交付するというのも、国から指定がございましたが、今年度の7年度の税額、今度の確定申告が確定しないと計算ができないという状態ございましたので、それで国のほうから5月の末ぐらいにツールが参りまして、そこで計算したところ5,200万円程度給付をするようになるということで、計算が出ましたので今回補正をさせていただきます。

一応ですね、今度7月～8月ぐらいにはですね、対象者のほうに通知ができるものと思っております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

2款, 1項, 8目. 18節. 競争モデルに関しましてはですね、国の採択につきましては今年度入って5月中旬ぐらいにですね、採択の通知が来たというふうなことで。申請自体は3月末への申請ということになっておりまして、採択されるかどうかというふうなところもちょっと明確に分からなかったものですから、一応今回補正に上げさせていただいたということでございます。以上です。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○9番（福田勝也君）

今もですね説明がありました2款, 1項, 8目. 諸費18節. 負担金、補助金及び交付金の共創モデル実証運行事業費補助金なのですけど。プラットフォームが申請主体で6,500万円の事業費ということには分かったのですけど、すいませんもう一度内容をちょっとゆっくり説明していただいでよろしいですか。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

この国の支援を受けて行う事業の概要といたしましては、まず「かわたな・はさみタウンバス」につきまして、まず今ですね、キャッシュレスシステムがございませんので、こちらのほうのシステムの導入と、バスロケーションシステム——これはバスの位置情報を明確にスマートフォン等に飛ばして位置情報が分かるような、そういったシステムになりますが、こういったものの導入を行うとともに、車内放送を今デジタル音声を利用して案内をしておるんですが、こういったものを地域の高校生等に事前に吹き込んでいただきまして、その降車場所とかの案内をしていただくような、そういったところで特色のあるような運行をしていきたいということで、そういったことに導入する経費。

それからこれも波佐見町の独自性といいますか、そういったところで陶磁器による車内装飾、例えば吊り輪とか、そういったものを焼き物でやったりとかですね、手すり部分とかの装飾を加えたりとか。そういったものを想定しているところでございます。

それから、予約制乗り合い交通につきましては、これも以前からいろんな御意見を頂いてる中で——予約がしづらいとかですね。事業者の方々も今現在アナログで予約の受け付けを行うって報告作業されております。こういったものを解消するために、予約システムを導入いたしまして、利用者それから事業者の方々の御負担をですね、減らしていくための、そのようなシステムの導入を検討しております。

それから小型車両の購入をいたしまして、それを実際にこの予約制乗り合い交通の運行に充てるというふうなことも、一応予定をしているところでございます。

そのほかに、今回波佐見町役場に乗り入れ等もしておりますし、交通結節点と言われるいろんな交通手段が乗り入れるような場所について、もう少し利便性を高めていく必要があるだろうということで、待合環境を整備したり、案内サイン等を拡充していったりとか、そういったことを行っていくようにしております。

さらに、この事業を行うに当たって、いろんな今の乗り合いの状況とかを調査する必要がございますのでその調査費用でございます。あとは実際にこのシステム等を導入して、運行をする際に、そのための実証運行の費用として、予算を計上しているというふうなところでございます。以上です。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

6款、1項、3目、ページが11ページですか。農業振興費のほうで、今回新年度から始まりました農業経営支援事業費の補助金。今回当初予算の同額の300万円を計上されていますけど、これ農業者の機械購入と——中古も含めてですね、支援されるということで農業者の皆さん方は大変喜んでい

らっしゃる。

その中でやはり、情報をキャッチした農業者が4月1日以降農林課のほうに申請をされたという経緯を聞いておりました、当初予算がもう短期間にパンクしてしまったという状況が発生しているというのをお伺いしております。同額の300万円計上されておりますが、その間この300万円の増額補正がされるといううわさもかなり広まっております、その分についても既にもう予約でいっぱいになっているというふうな話も聞いています。その辺、どういうふうに担当課では情報をキャッチされているのでしょうか。

そういう情報を伺ってるんですけど、実際のところはどうなんですか。もう300万円補正されるんですけど、もう既に300万円の補正に伴う利用者の申請をもうされているようなお話を伺っているのですよ。その辺の実態はどうなんですか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

先ほど議員の御説明にもありましたが、この事業につきましてはですね一般の農家、今まで補助事業関係は認定農業者とか集落営農法人とか、そういった任意団体とか、そういったところに限られておりました。また本町の農業につきましては、こういった一般の農業者がまだまだ支えてる部分があるというところで、そういった方々を支援できないかということで昨年度こういった事業を立ち上げて、今年度から新たに予算を取って申請を受け付けて、開始を行った次第でございます。

言われますとおり4月1日から早速、そういった申請が上がってまいりまして、4月の中旬ぐらいには当初の300万円がもう超える勢いでやってまいりました。当初の予定としましては、補助率を50%未満ということで規定をしておりましたが、もうそれでも到底追いつかないという状況が生じたので、その補助率を見直すと同時に、予算枠ももう足りないということが分かっておりましたというか状況で、思いましたので財政局と話をしながら倍額の600万円を確保する——今回の予算補正で300万円を計上して、600万円を確保するというところで対応を行っております。

それでも、それ以降もそういった申請が上がってまいりまして、今のところ4月末ぐらいのそういった要望で、その600万円ももう超えるというような状況が発生いたしておるような状況でございます。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

ということは結局今回補正を組んでですね、また300万円についても大方もう申請があつて、それももう使い切る状態であるというのが現状だと思うのですね。しかしながら、やはりこの制度というのは、農家の方たちにとってはとても待ちに待った制度ということで、何とか継続してもらいたいということをおっしゃっている方もたくさんいらっしゃいます。

実際今回補正で組まれた300万円をもう既に使い切るようなかたちになっていきますと、さらにこの制度について6月はこの300万円でしょうけど、9月、12月ということで要望される方も多いと思うんですね。それに対する対応というのは、お考えになってるんですか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

現在のところ本年度の補正予算につきましてははですね今回で終わろうかと思っております。ただ来年度に向けてこの制度につきましてはですね、もう一度そういったも検討し直さなければいけないかなというふうに思っております。

これからは4月以降も農業者が来られて、そういった旨の説明を行いまして、一応御理解いただいて、来年度でまた対応させていただきたいということでお話をしております。ですのでもう一度これから、この制度につきまして中身をちょっと精査をしまして、来年度に向けて農業者に周知をしてみたいということで思っております。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

ありがとうございます。そういう形で支援していただければ業者のほうもいろんな形で農業にまた精が出るというふうに思います。一応最終的に最後に1点だけ確認ですけど、今回の300万円の補正に対する、ある程度の予定されている方たちというのは、最初の当初予算の300万円が済んだ後に申請に来られたと思うんですね。その人たちに対する今回の300万円に値するような申請は一応予約として受け付けをされていたのですか。それとも大方300万円は使い切るような形に、もういっぱい、いっぱいになっているよねという判断を農業者の方たちの情報から判断されたのか。予約申請というかたちで判断されていたのか。そのあたりだけはちょっと教えていただきたいと思います。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

すいませんもう一度そこあたりを、ちょっとどういう趣旨でお聞きになってるかも、ちょっと確認をさせていただきたいと思います。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

すいません私の説明が悪くてですね。今回の補正の300万円についても大方、申請に対する補助の行き先はもう決まっているというような最初の答弁でございましたので、その内容的には、当初予算の300万円がもうパンク状態でしたと。そのあと予算もさらにつけないと駄目ですよというふうなことで御判断されたという説明がございました。

ということは、今回の補正の300万円についても、もうある程度行き先が決まってるんですよとい

うふうな答弁として解釈されたので——私のほうはね。だから300万円の補正が今回議会で通ったときのですよ、もう予約として申請があった分で、もうこれ300万円使い切ってしまうよねという判断があったんですか。その予約としてちゃんと受けた部分で、計算上も300万円になってしまったなというのが根拠として先ほどの答弁をされたのかということを知りたいんです。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

一応話をしまして、この枠をどうするかということで倍額という方針を波佐見町としては出そうということで決定をしました。そのときにはまだ300万円まで、プラスの300万円までは申請は上がっていませんでした。それ以降にまた申請が上がってまいりまして、予定している600万円までなってしまったというところでございます。よろしいでしょうか。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

状況について少し御説明いたします。先ほど農林課長申しましたとおり、一気に申請が上がってきてこのままの状況では当初予算枠は使い切りますよという報告は農林課からございました。財政サイドを加えて、どういうふうに今後対応するかという状況の中で、既に今後の見込みとしては、かなりの申請数が上がってくると。というのはやはり、この制度の周知が農業者間あるいは機械販売業者間を通じて農業者に広まっていると。今後さらなる申請が見込まれますということで、先ほど議員がおっしゃったように、申請の予約ということではなくて、とりあえず執行科目でございませぬ節でございます。予算科目節でございますので、他の予算の——この補助金の中で早急に使わなくてもしばらく猶予が持てる予算の中から300万円をまずは流用しよう。予算枠を600万円確保しましょう、という決定の中で、当然この流用額については今回の補正において、上げなくてはいけないという措置をとったというのが流れでございます。よろしいでしょうか。

その予算枠を流用して予算枠を確保して、それぞれ交付決定を出したと。申請を受け付けて交付決定を出したという流れでございます。

○議長（尾上和孝君）

次から発言されたマイクをセットしてから発言していただいでよろしいでしょうか。お願いいたします。

ほかにございませんか。

○議長（尾上和孝君） 脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

ただいまの答弁では今回の300万円これで今年度は打切りというふうに理解をしましたが、恐らく相当の件数に上っていると思うのですが、今まで申請されてる件数が分かれば、まずこの件数

と、それから採択された件数ですね。これをお願いしたいと思います。

そしてまた、今後ことですが、今後今までの恐らく田植とか、主として夏用、今の時期のための農機具が主だったと思うのですが、今後収穫用の機器も夏頃になれば増えるのではなからうかというふうに思うわけですね。

それで現在のところ、もうこれで打切りだということは非常に不公平でございまして、そしてまた個人的な農家というのはかなり高齢化されております。この時期に買うか買わないかというのは、やはり大きな決断が必要なわけですね。そういった折にやはりできれば5分の1は——5割のほう望ましいんですが、3分の1であっても、こういうふうな補助金は、ぜひ今年度、再度9月補正にでも組んで継続をしてもらいたいと思いますけど、いかがでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

最初の申請件数ということでございますが、今のところ全ての申請件数が、すいません何件かというのはちょっとすいません、把握しておりません。今その600万円枠で事業申請をしていただくのは29人の方でございます。

それ以降も数人の方が来られておりますので、プラス10人はもう来られてるかなというふうに思っております。

それと今年度の補正9月以降の補正というお話でございますが、先ほどちょっと答弁申し上げましたが、ちょっと内容的にもう一回この事業について精査をしたいと思っております。

今年度につきましては精査をして、広報等で皆さんに周知して、来年度そういった事業ということで説明してから来年度から対応させていただければというふうに思っております。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

これは私の近隣の農家の皆様にお尋ねしたところ非常にいい制度だというふうなことで、今まで個人的な農家に対するこういうふうな機器というのは、まずあっておりませんので、喜ばれているわけですよ。それこういうこのような制度を当初予算のときも説明がありましたようにやはり継続する農家が増えるんじゃないかと。そういうふうな大きな効果がありますので、先ほどの精査を急いでもらいまして、ぜひ9月補正にでも出せるような方向で進めてもらいたいと思います。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

また答弁同じようになりますが、今年度また精査させていただいて、来年に向けて周知をさせていただければというふうに思います。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○8番（城後光君）

今のですね、11ページの農業振興費の農業経営支援事業費補助金について確認なんですけど。これまで申請された方が29人いらっしゃって10人が申請されているということなんですけど、これから今年度に申請自体、この制度を使って申請自体はできるのですか。それとももう申請は終える形になるのですか。そこだけ確認させてください。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

これから申請で来年度に向けたところでですね、そういった予算枠的なもので受け付けを行いたいというふうに思っております。申請ではございません。来年度になって再度申請をし直していただいて、事業に着手していただくということにしたいと思っております。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 澤田議員。

○3番（澤田昭則君）

13ページ。10款、4項、6目。講堂管理費で14節、17節備品購入費700万円と50万円上がっておりますが、国民文化祭があるから整備されるわけではないと思いますが、これまでもかなり空調的に御相談もあったかと思えます。

今回の整備の内容を聞きましたけど、もうちょっと詳しくお聞きしたいんですが、冷暖房完備なのか、スポットクーラー的なものなのか、常設的なクーラーなのか。その辺をちょっと具体的に教えてください。

○議長（尾上和孝君） 林田教育次長。

○教育次長（林田孝行君）

まず、どういった形で設置するかということですが、予定では固定式ではなく移動式にしております。なぜ移動式にするかと言いますと、ここが国の有形文化財指定を受けてますので、景観的にやはり崩してはならないという思いがございます。

ただですね、その分の登録有形文化財の規定ですが、これは全く中の改造できないというわけではございません。ですので、固定式か先ほど言いました移動式かという検討を重ねてきた結果ですが、やはり最終的には建物の景観を崩さないという点と、あと金額的には安価にすみますので、それを3台、一応購入するような予定でしております。

これについての購入に当たっては、関係者の団体とも協議を進めた上での計上となっております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 澤田議員。

○3番（澤田昭則君）

それでは移動式という話だったのですが、他の公共施設でも使いたいときに、それを移動して使うこともできるのでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 林田教育次長。

○教育次長（林田孝行君）

この移動式が200キログラムぐらいございまして、移動にはかなり……。ただ全くできないということではございませんので、有事の際とか、そういった際には活用していきたいと思っています。以上です。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

申し訳ありません。先ほどの答弁で以降の申請は何件あったかという御質問がありましたが、10件と私申し上げましたが、6件あったというところでございます。以上でございます。申し訳ございません。

○議長（尾上和孝君） 澤田議員。

○3番（澤田昭則君）

先ほどの質問に関連しますけど、冷房暖房に関してはどちらの機能を持ってるのでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 林田教育次長。

○教育次長（林田孝行君）

基本ですね、冷房機能を有したものとなりますが、ただ暖房の機能もついております。この移動式の冷房式の形になりますと、温度を下げるといいますけども、それよりも湿度を下げる形で体感を涼しく感じるといった形を目的として計上してるところでございます。

○議長（尾上和孝君） 横山議員。

○4番（横山聖代君）

ページ数は、すいません戻るのですけど。9ページ。2款, 1項, 8目. 諸費の18節ですね。先ほども説明をいただいたんですが、ちょっとプラットフォームとなる関係者のところがなかなか聞き取れなかったのもう一回そこを言ってもらうのが一つと。

ページ数が12ページをお願いします。10款, 3項, 1目. 中学校管理費の工事請負費なんですけど、3か所の漏水がということでしたが、これっていつ頃判明したものなのでしょうか。お願いします。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

それでは9ページ。2款, 1項, 8目. 18節. 競争モデル実証運行事業費補助金についてプラットフォームの構成員ということで。まず構成員につきましては、町内の交通事業者、町内といいます

か西肥バスさんも含めたところの交通事業者ですね。と川棚町そして近隣の県立高校、それから観光協会、社会福祉協議会、東彼商工会、窯業技術センター、そして学識経験者を予定しております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 林田教育次長。

○教育次長（林田孝行君）

漏水は以前からかなりあっておりまして、昨年にも工事を行ったところがございます。それで今回につきましては、3か所漏水をしておりまして、箇所をちょっと申し上げます。1階職員室用のトイレの給水配水管の漏水ですね。次に体育館のトイレ、給水排水配管ですね。屋外の埋設しておりますが、ここが教室棟と駐輪場の間のところの給水管の漏水が出ておるところでございます。

ですので、本来であれば全面的にすべきところですが、現場で立ち会ったところ全面的にするとかなり膨大な額になるということですので、まずはこの箇所から修繕をさせていただきたいと思っております。以上でございます。

この漏水はですね、もうそれぞれ違うんですが、3月ぐらいからとなっております。3月に起きた分もありますし、昨年の8月から出たものが、先ほど申し上げましたその後に——修繕を行ったものが、また別のところが漏水したということで今回の形です。よろしいでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

すいません。先ほど横山議員からの質問の答弁一部誤りがありましたのでお知らせします。構成員のメンバーに西肥自動車もというふうなことでお話ししましたが、今回のプラットフォームには西肥バス路線は含まれておりませんでしたので、構成員の中には入っておりません。失礼しました。

○議長（尾上和孝君） 脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

先ほど11ページの6款、1項、3目、18節、農業経営支援事業補助金でございますが。今後精査をするというふうなことです。どのような方法でいつ頃されるものかということと、精査次第では前倒しで今年度に向けて、再度申し上げますが補正ができないか。そこら辺をもう一度お願いしたいと思っております。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

その話につきましては現在も行っているところでございますが。我々も多くの農家の方にこれを利用していただきたいというふうに思っておりますが、予算というのもございますので、そこらあたりでどういう形で見直しを行うかというところを、もう一度検討させていきたいというふうに思っております。

また答弁の繰り返しになりますが、来年度に向けてというところで、その検討を行いまして来年度に向けて事業の予算を確保していきたいと思っておりますので、今年度の補正につきましてはこの6月限りというように思っております。以上でございます。

○議長（尾上和孝君）

ほかにありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第38号 令和7年度波佐見町一般会計補正予算（第1号）を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（尾上和孝君）

起立全員であります。したがって、議案第38号は原案のとおり可決されました。

会議の途中ですが、しばらく休憩します。11時10分より再開します。

午前10時58分 休憩

午前11時10分 再開

○議長（尾上和孝君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第5 議案第47号

○議長（尾上和孝君）

日程第5. 議案第47号 財産の取得についてを議題とします。本案について内容説明を求めます。

林田教育次長。

○教育次長（林田孝行君）

それでは、議案第47号について御説明いたします。

議案第47号 財産の取得について。別紙のとおり財産を取得するため、地方自治法第96条第1項第8号の規定により、議会の議決を求める。令和7年6月6日提出。波佐見町長前川芳徳。

次のページをお開きください。

1. 財産の取得は小・中学校児童生徒用情報端末

2. 数量は1,340台。

3. 取得予定価格5,660万1,600円。税込みでございます。

4. 取得予定年月日は、令和7年10月31日までとしております。

5. 契約の相手方は、長崎市田中町585番地5。扇精光ソリューションズ株式会社 代表取締役 松尾隆宏でございます。

今回の財産の取得は児童生徒用情報端末いわゆるタブレットでございます。令和2年に国のGIGAスクール構想に伴い、児童生徒1人1台のタブレット配付事業として、1,375台導入いたしましたタブレットの更新事業となります。

今回の導入にあたっては、県下12市町による共同調達に参加し、契約額並びに契約先を決定しているもので、長崎県教育の情報化推進協議会がその入札事務を行ったものであり、入札は5月27日に行われたものであります。

3ページをお開きください。このページが波佐見町に係る機器の内容、納品場所、スケジュールとなっております。まず今回契約するタブレットのタイプは、これまでどおりWi-Fiモデルであり、コンパチブル型いわゆる360度回転できる形状となります。また、画面サイズは11.6型であり、タブレットの重量は約1.4キログラムとなっております。これは前回同様となっております。

次に納品場所についてであります。東小学校に145台、中央小学校に431台、南小学校に312台、波佐見中学校に452台、計1,340台を納品予定であります。

次にスケジュールについてでございます。長崎県教育の情報化推進協議会と落札業者である扇精光が覚書を交わしており、本契約につきましては議会からの採択をいただいた後に、各々自治体で契約を行うようになっております。

納品につきましては7月中に行われ、9月までの間、設定作業を行うように計画しております。その後、準備が整い次第、小学2年生から中学3年生までを対象に10月をめどに新端末の配布を行い、小学1年生は1月に配布をするように計画をしております。

以上で議案第47号 財産の取得についての説明を終わります。御審議のほどよろしく願いいたします。

○議長（尾上和孝君） 横山議員。

○4番（横山聖代君）

ちょっと2点確認なんです、今回タブレットの更新にあたりですよ、現在のタブレットがまだ使えるものがあるのかなとは思いますが。この使っているタブレットはどうされるんでしょうかというのが一つ。あと一つが3ページの2の納品場所のところに機器台数、全部の合計で1,340台で、あと令和7年5月1日時点の生徒数が1,178人なので、予備として162台になると思うんですが、この162台も予備としているのかなというのがちょっと疑問にあるのですが。この予備として162台

ってどういうふうに使われるのでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 林田教育次長。

○教育次長（林田孝行君）

今使ってる、使用をしてるものですが、基本廃棄処分をいたします。ただ横山議員がおっしゃったように使えるものがまだございますので、それは100台程度こちらに残しまして、違った関係団体もございます。例えば教育委員さんにタブレットを残すとか、そういった利活用をしながら調整を図りたいと思っております。

それとこの導入の1,340台と令和7年5月1日現在が1,178人ですが、これは昨年9月に、この申請をしなければいけない事項がございました。そのときには1,166人ですかね。そのとき人数が若干違っております。これに15%を予備機ということで、追加することで、これに誤差が生じているものでございます。

なぜその差が生じているかといいますと、このタブレットについては保守契約がございませんので、壊れたときの補償が何もございません。そういったことから予備が必要ということでこれだけの15%の差の分を購入しているものでございます。以上です。

○議長（尾上和孝君） 脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

今回の財産取得は児童生徒用ということになっておりますが、教師用の端末ですね。これはどうなってるのでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 林田教育次長。

○教育次長（林田孝行君）

今回は児童生徒用のタブレットの購入でございます。教職員の分はどうなってるかという御質問でございますが、これにつきましては令和6年の1月1日に情報系の端末、いわゆる授業用の端末をそれぞれ各小・中学校購入しておりますので、今回の分には含まれてはおりません。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

先ほどですね横山議員のほうから、現在のタブレットの処分についての質疑答弁ございましたが、ホームページを見ますと処分方法についてはですね、今回答いただいたように、小中学校の学校事務や支援員等の情報端末として再利用を100台計画されて、あとの分については小型家電リサイクル法の認定事業者へ再利用、再資源化を委託と。これが1,270台。そういった形でホームページに載っているのですが。

先ほどもう廃棄処分というような回答いただいたんですが、こういった再利用、再資源化を委託

されているというところもあったんですが、ここの確認をちょっとお願いします。

○議長（尾上和孝君） 林田教育次長。

○教育次長（林田孝行君）

この再資源といいますか利活用ですが、先ほど福田議員がおっしゃったように100台は残すような計画をしております。この参考資料の中の機器の内容で、うちの内容を書かせていただいております。その中に、今回新たにここの機能として入っているものが端末管理機能このGoogleGIGALicenseが入っております。これを契約することによって無償でこれまでの端末を処分していただけるといった内容でございます。このGoogleGIGALicenseはほかにもございますが、一つの機能としてそういったものがございましてそれを今回活用するというところでございます。

なおこの1台この端末を処分するのに、3,000円～4,000円処分費がかかるということですので、今回これを取り入れてするといった形となっております。よろしかったでしょうか。

○議長（尾上和孝君）

ほかにありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第47号 財産の取得についてを採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（尾上和孝君）

起立全員であります。したがって、議案第47号は原案のとおり可決されました。

以上で、本日の日程は全部終了しました。本日はこれで散会します。

御起立ください。お疲れさまでした。

午前11時21分 散会

第4日目（6月9日）（月曜日）

議事日程

日程第1．町政に対する一般質問

岡村 達馬 議員

波佐見焼の伝統と文化保持について

田添 有喜 議員

1. 農業振興について
2. 教育行政について
3. 災害対策について

岡村 真由美 議員

1. 米価高騰の影響と減反の状況について
2. 波佐見高校への支援について
3. こども家庭センターについて

城後 光 議員

庁舎建設事業の総括及び今後の庁舎活用策について

横山 聖代 議員

1. GIGA スクール構想の検証について
2. 絆の日について
3. 食の魅力向上と名物料理の開発による地域活性化について

第4日目（6月9日）（月曜日）

5. 出席議員

1番	前田	博司	2番	脇坂	正孝
3番	澤田	昭則	4番	横山	聖代
5番	岡村	真由美	6番	岡村	達馬
7番	三石	孝	8番	城後	光
9番	福田	勝也	10番	田添	有喜
11番	北村	清美	12番	尾上	和孝

6. 欠席議員

なし

7. 議会事務局職員出席者

議会事務局長 古賀 真悟 書記 一瀬 若菜

8. 説明のために出席した者

町長	前川 芳徳	副町長	村山 弘司
総務課長	福田 博治	企画情報課長	澤田 健一
商工観光課長	太田 誠也	施設整備室長	大橋 秀一
税務財政課長	松添 博	住民福祉課長	小佐々 慶太
農林課長兼 農業委員会事務局長	朝長 哲也	農林課長参事	太田 克宏
建設課長	本山 征一郎	水道課長	伊藤 幸治
長寿支援課長	井関 昌男	子ども・健康保険課長	石橋 万里子
会計管理者 兼会計課長	串島 佳織	教育長	森田 法幸
教育次長兼 給食センター所長	林田 孝行	総務課課長補佐	坂本 昌俊

午前10時 開議

○議長（尾上和孝君）

御起立ください。皆さんおはようございます。

ただいまから令和7年第2回波佐見町議会定例会第4日の会議を開きます。本日の議事日程はあらかじめお手元に配付のとおりです。

日程第1 町政に対する一般質問

日程第1. 町政に対する一般質問を行います。これから通告に従い、順次発言を許します。

6番 岡村達馬議員。

○6番（岡村達馬君）

おはようございます。通告書に従い一般質問を行います。

波佐見町の伝統と文化保持について。

（1）伝統工芸士や技能士等への支援について。

長い歴史と伝統に育まれてきた「波佐見焼」は、昭和53年に伝統的工芸品の認定を受けた。これは伝統工芸士や技能士をはじめ、多くの関係者によって産地を形成されてきたことや、伝統的な技術・技法の承継と向上に努められてきた賜物である。

そこで次のことを問う。

①町内の伝統工芸士と技能士の現状は、どのように認識されているのか。

②町内の伝統工芸士と技能者への支援策等は、どのようなことが行われているのか。

（2）伝統工芸士の作品展示場について。

九州北部の焼き物の産地では、地場産業が衰退する危機にある中、技術の承継と発展を目的として、多くの産地では伝統工芸士の作品を展示する場所が設けられ、一般に公開されている。

そこで次のことを問う。

①陶芸の館にあった伝統工芸士の作品展示場は、数年前に閉鎖され倉庫となっている。閉鎖に至るまでの経緯とその理由は何か。

また、その際には伝統工芸士会の了承を得ていたのか。

②波佐見焼の承継、あるいは新しい技法を創出されている伝統工芸士は、町の貴重な財産であり誇りでもある。陶芸の館に伝統工芸士の常設展示場を改めて設置する具体的な検討等が行われたのか。また、再開のめどは立っていないのか。

③福岡県内の小学校では、そうした施設が伝統工芸を学習する場場となっている。本町でも推奨することはできないのか。

以上、詳細については発言席より行います。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

皆様おはようございます。

それでは、6番 岡村達馬議員の御質問についてお答えをいたします。

波佐見の伝統と文化保持についてということで、伝統工芸士や技能士等への支援について。まず町内の伝統工芸士及び技能士の現状はどう認識されているのか、とのお尋ねですが。波佐見焼の伝統工芸士は、波佐見焼が昭和53年2月に国に伝統工芸品として指定を受けた後、経済産業省が指定した伝統工芸品波佐見焼の作り手であり、これまで多くの伝統工芸士が誕生し、常に伝統技能の向上と後継者の育成に力を注いでいただいております。

一方、陶磁器技能士は陶磁器製造の作業のうち、手ろくろ成形作業、機械ろくろ成形作業、鋳込み成形作業、絵付け作業、原型製作作業について、厚生労働省が実施する技能検定制度に合格した作り手であり、教育現場での焼き物体験の指導など、常に積極的に御対応いただくとともに、波佐見焼のPRに努めていただいております。

伝統工芸士、陶磁器技能士の皆様には、自らが産業、文化の担い手として伝統の精神を大切にし、数多くの作品の制作に取り組まれるなど、波佐見焼のさらなる振興、発展に御尽力いただいておりますことに深く敬意と感謝の意を申し上げます。

現状はとのことですが、新たに資格を取得する者が育たない。技能士検定試験において、陶磁器製造職種が廃止されるなど後継者の確保ができないことや、伝統工芸品としての波佐見焼や作品のPRがなかなかできないという課題があると伺っております。

②の町内の伝統工芸士と技能士等への支援策等はどのようなことが行われているのかとお尋ねですが。お尋ねの伝統工芸士と技能士への支援につきましては、これまで東京で開催されておりますテーブルウェアフェスティバルへの出展支援や、伝統工芸士会会員展の開催についての支援を行っております。

また、間接的な支援になりますが、波佐見陶磁器工業協同組合が開催します波佐見焼後継者育成事業について支援を行っているところです。

(2) 伝統工芸士の作品展示場についてのお尋ねですが、①陶芸の館にあった伝統工芸士の展示場が閉鎖されたと。その閉鎖に至るまでの経緯、その理由は何か。あるいは伝統工芸士会の了承を得ていたのかとお尋ねですが。陶芸の館の2階の展示室については、建築当時は収納庫として利用されていましたが、平成8年に開催されました世界炎の博覧会において、町内の優れた作家の作品を展示することを目的に展示することとなり、以来、伝統工芸士をはじめとする各団体に所属する作家作品の展示場として活用してまいりました。

展示場が閉鎖された経過としましては、平成28年の建築基準法の改正に伴い、収納庫から展示場

へ用途を変え使用する場合、施設の腐食劣化点検及び定期報告義務や、施設改修が求められる定期報告対象建築物に該当し、多額の経費が発生することが判明をいたしました。

そのため、平成30年度に予算や施設改修の際の施設内への影響等を総合的に判断し、展示場所を当初の設置目的である収納庫へ戻すこととし、その決定については、当時の展示をされていた各団体の代表者に説明を行った上、御了承をいただいております。

②波佐見焼の承継あるいは新しい技法を創出されてる伝統工芸士について。その常設展示場を改めて設置する具体的な検討は行われたのかなどの質問については、閉鎖をされて以降、陶芸の館2階の改装計画と併せて展示場の対応策も検討することとしていましたが、改装計画自体の具体的なめどが立っておらず、対応策の検討が進んでおりませんでした。

そこで陶芸の館の2階の展示場内で伝統工芸士作品の展示ができるスペースが確保できないか、現在教育委員会や陶芸の館を管理する波佐見焼振興会と調整を行っており、今後、展示再開に向けて伝統工芸士会をはじめとする関係団体と展示場の在り方や、展示方法や展示のためのルール等について意見交換を行っていきたいと考えております。

③福岡県内の小学校の事例を出されて、本町でそういったことを推奨することはできないかのお尋ねですが。陶芸の館に併設している体験工房では伝統工芸士の方に、ろくろや絵付け体験を行っていただいております。町内外の児童生徒の学習の場としても受入れられており、令和6年度の実績では小学校が18校、573名、中学校が3校、169名の利用がなっております。

現在、町内の中学生の波佐見焼に関する学習は、波佐見焼振興会の焼き物文化体験など、学校へ伝統工芸士によるろくろや絵付け等の波佐見焼制度に係る実現が行われています。今後も伝統工芸波佐見焼の認知度向上や後継者育成の観点から、町内外の児童生徒の学びにつながるよう、陶芸の館の利用促進について引き続き情報発信などを行ってまいります。

以上で壇上からの答弁を終わります。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○6番（岡村達馬君）

質問に先立ちまして今回の一般質問での伝統的工芸品「波佐見焼」、伝統的な技法または技術、伝統的に使用されてきた原材料、地域などの言葉は昭和53年2月6日に指定された、2月14日付け当時の通称産業省告示第54号によるものと御承知おきください。

伝統工芸士、技能士、それに現在の名工の皆さんは、この波佐見焼を「この技この火絶やすな」の思いを胸に抱き、暑い日も寒い日も毎日毎日地道で絶え間ない熱意で技を磨いていらっしゃいます。先ほど現状については町長から少し説明をいただきましたが、また後ほど御質問をしたいと思いません。

いわゆる皆さんは、伝統工芸品あるいは伝統的工芸品にどのように波佐見町に関わっていらっし

やるというように思っていらっしゃいますでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

先ほど町長も答弁いたしましたとおり、波佐見町における伝統工芸士それから陶磁器技能士の皆様におかれましては、日頃から技術の研さん、それから伝統工芸品としての波佐見焼の普及活動。そういったところにつきまして積極的に活動を進められていらっしゃるというふうなところにつきまして、改めて感謝を申し上げてるところでございます。

今後ですね、後継者育成の分野等につきましても、非常にいろんな課題があられるというふうなことを聞いておりますが、その分野につきましても次世代の世代について、こういった伝統技法の研修等を行っていただくなど、そういった部分に関しましても心から感謝を申し上げるところでございます。以上です。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○6番（岡村達馬君）

いわゆる伝統工芸士さんたちですね、波佐見町の波佐見焼が波佐見焼であるために、これからの振興発展にどのような形で力になっていただけるというふうに思いでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

波佐見焼につきましても、これまで高度成長期とともに波佐見焼の発展それから、波佐見焼のブランド、こういったものが全国に認知されるようになってきたというふうなところではございます。今後の日本国内の経済状況、それから不安定な世界状況を見ますと、やはり改めてこの町内における伝統工芸品としての価値というふうなところについては、多く見直されていくものだというふうに考えております。

伝統工芸士の皆様につきましては、日頃の活動もさることながら、改めてこの価値についてですね、国内外からの再評価というふうなところも、そういった動きも今起こっているようなところではございますので、改めて今後このような伝統工芸品としての波佐見焼について御尽力をいただきたいというふうに考えております。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○6番（岡村達馬君）

先ほど町長からも、伝統工芸士会等への支援等は説明をいただきましたが、これはいわゆる行事的、一般的なものであって、今後積極的に町が関わっていけるとすれば、どのような支援が考えられるのでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

町長も答弁いたしましたとおり、これまで東京で行われるテーブルウェアの出店、それから伝統工芸士会が開催される会員展ついて、直接的な支援を行ってきております。

また、併せて波佐見町の陶磁器工業協同組合のほうからですね、伝統的産業振興事業費ということで、後継者育成事業もさることながら、伝統技法の記録についての事業、そして需要開拓等も実施をされているようなところでございます。

こういったところに支援を行ってこれまでやってきているわけですが、まずはこの状況をできるだけ長く継続をしていくというふうなことがまず一点でございますし、今後の町からの支援につきましては、伝統工芸士それから技能士の皆さんの御意見等も踏まえながらですね、適切な支援等ができるように、検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○6番（岡村達馬君）

今年の3月20日から24日まで、第2回の伝統工芸士会会員展が講堂で開催をされました。今回は伝統工芸士会45周年の記念会員展でした。陶芸の館の伝統工芸士の部屋がなくなってから、こうして一堂に工芸士の皆さんの作品を見れなくなりましたので、会員展があることを知り楽しみにしておりました。

工芸展は、これまでの伝統の技法を見ることはもちろんですが、新しい技法も、数多く見ることが出来ます。繊細なもの、大胆なもの、しばし足を止めて見入っておりました。皆さんの精進、努力の成果を見ることができ、とても感動するものであります。

ところで本来こういったものは、主催者として町も入る。もしくは、少なくとも後援会には入っていただくのが筋だと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

こういった会員展につきましてですね、45周年の記念展ということでありましたが、そうですね今回は町として会員展のほうに後援等を行っていないかとは思いますが、当然ですね、こういったことを実施される場合は、町のほうも、こういった後押しをするような支援等も、やっていく必要があるかなというふうには考えております。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○6番（岡村達馬君）

その中においてですね、教育委員会が後援に入っていたいただいておりますので、それは多少の救いというように感じておりました。しかし、このまま放っておくとですね、いわゆる伝統工芸士すら減少の一途をたどっていくことが懸念されております。

その原因として需要の減少、後継者不足、原材料用具等の不足の3つが挙げられておりますが、伝統工芸士等になるためにはですね、いわゆる工芸に対する知識試験、技を見せる実地試験、それから工芸士等の資質を問われる面接試験など、その多くが範囲が広くて難易度が高いものと言われております。

ほぼ数量的には変わっておりませんが、最新の統計は23年2月の伝統工芸士は約4,400名——これは全国です。そのうち女性は570名です。波佐見町の伝統工芸士の登録者数は26名。陶磁器製造技能士は、先ほど説明がありましたが、これはいわゆる国家検定の試験の部類に入ります。伝統工芸士は統計が毎年発表されておりますが、技能士あるいは現代の名工の数は把握されているでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

長崎県における陶磁器技能士の資格取得者の数につきましては、26名のうち町内が14名いらっしゃるというふうにはお伺いしております。現代の名工の資格を有されている方につきましては、申し訳ありません。今現在ちょっと把握をできてない状況でございます。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○6番（岡村達馬君）

支援等を行う場合にはですね、まず正確な数の把握をお願いしたいと思います。

いわゆる近年の経済の不安定さを考慮して、法人もしくは製造事業者等への県費町費の支援などは、厚くなされておりますが、しかし一方ではこうして日々研さん、努力をされている個人事業主には、対応が厳しいところがあるようにも感じております。

先ほども触れましたが、伝統工芸士は1974年（昭和49年）に後継者不足等により低迷をしておる伝統的工芸品産業の需要拡大を狙って当時の通産省の認定として始まったもので、その固有の伝統工芸の保存、技術、技法の研さんに努力し、その技を後世に伝えるという責務を負っております。

これから、こうした技術をした取得した人への支援はどのようになっているでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

後継者の育成につきましては、現在工業組合のほうで、後継者育成事業ということで、ろくろ、絵付けに関しまして研修等が行われておりまして、年間約130回ぐらいの研修回数だと思いますが、おおむね20名程度、毎年受講されてる方がいらっしゃるというように聞いております。

なかなか受講されて、資格を取得された方が一般的に、それからその生活をすぐ捨ててでできるような、収益につながるような状況というふうなことも、なかなか難しいような状況であるというふうなことも聞いております。

今後ですね、そういった方々に対してどういった支援ができるのかどうかというふうなところに

については、今後、いろんな意見などもお伺いしながら検討を進めていければというふうに考えております。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○6番（岡村達馬君）

ぜひとも今後ですね、こういった皆さんの活動環境支援等を行っていただきたいと思います。というのも皆さんは、波佐見焼という名前を背負っていらっしゃると思います。今後、積極的な活動と、ぜひ皆さん方の御意見を聞かれてですね、新たな支援等ができれば、そういった支援等をいただきたいというふうに思います。

4月の中旬から1週間ほど、ドイツの知人が尋ねてくれました。もう3回目ですのでほぼリピーターと言っていいというふうに思います。非常に焼き物に興味を持っております。宿泊地の鬼木の古民家についてはですね、なんにもなかったところが一番すばらしかったというふうな感想を述べておりました。

これは波佐見町に来る前に、彼らが東京で見つけた画像を送ってくれたものです。このイベント自体私は知らなかったんですが、隣で見つけた波佐見焼のお店の写真と、興味を示しておりました波佐見焼の伝統工芸のマーク。ぜひ見てみたいというふうな要望を送ってきました。

いわゆるドイツにも、全てが同じとは言いませんが、マイスター制度があって。こういったマイスター制度がきちんとされているところはやはり展示場があって、資格を有した熟練の技能者たちのノウハウや、クオリティーの製品の展示がなされていると。もう400年も続いているから波佐見町にもあるだろうから、ぜひ見せてくれということだったのですが、実質的には波佐見を案内できませんでしたので、内容については先ほどの、陶房ワニのミリアムさんから説明をいただき、それから三川内焼伝統産業会館を訪ねて理解を求めました。三川内焼の伝統産業会館は、いわゆる一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会のオフィシャル施設となっております。

後にも出てきますが、九州にはほかに福岡県の小石原焼伝統産業会館、佐賀県の伊万里有田伝統産業会館、大分県別府市の別府市竹細工伝統産業会館、熊本県の伝統工芸会館などがあります。

ここでは多くの地場産業が衰退する危機にある中、その技術を次の世代につなぐために優れた技法を取得されている伝統工芸士さんたちを敬い、称賛し、各地区のトップリーダーとして彼ら、彼女の経歴、受賞歴等と一緒に作品を展示しながら、詳しい内容で紹介をしております。三川内焼伝統産業会館では三川内焼の歴史や、これまでの三川内での生産あるいは、輸出された焼き物が整然と並べられております。

波佐見焼の知名度を上げるためにも、こうした伝統文化もしっかり受け継いでいる波佐見焼を通じて、全国からの観光客や一般の皆さんへの啓発を図るべきというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

今後ですね波佐見焼——伝統工芸品としての波佐見焼の啓発等、どのようにやっていくかというふうなところにつきましては、当然今現在として、工業組合のほうで需要開拓事業、販路拡大事業について、全国に対してPR等も行われているところでございます。一方で先ほども言いましたとおり、海外のお客様がやはり日本の伝統工芸品に対して、その価値に非常に興味を持って日本に訪れて、購入されていくようなケースも非常に多くなってきております。

ただ単に観光に来られるだけではなくて、その土地の伝統文化。こういったことについて非常に関心を寄せられているというふうなところが、近年の観光の目的と合致してるようなところになってきているというふうな話も聞いております。

ですので、今後波佐見焼のPRというふうなことにつきましては、当然力を入れてやっていく必要があるかというふうに考えております。このあたりは行政もそうですが、業界団体との情報交換等、方向性を一つとして取り組んでいくべきことだというふうに考えております。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○6番（岡村達馬君）

これは先ほど町長からも説明がありましたが、伝統工芸士を紹介する場所は、人形といいますか、ロボットのところの右側にあっております。以前は倉庫として先ほど設立したとか、倉庫として利用するのが当初の目的だったというふうに言われましたが、その件についてはほとんどの人が承知をしていなかったんだろうというふうに思います。波佐見町のこういった伝統工芸士等の展示場がなかったので、他県の産地の状況が気になりました。

北部九州の資料館等を訪ね、伝統工芸士や技能士などの紹介や、展示の仕方を見て回りました。伊万里有田伝承産業会館です。人間国宝を筆頭に多くの芸術家、工芸士は名を連ねる日本でも有数の一大産地です。ちょうど伝統工芸士会議の作品展が開催をされておりました。ここでも、その作品と同時にこうした工芸士の受賞歴、もしくは活動歴を詳しく書かれておりました。

また伊万里・有田の特有の活動として、町内外の著名人や、有名な施設——例えばお城の改築や修復等に当たってはですね、伊万里・有田焼を贈呈したりしてもおります。こうした企画はとても見ごたえのあるもので、やはりどんな活動を行っているかを知らせるためにはですね、伝統工芸士などの資料館は必要だというふうに思いますが、町としてその必要性を今感じていらっしゃいますか。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

伝統工芸士の皆さんの資料館というふうなところで、当然そのいろんな産地についてそういった

資料館が設けられて、いろんなPR等に寄与されてるというふうなところについては、承知をしておりますが、当然新たに資料館を一つ建てるというふうなことになりますと、やはり多額の経費もかかってきますので、現在としては、町の方針として資料館を建てるというのはなかなか厳しいのかなというふうに考えております。

であるならばやはり、なかなか対応できてなかったんですが、今の陶芸の館についてですね、やはり2階のスペースについて、ある程度の場所を確保した上で、作品の展示等をしていただき、PRにつなげていただくというふうなところが、現在町としても考えておるところでございます。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○6番（岡村達馬君）

新たな施設の建設についてはですね、望んでおりません。私も新しい箱物についてはですね、いわゆる反対の立場をとっております。いろんな場所での有効に活用できるスペースがあるかと思っておりますので、常設ができる展示室等を検討していただければというふうに思っております。

唐津市を訪ねました。唐津焼は佐賀県でも、最も古くから焼き物を生産しております。ほかの窯業県と一線を画してありまして、伝統工芸士は存在いたしません。なぜだかその理由を御存じですか。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

申し訳ございません、ちょっと存じ上げておりません。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○6番（岡村達馬君）

唐津焼はですね、昔からの本来の生産体制をとってありまして、いわゆる生産から上絵付けの焼成に至るまで、一つの窯元で行って分業体制をとっておりません。そういう意味で唐津市には伝統工芸士はいないのですよという説明を受けました。

しかし一つの製品を作るのに整形から焼き上げまでそれを脈々とされていることにも関心をしましたし、逆に波佐見、有田、三川内でとられております分業体制のすばらしさについても、そういった意味で伝統工芸士さんが生まれていて、いいですねというふうなお話もいただいて、分業のすばらしさについても再認識をしたところです。

ここの先ほどの西ノ門展示販売所は、以前は公的施設でしたが、今は第3セクターになっております。しかし窯元や工芸士の詳しい経歴等は掲示されておりまして、詳細に知ることができました。また担当者はですね専門的知識をお持ちでしたので、唐津焼については販売と一緒に詳しい説明をしていただきました。

今回の私的な視察研修で一番参考になったなというのは、やはり小石原焼伝統産業会館です。館

内を小石原焼陶磁器協同組合の元永代表理事の御案内をいただきました。元永代表理事も伝統工芸士です。ここもこの施設も伝統的工芸品、産業振興協会のオフィシャル施設です。

入って右側の館内に人間国宝福島善三さんの経歴や実績、作品などが見ることができます。若干58歳で重要無形文化財保持者となっております。また、現代の名工であられる太田哲三さんたちの作品も展示してありました。こうした人たちは、本人の御努力が一番でしょうが、行政としてもそうした環境づくりには大きなものがあつたはずです。現在の東峰村の人口は1,615人。そのうち伝統工芸士が11人とその多さに驚きます。

ちなみに波佐見町は人口が約1万4,000人。伝統工芸士は今年の2月現在で26名です。全てが判断できるというふうに思いませんが、小石原レベルでいくと波佐見町には約100名近くの伝統工芸士がいる、もしくは必要だというふうに考えていました。少し少ないと思いますが、伝統工芸士、技能士の人たちの少なさを行政としてはどのように捉えていらっしゃいますでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

小石原焼と波佐見焼の伝統工芸士並び等の人数について、一概に比較はなかなか難しいのかなというふうに考えております。

当然伝統工芸士の皆さんがそこで作陶されてるところと、また波佐見町の場合は、伝統工芸士の皆さんもいらっしゃるながら、一方で各窯元を中心とした商社窯元、生地、石膏型というふうな分業制のところもございますので、地域性というものはかなり大きなところがあるんじゃないかなというふうに考えております。

ですので、なかなか一概に地域性、環境もございますので、比較するというのは難しいんじゃないかなというふうに考えております。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○6番（岡村達馬君）

小石原焼のいわゆる伝統産業会館ですが、この施設にはですね福岡県内の小学校4年生、伝統工芸を学ぶという何かカリキュラムがあるそうですが、毎年約100校、児童数1万人が位置的にも不便な伝統産業会館を訪れて、工芸士さんたちの指導を受けていらっしゃいます。

波佐見町の皆さんも、ものづくり体験授業や育成事業などで、県内学校での指導がなされておりますが、小石原の学習を見習い本来ならば波佐見町に来て、波佐見町の自然や風土に触れ、なぜこの地域に産業が芽生えたのか。なぜこんなにも長く焼き物産業が続いたのかも併せて、次世代に続いていく学習をされております。

いわゆる机上もしくは、その場限りの学習も大変重要なのですが、やはりそれを育ててきた、育ってきたという風土が一番大切だというふうに思いますが、教育委員会の福岡県での取り組みを含

めて、御見解をお願いします。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

波佐見町に生まれ、波佐見町で育っている子供たちにとって、波佐見焼のことを知る、関わるということは大変重要だと思っております。それを受けて、小学校では作陶あるいは絵付け等の体験授業等も行っておりますし、中学校では町長答弁ありましたように、1年生を対象に焼き物文化体験プログラムという活動を通して、波佐見焼の過去現在未来あるいは体育館に一堂に会して、分業ごとの匠——プロの方を招きしてその体験であったり、見学であったり、そのような活動も行ってありますし、工場見学あるいは畑ノ原での焼成体験等々一連の流れに応じた活動を行っております。

こういう焼き物文化体験プログラム活動を通して、ふるさと波佐見をもっと知る、あるいは関わるということにも通じながら、ふるさとキャリア教育の充実に今後も図っていきたいと思っております。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○6番（岡村達馬君）

ぜひ教育の場としても今後陶芸の館等を通じて、町内だけでなく県内に福岡県の対応と同じように県内に広げていただければというふうに希望します。

小石原から近いところでありましたので、大分県の小鹿田焼の里も訪れました。小鹿田焼は波佐見焼より約100年遅い開業で、近くの小石原焼の影響を強く受けていると言われております。窯元は現在でも家族経営の手作業で、技法は一子相伝伝承をされているという状況です。平成26年の熊本地震と平成29年の豪雨によってですね、長年続いてきた10件体制が9件体制となっております。

小鹿田焼の技法自体が国の重要無形文化財に指定されておりますので、伝統工芸士等はいないとお聞きしました。代々一子相伝で技術が伝えられ、その伝技が保存されております。ほかの施設みたいに派手さはありませんが、ここでもやはり歴史や先人たちの足跡はしっかりと展示をされております。また大型テレビにより、ほぼ全ての行程が映し出されており詳しい内容を知ることができます。

最後に異業種にも少し興味がありましたので、別府市の竹細工伝統産業会館を訪ねてみました。ここも、伝統的工芸産業振興協会のオフィシャル施設です。すぐ入ると、田辺信幸氏の巨大作品が展示されておりました。

やはりここも後継者不足、それから各産地が抱える問題を同じように抱えておりましたが、この施設で見てとれたのは、やはり伝統工芸士等へのリスペクトと称賛です。正規の伝統を背負いながら地道に活動されている皆さんに対して、非常に称賛と賛同がなされておりました。

こうした流れに反してですね、産地を超えた流れに反して、波佐見町では陶芸の館にあった伝統

工芸士等を紹介する部屋が閉鎖され、先ほど町長の——納得は少しできませんでしたが。閉鎖されて今回はその現場を確認できませんでした。その部屋は倉庫になっていると先ほど説明がありましたが、たまに伝統工芸士、三川内のようなものはないのかということもよく聞かれます。

その折に数年前閉鎖されたときに担当課に私が聞いたときにはですね、陶芸の館の再編成のために、一時的なものというように説明を聞いた覚えがあります。その後いまだに、何もなされていませんので、改めてお尋ねをしますが、やはり閉鎖から、新しい施設の開館に至るまでのそれがなされていないという一番の大きな理由は何なのでしょう。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

30年ですね、ちょっと展示場を閉鎖いたしまして、閉鎖の理由につきましては町長が答弁したとおりでございますが、その後に陶芸の館2階の改修計画についてですね、いろいろと予算等も計上したりはしておったのですが、もともと想定してた国の予算もつかなかったというふうなところもございまして、なかなかその議論が前に進まなかったというふうなところはあろうかと思えます。ただいずれにしてもその2階の展示スペースについて、各出店をされてる団体の皆様ともう少しやはり意見交換をしておく必要もあったのではないかというふうなことも考えておまして、当然今後の今日お話があったような内容も踏まえて、各団体の皆さんと今後の展示の在り方等について、意見交換をまずさせていただきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○6番（岡村達馬君）

この件について伝統工芸士さんの皆さんにもお伺いしました。いわゆる町からの正式な申出もなく、ある日突然部屋が必要になったので、作品等の撤去をしてくれと役場から言ってきましたよということだったんですが、そういうアクションは起こされましたでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

撤去に関して、撤去といいますか、廃止に関しての経過としましては、町と管理をされている波佐見振興会などちょっといろいろと建築基準法上についての話をいたしまして、やはりなかなか町としても多額の予算が必要になるというふうなことから、その展示場をちょっと廃止しようというふうなことで、その当時の各団体の会長さんのほうに話をしたというふうに聞いております。

その後、それで一旦了承を得たというふうなことで、展示をされている各作家さんのほうにこういった理由でちょっと収納庫として、展示場を廃止するというふうなことで、案内のほうをさせていただいたというふうに聞いております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○6番（岡村達馬君）

今も建築基準法の問題を話されましたが、そのときの伝統工芸士さんたち説明は、最初は建築基準法に違反している。それからしばらくして、いや実は消防法に違反しているんだと。それから先ほど私が伺いました陶芸の館の再編成など、その都度ですね、町が言ってくる説明の内容が変わっている。本当は、消防法もしくは再編成の問題については、お話をされましたか。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

それぞれですね、建築基準法上の改正に伴って、恐らく消防設備等も、やり替える必要があるというふうなことでなっておりますので、その当時ですね、その説明のやり方が建築基準法の改正が主なものであったとは言いながらも、消防設備の改正であったり、それから陶芸の館2階の改築、そういったところを踏まえて話を一気にしてしまったところで、なかなかこう実際説明の内容が御理解いただけてなかったようなこともあったのではないかなというふうに思っております。

ただその当時、どのような説明の仕方をされてたかというふうなところにつきまして、いろいろ当時の担当者の職員にも聞き取りをいたしました。まずは今日、先ほど言いましたような、建築基準法の内容にのっとって説明をしたというふうなことで話を聞いております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員

○6番（岡村達馬君）

消防法の問題については陶芸士会あたりもやはり消防署に出向いて質問されて、あの施設は消防法については何ら問題がないよという回答をいただいたという、御説明をいただきました。ですから、その説明の内容が二転三転したことについて非常に不信感を持っておられます。

そもそも陶芸の館の名前の由来は何なのでしょう。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

陶芸の館の由来というのは、当然当初の建築当時のちょっと資料など、ちょっと今、命名したときの資料等がちょっと残ってませんので、はっきりその当時どういった意図でされてたかどうかはちょっと分かりませんが、恐らくやはり今後の波佐見町の基幹産業である焼き物についての振興発展、そういったところを願うような形での名称になったのではないかなと、いうふうに思います。

あと先ほど消防法との絡みについてちょっとお話がありましたが、今回建築基準法上の改正につきましては、当然その二階の展示スペースの面積の問題、というのが一つ前提としてございまして、それは展示スペースが建築基準法上の展示場という分類になりますが、それが500平米を超えると、やはりそういった消防施設をつけなさいというふうなところで、施設整備のほうが必要になってくるというふうなことでございます。

ちょうど今の伝統工芸士さんの展示場を入れますと、それを超えてしまうというふうなことから、通常そこを面積に含めないことであれば、その消防施設とかの改修等を発生しないというふうなことで聞いておりましたので、当然施設に含めるか、含めないかというふうなところで、消防署の対応というのも当時変わってきていたのではないかなというふうに、ちょっと推測ですが、そういった話をさせていただいております。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○6番（岡村達馬君）

やはり、ほかの施設でもですね、こういった施設については、伝統工芸士、現代の名工、技能等を真っ先に説明をやっておられました。ぜひ波佐見町においても伝統工芸士等を紹介する部屋、あるいはすばらしい画像を提供できる施設等をお持ちですので、ぜひ再開を検討していただきたいと思えます。

最後に町長の御意見をお聞かせください。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

先ほど来から御質問、お尋ねがっております伝統工芸士の皆様への支援、あるいはその作品の展示については、先ほど来答弁をしておりますが、平成8年の炎の博覧会においてあそこ伝統工芸士さんに限らず、陶工会であったり、あるいは現代の名工であられる方、ほか陶芸協会の皆さんですか、そういった方の作品を展示して、それから恐らくずっとおっしゃってました受賞歴であるとか、その作風だとかもキャプションにして説明をしていたかというふうに記憶をしております。

諸般の事情でそういった今現状になっておりますが、陶芸の館2階そのものも平成8年の改修からほとんど手を加えておりませんのでぜひともこういった伝統工芸士の皆様を含めた、波佐見焼に関わる皆様を御紹介するような展示に改正をできればなと思えますし、そこで全ての作品を展示じゃなくて、そこからそれぞれの個人の伝統工芸士さんあるいは作家さんのほうへ案内できるようなシステムづくりも大事なのかなと。そこでは代表作を展示していただいて、それぞれたくさん作品をお持ちでございますので、そこへ誘引するような手だても必要なのかなというふうに思っております。今後ともそこら辺、十分に検討させていただきたいというふうに思っております。

○議長（尾上和孝君）

以上で、6番岡村達馬議員の質問を終わります。

しばらく休憩します。11時10分から再開します。

午前11時1分 休憩

午前11時10分 再開

○議長（尾上和孝君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は10番 田添有喜議員。

○10番（田添有喜君）

皆さんこんにちは。通告に従い一般質問を行います。

1. 農業振興について。

米不足が続く中、米の価格も1993年頃の価格まで上昇し、国民の米作りへの関心が高まるなど、農家にとっては喜ばしい動きで、栽培意欲の向上につながることが期待されています。

しかしながら、農業振興にはまだまだ課題が多くあります。

そこで、次のことを問います。

（1）農業者等における熱中症対策の現状と課題は何でしょうか。

（2）イノシシ被害対策としてのワイヤーメッシュ柵は今後どのように支援をされていくのでしょうか。

（3）近年の猛暑は、農作物に大きな被害をもたらしています。農作物の高温障害対策として、何らかの支援を考えておられるのでしょうか。

2. 教育行政について。

本町の教育行政における大きな課題は、児童生徒の学力向上であると思います。その対策として全国的に「教師の指導力の向上」が挙げられています。また、児童生徒を取り巻く教育環境の変化も著しいものがあり、全国的に多種の取り組みが行われています。

そこで次のことを問います。

（1）児童・生徒の学力向上をさせるための課題と、その課題解決に向けた取り組みはどうでしょうか。

（2）今年度の全国学力・学習状況調査では、中学校理科でタブレットを活用して、出題・回答する新方式が導入されています。本町での実施状況はどうだったのでしょうか。

（3）不登校対策として「校内教育支援センター」については設置されていますが、町として「教育支援センター」を設置する考えはないのでしょうか。

（4）学級及び夏季、冬季、学年末、農繁期等における休業日は、当該学校を設置する教育委員会が定めるとあります。本町における終業式や終業式等の設定は、何を根拠に定めておられるのでしょうか。

（5）教育活動時における安全対策は、どのように行っておられるのでしょうか。（高温対策、PM2.5、黄砂、雷等）

3. 災害対策について。

令和3年8月の豪雨は、本町に大きな被害をもたらしました。梅雨期を迎えその後には台風シー

ズンが到来をいたします。町民の尊い命や財産を守るためには、災害危険箇所の十分な点検を行うことが必要で、本町における重要な災害への対策と思われまます。

そこで次のことを問います。

(1) 5月30日に危険箇所の巡視が行われましたが、新たに危険箇所として追加された場所は何件あったのでしょうか。

(2) 災害対策として支障木や電柱、街灯、看板等の点検と安全確認はどのように行っておられるのでしょうか。

以上、壇上からの質問を終わります。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

10番 田添議員の御質問についてお答えをいたします。

まず1. 農業振興についてということで、(1) 農業者等における熱中症対策の現状と課題はどのお尋ねですが、ここ数年の夏場の異常な暑さで、農業者は日中の農作業を控え、朝晩のある程度涼しい時間帯に農作業を行われているようです。議員お尋ねの熱中症対策の現状ということですが、各種会合等で注意喚起するとともに、熱中症に関するチラシ配布を行うなどの啓発を行っております。

熱中症対策の課題は、涼しい環境を確保することが難しいこと、十分な休憩期間をとることができない場合があること、そして何より農家自身が自分の体調をしっかりと管理し、体調が悪いときには無理をしない、水分補給を十分に行う、といった農家個人の自覚ではないかと思っております。

引き続き、農業者への周知を行うことで、農業者の健康と安全を図ってまいります。

次に、(2) イノシシ被害に対してのワイヤーメッシュ柵の今後の支援はどのお尋ねですが、ワイヤーメッシュ柵については、現在イノシシ被害が相当想定される地域にはほとんど設置されております。設置から耐用年数の14年を超えた策については、地元とも協議して更新を進めております。今年度も6地区の更新を予定しており、引き続き、耐用年数を超えた地区とは協議をし、更新を進めてまいりたいと考えております。

イノシシ被害対策については、従来から行っておりますワイヤーメッシュ柵等の設置、イノシシの棲みかや農地までの間の緩衝地帯の設置と、その啓発。猟友会による捕獲の3点セットを今後も徹底してまいりたいと考えております。

(3) 農作物の高温障害対策として何らかの支援を考えているのかとお尋ねですが、高温障害とは、夏場の高温によって農作物の品質低下、収量の減少、果実の変形などの問題が起こることです。その対策として水稻では、高温でも白濁米の発生が少なく、一定の品質が期待できる品種の「にこまる」「なつほのか」への転換を以前より行っております。

またその他の作物などについては、気候変動による農家への影響に対応するため、今年度新たに県事業として創設された長崎農業気候変動総合対策事業に取り組むこととしており、今後、県と農協等と連携し、新改植や新技術普及、高温対策資材の助成など、それぞれの作物に合った高温対策を行ってまいりたいと考えております。

次に1項目飛びますが、3. 災害対策についてということで、(1) 5月30日に危険箇所への巡視が行われたが、新たな新たに危険箇所として追加された場所は何件あったのか、とのお尋ねですが。昨今の災害は局地化や大規模化、そして多発化する傾向があり、本町においても令和3年8月豪雨では、町内各地で土砂崩れが発生し、農地、農林業用施設、町道をはじめ公共土木施設に加え、地滑りにより民家にも被害が及んだことは記憶に新しいところで、これら災害に備えるために危険箇所の把握は重要であると認識しております。

本町では毎年、自治会を通じて災害危険箇所の調査を行っており、今年度においては16自治会から56か所の危険箇所について報告があっており、新規箇所が18か所、継続箇所が38か所となっております。

(2) 災害対策として支障木、電柱、街灯、看板等の点検、安全確認、どのように行っているのかとのお尋ねですが、災害発生時において支障木が発生した場合、交通の妨げになる場合は緊急的に町において必要最小限の除去を行う場合があります。電柱については、電力柱であれば九州電力に、電話柱であれば通信会社に連絡を行いその対応をお願いしています。

特に電力柱については、九州電力送配電部門が事前に調査を行われており、倒木等により重要電線が切断の恐れがある箇所については、所有者に伐採等の依頼を行われています。また、支障木、電柱、街灯や看板について、業務中に気づいた際には、その都度の対応を行っていますが、役場職員で全てを把握することは困難でありますので、予兆を含め総務課に御連絡いただければ、自治会や所有者に対応をお願いすることは可能と考えています。

なお、2. 教育行政については、教育委員会から答弁がございます。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

2. 教育行政について、(1) 児童生徒の学力を向上させるための課題と、その課題解決に向けた取り組みはどうか、とのお尋ねでございますが。まず全国学力調査や長崎県学力調査の結果から見てきた課題について説明をいたします。多くの教科で全国平均を下回っており、特に習得した知識技能を活用したり、思考判断表現したりする力が不足していく意向が見られており、技術形式の問題が顕著となっております。

具体的には、国語科では話すこと・聞くこと、漢字の習得率の低下、物語文などの読解力の不足が挙げられ、また算数・数学では分数に対する苦手意識、表やグラフの読み取り、表現や説明する力の

不足、主体的な学習態度の不足等が課題として挙げられております。

これらの分析を踏まえ、本町では学力向上に向けた課題として大きく捉えたときに、学びに向かう態度の育成、個に応じた学力向上、そしてICTの有効的な活用が挙げられます。

そこで本町では課題に向けた取り組みとして、学力向上推進委員会を毎月開催し、学力調査の結果を詳細に分析することで、課題を正確に把握し、改善に向けた取り組みを継続的に検討しています。

次に授業改善の推進として、児童生徒に響く授業を目指し、児童生徒が学びに向かうには学習の最初に明確な目当てを立て、児童生徒が学習の方向性を確認、理解できるようにします。

そして学習の終わりには、まとめの時間を設け、子供たちは何が分かったのか、何ができるようになったのか、何を考え何を学んだのかを深く理解し、内省する機会を設けております。

この取組は小中学校全体で統一して行っており、やらされる学習から自主的な学習への転換を促しています。また、個に応じた指導の推進も不可欠であり、学力向上支援員や特別支援教育支援員を通じて、子供たち一人一人に寄り添い、それぞれの学力状況に応じたきめ細やかな指導に努めており、これにより個性豊かな人間を育成することにつながっています。

加えて確かな学力の定着には、家庭教育が土台となるという認識のもと、生活習慣づくりと学習環境の配慮について、保護者皆様の継続した御協力が不可欠であると考えています。学校と、家庭が連携し、子供たちが安心して学習に取り組める環境を整えることで、学習効果の最大化を図っていく必要があります。

これらの取り組みを通じて、本町は児童生徒の確かな学力の定着と、主体的に学びに向かう態度の育成を目指し、子供たちが自ら学習を深め、未来を切り開く力を育むため、今後も教育環境の充実に努めていく所存であります。

(2) 今年度の全国学力学習状況調査では中学校理科でタブレットを活用して出題回答する新方式が導入されている。本町での実施状況はどうだったか、というお尋ねでございますが。議員お説のとおり今年度の全国学力学習状況調査では、中学校理科において従来の筆記方式からタブレットを用いた新方式が導入されました。本町の中学校では、令和2年度にタブレットを導入して以降、日頃の授業で活用を進めてきたことで、生徒たちはタブレット操作に慣れており、また今回の新方式での実施に際しても、事前にトライアルを重ねて準備を進めてきたため、当日は大きな混乱もなく無事に調査を終えることができたとの報告を受けております。

今回の新方式はふだんの理科の学習において、大きな可能性を秘めていると評価をしております。タブレットを活用することで、教科書だけでは伝え切れない実験の様子や、現象を映像やシミュレーションを見て、解説を聞いて、時にはデータ入力や操作を通じて、触れて学ぶことが可能になります。これにより生徒たちはより直感的かつ多角的に理科の内容を理解できるようになります。

また解答形式の効率化も図られ、これまで以上に理科の授業が豊かなものになると期待をしております。今後もタブレットを教育活動に効果的に取り入れ、GIGAスクール構想で目指す個別最適化された学びの実現に向けて、より一層ICT教育の推進をまいります。

(3) 不登校対策として、校内教育支援センターについては設置されているが、町として教育支援センターを設置する考えはないかとのお尋ねでございますが、不登校対策は喫緊の課題であり、本町ではまず不登校を生まない環境づくりと、丁寧かつ早期の初期対応、一人一人の状況に応じた継続した指導の徹底を基本方針としております。

波佐見中学校には校舎内に学習室を設置しており、これは校内において教育支援センターのような機能を持っております。ここでは不登校傾向にある児童生徒や、保護者との相談面談体制を充実させ、一人一人の現状や要望に合わせ対応を心がけております。

担任やスクールソーシャルワーカーが中心となり、相談や面談、家庭訪問などを通じて、現状確認や情報共有を密にしております。さらにスクールカウンセラーによる面談に加え、必要に応じて医療機関等との連絡調整も行っております。

また校外においても、教育支援センター的な機能を持つ施設を活用しています。例えば総合文化会館や勤労福祉会館などをサテライト会場として活用し、児童生徒の実態や要望に応じて柔軟な支援を提供しております。町教育委員会といたしましても、指導主事が中心となって相談、面談に対応し、必要に応じて関係部署との情報共有を行っております。

加えて、長崎県が推奨しております「未来へつなぐ確かな一歩推進事業」を実施しており、自宅から一歩外に出る機会をつくり、水族館などの見学を通じて学校復帰へとつなげることを目指しております。

これらの既存の取り組みを最大限に活用し、きめ細やかな支援体制を構築していることから、現在のところ新たに町として、教育支援センターを設置する考えはございません。

今後はこれらの既存の資源をさらに有効活用し、不登校へのよりよい一層の支援体制に努めてまいります。

(4) 学期及び夏季、冬季学年末の繁忙期等における休業日は、当該学校を設置する教育委員会が定めるとある。本町における始業式や終業式等の設定は何を根拠に定めているのかのお尋ねでございますが、議員お説のとおり、学校教育施行規則では、公立の学校の学期や休業日について、各市町村または都道府県の教育委員会が定めることとされております。

これは地域の実情に応じた柔軟な教育活動を可能にするための規定となります。この法令に基づき、本町では波佐見町立小中学校管理規則において、学期の始まりと終わりを区切る儀式として、始業式や終業式を規定しております。これは単なる区切りの儀式ではなく、子供たちが新たな学期への心構えを整えたり、これまでの学びを振り返ったりする大切な機会だと捉えて位置づけており

ます。

近年、多様な学びの形が求められる中で長期休業中の学習機会の確保や、地域と連携した教育活動の推進も重要視されております。本町では、こうした観点も踏まえながら子供たちの学びにとって最適な学期、休業日の設定に努めております。

今後も法令を遵守しつつ児童生徒の健やかな成長と、学力の向上に資する学校運営を進めてまいります。

(5) 教育活動における安全対策はどのように行っているのかとお尋ねでございますが、まず高温による熱中症対策については、令和7年5月に学校教育活動等における熱中症事故の防止についてを配付し、共通理解のもと対応するように促しています。あわせて環境省、文部科学省が作成した学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引をもとに対応しており、毎日環境省が出している熱中症予防情報サイトで暑さ指数を確認しております。教室における冷房施設の設備の活用や屋内外通じて、小まめな水分補給等を行い、運動時などは熱中症の危険度に応じて、運動内容や休憩時間を調整しております。

なお熱中症予防運動指針により、暑さ指数が運動は原則中止や嚴重警戒レベルの場合は、運動を中止するなど、安全対策に努めているところです。

次にPM2.5や黄砂については、呼吸器やアレルギーに影響を与える可能性があるため、気象庁の最新の飛来情報を常に確認し、屋外での活動を控え、屋内での活動に切り替えるなど対応しています。

また雷でも気象庁の雷注意報を確認し、雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりした場合には屋外活動を速やかに中止し、屋内に避難するように対応しております。

これらの対策に加え、日々の教育活動において教職員が児童生徒の体調変化に細心の注意を払い、異変があれば速やかに対応できるよう緊急連絡体制も整えております。

児童生徒の安全を守ることは、教育活動の基盤です。今後も最新の情報を収集し、必要に応じて対策を見直しながら、子供たちが安心して学び、活動できる環境を維持、向上させてまいります。以上壇上からの答弁を終わります。

○議長（尾上和孝君） 田添議員。

○10番（田添有喜君）

まず農業振興についてです。農業者等における熱中症対策の現状と課題はというようなことでお尋ねをしたんですが、これを考えたのが新聞報道等で厚労省が労働安全衛生規則を改正し、職場の熱中症対策を義務化したと。これ罰則もあるというようなことを書いてあったものですから、またそこに法人も対象だと考えたときに、農業法人が各地に町内いづらか存在をしていると思うんですが、実際農作業等に追われてなかなか。この町長答弁では、会合のときに呼びかけたり、チラシを配

ったり、それだけではなかなかこう対応できないのではないかなと私思ったものですから。

法の改正で農林課として、農業法人等に具体的にどのような対策を支援してまいろうと考えでしょうか。お尋ねをします。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

今議員が説明をされましたけど、その法人に対してということでございますが、今法人の総会等が行われております。その総会等において、チラシの配布やそういった挨拶の中で、熱中症に注意。それと、農作業の事故に十分注意して行ってくださいということで啓発を行っております。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 田添議員。

○10番（田添有喜君）

何名かお話をして、総会のときにチラシも配られましたというようなことなのですが、実際作業するときに、どういうところが義務化されたかというのと、とにかく作業するときには何かその熱中症の疑いがあるときには連絡先、連絡をする担当者を決めなさいと。それから、悪化した場合についての手順とかですね。そういうものをしっかり周知徹底しなさいというようなことの資料が書いてあるんですが、実際に農業者の方がやはりきちんと理解できるような、何か町バージョンでも構わないのですが、そういうマニュアル的なものを町として何かお手伝いをして。

全国的に年間1,200名程度の方が熱中症でお亡くなりです。そのうち農業者が約30名ぐらいですね。ぜひ波佐見町の農業者からは熱中症による死亡者等を出さないというような強い意志を持って。ちょっと行政側も、このチラシを配るだけじゃなくて。しっかりこれを読んで理解するっちゅうのは、なかなか難しいところがありますので、より具体的なものを支援していただきたいと思うのですがいかがですか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

今総会時に、そういった啓発、チラシを配ってるということで御説明を申し上げましたが。やはり議員のおっしゃるとおり、農業者一人一人がその自覚を持つというのが一番の課題であるかなと。

その課題を、どういう形で啓発していくかということになろうかと思いますが、やはりどうしてもそういった一人一人に声をかけるというのは全員にはできませんので、そういった会合の折に啓発をしていくしかないのかなというふうに思っております。

町独自のチラシの作成等ということでお尋ねがありましたが、今後農協ともそういった話をしながらどういった形、どういった対策をするのが一番農業者にとって、個人さんの農業者にとって、自分の身を守るという意識をどういったたちで自覚をしていただくかというところを検討させてい

ただければというふうに思っております。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 田添議員。

○10番（田添有喜君）

例えば暑さ指数が28度以上とかですね。気温が31度以上とか。気温については分かると思うのですが、そういう暑さ指数とかそういうところまで具体的に分かれていないんじゃないかなと思っています。

農業者だけではなく役場の職員の方も、外で炎天下の中作業されてる方もおられますが、今回はちょっと農業者、法人も対応というような、該当するというようなことでしたので、議題にさせていただきました。

ぜひ、読んでいくと事例を見たら安全対策掲示板みたいなのを作られてですね、多分法人だったら今日作業に来られる方と、明日来られる方と、こう変わっていくもんですから、朝礼のときに「じゃあ連絡ここですよ」、担当者は「今日は田添さんお願いしますね」とか、いうそういうのがチェックできるような、言葉で書いてもなかなか分からないので。ただ暑さ指数28というのが、多分、一般の方にはお分かりではないと思います。

気温が31というのは分かると思うんですよ。それを連続して1時間以上、または1日当たり4時間を超えてはいけません、というようなところもありますので要点だけでもぱっと分かるように、何か手助けをする必要が僕はあるのではないかなと思ってお尋ねをしました。

その辺についていかがですか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

そういった1軒1軒に啓発するというのはちょっと不可能だと思っておりますので、今後どういった形で啓発をしていくか農協ともですね、話をしてまいりたいと思っております。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

熱中症についてはですね、警戒アラートが前日に発生されます。その折には町の防災無線を通じて町民の方にお知らせするという事は想定をしています。

一方で今、田添議員がおっしゃったように、暑さ指数の警戒レベルがございますが、例えばでございますが、農林課と調整の上でそういったレベルが上がったときに放送するという事も検討に値すると思いますので、農林課と調整させていただきたいと思います。

○議長（尾上和孝君） 田添議員。

○10番（田添有喜君）

農業者、個人の課題と言えばそれまでなのでしょうが、組織として動く場合のことについて義務化されましたので、ぜひ手助けできるものについては行政側も手を差し伸べていただきたいなと思います。

次にイノシシ被害の対策についてです。今年度の当初予算で鳥獣被害対策費補助金が449万円。昨年度が963万4,000円ということで半減しましたと、ということで説明をお聞きした中では、設置する距離が9.6キロメートルから4.5キロメートルに半減したというようなことと言われましたけど。この町長の答弁にもありましたが、助成金の申請の呼びかけというのはどういうふうに行われているのでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

このイノシシ対策の助成金ということでございますが、もちろんイノシシの被害がないところには、そういった防護柵の設置はできていないような状況でございます。ですので、今イノシシ被害が出ているところはですね、ほぼほぼこのワイヤーメッシュ柵の設置をされているかなというふうに思っております。

それとあと、町長の答弁の中にも申し上げましたが、以前ワイヤーメッシュ柵の設置をしまして、耐用年数が国の基準で14年というのが決まっております。14年を経過したところにおいては、また新たにそういった地域に呼びかけをして、設置されますかと更新ができますが、どうですかということで呼びかけ等もしながら、今年度6地区。今年度事業として昨年から話し合いを行いながら、6地区を対策事業ということで上げさせていただいているような状況でございます。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 田添議員。

○10番（田添有喜君）

被害があったところというような表現をされましたが、もともとは予防といいますかね。被害を防ぐための予防策というような。そういうのも大きな狙いとして、各地区で山間部も含めてとにかく下に降りてこないようにということでかなり山間部に設置をしたのですが。かなり設置するのも大変でございました。ただ、これまでのいろんな折に話を聞くと、農地を守るように変わってきたと言われたもんですから。

今回なぜこれを質問したかということ、山間部にずっとしたものももうかなり古くなってですね、私も何回も手直し、手直しでメッシュ柵の張り替えを行っているんですが、それはもうこのままの現状で放置という形なんですか。何か今後の対策が何かあるのであれば教えてください。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

以前はですね、確かにそういったイノシシは山から来るということで山を守ればいいということで、農地と山の間にずっとワイヤーメッシュ柵をですね、万里の長城的に設置をした経緯がございますが。どうしてもそれだけでは端——ワイヤーメッシュ柵の端というのがございまして、イノシシはそこをくりとくぐり抜けて農地へ来るというところですね、イノシシも学習をしております。

最近におきましては、そういった農地をもう全て囲うように設置をしてくださいということで、こちらとしても指導を行っております。

以前はですねこちらの川だから来ないだろうというところで、川のところは設置をしておりますでしたが、イノシシもそういう形で全てワイヤーメッシュ柵を設置したら、もうとうとう川を伝って農地に入ってくるというところもございます。

そういったところにつきましては次期対策。先ほど申し上げました、10年経過したらまた設置ができるというところで啓発がしておりますので、そのときにはもう全て、とにかくここから上がってこないだろうじゃなくてですね、そこも上がってくるだろうというところで、農地を囲うということで指導をしまいたいというふうに思っております。

それまでの経緯ということでございますが、現場、現場で対応できるところは農家の方と一緒にやってしまいたいというふうには思っております。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 田添議員。

○10番（田添有喜君）

山間部に設置したのをどうすればいいかというのをお尋ねしたんですが、長々と時間を使って、後の計画がちょっとずれてくるんですよ。要するにそのままですか。そこも14年経過したら手を入れるということですか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

申し訳ございません。そうですね、一度国の補助金を使ってですね、設置をしたところにつきましては14年後にしか対応できないということで国からも言われておりますので。そういった14年後に対応をしまいたいというふうに思っております。

ただもう一つ中山間とかですね、多面的という別の補助金がございますので、そういった補助金を使いながら、対策できるところはですね対策をしてもらおうということで地元と話をしておるところでございます。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 田添議員。

○10番（田添有喜君）

今メッシュ柵が設置されてるのを見れば、きれいに農地を囲んだようなかたちで、農地は守られております。しかし年間のうちに何回か登下校する子供たちが「イノシシが出た」とか言うような

ことも実際こうあっているのです。そうすると、やはり山間部に降りてこないようにというのは、全然関係のない町民の方も守っていたわけですので、ぜひそのところは農地だけじゃなくて、いろんなイノシシによる被害が全国的に発生しておりますので、ぜひ前向きな取り組みをお願いしたいと思います。

それから作物の高温障害については、県の事業等をうまく活用しつつというようなことでした。もうこれテレビ等でその季節に、育てた野菜がもう育てられないような、そういう異常気象が生まれてきているというところで。新しい品種、農作物への転換そういうのも、考えていかなければいけないのではないかなと思います。年々高温障害等で収入減に直面されている農家の方もおられるんじゃないかなということでお尋ねをしましたが、ぜひ県の事業とうまくタイアップして、支援をしていただければと思います。

それでは次に教育行政についてお尋ねをします。教育長から学力向上に向けて今までも何回もお聞きしたような非常にすばらしい答弁を聞かされて、あまりこう変わっていないなあと。答弁内容が変わっていないなあと。私も努力を各学校でまたは教育委員会等でされてるのは重々分かっているのですが、なかなか改善が見られないというのは、何かやはり変えないといけないのではないかなと。

例えて、許可をもらっておりませんが学童の野球なんか波佐見町かなりレベルが高いです。学校と同じように子供たちのメンバーもどンドンどンドン変わっていきます。しかし毎年のように優秀な結果を、あくまでも指導の在り方、そこには保護者の協力、子供たちの意欲そういうのも関係しているかもしれませんが、目の前でそうやってスポーツを通して、子供たちを鍛えれば伸びるんだよという結果があるものですから、あえてこの質問をさせていただきました。

いろんな学力向上の取り組みがあると思うんですが、今回は少し自分の見方を変えて、何で秋田県っちゃうのは連続して、全国でもトップクラスなのかなあ、というのを少し見ました。結論はやはり学校任せじゃなくて県を挙げて、もっと言葉を変えれば町を挙げてですね、徹底した実践をされている。その結果として毎年のように結果が出てるというようなことで。

私がここで提案したいのは学力向上推進委員会ですか。それもいいかもしれません。しかし毎回その推進委員会でやっていますって言われるんですけど、なかなか結果が出ていない。やはりある程度の方法を身につければずっと継続して、ある程度ですね。そりゃ子供たちの中にはできる子、ちょっと苦手な子は当然存在をします、これは。しかしその中で成果というのは、野球で私言いましたけど、やはり残せると思うんです。そういう意味で、学校に一任するのもいいかもしれませんが、町として波佐見町教育委員会として、もっと具体的なものを発信してほしいなと思って質問していますが、教育長いかがですか。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

秋田県の例を出されたことは、私たちも秋田県、福井県、石川県等々については十分に把握をしておりますし、全学についての県の取り組み等々も、視察等行きながら勉強はしておりますが、あくまでも全学の結果に対する評価としてしか捉えておりません。

繰り返しの答弁になりますが、私は、学力向上推進委員会を中心に、各学校がそれぞれ自分たちの子供の現状を踏まえて、子供の実態に応じた手だてをとっていくことが最大の学力向上につながっていくと思っておりますし。何よりも全体の学力を向上することは、結果としてでありまして、子供たち一人一人の学力を上げていくということに全力を傾けたいと思っております。

○議長（尾上和孝君） 田添議員。

○10番（田添有喜君）

いろんな考えがあって僕はいいと思います。これだけ手厚いですね、教育に支援をしている町です。やはりそれに応えてほしいわけです。そこが見られないのでこういうような質問を何回もしなければいけないので、そののところがもう一回ちょっと見方を変えてですね。やはりそこは教育長の発信力だと僕は思うのですけどね。

もう、こういうことをやってきた。推進委員会でこういうことを課題として挙げて実践もやってきた。でもなかなか。そののところが私は言ってるわけで、各学校現場で努力をされていることは重々私も理解しています。多分私以上に歯がゆい思いをされているんじゃないかなと思いますが、そういう意味で、私としてはもう少し教育長のこれまでの経験とか、知識をもとに「ここじゃないかな」「波佐見は、ここにメスを入れると子供たちは変わっていくんじゃないかな」っていうものを出していただきたいなと思って提案をしたのですが、いかがですか。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

県学、全学における結果、成果が出ていない——数値的な結果、成果が出ていないことに対しては本当に私自身も反省をしておりますし、学校に努力を求めているところではあります。

何とか数値的な変化の部分です。成果としてあらわせるよう各学校の努力に期待をしたいと思います。教育委員会が主導をするという形よりも、協議をしながら各学校の実態に応じた、それぞれの独自性に任せた部分を、大いに任せながらも当然指導すべきところはあるのだろうとは思っておりますが、協議等を重ねていきながら、よりよい手だてを打っていきたいと思っております。

○議長（尾上和孝君） 田添議員。

○10番（田添有喜君）

次に不登校関係ですが、今回今年度の全国学力学習状況調査に不登校傾向といますか、不登校の子供含めて調査に参加したか伺いたいと思います。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

不登校の子供たちの状況にもよると思いますが、基本的には参加をしておりません。

○議長（尾上和孝君） 田添議員。

○10番（田添有喜君）

この不登校の子供たちも、もう教育長御存じだと思いますが、デジタル端末を活用して、自宅や院内学級、教育支援センターでも調査に参加できるようになりましたというようなことでしたので、こういうお尋ねをしたんですが。

先ほどの教育長の答弁では校内教育支援センターじゃなくて、学習室を設置したということですね。校内教育支援センターではないというふうに受け取ってよろしいでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

繰り返し答弁であります。校内教育支援センターとしての立ちはせしておりません。「的な」という部分で、学習室や心の相談室を活用していることが現状でございます。

○議長（尾上和孝君） 田添議員。

○10番（田添有喜君）

もうどちらも僕は、教育支援センターも、校内教育支援センターも設置をしてほしいのですが。令和7年3月長崎県教育委員会は、校内教育支援センターの手引ということで——もちろん教育長の手元にも来ていると思います。そこに書かれているのは、「本県では、令和6年度から不登校児童生徒等の多様な学びの場・居場所の確保・提供を目的として『学校内外における児童生徒の学びの場 創出事業』をスタートしました。」というようなことで。6年度末ですか、7年の3月ですか、こういう手引きまで出てるので。よく波佐見町は学校内教育支援センターを作られて、一歩先を行かれてるなあと思ったものですからお尋ねをしました。

もう今回は不登校の数とか聞かないのですが、そういう学校に行けない、いろんな子供たちが——子供によっては学校に行ける。学習室でもオーケー。町の施設のどっか総合文化会館でもオーケーという子供がおるかもしれませんが、やはり県自体もこういう支援センターの設置について動いている。国も呼びかけをしているわけですので、私はこども家庭センター内に、町として教育支援センターを設置したほうがいいと思うのですが、教育長はその考えはないということですが、もう一度お尋ねをします。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

学習室等を中心として、県から頂いてる加配教員や町の支援員、あるいはSCやSSW、担任教

諭等々が関わることで、今おっしゃったような居場所、学びの場としては確保できると思っておりますし、今後そういうふうなニーズが保護者地域から強く上がってくればまた検討していきたいと思っておりますが、現状では学校と話し合いをする中で、今の施設、取り組みの中で充実した展開を図っていくというふうに考えております。

○議長（尾上和孝君） 田添議員。

○10番（田添有喜君）

実態によって、必要性があつて設置をするという考えもあるでしょう。しかし、これだけ不登校についてはですね、毎年本町では存在をしているわけですね。やはりその子供たちのためにもきちんとした居場所、学びの場の提供が私は必要だと思うし、国も教育支援センターで全国学力学習状況調査を受けられますよというような窓口を開いているわけですから。そういう前向きな環境整備というのは、町のほうがやって、こういうふうにやっていますからというような窓口を早く作って、そういう子供たちの対応をすべきだと思いますがいかがですか。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

校外教育支援センターを立ち上げることが目的となっているのではないんだろうと思っております。その施設があるから、不登校等が減少しているかという現状はなかなか厳しいところがありますので。あくまでも子供たちの状況、実態に応じて今できることをやっていくことが早急であり、施設等々建てるのがまだその必要性を今のところ感じておらずに、今の現状の取り組みを推進していきたいということで考えております。

○議長（尾上和孝君） 田添議員。

○10番（田添有喜君）

ちょっと後もありますけど、この教育支援センターについて、旧教育委員会がこちらのほうに新庁舎に移転するときに教育委員会の答弁としては、他の部署等の連携を十分に図れるんだと。こっちだったらすぐ図れる。すぐ目の前に今度こども家庭センターもできてですね、より連携はしやすい環境と。そういう中で、そこで子供たちが学ぶ場、居場所として過ごせるのであれば、大きな成果を生むんじゃないかなというようなことで、今回、お話をさせていただきました。

次に行きます。早く言えば、何かこう最近学校の休業日とか何かそういうのがだんだんこうずれてきている。昔は3町でよく足並みをそろえながらやってたことが、だんだんそれも崩れていって、るのかなあというような気がします。もう早速ですが、令和7年度の始業式は、県内の多くはもうほとんどが4月7日に始業式でした。なぜ本町は4月8日だったのでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

学校現場のほうから、年度が変わった当初は職員が入れ替わり、引継ぎ等々があるいは年間計画等々の話合いが十分にできないという現状があり、年度によっては準備期間が3日しかないという部分があるので、その丁寧さ、丁寧な引継ぎを生み出すためには、やはりこの期間に、きちっとした休業期間を設け、その準備や引継ぎに当たりたいという学校現場の強い要望がありましたものから。教育委員会等々とも協議をしながら、「分かりました。それでは、おおよそ暦にもよりますけれど、学期に5日の準備期間が設けられるように」と8日という日を予定をし、6日から8日のほうに終業式の開始日を変えたところでございます。

○議長（尾上和孝君） 田添議員。

○10番（田添有喜君）

今の答弁はよその学校はそれをクリアして4月7日にやっているということです。裏返せばですね。私が今回この質問をしたのは5月の絆の日、同僚議員も今後質問しますのであまり触れませんが、そういうものの設置もする。それから南小中学校は春に運動会をする。体育大会をする。もう梅雨時期に入りました。今度の日曜日どうでしょうか。もうずっと雨マークです。

やはり行事をこなすというのは、本当にこれは学校現場だけじゃなくて、様々な障害それを乗り越えながら、みんなが協力しながら何らかの対策を講じながらですね、行事を進めているというのが、これはそれぞれの町内のいろんな団体、地域でも同じことではないかなと思います。

だから問題は、標準授業日数というのがあるので、教員側は今言われたようなことでどうでも対応できるかもしれませんが。犠牲になってるのは、僕は子供じゃないかなと思うのですが。そのあたり子供の視点で、教育長いかがですか。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

始業式を4月8日から、そして2学期の始業は8月26日からですね。これにつきましては、今おっしゃったように始業の確保と、それと絆の日の部分、そして自然災害等々を考えたときに、8月26日からの部分にしたほうが、よりいい授業日数等々の確保もできるだろうということを踏まえた上での、4月8日1学期開始、8月26日2学期開始ということで、波佐見町として取り組んだものであります。

県内としても今始業の後ろ、そして2学期始業の後延ばしというのも取り組まれているようだとは思っておりますが。

ただ授業等につきましてはつきましてはですね、例えば運動会を秋に実施したのは、今後不開校学校が50年、創立50年だとか様々な状況を踏まえて、議員お説のとおり地域の状況等も踏まえてですね、協議をして——教育委員会学校が自分たちのことだけを考えてやってるわけではありません。

地域の状況子供たちのことも踏まえた上で、休業や学期についても検討、研究をして、結果執り

行っていることで御理解いただければありがたいです。

○議長（尾上和孝君） 田添議員。

○10番（田添有喜君）

絆の日も、今年はいろんな活動をされていました。善いことだなと思いますが、大事なのはそこに参加できた子供たち、行きたくても行けなかった子供たち。行こうと思っても手段がなくて、参加できなかった子供たちが多数いるという、そういう裏側も十分考えていただいて、休養日の設定等についてはよろしくお願いをしたいと思います。

最後に災害対策についてです。今回この災害対策についてのお尋ねをしたのは、結構テレビ等を見ると倒木とかですね、電柱が倒れて停電とかですね、その下敷きにもう車ごとになってとかそういう場面をずっと見たものですから。町内、残念ながら全ては見えて回っていないのですけど。この間5月30日にされた、そういう項目の中に、これ自治体のほうから上がってるということですので、九電とかいろんな関係者もあるかもしれませんが、住んでるのは町民でございますので、まず町民がいち早く異常に気づくことが大事ではないかなと思っています。

これ令和3年のときですよ。倒木それから平瀬佐世保線は電柱が倒れました。私も見て回ったのですが、もうかなり木の中に覆われてしまっている。そういうのもたくさんあると思います。なかなか手を出せないのは、地主さんとの関係が自治会としてもなかなか連絡等が難しいわけですね。放置してるのはあります。

または電柱がかなり傾いているのも結構あります。何枚も写真を撮ったのですが。補助のワイヤーをして電柱で支えているところもあるのですが、してないところがやはりこう傾いていっていき、ということは、今の異常気象といいますか、大雨が5月にばーっと降って地盤がやはり変化をしている。建てられたときはもう水準、垂直にきちんとスケールで建てられていると思うんですけど。そういうところもちょつとこう、目を向ければこの電柱大丈夫なのかなと、倒れたらこの民家に行くよねというようなことをちよつと思っただけです。そういうものも、ちよつと調査の項目に加えていただけないかなと思うんですがいかがでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

まず危険箇所についてでございますが、今回の危険箇所の調査について、支障木の報告は残念ながらあっておりません。一方でそのような支障木についてですね、私たちも大変危惧をしております。昨年の8月でございますが、九州電力送配電の担当者の方が来られて、やはり九電としても、やはりそういった支障木、特に電線に関係するところについては「危惧をしております」というお話がありました。そこで今後どうするかということでございますが、佐賀県においてはですね、倒木による被害防止に向けた事前伐採に関する協定を結んでいる自治体もあるようでございます。我々もや

はりそういったことを締結し、やはり電線にかかる支障木。高圧の電気が流れておりますので、九電さんに切ってもらおうというのが安全かと思っておりますので、そういったことも今後検討してまいりたいと考えております。

○議長（尾上和孝君） 田添議員。

○10番（田添有喜君）

私の終活で自分の山どうしようかなとか、いろいろこう思うんですが。結構波佐見の中でも地形が変形をしてますね。増築とかなんかいろいろありますので、そういうのは年々変化をしておりますので、住民もそういう危機意識を持ちながらですね、安全なまちづくりを推進していかなければいけないんじゃないかなと思っておりますが、

町長、この災害対策について思いを聞かせてください。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

基本は自分の財産は自分で守ることが第一でございますが、町が管理します施設等はたくさんございますので、そういったものには日々点検を加えながら——日々といたしますか、点検を加えながら、危険箇所をやはり除去していくというか、そういった予防を図るというのは重大な責務であるというふうに考えております。そういったことにつきましても今後関係課がございますので、それぞれの担当の部署におきましても、意識を持って対応してまいりたいというふうに思っております。

○議長（尾上和孝君）

以上で、10番田添有喜議員の質問を終わります。

しばらく休憩します。13時30分から再開します。

午後0時10分 休憩

午後1時30分 再開

○議長（尾上和孝君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、5番 岡村真由美議員。

○5番（岡村真由美君）

皆さんこんにちは。それでは、通告に従い質問をいたします。

1. 米価高騰の町民生活への影響と本町における減反について。

米価の高騰は終息の兆しが見えず、町民の生活にも影響があるものとする。この要因は、米不足が大きく関わっていると思われる。

そこで、次のことを問う。

- (1) 米価や諸物価の高騰は、本町の学校給食にどのような影響を及ぼしているのか。
- (2) 本町の農地の総面積、遊休地の面積及び水田の作付面積は、近年どう推移しているのか。
- (3) 減反による米の生産調整は、今も行われているのか。

2. 波佐見高校存続に向けた支援策の実績と成果について。

令和3年から行われている波佐見高校への支援策は、一定の成果を上げてきている。

しかし、波佐見高校は依然として厳しい定員割れの状況にある。

そこで次のことを問う。

- (1) 支援策の内容について、今年度新たに変更する点があるのか。
- (2) タウンバスの運行は支援策の一つとも言える。高校生のタウンバス利用状況はどうか。

3. こども家庭センターについて。

2月21日に「こども家庭センター」の開所式が執り行われ、3か月が経過した。

そこで、次のことを問う。

- (1) 旧庁舎の一部を大規模改修し完成した施設だが、工事費の総額はどれくらいだったのか。
- (2) これまでの主な事業の実績などはどうなっているか。また、今後の課題、あるいは町民の反応はどうか。以上です。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

5番 岡村真由美議員の御質問についてお答えをいたします。まず米価高騰の町民生活への影響と本町における減反についてという御質問の中で、(1)は教育委員会のほうから御答弁がございます。

(2)本町の農地の総面積、遊休地の面積及び水田の作付面積は近年どう推移しているか、とのお尋ねですが。

最近5年の波佐見町の農地面積、遊休地面積と転作面積、水稻作付面積の推移です。令和5年度は元年度と比べ農地面積は14ヘクタール減少の約700ヘクタールとなっております。宅地化や現状調査で山林化したものなどを農地から除外しています。

遊休農地については、遊休農地の判断を明確化したため、令和3年度から面積が増えています。毎年20ヘクタール強の面積を遊休農地としてカウントしています。水田についても5年前と比べ宅地化や、けいはんがなく水田に戻らない水田を除外し、11.1ヘクタール減の520ヘクタールとなっております。

転作面積については、令和元年、令和2年は川内郷、田ノ頭郷の駄野地区の圃場整備関係で転作面積が増えている状況で、通常は170ヘクタール弱の水田で転作を行っています。最後に水稻作付面積ですが、毎年350ヘクタールぐらいで米が作られています。

(3) 減反による米の生産調整は今も行われているのかとのお尋ねですが、これは令和7年度の米の作付面積を農家に周知した資料となります。

本町の米の生産調整については、まず県より年末に次年度の本町が作る米の生産数量の目安が示されます。令和7年産は2,009トンが本町に示されました。その数量を面積換算し、本町の次年度の水稻作付面積414.4ヘクタールを算出し、水田面積512.2ヘクタールから水稻作付面積を引いた面積、いわゆる減反面積を97.8ヘクタールとして、この数字を例年2月の地区推進会議の折に、本町が取り組む転作面積の目安としてお知らせしています。

以前減反政策が強制感を伴っていた時代には、この減反面積を農家個人の配分まで行っておりましたが、現在は強制ではなくなったために個人までの面積配分は行っておりません。あくまで本町全体で取り組む減反面積の目安として農家に周知しています。

しかしながら、本町は周りを山に囲まれてはいますが、奥深い山ではないために、必ずしも水源が豊富で水量に恵まれているとは言いがたいのが現状です。

このようなことから、全ての水田で米を作るだけの水の確保は難しいという現状があることや、さらには何年も水稻を作付していない圃場がすぐには水田として再生できない環境であることなど、農家の判断でいわゆる減反をせざるを得ない現状となっています。

次に、2. 波佐見高校存続に向けた支援策の実績と成果についてというお尋ねで、(1) 支援策の内容について、今年度新たに変更する点があるのか、とのお尋ねですが、令和7年度の波佐見高校入学者選抜状況は、普通科、商業科、美術工芸科合計で120名の定員に対し62名の合格がありました。近隣の川棚高校も120名に対し、62名と全く同じ状況でした。県内の県立高校を見ると一部の高校を除き、ほとんどが定員割れの状況で、波佐見高校より厳しい状況の高校もあります。

これは、少子化はもとより高校選抜の多様性、私立高校への志願増など複数の要因があると考えられます。さて本町が支援しています地元波佐見高校への支援は、入学支援金や通学費補助、通学困難者への家賃補助、進学受験料補助、部活動遠征費補助などの項目があり、この内容については高校側も継続を希望されており一定の成果もあることから、令和7年度も引き続き実施してまいります。

令和6年度まで3年間実施していました波佐見高校未来寮への支援については一旦終了し、令和7年度から一部内容を変更し、未来寮の支援に加え、他の寮についても幅広く横断的に支援できるようメニューの組立てを行います。

次に、(2) タウンバスの運行も支援策の一環と言えると、高校生のタウンバスの利用状況は、とのお尋ねですが、町民の皆様や、関係者の皆様の御理解と御支援を賜り、本年4月1日から運行を開始しました「かわたな・はさみタウンバス」は運行から2か月を迎え、毎日順調に運行をしております。この路線の特性として、高校生の利用者が非常に多く、主に波佐見高校をはじめ川棚高校、川

棚特別支援学校の生徒の皆さんに利用していただいております。

波佐見高校生の利用状況については定期券の購入者数で申しますと、18人となっています。現金、回数券利用の方については推定ではありますが、10名程度はいらっしゃるものと思います。これからも高校生を初めとする利用者の利便性を向上させる取り組みを行い、多くの方に御利用いただけるように努めてまいります。

3. こども家庭センターについてということで、(1) 旧庁舎の一部を大規模改修して完成した施設だが、その工事費の総額はどれぐらいだったのか、とのお尋ねですが。まず、こども家庭センター「よりそっと」の大規模改修に関する経緯について御説明をいたします。このセンターは地域の子供や家庭に対する支援を強化するための施設として、勤労福祉会館に設置されていた子育て支援センター「きしゃぼっぼ」も、移転・併設し、より多くの機能を持つ施設として生まれ変わることができました。

改修工事は子ども・健康保険課の職員、保健師、管理栄養士、子育て支援センター「きしゃぼっぼ」の保育士の皆さんの意見を取り入れながら、施設内に子供たちが遊べるスペースや、保護者向けの相談室、さらには子供たちの健康診断場所として利用できる多目的ホールや、乳幼児の食育支援指導ができる調理室を設けました。また衛生管理や安全面にも配慮し、子供たちが安心して利用できる環境に整備をいたしました。

さらに開所式では、この施設にて、みんな食堂や昨年度の中学生議会で提案をされました。デザートの販売などを実施し花を添えていただき、様々な支援サービスを提供できる体制を構築することができました。

このようにこども家庭センター「よりそっと」は、単なる施設としてだけではなく、地域全体で子供と家庭を支える拠点としての役割を果たすことを期待しております。こども家庭センター「よりそっと」の改修は地域のニーズに応じた支援体制を整えるための重要なステップであり、今後も地域住民とともに成長し続ける施設として運営していく方針です。

御質問の大規模改修に要した工事費の総額は2億6,640万円となりました。今後適切なメンテナンスを行いながら、新庁舎と共に大切に使用してまいりたいと考えています。

(2) これまでの主な事業の実績等はどうなっているのか。また今後の課題あるいは町民の反応は、とのお尋ねですが。こども家庭センターの設立目的は、妊産婦や子育て世帯に対して一体的な相談支援を行うことです。2月の開設以来、相談件数は27件に達し、お子様の発育や育児サービスの利用、家族の問題さらには里帰り中の支援や転入予定者からの相談も受けております。

また、必要に応じて家庭訪問も実施しています。5月には要保護児童等対策地域協議会を開催し、町内の保育教育関係者や県内の相談機関の代表にお集まりをいただき、情報共有を図りました。

また子供、子育てに関する事業として月2回の母子手帳交付、月2回の乳児相談、月二、三回の幼

児健診、月曜日から金曜日まで子育て支援センターきしゃぼっぼの開設、月曜日から土曜日までの放課後待機児童対策、不定期にはみんな食堂やファミリーサポートセンターとして子供の預かりを行い、5月までに延べ1,845人に利用していただいております。

今後の課題と町民の反応についてですが、新しい施設であるために利用された方からはおおむね好評をいただいております。その一方で利用者の認知度の向上が課題として挙げられるかと思えます。こども家庭センターでは、乳幼児期の家族には場所の周知が進んでいると思われます。しかし、それ以外のお子さんや、家族への認知も高め、こども家庭センターが相談できる場所としての周知を進める必要がございます。加えて支援体制を充実させることも課題だと捉えております。

専門的な相談支援を行うためには多様な専門職の配置が求められており、4月から新たに社会福祉士を正規職員として配置しました。基礎的な知識の上に研修や実務経験を重ね、他の専門職と協力して質の高い相談支援を提供する体制を整える必要があります。

こども家庭センターの現在の主な課題としては以上のとおりです。これらの課題に対しては、関係機関と連携しながら適切に対応してまいります。

今後は育児講座や親子交流イベントなど、より多様なニーズに応えるプログラムを企画してまいります。引き続き町民の皆様にとって有益な支援を提供できる施設となるように努力してまいります。

なお、1の(1)学校給食関係については教育委員会から答弁がございます。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

1. 米価高騰の町民生活への影響と本町における減反について、(1)米価や諸物価の高騰が、本町の学校給食にどのような影響を及ぼしているのか、とのお尋ねでございますが。本町の学校給食においても米価や諸物価の高騰という全国的な課題に直面していますが、学校給食費の完全無償化という独自の施策により、保護者への経済的負担を軽減し、食材費高騰の影響を町が負担する形をとっています。米価や諸物価の高騰による影響は献立の維持や、運営コストの面で課題となります。

具体的には、次のような影響と対策が考えられます。主食である米の価格が上昇すると、給食全体の食材費に大きく影響することとなり、安定した価格で良質な米を確保するために、これまで以上にコスト管理に努めることが必要となります。その他の食材、肉、魚、野菜、油、調味料なども燃料費や、飼料価格の高騰、天候不順などにより価格が上昇しています。これにより同じ予算内で、これまでどおりの献立を提供することが難しくなっているのが現状です。また冷凍食品や加工肉製品なども原材料費や光熱費の上昇に伴い値上がりしており、給食費への負担が増大をしております。

食材費が上昇する中で、予算を維持しようとする、必然的に献立の内容を見直す場合もありますが、学校給食は児童生徒の成長に必要な栄養を供給する重要な役割があるため、単に安価な食材

に切り替えるだけでなく、栄養バランスを崩さないよう献立づくりに細心の注意を払っております。

これにより学校給食センターは、限られた予算の中で、栄養バランスと安全性を維持しつつ、献立の工夫や食材の調達方法をより一層、検討していく必要があるものと考えております。以上壇上からの答弁を終わります。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○5番（岡村真由美君）

初めに今回この一番のですね、米価高騰の影響等の質問をすとか、減反に関する質問をするに至った経緯というのをちょっと手短にお伝えしたいと思います。これは5月17日に撮影をした写真です。実はこれより10日ほど前の5月7日、向こうのほうに見える県道を茂雄方面に走らせていた時のことでした。ここは段々の山田なのですが、山田のあぜ草がきれいに刈り取られている風景を車の窓から目にし、あまりの見事さに感動したもので、訪ねて行ってみようという気持ちになりました。近所に住んでいるんですが、この近所に住んでいながら、この山田の一番ここ——一番上まで上ったのはこの日が初めてでした。

そのときに、田起こしを済ませ——水をまだそのときは張ってなかったんですけど、草を刈り、田起こしを済ませた御夫婦が居合わせておられたのですが。その奥様から次のような質問を受けたのですね。「こがん毎日米不足って言いよるとに、なして減反すつと？」昔からの知り合いなので方言で聞かれたんですが、もちろん私は非農家でありますし、即答はできませんでした。ですから、家に帰ってから近所の農家の人に尋ねたり、自分でも調べてみたり、それなりの先ほど答弁いただいたような、おおよその理解はできたのですが、恐らくほかにも同じように感じている方がおられると思い、質問をしている次第です。

学校給食への影響についてはもういろいろ工夫をされて、献立を工夫したりして、乗り切っていてくださってる。あと町が食材費の支援もしてくださっているの、直接町民には影響というかたちで及んでいないように思うので少し安心しているのですが。

米、先ほどから米の問題言ってますけど、学校給食で用いている米の購入先と、年間どのくらいの量を購入しているのか、ということについてお願いします。

○議長（尾上和孝君） 林田給食センター所長。

○給食センター所長（林田孝行君）

それではまず購入先ですが、長崎県学校給食会というのが諫早市のほうにございます。そこと契約をして米の購入に至っております。年間の購入量ですが1万3,680キログラム。これは令和6年度となっております。ちなみに単価ですが、10キログラム当たり3,390円となっております。

この中には、長崎県産の「にこまる」また「なつほのか」がございます。そのほかに波佐見産ということでも購入をいたしております。

それと令和7年度ですが、単価のほうですがこれを参考に6,550円で、先ほど申しあげました県の学校給食会との契約を結んでいるところでございます。以上です。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○5番（岡村真由美君）

学校給食会から一括——いろんなほかの食材もそろえて一括購入。単価を安くするためには一括購入しかないんだと理解しておりますが。改めて今聞いて、10キログラム3,390円だったのが、今年度は6,550円。これってスーパーよりも高いですね。やはりいい米もあるということなののでしょうか。はい、分かりましたが。これはですよ、これは新米というのですか。新米を買っている、何年産というかもお分かりなののでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 林田給食センター所長。

○給食センター所長（林田孝行君）

これは新米という価格となっております。ちなみに先ほどの単価はですね10キログラム、比較したら、かなり安くはなってるかと思っております。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○5番（岡村真由美君）

失礼しました。いつも話題になってるのは5キログラムでしたね。5キログラムの場合で3,000円幾らになってるということですね、ということは、前年度はかなり安かったということですね。ありがとうございます。

次ですが、ちょっとこれを御覧ください。御覧くださいって言っても全然御覧になれないと思うんですけど、毎日新聞5月14日付けの毎日新聞です。この記事の内容を少し紹介したいと思うんですが。大阪の泉大津市では、市が独自に9つの生産自治体と農業連携協定を結び、有機栽培米などを直接購入している。市民のための食料を確保する仕組みをつくって、米の価格高騰が始まった昨年集まった75トンの米が市内の小中学校と就学前施設に行き渡ったと書いてあります。ほかのこともたくさん書いてあるんですけど、そこで質問ですが、本町でも先ほど「にこまる」だとか町内産の米もおいしく食べてもらってるというふうな紹介がありました。一括、学校給食何とかという諫早の施設に購入されてるんですが、米だけは町内の農事組合法人と連携協定を締結して、波佐見の子供たちに波佐見のおいしい米を食べさせるというわけにはいかないのでしょうか。

これをちょっと聞いてみたいなと思って質問します。

○議長（尾上和孝君） 林田給食センター所長。

○給食センター所長（林田孝行君）

先ほど申しあげました波佐見産ということで、令和6年度、参考ですが2,800キログラム購入させていただいております。これは以前もありました地産地消、いかに波佐見で採れた食材等を食する

かということでの取り組みでございまして。先ほど議員のほうからありました、農事組合等々の契約ですが、今のところまだそこまでは至っておりませんが、そういった意見等があれば今後検討していきたいと思っております。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○5番（岡村真由美君）

ありがとうございます。それでは検討していただけるかなというふうに期待をしているところです。

次です。これは先ほど説明があったものをごく簡単に分かりやすく表にしたものです。

波佐見町56平方キロメートルのところをヘクタールに直すと、5,600ヘクタールというように大体なるのだろうと。そのうち山林が3,500ヘクタール、農地が700ヘクタール、先ほどありましたですね。大体こんなふうに理解して覚えておけばいいのかなと思って表にしてみました。

700ヘクタールの農地はずっとこの数年ですね変わってきていない。もうお家がたくさん建っています、農地の面積自体は近年変わってないということで理解しておきたいと思います。総面積に対する割合というのは、農地は12.5%。山が多いですねということでした。

先ほどから私は減反政策というのをまだやっているのかなというふうに思っておりましたが、法的には減反政策は2018年に廃止をされ。されはしましたが、その後も生産調整という形で実質的には今も減反が続いている、というのが大方の認識で、先ほどみたいな米農家さん——米を作っている奥さんからも聞かれるのではないかなというふうに思いました。

減反政策が始まったのは1971年、昭和46年のことだったそうです。本町では前年、つまり減反をする前、1970年当時の作付面積はどのくらいだったか。調査ができてたらお答えください。できなかつたら結構ですけど。はい。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

過去の決算書等を確認したところですね、ありました。昭和45年の作付面積、水田として769ヘクタールが水田としてあったと。それとそのときに既に66ヘクタールの減反をしてると。いうことが45年の決算書を見てありました。それで差引き703ヘクタールが水稻を作付しているところの数字がございました。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○5番（岡村真由美君）

詳しく調べていただいてありがとうございます。私が全国の減反の状況、推移というのをちょっと調べてみましたら、全国では283.6万ヘクタールから135.9万ヘクタールまで——147.7万ヘクタールですか、まで減って当時の47.9%になっているんだそうです。

波佐見町は760ヘクタールから397ヘクタールというのは、半分までは入ってないですね、そんな感じで。これは人口が減ったということよりも、米の消費が減ったというのが大きな要因だというふうに、書いてあるのですが、これでももうずっと賄えてたということですよ。波佐見町でもやはり米を食べる人が少なくなったのでしょうか。どうでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

波佐見町でもというか、もう全国的なそういった食に関する洋食化というのがずっと叫ばれていますので、それに伴いまして米の消費量というのはもう全国的にも減ってるということでございますので、波佐見町でもそれに応じて減っているんじゃないかなと思っております。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○5番（岡村真由美君）

町長の答弁または農林課長の答弁等でいろいろよく分かったんですが。もう一度だけですね。米が不足すると大騒ぎになっているが、まあ即、大幅増産になれないんだということの理由を簡単にもう一回お伝え願えますか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

先ほど来あっておりますが、減反政策は昭和45年ぐらいからずっとされておりまして、29年までかな。平成29年まで一応されてたということになっております。その間農家の方は米を作りたいが作れないと。ただやっぱ国の政策ということで、やはりそれに従わざるを得ないということで約3分の1程度転作をされてきております。

それに伴いまして米価もどんどんどん安くなりまして。先ほどありましたが、6年産で10キログラム3,000幾らというところですね——今年に限っては倍になっておりますが。もう米価もものすごくやはり安くなっている状況で、今年はずっと言ったらおかしいですが、そういった米が不足してるということで米価がぼんっと倍ぐらいに上がってるのが現状でございます。

ただ農家としては以前からずっと転作を続けてきておりますので、そういった気持ち的なものが、すぐに米の生産に向かないということもございます。それと同時に、町長の答弁の中にもありましたが、波佐見町はそういった全ての水田で作るだけの水量というかですね、水が足りないんじゃないかなというふうに思っております。そういったところで水の問題、そういった農家の切替えがうまくいかないというところで、そこまで水田が増えてないといったところが現状だと思っております。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○5番（岡村真由美君）

大変よく分かりました。この答弁を議会だより等でもしっかり伝えたいと思います。

それではこの写真はですね、先ほどの山田の水源です。堰ですね。もう古い堰で壊れかけてるようには見えますが。堰とこの右のほうに細く作ってあるのが水路ですね。先ほど満杯になってた写真の田んぼにつながる水路です。水路の様子ですね。

この上流に堤とかため池というものは一つもありません。二ッ岳周辺に降った雨がこんな形で、この小さな谷川に降り集まって、そして下って行って、志折川に注ぐという形になっております。御覧のように水量は極めて少ないのですが、一年を通じて流れていますので日照の年でもこれまで1度も枯れたことがないと、この農家の方は言うておられました。そのおかげで毎年安定しておいしい米ができると評判です。

しかし、ここも将来的には後継者がいない、いなくなるだろうと。耕作放棄地となる可能性があるようなのですね。もうとつても、もったいないことだな、話だなというように思っております。

この最後の質問になりますが、農業の後継者を育成するために、現在町が力を入れられている事をお聞かせください。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

農業の後継者というところでございますが、新規のそういった農業者の発掘。それと今波佐見町では9つの農業法人が運営をいたしております。その農業法人も役員さんあたりを見ますと、もう結構かなりの高齢者になられてますので、そこの代替わりをどういう形でしていくか。それとあと経営というところを考えたときに、そういった法人の経営というのをどういうふうに関後やっていくかというところで、我々も勉強しながら波佐見町の農業をどう維持していくか、どう後継者につなげていくかというところで検討してまいりたいと。

その一環として、この前からお話がっております農林業系経営支援事業というのも作りまして、今の支えていってもらっています農業者をまず支えていければなというところも思いまして、そういった事業も進めているところでございます。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○5番（岡村真由美君）

よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、質問項目2の波佐見高校の存続に向けた支援策の実績と成果という項目に入りたいと思います。これですね、また新聞ですが、この新聞はこういう感じです。5月29日です。ここに赤で囲っているところがあるんですね。1面のトップですね、トップ。ここにありますので、かなり大きな記事だと認識してるんですが。この赤いところの記事の要約。簡単に一言で言うと「県立高校の

再編を加速させます。大綱を本年度中につくります。」というふうな内容の記事だと思えます。

この中に——後でゆっくり読んでいただきたいのですが、この中に西海、松浦両市や東彼3町の中学生が地元高校に進学する割合は3割程度しかないとのデータもあるとはっきり書いてあります。これで、波佐見高校と川棚高校も再編のターゲットになっているということがよく分かります。

先ほど数を挙げられましたが、今年は波佐見中学校から波佐見、川棚の両高校に進学した生徒の数は2つ合わせて23人。17%で3割どころか2割を切っています。ちなみに10年前、平成28年は2つ合わせて53人で38%でした。

もう一つですね、川棚と波佐見高校行ったんですけど有工もちょっと気になったので、有工にはどうなのかなと思って28年当時と今を比べてみました。有工も平成28年——10年前は有工には20人行っていたのが、今年は8人です。有工にも8人しか行っておりません。このように、波佐見中学校の生徒が地元の高校を敬遠するというか、よそに出かけて行ってるという、進学していつているという事の原因は先ほど町長もおっしゃいましたが、教育長はどうお考えでしょうか。お知らせください。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

町長答弁と同じになりますが、少子化、それと私立高校への入学増。様々な選択肢の拡大これが一番大きいのではないかなと思っております。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○5番（岡村真由美君）

これは波佐見高校と川棚高校に、波佐見中学校から川棚中学校から今年の春、入学した生徒の数を書いてます。町長がおっしゃったのは合格者なんです62、62人というのは。実際入った生徒は61人なんだそうです。川棚も61人。この数はもう今まで最低ですね。波佐見中学校からは波佐見高校23人、川棚高校に10人、川棚中学校から波佐見高校へは5人、川棚高校には23人ですかね、というようになっております。

このように地元から3割以下しか進学しない高校だから、なくなってしまうのは仕方がないのかもしれない。では、たとえ少数、少数であってもゼロではありません。波佐見高校に進学したい生徒や、できれば近くの高校に子供をやりたいと思う保護者はどうなるのでしょうか、なくなってしまうたら。

地元の企業への就職率が高い波佐見高校です。このまま県外に出ていく割合が高い高校に、進学する生徒ばかりになったときに、高校を卒業した後、波佐見に残ってくれる、あるいは将来波佐見に戻ってきてくれる若者が果たしてどのくらいいると予想をされますか。

地元の高校に有工にも行かない、川棚高校にも行かない、波佐見高校には絶対行かない。よその

学校に行ってしまうと、進学や、あれいいところに就職だというふうにしていたときに、波佐見町に残ってくれる子というのはどのくらいでしょうか。それでも残ってくれるでしょうか。教育長どうお考えになりますか。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

突然振られたんですけど全く分かりませんね。将来的なことを、まあそれを私たちがどうこうするのではなくて、選択をするのは本人のことでありますし、家庭のことですから。その選択を私たちがどうこうすることはできないというように思っております。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○5番（岡村真由美君）

当然です。進路は子供のものであり、家庭で考えるものであります。ただ、町としてはやはり町から出ていく生徒が増えていく。これは子供が生まれても、その残る子がいないから子供が生まれていないのと同じかなと思ったりも私はしたのですね。やはりゆゆしき現象ではないかというふうに、高校の進学というのは大変な問題だと思っております。

でもこれまで波佐見高校のあれを支えてきたのは、この支援のおかげだと思っております。タウンバスの乗車、定期利用者の利用者が18人というのを聞いて、うーん、そのくらいかと。佐々町から来るバスとはまた違うので、少ないのは当然かとは思いますが。がらがらで走っているはずだなというふうには思います。

波佐見町には存続に向けて、これまで大変な御努力をしていただいて、大いに感謝しているのですが、新たな手だてというのはもう考えられないですね。先ほど未来寮のへの支援をもう少し、他の寮にもというふうに変更を少し考えているというふうに言っていたのですが。ないでしょうか。例えば有田町がやっております県外から生徒を広く集める地域みらい留学に参加するとか。そういったダイナミックな転換というのは、全く考えていただけないのでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

今、お示しのとおり地元からなかなか来てくれないということで、非常に厳しい状況であります。今でも県外からかなり多くの生徒の皆さんが来られてまして、そのみらい留学の、一回事務局と来ていただいて話をしたこともあります。

ただ、そのとき今一番の課題というのが、よそから来てもらうのはいいのですが、その住んでもらうところがない。これ以上寮を増やす、町としての資金的余力もありません。そういった部分を考えるとやはり通学圏内から来ていただく手だてと言うのが、非常に重要になるんじゃないかというふうに思っております。

今のところはこれ以上増やすという考えはございません。以上です。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○5番（岡村真由美君）

今までの答弁と一緒にですね。もうそれはもう当然だと思うんですよ。予算が、関わってくることで、寮を造ってもらっただけ、運営してもらっただけありがたいなと思って。ここに来る生徒が増えてくれればいいなと思ってるんですが。

お知らせですが、私は美術工芸科の子を遠方から受入れてお世話をしてきました。今年も1人平戸から来て、1年生、やっております。この話をしたら近所の方からもう1軒、安価で貸して下さるということがあったので、ここに四、五人生徒を迎えられるかなと、いう計画を立てて今進めております。

これは町に何かをしてくださいということじゃないですね。町民の皆さんが波佐見高校の美工科に支援をしたいなというふうに思ってくださってるので、波佐見町の支援を活用して集めていきたいなと思います。特殊な学科ですので、近隣から来る生徒は少ないです。やはり視野をもっとこう広い裾野にしないと存続は無理かなというふうに思っております。逐一報告をしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それでは3つ目の項目に行きたいと思えます。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○5番（岡村真由美君）

皆さんこれはどこかで見た写真ですね。2月号でしたかね、広報はさみにもこの写真が載っておりました。その写真を頂きました。光輪はさみこども園の子たちが何か太鼓か何かをして、開所式に花を添えてくれた模様ですよ。このように、先ほどありました2億6,600万円ほどをかけて、あの議会棟とか農林課のあった部分がこんなに立派になりました。外側だけじゃなくて中も、内面も本当隅々まで工夫が凝らしてあって、子供たちへの愛情をすごく感じる施設になっているなど。明るいとっても立派な他町に誇れる施設になっていると喜んでおります。お疲れさまでございました。

そこで質問なのですが、この施設の運営は先ほど町長も言われましたが、子ども・健康保険課が行っておられますね。2月の開所式では「こどもまんなか応援サポーター」宣言をされたというふうに広報はさみに載っておりましたが。ここで言われる子供とは、何歳から何歳までなのでしょう。

「こどもまんなか」の子供って、何歳から何歳を考えていらっしゃるのでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 石橋こども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

子供っていういろいろ定義がありますが、ここでいう「こどもまんなか」は高校生とか大学生まで子供というところに入るのかと思います。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○5番（岡村真由美君）

高校生、大学生まで入るといふに言っていたいて、すごくうれしいんですが。おなかの中にいる子供もですよ。生まれてない子も。そういう幅が広いという回答いただいてうれしく思うのですが。実際には2月のみんな食堂があそこの会場で開かれました。私も行きましたが、中学生の姿がたくさん見られました。

では、それ以外。あの時のみんな食堂以外で小学校の高学年あとは中学生、高校生の利用というのはこの3か月間あったのでしょうか。また、この後どんな感じで予定されているのかというのをお聞かせください。

○議長（尾上和孝君） 石橋こども・健康保険課長

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

先ほど写真でも御紹介いただきましたが、この開所式は町内の子供さんに関わっていただきたいということで、園児さんに太鼓の演奏で、小学生の方にはテープカットに参加していただき、中学生には先ほどありましたカフェの運営と、高校生の方にはデザインのほうに関わっていただいて、この施設はオープンいたしました。

ただし実際のところの利用となりますと、乳幼児は来る機会はある、今小学生としましては待機児童対策で預かりをしているところです。

で、中学生とか高校生はなかなかですね、機会がございませんが、そういう兄弟の方といらっしゃるとかですね。あるいは今後計画する食育フェスタとか、そういったものも検討しておりますので、そういった機会にもう少し幅を広げたお子さんに来ていただきたいなというふうに思っております。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○5番（岡村真由美君）

ありがとうございます。それでは、資料最後になります。これは4月23日付け長崎新聞の「記者の目」というコラムです。長崎新聞の許可を得て提示をしております。

これは上に書いてある、緒方秀一郎（島原支局）というふうに書いてありますけど島原の記事です。十八親和銀行が市内にある空き店舗を島原市に無償貸与し、そこを島原市が来年度開設予定のこども家庭センターに活用するという合意の様子が伝えられています。注目していただきたいのは、一部赤線を引いてありますが、2段落目後半の一文です。読み上げます。「センターは母子保健や児童福祉のほか、市独自の取り組みとして、高校生も含めた子どもの居場所、地域のよりどころとしても機能するとの方向性が示された。」という一文なのですね。

私は多分、市のアーケード街か何かにある施設かなと思うのですが、高校生も行けるんだと思っ

て、しょっちゅう入れるんだって、広いんでしょうねきっと。そして島原市には高校がたくさんありますので、高校生がたくさんいるのですね。その子供たちが入れられる施設になるのかと思って開設が楽しみなんですけど、本町の子ども家庭センター「よりそっと」も、母子保健や児童福祉の施設としては、本当にフルに活用していただけてますが、今後子供の居場所、地域のよりどころにもしていきたいという考えが、あられると思うのですが、もう一度お願いします。

○議長（尾上和孝君） 石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

子供たちがどこに行きたいかというかですね、そういったところの視点も重要じゃないのかなと思います。例えばこちらの「よりそっと」で高校生も来てくださってと言っても、やはり地理的条件もあったりするかもしれませんし、高校生が今ちょっと何をどういうふうに望んでいらっしゃるかというところの調査というかそういう要望も——頂いておりませんが。高校生に限らず小学生、中学生も来ていただけるような施設になっていきたいというように思っているのですが、ちょっと今放課後児童の対策をしております、そこの住み分けが上手にできないところで、そちらが解消していきますと、もう少しこう進んでポストを開放的に使える施設になっていくのではないかなというふうに思っております。

ただまだ3か月ですので、まだ今年度やってみてできるところ、改善できるところはいろいろ出てくるんじゃないかというふうに思っておりますので。なるべくできることはやってまいりたいというふうに思っております。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○5番（岡村真由美君）

今の課長の言葉を聞いてですね、安心しました。今すぐにというわけではありません。徐々にみんなが使える、子供がみんな来れるような、何かこう施設になっていけばいいなというふうに思っております。

先ほどもちょっと町長の答弁にあったのですが、「よりそっと」というのは庁舎の一部であり、現在臨時的に開設をされております放課後児童クラブの利用以外、土日は基本閉まっていると聞かれますが間違いありませんか。「きしゃぼっぼ」は土曜日やっているんでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

「きしゃぼっぼ」はやっておりません。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○5番（岡村真由美君）

「きしゃぼっぼ」がやってて、「きしゃぼっぼ」以外は、あんな立派な施設が日曜日に開いてない

とか、それはもったいないという声を私はあちこちから聞くのですね。職員さんに土日に勤務して、そこに努めなさいという気は全くないんですが、何らかの対策を立てて、あの施設が土日も祝日もフル稼働できるような、対策というのを講じる考えはないでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

まだ職員がいない状態で運営ができるのかというところのちょっと不安がございます。今の園庭といたしますか、外の遊具のところもあるんですが、まだちょっと若干気になる部分があって、金曜日までしか今開けてはしないんですが。本来ちょっと土曜日までは開けたいとかですね、今改善を重ねながらそういう利用の幅といたしますか、は増やしてはいきたいと思っております。

今委員がおっしゃるような形、どういうふうなことをすればできるのかは検討はさせていただきたいというふうに思います。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○5番（岡村真由美君）

働き方改革もありますし、当然土日の勤務というのは職員ができないというのは分かっております。何かこう違う組織の人が入るみたいなことができないかなというふうに考えております。

最後の質問になるのですが、項目2. 波佐見高校の存続に向けた支援と重なるのですが。高校生を町の大事な活力として生かすも殺すも地域次第だと。みんなで高校生、地元の高校生を大事に育て、10年後、20年後たとえ人口減となっても、波佐見町は元気だねとよそから言ってもらえる町にしたいなと私は思います。町長もそう思っていらっしゃると思うのですが。

高校生を何ていうのですかね、活用する、こういう何ていうのですかね。考えというのですかね。高校生を、波佐見町にとどめるという考えについて、どうにかしてとどめるということについて、最後に町長からお答えをいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

高校生が地元にとどまるというかですね、波佐見町内に高校があるということがあってほしいという願いが強ございます。というのはやはりまちの活力というのは、そういった若い人の声が町中に響き渡っているのは非常に、先ほど申しましたまちの活力につながっているのではないかなという思いでございます。

ただそれをとどめるということではなくて、やはり若い人には一回外にでもいいから飛び出て、世界感を見て、それを地域に還元する、波佐見町に還元していただけるような、視野の広さも持つてほしいなという思いもございます。

一方で地元にとどまって基幹産業や、あるいは農業にしっかり取り組んでほしいという期待もご

ございます。そういったものの中で将来的には、ふるさと波佐見町を思う想いをですね強くしていただきたいなということが、一番肝心な大切なことではないのかなというふうな思いでございます。

○議長（尾上和孝君） 岡村議員。

○5番（岡村真由美君）

私の言葉の使い方が間違っておりました。とどめるというのは波佐見町に高校が、高校生がいるということですね。よそに出ていってしまわないで、波佐見町にも高校生がいるという形にぜひ御助力をお願いしたいという思いで終わります。ありがとうございました。

○議長（尾上和孝君）

以上で、5番岡村真由美議員の質問を終わります。

しばらく休憩します。14時40分から再開します。

午後2時30分 休憩

午後2時40分 再開

○議長（尾上和孝君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、8番 城後光議員。

○8番（城後光君）

皆さんこんにちは。通告に従い一般質問を行います。

新庁舎建設事業の総括および今後の庁舎活用策について。

令和6年度末をもって完了した新庁舎建設事業は、町の行政運営の中心として新たな拠点を形成するもので、多くの町民の関心を集めてきました。新庁舎の整備が完了した今、事業全体の成果と課題を振り返ることは今後更新時期を迎える公共施設の整備にあたって有意義なものと考えます。

そこで、次のことを問います。

（1）新庁舎建設事業の総括について。

①事業完了までの期間、事業規模及び費用が、当初計画と実績で差異したのはなぜか。

②事業費の財源内訳（基金、一般財源、起債、国補助）と公債費の償還の計画はどうか。

③工事中における課題や教訓があったのか。また、それは今後の事業にどう生かすのか。

（2）新庁舎の機能と町民・職員の利便性について。

①新庁舎への移転後、来庁者・職員双方から、どのような使い勝手の評価を得ているのか。

②防災拠点としての機能、利用者の安全対策については、どのような効果があったのか。

③バリアフリー対応、案内表示、スペースの配置など、誰もが使いやすいよう配慮されていたが、開庁後に利用者の声を踏まえ、何らかの対策、改善が行われたのか。

（3）今後の庁舎利活用と建設に当たって取得した町有地の活用策について。

- ① 1階情報発信スペース、2階展望テラスなどを町民活動やイベント等に開放する考えはないか。
- ② 庁舎建設にあたり、土捨場として取得した町有地の今後の活用策はあるのか。
- ③ 新庁舎の維持管理にかかる年間費用の見通しと、将来的なコスト削減策などはあるのか。

以上、壇上からの質問を終わります。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

8番 城後光議員の御質問についてお答えをいたします。

波佐見町新庁舎建設事業の総括と今後の庁舎活用策について、という御質問でございます。

まず、新庁舎建設事業の総括について、事業完了までの期間、規模、費用が当初計画と実績で差異が生じたのはなぜかというお尋ねでございますが、新庁舎の建設は旧庁舎の老朽化、地域住民の利便性向上や行政サービスの向上を目的としており、平成26年度から計画を進めてまいりました。

まず当初計画から事業完了までの概要を説明させていただきます。平成27年度～平成30年度にかけて、町内各種団体の代表者等から成る新庁舎建設検討委員会により、新庁舎の必要性、規模、位置など深く御審議をいただき、平成31年2月に基本構想ともいえる答申がなされたところです。

この段階では地域のニーズや将来像を考慮した庁舎の在り方、機能性や利便性、環境への配慮などが重要なテーマとして挙げられました。

次に平成31年度にはこの答申をもとに、実現可能なものとするために基本計画を策定いたしました。この計画では、具体的な庁舎の規模や配置必要な施設の内容を明確化し、建設に向けた具体的な方向性を示し、また概算工事費や工期の設定も行ったところです。

令和2年度には基本設計取り組み、庁舎のデザインや構造について詳細な設計を進めました。この段階では建物の外観や内部のレイアウト、設備の配置などを具体化し、町民の皆様や職員にとって使いやすい空間を目指した設計を行いました。

その後令和3年度には実施設計へと進み、建設に必要な詳細な図面や仕様書を作成し、入札の手続きを進めて施工業者を決定し、実際の建設に向けて準備が整いました。令和4年度～5年度にかけては、新庁舎の建設工事を実施し、工事は順調に進み、地域住民の期待に応える形で新しい庁舎が完成いたしました。さらに令和6年度には駐車場整備と周辺歩道整備を行い、これにより新庁舎へのアクセス等が向上し、町民の皆様が利用しやすい庁舎周辺整備、駐車場、歩道の整備が完了できたところでございます。

駐車場は来庁者の利便性を高めるために重要な要素であり、周辺歩道整備は安全な通行を確保するために欠かせない取り組みです。以上が新庁舎建設事業当初計画から完了までの日程の概要でございます。

御質問の計画と実績の差異につきましては、まず事業期間についてですが、令和2年度の基本設計段階では基本設計業務着工から新庁舎建設事業完成までの期間を約4年10か月と見込んでおり、令和6年10月に完成予定としていました。しかし実際には、工事の進捗状況や、外部要因によりまして若干の遅延が生じ、新庁舎は令和6年1月に開庁できましたが、こども家庭センターや周辺整備工事を含む新庁舎建設事業は、令和7年3月の完成となりました。

国際情勢の不安定化に起因する資材不足により、若干の工程の遅れが生じたものの、おおむね計画どおりに進んだものと判断をしています。その要因としては、一つ一つの工程に対して必要な協議を密に重ねながら、発注者、受注者とも一丸となって事業に取り組んだ成果だと考えています。

次に事業規模につきましては、基本計画の段階では、国の基準や波佐見町の人口、職員数等で延べ床面積3,000平方メートルを計画していました。基本設計、実施設計にて詳細設計を行い、来庁者の皆様や職員の利便性、機能性を考慮した結果3,357平方メートルに変更いたしました。なお、延べ床面積の増加につきましては、建設工事費に直結してまいりますので、職員検討委員会、管理職協議会、議会特別委員会あるいは議会にて説明、承認をいただきながら事業を進めてまいりました。

次に費用についてですが、総事業費については令和3年6月議会にて、その時点での事業費を22億400万円と説明しておりましたが、最終的には約26億9,300万円となりました。この増加の要因としては、建設資材費の高騰や設計変更による追加工事が影響しております。新庁舎は、行政機能を集約し、住民サービスを一層向上させるための施設として設計しています。具体的には窓口業務を行うフロアや会議室、地域住民との交流スペースなどを整備しており、バリアフリー設計も採用しています。

また環境への配慮として、省エネルギー設備や再生可能エネルギーの導入も行っています。これら機能性や利便性、環境性能を高めるための設備投資が増えたことも大きな要因です。これらの変更は波佐見町が目指す持続可能な地域づくりや、住民サービス向上に寄与するものと考えております。そのほかにも、更新時期を迎えていました電算システムや町防災無線、周辺の歩道整備工事なども新庁舎事業に追加をいたしました。今後も引き続き地域住民の皆様にとって使いやすい庁舎となるように努めてまいります。

次に、②事業費の財源内訳と公債費の償還計画はどうか、というお尋ねですが。庁舎建設事業につきましては、本庁舎のほかこども家庭センターの整備を含め、関連する事業費の総額が約26億9,300万円で、その財源の内訳は庁舎建設基金が13億4,800万円。一般財源が3億9,200万円、起債が9億2,700万円、補助金については2,600万円となっています。

起債による資金調達については公共施設等適正管理推進事業債を活用し、その編成については3年間の元金据置き30年間での返済計画を立てており、令和35年度に終了予定となっています。

③工事中における課題や教訓があったのかと、またそれは今後の事業にどう生かすのか、とのお

尋ねですが。昨今の物価高騰の影響は、近年の公共事業において非常に大きな課題となっており、特に工事期間中においては資材価格の高騰が直接的な影響を及ぼしています。

さらに労働市場の逼迫により、建設業界では熟練工の確保が難しくなっており、波佐見町も例外ではございません。また人件費の状況も無視できません。今回の工事においても、物価高騰による資材調達の難しさ、熟練工の確保に直面いたしました。先進自治体の視察を行い、職員、管理職、議会とのコミュニケーションを重視し、工事による影響や進捗状況について定期的に情報提供を行い、町民の皆様からの意見や要望に耳を傾け、関係者や地域との信頼関係を築くことで波佐見町に即した新庁舎建設ができたと考えております。

今後の事業においても社会情勢を加味し関係者や町民の皆様のご意見を聞き、反映しながら波佐見町に即した公共施設を整備していきたいと考えています。

(2) 新庁舎の機能と町民・職員の利便性についてということで、新庁舎への移転後、来庁者・職員双方からどのような使い勝手の評価を得ているか、とのお尋ねですが。まず来庁者の評価ですが、「庁舎自体が明るくなった。」「フロアやトイレがきれい清潔になった。」「仕切りがあるローカウンターが各課に配置され、相談室も増設されたことから相談がしやすくなった」などの意見が寄せられています。またエレベーターの設置や、バリアフリーの対応についても評価が高いものと認識しています。

職員からも同様に、執務室が明るく空調が個別管理された上、机、椅子パソコン類も一新したことから、働く環境が改善されたとの声があります。また打合せや食事ができるミーティングルームの設置も使い勝手がよいとの評価を得ています。

加えて、教育委員会事務局が庁舎に移転し、情報共有や事務事業の効率化が図られたことは大いに感じると思います。そのほか防犯カメラの設置や、入退室管理システムの導入によるセキュリティの向上、文書管理・庶務管理システム、多機能電話機の導入など新庁舎建設に併せて実施した各種事業の庁舎の機能向上を補完していると考えています。

一方で、構造的な要因でカウンターと職員との間に一定の間隔があることから、窓口に立たれたお客様に気づくのが遅れることがあり、お待たせする場面がございます。現在は職員相互が補完し合うことで、そういった場面自体は少なくなっていると思いますが、改善の余地はあるものと認識しています。

②防災拠点としての機能、利用者の安全対策についてはどのような効果があったのかとのお尋ねですが。まずもって耐震化された堅牢な建物に生まれ生まれ変わったことが一番大きいと思われま。庁舎3階には、防災対策室に転用できる会議室を設け、非常時の電話回線の増設など、災害対策本部の機能を充実したことも大きいと考えています。また非常用発電設備を拡充し、再整備している防災行政無線を初めとする各種防災システムの電源確保を行い、ネットワーク機器の更新とあわ

せて、国、県とのシステム連携を図り、町民皆様へ情報伝達の迅速化も図っています。

加えて、災害備蓄庫の併設、マンホールトイレの設置を行い、防災機能の強化も図ったところで

す。
なお、新庁舎とは直接関係ありませんが、3D都市モデルの構築を行い、洪水や土砂災害警戒情報を重層化することで災害危険度を可視化したことも、本町の防災対応能力の向上につながるつながったものと認識しています。

③バリアフリー対応、案内表示、スペースの配置など、誰もが使いやすいように配置されていたが、開庁後に利用者の声を踏まえ、何かしらの対策が行われたのか、とのお尋ねですが。新庁舎は、全ての町民が利用しやすい環境を整えることを目指しており、新庁舎、こども家庭センターともに長崎県福祉のまちづくり条例に適合し、認可を受けた施設となっています。

具体的には、以下のような施策を実施しております。まずバリアフリー化についてですが、庁舎内の移動がスムーズに行えるよう、エレベーターやスロープの設置を行っています。これにより、高齢者や障がい者の方々が安心して利用できるよう配慮しております。また、トイレについても、バリアフリー対応のトイレを設置し、必要な設備を整備しています。これにより全ての方が快適に利用できる環境を提供しています。

次に、案内表示についてですが、例えば視覚障がい者の皆様に対しては、点字ブロック、エレベーターや階段手すりに点字プレートを設置し、障がい者の皆様に配慮した情報提供を行っています。これにより、全ての町民の皆様が必要な情報を得やすくなっています。

さらに待合スペースについても工夫を凝らしています。広々とした待合スペースを設け、椅子の配置や通路幅にも配慮し、車椅子の方やベビーカーを利用される方が快適に過ごせるようにしています。

また、待合スペースにはリラックスできる環境を提供するために、緑や波佐見高校美術工芸家の皆さんのアートの作品を展示しています。これらの取り組みは、単に物理的なバリアフリー化だけでなく、心のバリアフリーを実現するための施策でもあります。町民一人一人が安心して新庁舎を利用できるよう、職員一同が意識を高めて対応しているところです。

御質問の利用者の声を踏まえた対策についてですが、バリアフリーに関しては、階段の手すりを追加させていただき、また階段の手すりにはグリップを取付け、手すりを持ちやすく改良しました。

次に案内表示に関しては、トイレが分かりづらいとの意見がございましたので、トイレ案内サインを高い位置と低い位置に2か所追加をいたしました。

スペースの配置に関しても、情報発信交流スペースなど適宜、来庁者の皆様が使いやすいように、フレキシブルに変更しています。今後も引き続き町民の皆様からの御意見を伺いながら、さらなる改善に努めてまいります。

(3) 今後の庁舎利活用の建設に当たって取得した町有地の活用策についてということで、①1階情報発信スペース、2階展望テラスなどを町民活動やイベントなどに開放する考えはないか、とのお尋ねですが。1階情報発信スペースについては、これまで選挙における期日前投票所、高齢者等を対象としたスマホ教室など一定の活用がありますが、行政側の活用が主で、民間の活用は少ないのが現状です。

また2階テラスについては、季節がよい時期に職員が食事や休憩をとる程度で、積極的に活用されているとは言いがたい状況です。このテラスは南側に眺望が開けて、一定の平広さもありますので潜在的な活用方法は高いと思われます。

このためセキュリティや公共性、庁中管理規則の関係があり、一定の条件を付さなければなりません。民間団体のイベント等も可能と思われるので、テラス自体の周知も含め、活用について検討したいと思います。

②庁舎建設にあたり、土捨場として取得した町有地の今後の活用策はあるのかとお尋ねですが、残土処分用地として購入した一部土地を含め、飛瀬ため池跡地については、現在県が実施しています中^{なかじめ}地区復旧治山工事2工区で発生した建設残土の仮置場として使用しております。今後、町内の県営ため池5か所について、老朽化に伴う改修工事を県が年次的に計画されており、その事業にこの残土を建設利用土として活用する方針と伺っています。使用期間としましては、令和10年3月末までを予定しており、工事終了後における当該用地の活用方法については今後検討してまいります。

③新庁舎維持管理にかかる年間費用の見通しと、将来的なコスト削減策などはあるのかとお尋ねですが、新庁舎が開庁し、令和6年度についてはその年間の実績が出ており、旧庁舎との令和4年度との比較が可能となっていますので、その視点に基づいて御説明をいたします。

新庁舎の維持管理として、電気料を初めとするいわゆる光熱水費がございします。電気料については令和6年度実績で702万4,000円となっており、令和4年度に比べて177万3,000円増加しています。また水道料は1万5,000円の減。旧庁舎についてはガス、暖房用の重油を使っていましたが、新庁舎ではエアコンに統一したことから、ガス、重油を合わせて65万1,000円の減となっており、これらを合算すると110万6,000円の増加となりました。

新庁舎は旧庁舎に比べ、延べ床面積が1.4倍と機能充実を図りましたが、照明のLED化やヒートポンプ型エアコンの導入、太陽光発電庁舎自体の断熱構造の強化などにより、電気料金の値上げがある中、光熱水費の増加はある程度抑制できていると認識しています。一方で、エレベーターや電気設備の保守点検業務などは、法令等に基づき実施する項目であるため、増加はやむを得ないものと考えています。

そこで、将来的なコスト削減策などはあるのかとお尋ねですが、これまでも昼休み中の執務室

の消灯やエアコンの集中管理なども行っていますので、引き続き職員一人一人のコスト意識の醸成を図ってまいりたいと考えています。

以上で、壇上からの答弁を終わります。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○8番（城後光君）

まずですね、実際平成26年からですね、基本計画の検討が庁舎建設検討委員会から始まって令和6年まで非常に長い時間をかけて推進をされてきました。

この中で、私この議場の中でいらっしゃる方で一番関わっていらっしゃるのが、前川町長だと思ってるんですね。建設検討委員会的时候から企画財政課長として事務局を務められました。その後ですね、庁舎建設推進室にも在籍されましたし、副町長としても実施設計等関わられました。最終的に庁舎がオープンするときに町長に就任されていまして、全ての期間中に多大な業務をこなされたと思うんですけど。改めて町長に、振り返って一番苦勞された点をお伺いできればと思います。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

さすがに実施設計ができてまいりますと、設計図に基づいて業者が施工するわけですので、そこまでの至る経緯ですね。まず一番根本でございます基本構想たる建設検討委員会での意見の集約。そこに尽きるかと思えます。

そこではまず、なぜ庁舎建設が必要なのかということから議論が始まり、それから単に庁舎建設という捉え方でなくて、まちづくりの観点であったり、その理念であったりをまずお互いに意識を共有しようという中で、なかなか議論と申しますか、進展しないと言いますか。着手に向けての進展が難しかったと。そういった委員さんの中での意識統一と言いますか、建設に向けての意識統一がなかなか難しかったなという思いがございます。

ただし一定の答申をいただきましたので、そこまでの道のりが非常に長かったのですが、それ以降はある程度計画的に進んだのではないかなというふうな思いでございます。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○8番（城後光君）

今回ですね、質問させていただくにあって答申書等を見せていただいて、建設検討委員会の時系列でこういう議論をしましたという一部を読んだんですけど、やはりかなり、例えば庁舎の位置とかでもいろいろ議論があったというふうに聞いております。

結果、現状の場所に決まりましたが、幾つか候補地があって、その中で最終的に決まったということで、やはり公共事業を更新するにあたってはかなり大変になるわけですね。

私なぜ今回質問したかという、町のシンボルである公共施設が庁舎の建て替えなのですけど。これだけやはり大変なスケジュールを組まれたというところで、今後ですね、前提にも書いていますが、今後、公共施設の更新の時期を迎えていくわけですね。

波佐見町一応、私のほうで公共施設等総合管理計画等見ながら、ざっと振り返ってみたんですけど、1968年に小石原団地が建設されまして、それから72年にですね長野、中尾、永尾、皿山団地。72年～74年ですね。次に波佐見中学校が75年にできた。79年に江良山団地で、85年の協和団地までですね、東小学校、勤労福祉会館、農村改善センター、湯無田の浄水場の管理棟、陶芸の館、南小学校、体育センターってもうずっと続いていくわけですね、これから。

今回、庁舎の事業を進められるにあたって、資材高騰で計画よりも多分20%以上増えてますが、軒並み増えていくと思うんですね。更新するにしても、長寿命化をするにしても。なのでぜひ、私何回も触れていますけど、早め早めに——今後の延床面積20%削減するという目標を掲げられていますので、公共施設等総合管理計画にもですね。前の前の段階から計画していく段取りをぜひ組んでいただきたいと思うのですが。来年が公共施設等総合管理計画の見直しに当たっていくと思うのですが、担当課のほうではどう考えていらっしゃるのでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

議員おっしゃるように、1980年代～1990年代に整備された施設が多いという状況で、全ての建物の中ですね55%が築30年以上を迎えておりまして、更新時期や長寿命化時期を迎えているところでございます。

議員おっしゃるように来年度が公共施設等総合管理計画の10年間の策定をする年度になっておりますので、言われるように早め早めにですね、廃止、統合、また建設をし直すというところの判断を、できるだけ早め早めに行っていかなければいけないと思っております。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○8番（城後光君）

この前提に基づいてですね、質問していきたいと思います。

これまで新庁舎の建設に関わっては、いろんな検討をされたと思うんですが。特にやはり私、事業の振り返りを室長のほうから見せていただいて感じたのが、職員の中でかなり検討を重ねられたと思います。いろいろ時間を割いて検討されたと思うんですけど、やはりそういう成果は具体的に現れてるかどうかを担当課としてどう考えていらっしゃるのでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 大橋施設整備室長。

○施設整備室長（大橋秀一君）

成果に関しましては基本計画、基本設計、実施設計、段階ごとに係長級の職員検討委員会を行い

まして、職員の皆様から貴重な意見や提案を聴取することができました。その意見に対してですね、設計業者様と協議を行い、できるもの・できないもの・予算をかければできるものなど、検討を詳細に重ねながら、職員の皆様から寄せられて意見を尊重しながら、新庁舎建設事業を行ってまいりました。

成果としましては、事業費を抑えながらも町産材、陶板、三股陶石、木材、リサイクル石膏などできるだけ使いながら、ぬくもりがあり職員の意見を最大限に取り入れた機能性、利便性、動線を重視した庁舎になったと考えています。以上です。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○8番（城後光君）

波佐見町は結構稀有じゃないかなと思ってるんですね。というのが、前後に新庁舎を検討された例えば大村市とか佐々町もそうですし、結構その計画から着手に至るまで、何かこううまく進まずに——例えば建設費が高騰したり、工期が延びたりいろいろ大変な中で、波佐見町は先ほど町長答弁があったように、おおむね計画にのっとった時間を過ごすことができたというのは、やはり計画に沿って物事が進んでいったおかげじゃないかなと。本当職員さんが非常に頑張られたおかげじゃないかなと思ってます。

その中で答弁にもあったんですが、いろんな新庁舎を他市町に視察に行かれていますと思いますが、そういった意義はどういったものがありましたでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 大橋施設整備室長。

○施設整備室長（大橋秀一君）

視察の意義ですね。まず視察を受入れていただいた自治体の皆様には感謝を申し上げます。特に川棚町の新庁舎建設室の皆様には、もう常に電話をかけたりですね、お伺いに行ったりしてお世話になりました。

視察先で得た情報をもとに、窓口の配置や待合スペースの工夫など多岐にわたる提案を検討、導入いたしました。例えば1階の情報発信交流スペースやトイレを時間外や休日に使えるようにということで、計画をしておりました。それで窓口カウンターのところや階段部にシャッターを設置して、1階の待合部分を流動的に使用できるように計画をいたしました。計画した結果というかですね、時間外の役場主催の会議や「かわたな・はさみタウンバス」のですね、新庁舎内での待合ができるようになっていきます。

そのほかにも2階の待合にはですね、打合せ用のちょっとファミリーレストランのようなベンチを設置させていただきまして、業者様との打合せを快適に、あと有意義にできるようにしています。そのほかにも先進地の視察をさせていただいて、参考にさせていただきました。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○8番（城後光君）

では次に設計から、実際の施工、解体とか什器購入とかにあたってですね、逆に課題点というか。こういう部分は今後の公共施設の建設に当たっていろいろ考えるべきだなと思われる部分があれば教えてください。

○議長（尾上和孝君） 大橋施設整備室長。

○施設整備室長（大橋秀一君）

解体、敷地造成、什器購入の問題点になりますが、解体、敷地造成はこの新庁舎の場合は問題なく、町内業者さんに頑張ってもらってですね、計画どおり施工することができました。

それで施工する中で問題というか、ちょっと苦しんだじゃないですけど。問題点はですね、令和3年度から令和6年までの4年間、役場駐車場の管理を行ってまいりました。来庁者様、職員、議員の皆様大変御迷惑をおかけしながらですね、駐車場移動しながら管理を行ってまいりました。特に大きな苦情もなく乗り切れたと感じております。

それで駐車場はそういう感じで乗り切れさせていただいて、什器購入に関してもですね、職員の意見を聞きながら、あと議員の皆様にも議会フロアの什器、机とか椅子とかですね。仕様や色などを本当ちょっとお願いしたら的確に、期日までに決定していただきまして、助かりました。

それであと、それをその結果ですね、たくさんの種類と数の什器を予定どおりに搬入できて、うまくいったんじゃないかなと思っております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○8番（城後光君）

私ですね、この多分ほかの方に説明された資料ですかね、室長が新庁舎の全体を説明された資料を見させていただいて非常に有意義だったんだろうなと思ったのが、建設工事にあたって2週に1度、施工業者さんと定例会を開かれたということが書かれてました。どういった成果というかですね、この意味は大きかったのではないかなと思うのですけどいかがでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 大橋施設整備室長。

○施設整備室長（大橋秀一君）

設計業者様との2週に1度の定例会についてですが、設計段階よりも2週に1度、ずっと工事期間中も定例会議を行ってきました。設計、施工業者様との協議はですね、波佐見町、自分たちの表現したいものを業者様に説明して、納得していただき、それを具体化していただき職員、管理職、議会、議会の新庁舎委員会にて説明を行い決定していくため、難しくてですね。結構厳しい会議となりました。

設計施工業者の皆様が、趣旨をその中でも理解していただいた結果、新庁舎の機能性、利便性やコストカットにつながったと考え、成果は多分にあったと考えております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○8番（城後光君）

非常に、室長細かく管理していただいた結果が、こうやって大きな工程ずれとかですね、あとは費用の増加も抑えられて実りあったのではないかなと思います。

全体的に事業全体を——整備室というかたちになられたのですが、建設室長ずっとやられていて、事業全体振り返っていろんな教訓があったかと思うんですが、どういった部分があられますでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 大橋施設整備室長。

○8番（城後光君）

令和2年から庁舎建設推進室長をやらせていただいてですね、とにかくもう分からないこととか、苦しいことばかりあってですね、なかなかきつかったんですけど。その中でもやはり今、城後議員に質問していただいたような感じで、とにかく職員の皆様、管理職、あと議会の議員の皆様の意見をいただきながら——本当はここ意見をいただいて、してなかったら、これちょっとよくなかったよねというところが結構ありますので、もう本当意見を聞いてよかったなあって感じで。

その時言われた時はですね、ここもまたせんばとって感じで思ったんですけど、でもやはり作って行って出来上がってみて、よかった、ここがあってよかった、というところが結構ありましたので。

最後まとめとして、まとめというかですね今質問に対しては、やはり人の意見を聞きながら、やはりそれを表現して行って、あと皆様に助けていただきながら、あと、もちろん業者様にも本当助けていただきながらやってこれたと思っております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○8番（城後光君）

やはり、今室長言われたとおり一番は恐らく施工業者さんだと思うんですね、設計事業者さんも含めて、ほかの新聞載っている庁舎建設ではですね、そもそも実施設計から建設が上振れしてもう事業をやめたという事例もいろいろ報道されますが。いろいろ大変な中で、例えばコロナ禍、本当にいろいろコミュニケーション自体も大変だった時期も、あとは物価高騰が非常に顕著だった時期も、いろんな知恵を絞っていただいて、予算を抑えていただいた部分が、結果、こうやってできていると思いますので、事業者の方には本当に敬意を表したいと思います。

いろいろですね、振り返りはもう切りないんですが、次の施設活用について移りたいと思います。現状として、町民の方から聞かれる声についてなんですけど。先ほど答弁にもあったんですけど、やはりその執務室の執務テーブルとカウンターの距離がある部分をちょっと気にされる町民の方いらっしゃいますが。いろいろ改善は検討されてると思うんですけど、具体的にどういう部分を考え

られていますでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

これはですね、やはり庁舎が開庁した折から、来庁者の方がやはり迷われる場面がですがありまして、直接私も聞いたことがありますし、職員のOBからも聞いたような話があります。

そこでですね、カウンターと執務室の間の考え方ですが、検討委員会の中では、やはり相談に来られた方のプライバシーを一定数守ると。あとは横断的に御案内するときに職員がツールを使って御案内するとか、いうことを検討したということは、私自身も覚えております。

そこで現在、町長が答弁したとおり、会計年度任用職員とかが気づいて御案内するとか、いうことも検討してますし、以前もお話がありました。今後、総合窓口をしたときに、やはり窓口でしっかりお話を聞いて、それぞれの窓口に御案内するということも検討しています。

この件についてはやはり現庁舎の一つのウイークポイントだと思っておりますので、引き続き検討してまいりたいと考えております。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○8番（城後光君）

あとですね、それこそ検討委員会時代から乗り合いバスを庁舎に入れてもらえないかという意見が出てたというように伺ってますが、結果ですね「かわたな・はさみタウンバス」という形で、それが実現したのですけど。ただ利用者からですね、バス停だと気づかない。

要するに使われてる方はバス停で知っておられるのですが、ここにバスが止まるって初めての方は知らないというケースも聞きます、というのが、今入り口に時刻表は貼ってあるんですけど、多分ここにバスが止まるって知らない人にとってはなかなか分かりにくいんじゃないかなと思うんですけど、そのあたり何か検討は考えられていますでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

おっしゃるとおりですね、波佐見町役場のバス停の場所について非常に分かりづらいというふうなお声も今頂いておりますので、今年度——先日補正予算について、可決していただきましたが、共創モデル実証事業について、各競争、ハブ交通結節点となるような場所についてのですね、整備についても盛り込むようにしておりますので、その中で視認性を高めるための取り組み等を行っていきたいと思っております。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○8番（城後光君）

バスですね、いろいろ検討されていると思いますが、ぜひ少しでも利用者が増えることが、結果

いいことだと思しますので、いろいろ使いやすいような形で、バス停についても検討いただきたいと思います。

それで、これ検討委員会の時期からですね、話があっているのですが。やはり庁舎、全ての町民にとって使いやすい場所であるということが一番だと思いますので。その中で、今1階に交流スペースが設けられてますが、答弁にもあったとおりもっと町民の方が気軽に使っていただく環境というのが必要じゃないかなと思うんですけど。

町民向けに庁舎建設を進める町政報告会が行われたときにも説明があって、こういうスペースをぜひ子供たちが学習するスペースとして活用したいということで御意見あっていますが、今あんまり子供たちがここで勉強している絵は見ないんですけど、できたら先ほどあったような高校生も、この場所で何かもうちょっと勉強しやすいような形というのも考えたほうがいいかなと思うんですけど。交流スペースの使い方についてはどう考えられますか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

現状は城後議員がおっしゃったとおり、どちらかといえばまだまだ改善の余地があるのかなと思います。特に高校生については本来であれば、もっと勉強の場所とか活用してほしいなと思っております。

例えばではございますが、タウンバスに合わせて現在6時45分に玄関を開けて、電気もつけて開放しておりますし、最終便があった後も午後8時までロビーのほうを開けるようにしておりますので。そういった周知を今後しながらですね、やはり来ていただきたいと思っております。

加えて町民の皆様への周知もどちらかといえば、まだまだというふうに思っております。その辺職員の意見を聞きながらですね、改善できるところは改善してまいりたいと考えております。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○8番（城後光君）

長崎県庁が新庁舎になられたときに、勉強できますよという札をつけられて、新聞とかテレビとか呼ばれたと思います。何かそういう取り組み、メディアに対する発信とかもぜひしていただいて。

それこそ現状、使われている高校生自体はそんなに多くないと思うんですけど、今ですね、宿郷全体でいろんな高校生がスクールバスとかで降りられるケースはあるんですよ。そこに保護者の方が迎えにこられるケースも多分にあると思うんですよ。役場だけじゃなくて周辺で。その方がちょっと勉強、試験のときだけでも寄るようなきっかけづくりというのは大事だと思いますので、ぜひメディアも使って、こういうのを使えますよという呼びかけはしていただきたいなと思います。

次にテラスですね。2階に展望テラスがありますが、答弁にもあったとおり、ほとんどここが使われているのを私あんまり見たことがなくて、職員さんがお弁当食べてるのも何回か見たぐらいな

んですけど。

当然ここはですね基本防災上の一時避難スペースだとは思いますが、ふだんもせっかく見晴らしがいいので、もっと活用していただきたいなと思うんですけど。例えばですね、何か今までも婚活イベントとか、いろいろイベントとかあったと思うんですけど、そういう場所として、ここを一回使ってみるという考えはないんでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長

○総務課長（福田博治君）

恥ずかしながら私も休憩する程度で、本当に何か潜在的な活用ができればなと思います。御提案いただいたような民間の方がそこを使うということも一考だと思います。

町長答弁でもありましたとおり、どうしてもやはり庁舎の中ということでございますので、そのやり方についてはちょっと考えをしなければいけません、御提案を真摯に受けて幅広く活用できるように考えていきたいと考えております。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○8番（城後光君）

私ですね今回展望テラスを今回取り上げるに当たって、改めて過去の検討委員会とかいろいろな資料を見てたんですけど、1階の交流スペースをぜひ鹿山神社とか、周辺を環境も含めて活用してほしいという意見があったんですね。この展望テラスからちょうど鹿山神社側、今回庁舎整備に当たって、きれいに樹木伐採していただいて垣根もきれいにしていただいた部分が見渡せますので。

ぜひ考えていただきたいと思うのが。ちょうど今里廣記先生の本も出ましたし、ここに、学芸員の中野さん、盛山さんの意見も入ってますし、やはり今里先生が波佐見町で生まれたからこそ、財界で名前を出したって本の中にも書いてありましたが。

多分今、今里廣記先生知らない方もたくさんいらっしゃると思うんですけど、せっかく町の役場から見える場所に銅像があるので改めて知ってもらう機会、あとは何かしら町側としても非常に有名な方が、この場所から育っていったというのを何かワンプレート置いておくとか、そういうのもぜひ考えていただきたいなと思います。

あと次なんですけど議場ですね。この場所なんですけど、せっかくフラットにされてるんですが、災害時使うのはもちろんそうだと思うんですけど、やはりたまには今までも中学生の議会とか、いろいろな機会はあったと思うんですけど、もう少し活用してもいいんじゃないかなと思うんですけど、そのあたりいかがお考えでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

皆さん御存じとおり、この議場にある机は可動式でございます。風格がある机椅子でございます

ので、例えばではございますが、外国の方が来られたときにここで会議をするとか、いうことも検討できるのかなと思います。いわゆる貴賓室的な使い方もできるのかなと思います。

そのほか、なかなかこう思い浮かぶことはちょっと少ないんですが、職員からアイデアを募ってもいいのかなと思います。せっかくこれだけの大きな部屋でしっかりした造りでございますので、何かしら活用ができるものと思いますので、議場だけということではありませんということも申し添えたいと思います。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○8番（城後光君）

ぜひテラスもそうですし、1階の交流スペースもそうですし、議場もそうですけど。庁舎内にはまだまだもっと活用されたらいいのにとするのはたくさんあると思うんですよ。例えば小学校とか中学校とかに、どうやって活用したいらいいですかとか、波佐見高校も含めて、意見の場を求めてもいいんじゃないかなと思います。

せっかく町の中心の施設ですので、小学生も中学生も自分たち事として町の一員として考えていただいて、その場が使えれば、以前も中学生議会を通して実現したアイデアで、非常によかったという中学生もいたと思いますので、そういう機会をぜひ作っていただく機会にさせていただければと思います。

では次の施設整備に行くんですけど、今答弁にもあったんですけど、こちらですね県の事業として仮の土砂を置く場所として使われてますが、現実問題もう周り住宅地ですよ。造成もどんどん増えてますので。

当然今は県の事業の活用として、仮の土砂置場として使われてるところなんですが、今後はですねぜひ民間の払下げなのか、とにかく有効に周辺の住宅地と絡むように有効活用していただきたいと思っているのですけどいかがでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

先ほど町長答弁でもありましたように、県営事業として令和10年3月までは予定をされております。県も年次的に事業を行われているので、この時期より早く終わるのか、遅くなるのかちょっと分かりませんが、めどがつき次第、活用を検討する際には、民間への移譲も含め検討していきたいと考えております。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○8番（城後光君）

ここに、こども家庭センターと波佐見町役場の案内版がついてます。それから入っていく道なのですが——鹿山飛瀬線ですね。これ鹿山住宅のちょっと先なんですけど、周りにいろいろ宅地開

発とかいろいろあって、水道で掘った後がもうむじゅうにあってですね。やはりその、せっかく庁舎に行く道がぼこぼこなのは、なるべく早めに改善してほしいと地域の住民の方からも要望があるんですけど、そのあたりいかがお考えでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 本山建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

この道につきましては、県道と庁舎をつなぐ道でもございますので、将来的には必要な計画かと思えます。ただ一方で、現状といたしましては、先ほどありました土砂の土捨場の関係の工事とか、あるいは周辺では宅地開発もちょっと見込まれておりまして、ですから大型車両がまだまだ通る可能性もございます。

ですので、そういったものも踏まえて、今後検討していく必要があるかなと思いますし、またこういった要望についてはですね、各地区からもたくさん寄せられておりますので、そういったところのバランスをとりながら、今後検討してまいりたいと思っております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○8番（城後光君）

加えてなんですけど、今鹿山飛瀬線の多分郵便局側のほうですね、歩道拡張の事業を進められると思うんですけど。そこにあたってなんですけど、インター側から県道に入ってきて役場に来る道なのですが、看板が分かりにくいという御指摘があります。要するに郵便局側から郵便局を背にして右に曲がるほうですね。

というのが、結構その場、特に来られる方というのは結構何もなくて、いきなり郵便局があって曲がるというのが見えない。役場が分からないので現状の看板だけじゃちょっと、ここに役場があるんだって気づかなかったという御意見もありますけど。その辺のサイン、看板とか、庁舎の入り口についてはどうお考えでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

郵便局さんの交差点には看板1か所ありますが、今おっしゃったように舞相から来る分とかいうのについては、確かに見づらいかなと思います。例えばでございますが、中学校の入り口には公共の看板がございますので、そこをちょっと工夫して、この先何百メートル役場とかという表示も可能だと思いますので、現地を確認した上で、そこは検討させていただきたいと思えます。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○8番（城後光君）

もろもろですね、振り返ったんですけど、何で振り返ろうかと思ったのかは、町長がたまには職員さんを褒めてくださいよって盛んに言われるので、非常にですね今回新庁舎事業というのは成功

例だと思うんですね、町の事業として。

なので、この例を十分携われなかった、今後の職員さんにも生かす意味で、教材にさせていただいて、ほかの今後——先ほど申し上げたとおり、公共施設更新期を迎えてきますので、そういうものが少しでも有意義になっていくように、ぜひいい材料にさせていただきたいと思いますけど。最後、町長いかがでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

ありがたい意見ありがとうございます。

一つ振り返ってみたいんですが、今回の本庁舎の建設に当たって非常に、一言言えばラッキーだったというふうに思います、というのは、この場所を先人たちが選んでくれたということと、背後地があって建て替え用地も確保できたということ。ということは仮庁舎も造らなくてそのまま移転ができたということ。しかもこの地が洪水に見舞われるような土地ではないということと——他のほとんどの庁舎では基礎が大切なんですよね。何本も杭打って何千万億近く基礎工事に掛けます。本町の場合はもう2メートル掘ったらもう強固な岩盤線が出てきて、そういった基礎工事費も浮いたということ。

それと物価高の直前だったので、ある程度の経費が賄えたということ。加えて庁舎に対する補助金とは一切ございませんが、この期間に関しては、先ほど申しました交付税措置がございます。起債の適用がほとんどぎりぎりの対応できたというそういった財源面についても、非常にラッキーであったなど。それと何より職員が一生懸命頑張ってくれて、この工期内に近い完成をさせてくれたというこの頑張りに尽きるかと思います。

この働きを今後のいろいろな施設管理あるいは建設に向けての参考にさせていただきたいと思いますので、今後皆様方の、議員の皆様方の御支援、御協力もさらにお願ひしたいというふうに思っております。以上です。

○議長（尾上和孝君）

以上で、8番城後光議員の質問を終わります。

しばらく休憩します。15時50分から再開します。

午後3時40分 休憩

午後3時50分 再開

○議長（尾上和孝君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、4番 横山聖代議員。

○4番（横山聖代君）

皆さんこんにちは。本日最後になります。もう少しお付き合いをお願いいたします。では、通告に従いまして質問します。

1. G I G Aスクール構想の検証について。

G I G Aスクール構想は、全国の児童生徒に1人1台の端末を提供し、教育現場でのI C T活用を目的とした、政府が進めるプロジェクトです。本町も導入から5年が経過し、ファーストG I G AからセカンドG I G Aへ移行されることから、今までの成果や課題を検証する必要があると思います。

そこで、次のことを伺います。

(1) G I G Aスクール構想は、本町の教育現場にどのような影響を与えたか。また、どのような評価をしているか。

(2) 児童生徒に対し、I C Tを活用した授業や学習活動が従来の学習方法とどう異なり、どのような成果が確認できたか。

(3) ファーストG I G Aでの成果や課題をどう捉え、セカンドG I G Aに移行していくのか。

2. 絆の日について。

ゴールデンウィーク期間中の平日を体験的学習活動休業日とする「絆の日」が始まって3年が経過しました。本年度は、学校を開放した子供たちの受入れ体制がとられましたが、以前に一般質問でも議論した評価するためのアンケートははまだ実施されておりません。

そこで次のことを伺います。

(1) アンケートを実施しなかった理由は何か。

(2) 3年が経過した節目でもあり、アンケートは実施すべきではないか。

3. 食の魅力向上と名物料理の開発による地域活性化について。

平成29年度に来庁者数100万人を突破し、コロナ禍では一時的に落ち込んだものの、その後の交流人口は毎年増加しています。

観光の楽しみの一つに食があります。町内の飲食店数は増加しておりますが、これといった名物料理は見当たりません。来庁される観光客の満足度をさらに向上させ、地域活性化を促進するためにも、本町の名物料理を開発し、ブランディングする必要性を感じています。

そこで、次のことを問います。

(1) 町の名物となる食べ物を開発する計画や、これまでに取り組んだことがあるか。

(2) 名物料理をブランド化する際の課題は何か。またその解決にはどういったことが必要となるか。

以上、壇上より質問を終わります。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

4番 横山聖代議員の御質問にお答えをいたします。まず、質問と答弁の順番が前後しますが御了承をお願いします。

3. 食の魅力向上と名物開発による地域活性化についてということで、本町名物料理を開発してブランディングする必要性を感じるということで、（1）波佐見町の名物料理を開発する計画やこれまでに取り組みはあるのか、との御質問ですが。本町では、観光客の誘客を図るとともに、町内での滞在時間や観光消費額を増やすように、焼き物の絵付け体験や農業体験など、数多くの体験メニューの造成などを行ってまいりました。この取り組みをはじめ、町内での飲食店の開業など様々な要因が観光客の増加に寄与しているものと思います。

一方で議員御提案のとおり、波佐見町の名物となり得る料理の開発は、本町の観光においても課題の一つであると認識しております。これまでの取り組みとしましては、平成23年～平成27年観光協会と協力しまして、絶品グルメグランプリを開催し、参加する町内の飲食店に新メニューの開発を依頼するとともに、あわせて期間限定の町内飲食店によるフェアを開催いたしました。

また波佐見町でしか味わえない郷土料理や、町に住む人たちを多くの人たちに知ってもらうため、地元食という地域資源を活用した取り組みを行い、古くから伝わる波佐見寿司や冷や汁といった郷土料理のレシピのほか、波佐見をイメージしたイノシメンチカツやお米のチュロスといった新開発のレシピを掲載したレシピ本を製作してきました。

さらに、本町の主要農産物のお米を活用し、米粉を使ったお土産品として陶箱クッキーを開発しました。

このように、これまでイベントと新商品開発を組合せた取り組みや、地域の郷土料理を改めて再発見する取り組み、本町の主要農産物を活用した取り組みを行ってまいりましたが、現在本町の名物料理として認知されるような料理の開発には至っていないのが現状かと思えます。

（2）名物料理や飲食店のメニューをブランド化する際の課題と解決策はどのお尋ねですが、名物料理、飲食店メニューのブランド化を進めるにあたり、大きな課題として料理に使用できる地元食材がどの程度あるのか。食材が活用できるとしても、求めに応じて一定量を安定的に供給することが可能なのか。料理が開発されたとして、現代の食の価値観に合致するのか、という課題などが挙げられるのかと思えます。

今後は関係機関と連携しながら、農家、町内の飲食店等の御意見を伺いながら、課題の解決に向けた取り組みを検討してまいりたいと思えます。

なお、1番目のGIGAスクール、2番目の絆の日については教育委員会から答弁がございます。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

1. G I G Aスクール構想の研修について。

（1）G I G Aスクール構想は本町の教育現場にどのような影響を与えたか。またどのような評価をしているか、とのお尋ねでございますが。本町では国のG I G Aスクール構想を受け、令和2年度から児童生徒1人につき1台のタブレット端末、ファーストG I G A端末を配布し、運用を開始しています。同時に全ての教職員がI C Tを活用した授業が行えるよう、各教室にW i - F i環境を整備しています。さらに情報端末モバイルルーターを200台購入し、家庭にW i - F i環境がない場合には、ルーターの貸与支援を行っており、あわせて補助金制度を活用して、インターネット初期費用として一部援助を行っています。これらの取り組みは本町の教育現場に多大な変化をもたらしました。

現状としましては、デジタル教科書の活用が以前より格段に進み、データや写真、動画などを活用した分かりやすい授業が展開されています。またデジタル教材を導入したことで、児童生徒は個別な振り返り学習や予習復習に主体的に取り組めるようになりました。これにより、児童生徒がそれぞれの習熟度に応じた教材で学習を進めることができ、個別、最適な学びが広がりつつあります。

タブレット端末は新たなコミュニケーションツールとしても機能し、学びを深める学習が日常的なスタンダードになってきており、これらはI C T能力の育成につながるものと高く評価しております。

また、G I G Aスクール構想は、教職員の負担軽減という観点からも大きな効果を発揮しています。具体的には職員会議のペーパーレス化、出欠確認のデジタル化、欠席や遅刻の連絡のデジタル化、そして授業でのタブレットの活用といった取り組みが進められ、教育D X推進が図られ、業務効率の向上と一定の負担軽減につながっているものと考えております。今後もG I G Aスクール構想によって整備されたI C T環境を最大限に活用し、児童生徒一人一人が自ら学びを深め、未来を切り開く力を育むよう、教育の質の向上に努めてまいります。

（2）児童生徒に対しI C Tを活用した授業や、学習活動が従来の学習方法とどう異なり、どのような成果が確認できたか、とのお尋ねでございますが。従来の学習方法は紙の教科書、ノート、黒板が中心であり、教職員は子供たち全員に同じ内容を教え、同じペースで進めることが多く、個々の児童生徒の理解度や進度に応じたきめ細やかな指導には時間的・物理的に限界がありました。

しかし、タブレット端末を取り入れたことでこの状況は大きく変わり、特にA Iドリルなどデジタル教材を利用することで、児童生徒が自分のペースで学習を進める個別最適な学びが実現されています。苦手な部分を重点的に復習したり、得意な分野をさらに深掘りしたりすることが可能となり、全員が足並みをそろえるのではなく、個々に応じた学習が当たり前となっています。

また探求表現、共同学習も大きく促進されており、インターネットを通じて多様な情報を集め、

動画や画像を使って発表したり、タブレット上で意見を共有したりすることで、児童生徒は自ら考え、表現し、協力して学ぶ機会が増えました。

さらに学校だけではなく、家庭でもデジタル教材を使って学習できるようになったことで、学校と家庭での学習連動がスムーズになった点も大きな変化と言えます。

次に確認できた成果といたしましては、まずタブレット端末やデジタル教材を使うことで、児童生徒が学習に楽しく取り組むようになり、学習意欲が大きく高まりました。一人一人の習熟度に応じた学習が可能になったことで、結果として学力の定着向上につながっていると思われま

す。加えて、探究学習や共同学習を日常的に行う中で、児童生徒は自ら課題を見つけ解決する力が育まれています。これは、これからの社会で求められる思考力や判断力、表現力といった資質能力の育成に不可欠な要素となります。ICTの活用により、本町の児童生徒はより個別化され、主体的にそして共同して学ぶことが可能になりました。そしてそれが学習意欲や学力、将来必要なスキルの向上という具体的な成果につながっていると判断をしております。

今後もICTのさらなる活用を進め、児童生徒が主体的に学び続ける力を育み、変化の激しい時代を生き抜く力を培えるよう、教育環境の充実に努めてまいります。

(3) ファーストGIGAでの成果や課題をどう捉え、セカンドGIGAに移行していくのか、とのお尋ねでございますが。まず成果につきましてはこれまでの議会答弁でも詳しく御説明させていただきましたとおり、全児童生徒への1人1台端末の整備、通信環境の改善、インターネット環境のない御家庭のモバイルルーターの貸与による家庭学習の支援、AIドリルを活用した個別最適な学びの推進、そして校務DXにより教職員の働き方改革など、多岐にわたる進展がありました。これらの取り組みが本町の教育現場に大きな変化をもたらしたと認識をしております。

一方で、幾つかの課題を認識しております。最も大きな課題の一つは、教職員のICT活用指導力における個人差です。ICT機器の活用・習熟度には教職員間で差があり、これが児童生徒の学習成果や興味関心に影響を与える可能性があります。このため、情報モラル教育を含めた教職員研修のさらなる充実が不可欠であると認識をしております。

また、タブレットの活用が進む中で、過度な利用によるタブレット依存への対策も今後の重要な課題として認識しており、児童生徒の健全な成長を阻害しないよう、適切な利用方法の指導を継続して行います。

これらの成果と課題を踏まえ、セカンドGIGAでは単なる端末の更新にとどまらず、ファーストGIGAで培ったノウハウを基盤として、より高度なICT活用を推進します。例えばクラウドを活用した共同学習の進化、そしてデータに基づいた個別最適な学習支援の強化などが挙げられます。

また教職員研修をさらに充実させ、ICTを効果的に活用した授業デザイン力の向上を図るとと

もに、保護者との連携を密にし、家庭でのICT活用についても支援を継続していく方針です。

今後もGIGAスクール構想によって整備されたICT環境を最大限に活用し、児童生徒一人一人が自ら学びを深め、未来を切り開く力を育めるよう、教育の質のさらなる向上に努めてまいります。

2. 絆の日について。

(1) アンケートを実施しなかった理由は何か、とのお尋ねでございますが、本年3月議会でも、アンケートの実施についてお尋ねがあったところですが、私どもは絆の日を単なる休日ではなく、子供たちの主体的な学びと、地域との交流を深める波佐見町ならではの取り組みとして、より充実させることを目指してまいりました。

これまで保護者や地域の皆様から頂いております不安や課題を解消する手だてとして、今年度は学校を開放し、自学や絆の日体験講座を行う計画を優先いたしました。これは、子供たちが安心して過ごせる居場所を確保しつつ、体験的な学びの機会を提供するという具体的な対応を重視したためです。

自立した子供の育成やふるさとキャリア教育の推進を目指す本町の取組として、絆の日をより実り多いものにするためには、アンケートという形だけではなく、様々な関係者の皆様から直接御意見や御要望を伺いながら、きめ細やかに改善を図っていくことが重要であると考えております。アンケート形式に限定せず、より多角的な視点からの意見収集を重視した結果、アンケートの実施には至っておりません。

また今年度2月に保護者の皆様に対し、絆の日の趣旨や学校での受入れ体制について詳細な文章を発出し御理解と御協力をお願いをした観点からも、まずは周知と具体的な受入れ体制の整備に注力をいたしました。

繰り返しになりますが、絆の日は本町最大のイベントである波佐見陶器まつりにふるさとキャリア教育の一環として子供たちが主体的に関わる機会を創出し、さらにゴールデンウィークの連続した休みを通じて地域や家族、友達との一層の絆を深める絶好の機会にしてほしいとの願いから始めた取り組みです。

今後も、絆の日を想定した子供の主体的な動きや大人や地域との関わりがより一層展開されることを期待しています。そのためにも、学校、家庭、そして地域が連携をし、子供たちが有意義な時間を過ごせるよう、町として必要な協力や情報発信に積極的に行ってまいります。

(2) 3年が経過した節目でもあり、アンケートは実施すべきではないかとお尋ねでございますが、先ほど答弁いたしましたとおり、保護者の皆様を対象としたアンケートは実施しておりませんが、絆の日の実施に関わった学校教諭や、支援員を対象としたアンケートを実施したところです。このアンケートは、現場で子供たちと直接向き合い活動を支えてくださった方々の貴重な御意見を

集約し、今後の絆の日をより充実させるための研修を材料とすることを目的に実施したものです。

アンケートの結果は幾つかの改善すべき点も浮き彫りになりましたが、今回学校図書館での活動をベースに取り組んだ弁当づくり、ウェイブホール裏側探検、陶器まつり見学、絵画教室、野球教室といった体験講座については、大変高い評価を得ることができました。これは子供たちがふだんできない貴重な体験を通じて、学びを深め、地域とのつながりを感じられた証であると認識しております。

絆の日は、実施から3年目を迎え、その趣旨をより深く根づかせ、成果を上げていく重要な時期であると認識しております。しかしながら先ほど申し上げましたように、直接携わった学校教員は支援員からの意見を詳細に集約し、それをもとに検証を行うことが現段階での絆の日の質的向上には最も有効な手段であると考えております。

そのため、今は保護者アンケートの実施は考えておりません。教職員や支援員の皆様から具体的なフィードバックを丁寧に分析し、次回の絆の日の企画運営に反映させることでより実りの多い取り組みへとつなげていきたいと強く願っております。

なお保護者の皆様からの御意見につきましても、学校ごとの懇談会や地域での意見交換会など、直接お声をお聞かせいただける場を通じて引き続き丁寧に把握をまいります。

アンケート形式に限定せず、多角的な視点から御意見を伺うことでより実情に即した改善を図ることが可能であると考えております。以上、壇上からの答弁を終わります。

○議長（尾上和孝君） 横山議員。

○4番（横山聖代君）

たくさんのお答弁ありがとうございます。お疲れさまでした。

まずGIGAスクールのほうから再質問に行きたいと思うんですが。まず児童生徒の学習意欲のことを再質問で聞こうと思ったんですが、その学習意欲のほうは高まったというような先ほど答弁いただきました。

それで学力の定着につながったというような答弁をされたのですが、私そこは学力の定着につながったかどうかは、どうかなとちょっと答弁を聞いて思いました。それが私も今中2の子供がいますが、昨年中1のときに夏休みの宿題、タブレットのAIドリルがたくさん出てたんですね。で、あのAIドリルの宿題って要領のいい子だったらですね——間違ったら答えがぱんって出るんですよ。それを覚えとったらまた次、問題解く時にその答えを覚えておけば3とか4とか打っていけば終わるから、全くもって夏休みの宿題で基礎的な学習が身につけてなかったな、というのが本当思ってますね。これはとある学習塾の先生方にもですね何名か聞いたんですけど、それは確かに言われておりました。ですので、ちょっと学習学力の定着につながったというのは私は違うかなと思ってます。ちょっとごめんなさい、これ感想を言ったんですけどね。

次にですよ、そうですね先生方のことをちょっと聞きたいんですが。教師側の負担は軽減したって言われてるんですけど、授業に対するいろんな準備の時間とかあるんですが、こうやってこういったICT端末が普及したことによって、どのくらいの負担軽減——準備時間とか導入前後でどのような変化があったのかをまずお聞かせください。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

まず、最初に学力の向上につながったかどうかというところの部分。学力というのを狭めて見ていけば、恐らくおっしゃってるような読解だとか書く力とか、そういうふうな一面の学力でいえば、なかなか定着については厳しい部分もあるだろうし、課題もあるだろうし、有効性もあるんだろうと思います。何よりも学びに向かう意欲というか、態度とか思いとかいう部分については、興味を持って意欲的に楽しく活動しているという観点から考えれば、学力は向上していく傾向にあるだろうし、期待を持っていることでまず答弁させていただきます。

次の教師側の負担につきましては、これはもう、難しいです。アナログ教材、今までの授業に使った準備も当然かかっておりましたし、デジタルの部分で、新たな取り組みになりますので、先生方の負担は大きいんだろうとは思いますが、準備する材料とかですね、時間等々はかなり電子教材であったり、例えば教科書であったり、電子黒板であったりとかそういうデジタル機器を効果的に有効に活用すれば、その準備等々にかかる時間は、アナログ的な、今まで手作りをつくってやっていたものからすれば、随分時間等々は短縮されることが予想されます。

○議長（尾上和孝君） 横山議員。

○4番（横山聖代君）

次に行きます。この配付されているタブレットなのですが、もちろんアクセス制限はかかっておりますよね。かかっておりますが、全国的に問題になってました。結構ニュースとかで見てたのですが、その子供たちが裏技を使ってですね、アクセスの制限を解除して、サイバー犯罪やネット利用等そういうところでその辺のトラブルに巻き込まれたというようなニュースをよく目にしてたんですが。本町でもこういった何かしらのですねとらトラブルに巻き込まれたというような事案はあったのでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

4校に確認をしました。ゼロではないんだろうと思っています。内容的にはですね。ただ比較的発見が早くてとかいうこともあるでしょうし、そこまでは重大した事案は起こってないというのがほぼほぼでしたけれど、ゼロではない。

やはりICT支援員が事前に確認をしたり、担任が気づいたり、あるいは友達が気づいたりとい

うことで、早期に発見することができて早期に対応するという事案は幾つかありました。

○議長（尾上和孝君） 横山議員。

○4番（横山聖代君）

大きな事案ではなかったと。そういう言ったのは少し安心したんですが。結構ですねニュースで見てたのがね、このアクセス制限の解除の方法をYouTubeで何か結構教えてるみたい。あ、ここで言ったら子供たちが見たら——見らんばいね議会。まあいいけど、なんかそうやってYouTubeで教えてるらしいんですよね。だから本当何か対策、いちごっこになると思うんですが、こちらの対策はしっかりしてほしいなと思います。

あとなんですが、次子供たちの学力の意欲が高まったってのことで、私が勘違いしてね学力の定着というのが、その学力の考え方の違いで。学力というのは学ぼうというその力の学力は上がったよということですね。

ばってん、簡単にね学力を測るためには採点というやり方があるけど、そちらのほうにはいってないと思うんですが。こういったデジタル化によって、授業は効率化したのかなとは思いますが。学びの質の向上についてなんですが、データの、数値的にですよ、何かしらデータは取っているのかをちょっとお伺いします。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

これまでの繰り返しの答弁になりますが、本町の場合はICT活用につきましてはICT活用推進委員会というのを毎月開催しております。同時に学力向上推進委員会も立ち上げておりますので、今のようなICTによる効果的なものはどうだったかというものの話合いはしておりますけれど、具体的な数値化したものはまだデータとしては出しておりません。

○議長（尾上和孝君） 横山議員。

○4番（横山聖代君）

話合いはしてるけどデータはそうね、忙しいのかなとは思いますが。やはり何かしらですよ。こうやって、国の事業ではあるけれども、この本町の子供たちの学力のことや、そのICTを使ってどのような学びが深まっているのかとか、やっぱそういうのはちょっと可視化していったほうがいいのかと思うので、ちょっとここを少し考えて数値的にね具体的にデータが取れるものがあたらとってほしいなと思います。

次に行きますが、答弁で先生の方でもねICT活用の得手不得手な先生がいるからということをおっしゃってましたが、そうやってですよ、先生たちに対するICTスキルの向上のプログラムみたいなものはあるんでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

先生方のやはりスキルの違いというのも大きいと思っています。これは最大の課題であろうと思っておりますので、各学校では得意な先生が指導者となったり、ICT支援員の方を指導者に迎えたりしながらの部分の校内研修の充実徹底と、さらには例えば外部で開かれるような研修会等にも積極的参加をしていただくということもあるだろうし。

実は4月には、今回ベネッセさんのほうに仕組みを変えていった部分のところで、もうベネッセさんに来ていただいて、本庁全職員、教職員を対象にした研修会というのも4月には行っております。そういう様々な先生方のスキルアップにつながるようなものを学校単位で、町単位で実施しているのが現状であります。

○議長（尾上和孝君） 横山議員。

○4番（横山聖代君）

次が、個別最適な学びについてちょっと質問しようと思ったんですけど。答弁のほうでやっぱICTを使うことによってこちら、学習の個別的に子供たちができる——子供たちの個人差があるからそれによってできているというのは分かったので、次に行きますが。

ちょっと私もいろいろ新聞とか、いろんな雑誌とかを見させてもらって世界に目を向けてみたらですね、かつて1人1台端末デジタル教科書を先行導入していたスウェーデンとかフィンランドですね。そちらが学力や集中力の低下を懸念して、紙の教科書とか手書き中心の脱デジタルへかじを切りつつあるというような、結構新聞記事が多かったです。またですね、2022年の国際学習到達度調査で1位となったシンガポールも、小学生にはデジタル端末を配らないという方針が示されておりました。

一方なんですけど、日本ではGIGAスクール構想の元ICT活用が推進されておりますが、文科省の実証事業の報告書とか私も読ませてもらいました。あといろんな各種IT総合情報誌みたいなのもちょっと読ませてもらったんですけど、それを見る限り、学力向上の効果について——このことはなかなか明言されされておりましたが、このICTの利点というのは書いてあつてですね、課題解決型の学習。多分教育長もさっき答弁で言われてたんですよ。それとか意見交換とか協同的な学びといった点に限られてはですね。そこら辺はそういう学習については、やはりICTを活用したほうが、授業が効率的にいくし、子供たちの表現がしやすくなるというようなことは書いてありました。

そこでなんですけど、本町では長らく子供たちの読解力、書く力の不足が指摘されております。そうした基礎学力の向上という目的がですよ、このICTという手段の推進の陰に埋もれてしまわないかなあつて私はちょっと危惧しているところでもあるんです。今後ますます進むICT活用の中で、読解力とか書く力の向上。どのように本町は図っていくのか。もし具体的な方策とか方針があ

りましたら、お答えください。お伺いします。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

議員お説のことは、本当に最大の課題であると思っています。国の施策として出た教育DXについては、どんどん推進しなさいということが大命題ですので、やっていかななくてはいけないと思っていますが、おっしゃったような不安な部分、これはもう学校現場は切に感じております。集中力であったり、読解であったり、書く力であったり。それは当然だと思ってるんですね。

ですから私たちも学校現場のそういう様々な意見交換あるいは実態の中で——どっちかにシフトを切るのではなくて、デジタル一本とかアナログ一本だけではなくて、やはり教科の内容であったり活動の状況であったり、より有効で、狙い、達成できるものはどちらだろうという部分もあるだろうと思いますから。上手にバランスよく使っていくというのが、多分最もいいのだろうと思っています。

ただ、AIドリル等々も基礎学力は確かに漢字などをやはり書いたほうが覚えるのだろうと思うのですが、AIドリルには自分の、その子の能力に応じた課題等々を提示するところがありますので。ただ単なる書くだけではなくて、どこが覚えてないという、その子にあった課題の提示ができますから、基礎学力の定着にもこのAIドリルは今後有効に活用できるだろうという期待を持っているところであります。

具体的には多分もう学校では、ちょっとした隙間時間、朝のスキルタイムであったり、課題だったり、宿題だったり。そういうところに書く活動をあえて入れて、課題として出すこともあるでしょうし、ということで上手にバランスよく適切に書く力。アナログ的なものとデジタルの部分を有効に効果的にバランスよく指導をしているのが各学校の現状であり、悩みでもあるんだろうと思っています。

○議長（尾上和孝君） 横山議員。

○4番（横山聖代君）

少し安心しました。やはり国がデジタル教科書をですね——もう、なんでしたっけ、教科書かなんか言葉忘れたけど、もうするよとなっていて。こうやって世界はどんどん脱デジタルになっているのって思っていて。だからやはり基礎学力というのはやはりあれですもんね。書いて、読んで、そこが一番かなと思うので。このデジタルとアナログのハイブリッドで本町は本当いってください。よろしくお願いします。

では次、絆の日なんです。今年の6月議会でも、この絆の日について一本です、教育長と議論を重ねましたが、今回そうやって学校が開放してもらってですね、陶器まつりの見学だったりお弁当づくりだったりされまして、絵画教室とか野球教室、こういったプログラムをしてもらって本

当ありがたく思っております。そこはありがとうございます。

私も行ってきたんですね。陶器まつりも行ったし、お弁当づくりにも——教育長、会ったですもんね、東小学校に行ったときにね。——で、すごく楽しそうにしとらしたですもんね。それを見て私もすごいなんか楽しくなりました。

で、ちょっと本当は詳細に聞こうと思ったけど時間もないから、単刀直入に言いますね。私思っただですよ。こうやって今回されて絆の日で、平日の3日間学校を開放して来た子は何十人かぐらいやったかもしれないけれども、南小学校で絵画教室とか野球教室をされましたよね。その絵画教室に参加した東小学校の保護者さんに話を聞いたんですが、「自分はたまたま休みやったけんが連れて行けた」と。「でもね、ほかの子も絵画教室に行きたいっていう子がいたんだよね」って。でもその子は行けてないって。お母さんたちの仕事が休みじゃなかったから連れて行けなかったからと。

その行った子供がですね、波佐見高校の美工科の姉さん、お兄さんから絵の書き方とか、色のね濃淡のつけ方とか教えてもらって、家に帰ってからもうすごい得意げにその話をされていたそうです。すごい、もうその話を聞いて、きっと行った子はすごい思い出にもなるし、絵が多分どんどん好きになるかなと思います。

でも、行けてない子はお母さん、お父さんの仕事が休みじゃないから行けてないんですね。何かそこ不公平だなんて思ってますね。そしたらもうこうやっていいプログラムをしましよけん、もうみんな学校に行って、みんなが好きなプログラムをしましよけん、のほうがよくないですか。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

そうになってしまうと本来の絆の日の——もともと絆の日というのは、家族の中で話し合いをして、この子にどんな力をつけたいのかという家族ぐるみの会議といいますかね。そこがまず、だから自立した子供たちの育成ってのがまず根本にあって。その体現する場に地域とのつながりという部分があればいいなということで、自主的な動きの分とつながり、絆というところも合体した形の取り組みになりますので、今おっしゃったようなことをすると、あえて体験的な活動休業日として絆を取り組んだ趣旨、意図、願いが変わってくると思いますから、そのように一斉に登校した形でさせるという形は今のところは考えておりません。

ただおっしゃったように今回私たちも実際、絵画教室には51名の子供が参加をして、東小学校が3名、中央小学校が13名しか参加できなかったという、多分今おっしゃったような理由があったんだろうと思っています。私たちも初めての取り組みで、初めて先ほどの波佐見高校の美工科の近辺等を利用して、総合的にやれた活動でしたので大変意義があったとは思っていますが。じゃあ、来年——様々今頂いたような意見を踏まえて、どういう形にすれば東小や中央小の子の不利益がないんだろうということも考えていく。

もう一つ根本的には、南小の子供たちにもっと陶器まつりに参画をさせたいという思いはとても強く思っています。今まではどちらかと東、中央の子がそういう有益なところがあったのだけれど、南小の子たちに何かしらの参画、益収も覚えさせたいなというのも大きな狙いの中にはあります。

○議長（尾上和孝君） 横山議員。

○4番（横山聖代君）

何か去年の6月議会の議論に戻りそうでちょっと怖いんで、もうそこはやめるんですが、確かに分かるんですよ、絆の日の……。去年に戻ってしまうんで時間の足りんごとなるから。

さっき教育長も言われた、そうやってまた改善するところがあるよねって言われたじゃないですか。そして、今年は先生や支援の先生からは意見を聞いて、このように今年度の取り組みにつながっていったよって言われてたじゃないですか。多角的に意見を聞きたいからということで、アンケートではなくいろんな意見を聞きたいと言われましたよね。

それで保護者からは学級懇談会とか、その学校での集まりのときって言われますけど、なかなか、私も今現役の保護者をしていますけど、なかなかみんなの前で発言しづらい保護者さんってたくさんいるんですよ。だから学校評価のアンケートなど結構意見を書くところがあるじゃないですか。名前を書かないでいいから、自分が思ってることを言えるような保護者さんがいらっしゃるから。やっぱそのことを考えるとアンケート、匿名のアンケートってそこは必要のかなと思うんですよ。言いたいことを言いたい、言いたいけど言えない保護者さんだっただけであると思うし。

あと関係者そういった絆の日の関係者にもいろいろ聞いてほしいんですけど。学童だったり、あと中学校は陶器まつりに参画してるから陶器まつり実行委員会だったり、観光協会だったり。その辺からの意見も聞くべきかなと思います。

なぜこうやってねアンケート、アンケート言ってるかという、別にいいのですよ意見をね、みんなが言うてくれずすぎんよかばってん、なかなか言えない人もいるよねっていうことでアンケートなんです。やはりこの3年の節目でもあるから、ちゃんと検証が必要よねって思っとるとです。

計画・実行・研修・検証・改善ってPDC Aサイクルがありますよね。それで言うところの、もう検証の段階だろうし。あと現場の状況判断を重視していくOODA^{ウーダー}ループのほうで考えても、やはり今は考えても、その状況判断とか分析が何か不十分だったら、何か思いつきの単なる事業になってしまわないかなと思うんです。

ですので、このアンケートの項目もするしないとかじゃなくて、どうしたらよくなっていくかなというところのアンケートをとってほしいんですよ。私もねアンケートの項目考えるの一緒にしますんで、本当にアンケート実施一回してみらんですか。お願いします。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

関係者につきましては例えば野球振興会であるとか、観光協会等々はもう事前の話合い、事前の協議からやっておりますので、そのあとの当然事後の反省といたしますか、評価については、個別に承っているところでありますので。ただそういうふうな情報としては、今後も詰めていきたいと思っています。

何度もおっしゃるように、保護者向けのアンケートについての実施については、その必要性について今おっしゃったような思いもあるしというところは、分かりながらも今のところはそこまではどうだろうかという思いのほうが強いです。

同時にその匿名性のアンケートってのがやはり今ちょっと私たちが課題として今捉えていて、学校評価、学級評価、年度末評価をいただくんですけど、匿名だからこそというメリットもあれば、匿名だからのデメリットもきっとある部分がありまして。この匿名性のアンケートってとても重たい、評価のしづらいものになっていくところの危険性もありますので、アンケートをとるようにしたとしても、匿名性というのはなかなか多分実施ができないのではないかなということを思っています。現段階ではアンケートについては、まだ十分な検討・研究を始めようとは思っていません。

例えば教育委員会でこの報告を上げたときには、今後保護者や地域の方々も、もっとこの絆の日に積極的に参加をする、協力をするようなイベントとしての広がりは大いに期待していますね、ということのお話は頂いております。

○議長（尾上和孝君） 横山議員。

○4番（横山聖代君）

どうにかしてほしいなと思って、もう次に行きます。

食の魅力向上のほうに行くんですが、まず本町に来庁される方の目的だったり1人当たりの消費額の内訳というのが分かればお示しをお願いします。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

本町に観光に見えられる方の目的につきましてはですね、令和3年度にちょっとアンケート調査等も行っておりまして。その調査の内容で行きますと、多くは焼き物の購入、陶芸の館、西ノ原地区を中心とした焼き物の購入、それから波佐見温泉ですね。こういったところが目的別のほうでは上位のほうに来るような状況となっております。

観光消費額につきましては、例年県が実施しております観光統計調査というものがございまして、令和6年度の調査結果についてはまだ公表がされておりませんので、令和5年度の調査結果に基づいてお話ししますと。まず1人当たりの観光消費額については4,335円。これが令和4年度対比の13.6%の増となっております。その内訳につきましては、交通費が800円、飲食費が694円、娯楽入場

費が411円、土産代その他が2,430円、ということになっておりまして。飲食につきましてはですね、前年度からしますと、43.3%の増。娯楽入場費につきましては、52.2%の増。そして土産代その他が7.5%の増というふうなところになっております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 横山議員。

○4番（横山聖代君）

ちょっとこの土産代の多分2,430円が、焼き物購入が多いのですよね。結構、観光庁とかのホームページを見て一番多いのって宿泊費が結構一番多いんですよね、交通費とか。でも観光庁のホームページでは、土産代って結構低っかですもんね。

逆に土産代が波佐見は高いって事で、やはりここ波佐見焼き購入なんだなって思います。ここからもっとね、飲食店とかのほうに行ってもらってね。だって旅行に皆さん行かれるでしょう。私この間広島に行ったばってん、カキを食べたくて行ったんですよね。そうやって「食」って絶対大事じゃないですか。

「波佐見には焼き物もあるよ」「食べ物もこれあるよ」ってなったらすごいラッキーってなると思うからですね。すごい大事と思うので、次に行くんですが。本町の農産物をちょっといろいろ全部聞こうと思ったんですが、一応、米・麦・大豆あたりが一番の産品でですね。あと牛もあったりイノシシもあったり。あと駄野地区では薬物とかもいろいろ今作られておりますが。名物料理を作るにあたって、食材というのは大事と思うんですよね。なので、本町で一押しの食材の農畜産物もしあるなら、お答えください。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

年間を通して安定的にというところから申すと、やはりお米かなというふうに思っております。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 横山議員。

○4番（横山聖代君）

安定的に考えたらお米ですよ。一押しってありますか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

一押しもお米だと思っております。

○議長（尾上和孝君） 横山議員。

○4番（横山聖代君）

確かにお米ですよ、米粉クッキー作ってね。賞ももらわしたですもんね。地域内循環が評価されてですね。確かに分かります。

じゃあその受賞から三、四年たちますよね。そこからですよ、お土産品以外に洋菓子店だったり、パン屋さんだったり、飲食店とかと一緒にこの米粉で何か商品化するような、商品化に向けた取り組みというのは、これまでされましたでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

今まで米粉を作るところで、米粉の利用ということで地元のそういう飲食店さん、それとあとお菓子屋、ケーキ屋さんとかコラボされたという話は伺っております。ただそれが定着してるかというところですね、まだまだかなというふうに思っております。

あと地元のお菓子屋さんですと、そういったシフォンケーキだとかカステラとか、そういったものをですね、いろんな取り組みをされたというところは伺っております。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 横山議員。

○4番（横山聖代君）

いろいろ町長答弁でも、いろんな絶品グルメフェアとかいろいろされているけれども、まだまだ定着に至っていないというところがあるというのがすごく分かりました。

私ですね、何店舗かのお店の方に伺ったんですよ。で、「和洋中なんでもいけて身近な食材って何ですか」って聞きに行ったんですよ。そしたら——私の主人も料理人してるから、結構ナスって答える方もいるんですが、意外だったのが根野菜って言うお店多かったですよ。根野菜って、大根だ、ジャガイモとかタマネギだ。根野菜ですよ。根野菜がいいかなと言われるところがありました。

ここで質問なのですが、波佐見町で栽培されていて、そして収穫量もある根野菜って何でしょうか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

今議員がおっしゃった中で言えば、ジャガイモかなと思っております。

○議長（尾上和孝君） 横山議員。

○4番（横山聖代君）

あと一つちょっと確認なんですけど、今この名物料理の開発をするにあたっての課題で、数量の安定というのもあったっては言われるんですけど、そういった物流、やはり課題だなんて思うんですよ。

飲食店の方に聞いてもですよ、やはり地元産を使おうと思って直売所に買いに行くが、欲しいときにその野菜がないとかいうのも多々あると。やはりその数量の安定というのはもちろん大事だし。あと飲食店さんが波佐見の名物を作ろうと思ったら——米やったら米でもよかですよ。ジャガ

イモやったらジャガイモでもよかですけどん、共同調達できるような場というのもやっぱ必要になってくると思うんですよね。

そうやって共同調達できる場とか、コンスタントに仕入れができる数量の安定とか。やはりその辺も課題の一つと思うんですが、そちらの対応ってどうお考えですか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

そういった安定的に作る生産者側もですね、そういった需要があればですね、作れるというところはるかと思えます。ただ申したとおり、今波佐見の現状を考えたときは米が一番安定的にですね供給できる場所かなというふうに思います。

ただ今からですねそういった料理とか、そういったお土産品とか開発が進んでいけば、そういったジャガイモなり、大根なり、というのも、それに向けて生産はできると思えますけど。それをどうやって形にするのか。で、その保存というか、一次加工して保存できるか、というところまで行ってくれば、なかなか投資も必要になってまいりますし、難しい問題になってくるかなと思えますが。季節ごとのそういったもので、対応できるかもしれませんので。そういった現場と生産者を結びつけるというかマッチングするか。そういったものの話合いは続けていけるかなというふうには思っております。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 横山議員。

○4番（横山聖代君）

確かにそこがね一番難しいかと思うとですよ。私もそれは一番難しいかと思えます。でも、さっき言われました投資も必要になってくるねって。

今ですたい、ふるさと納税3.0クラウドファンディング型のあるじゃないですか。今は焼き物しかないけれども、あれで結構料理の開発とか大阪の泉佐野市とか、ふるさと納税をされていましてよね。何でそういうのところでぼんと打ち出して、ちょっとできる場所の可能性を見つけていってほしいなって本当思います。

そのためにはもちろん農家さんとか、飲食店さんの協力なくては絶対できないと思うので、農林課と商工観光課の大きなタッグを組んでもらってね、してもらいたいです。

あと4分しかないからちょっと私からのお願いというか、願望というか、あるんですが。波佐見町って波佐見焼ですよ。産業が波佐見焼きね、焼き物が有名ですたい。なので波佐見町の名物料理を挟み焼きにして欲しかとですよ。

ネーミングって大事と思わんですか町長。ねえ、思うんですよ。だって、なかなかそのいろいろしているけれども定着していないんですよ。だから、すいません私の勝手なネーミングセンスで悪かですが、「HASAMIYAKI」でやっていってほしいなと。でもなかなかイメージが湧かんでし

よ。——作ってきました、料理。すいませんジャガイモって言いよらしたですよ。私もジャガイモがあったから、ジャガイモを薄切りにしてちょっと固めてスライスしようかなと思ったけど、タマネギと大根のHASAMIYAKI——タマネギはちょっとトマトソースというか、味付的にはカポナータでいっています。しっかり味つけて、タマネギのHASAMIYAKI。タマネギはね。これは大根のHASAMIYAKI。これは照り焼き風にしました。こっちがおいしかった。

でもちょっと色合いはよくないかもしれないけども、こうやって下手かもしれないけれども、何か飲食店さんとか農家さんと一緒に打ち出してほしいなと思います。それは「HASAMIYAKI」でお願いしたいと思います。町長最後どう思いますか。お願いいたします。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

答弁の中でも申したと思いますが、以前も「はさみやき」をメニュー化して発表されたこともございました。ただし、メニューは「はさみやき」というネーミングで一つの品物だったかなと。どういった品物かちょっと私も覚えておりませんが、そういったものをされたことがございます。

議員御提案は「HASAMIYAKI」というネーミングの中で、様々なバリエーションといたしますかね、メニューがあってもいいのかなということでしょうから。一つの素材といたしますかね、非常にいい提案だと思いますので。ぜひ横山議員が御提案の料理も、どんどん広げてもらってよかっちゃなかですか。一緒に取り組んでいきましょう。頑張りましょう。以上です。

○議長（尾上和孝君）

以上で、4番 横山聖代議員の質問を終わります。

本日の会議はこれで終了します。明日も一般質問を続けます。本日はこれで散会します。

御起立ください。お疲れさまでした。

午後4時49分 散会

第5日目（6月10日）（火曜日）

議事日程

日程第1．町政に対する一般質問

脇坂 正孝 議員

1. 寄贈いただいた貴重な資料について
2. 図書館を利用する環境の充実について
3. 孤独死・孤立死の対応について

三石 孝 議員

1. 見守り支援事業について
2. 農業振興について
3. 公共施設の整備について

前田 博司 議員

1. 災害時における避難所について
2. 各地区の公民館について

福田 勝也 議員

ふるさとづくり応援寄附金、及び基金の活用について

北村 清美 議員

1. 災害対策について
2. 町政運営について

第5日目（6月10日）（火曜日）

9. 出席議員

1 番	前 田 博 司	2 番	脇 坂 正 孝
3 番	澤 田 昭 則	4 番	横 山 聖 代
5 番	岡 村 真由美	6 番	岡 村 達 馬
7 番	三 石 孝	8 番	城 後 光
9 番	福 田 勝 也	10 番	田 添 有 喜
11 番	北 村 清 美	12 番	尾 上 和 孝

10. 欠席議員

な し

11. 議会事務局職員出席者

議会事務局長 古賀 真悟 書 記 一瀬 若菜

12. 説明のために出席した者

町 長	前 川 芳 徳	副 町 長	村 山 弘 司
総 務 課 長	福 田 博 治	企画情報課長	澤 田 健 一
商工観光課長	太 田 誠 也	施設整備室長	大 橋 秀 一
税務財政課長	松 添 博	住民福祉課長	小佐々 慶 太
農 林 課 長 兼 農業委員会事務局長	朝 長 哲 也	農 林 課 長 参 事	太 田 克 宏
建 設 課 長	本 山 征 一 郎	水 道 課 長	伊 藤 幸 治
長寿支援課長	井 関 昌 男	子ども・健康保険課長	石 橋 万 里 子
会 計 管 理 者 兼 会 計 課 長	串 島 佳 織	教 育 長	森 田 法 幸
教 育 次 長 兼 給食センター所長	林 田 孝 行	総務課課長補佐	坂 本 昌 俊

午前 10 時 開議

○議長（尾上和孝君）

御起立ください。おはようございます。

ただいまから令和 7 年第 2 回波佐見町議会定例会第 5 日の会議を開きます。本日の議事日程はあらかじめお手元に配付のとおりです。

日程第 1 町政に対する一般質問

昨日に引き続き一般質問を続けます。順次発言を許します。

2 番 脇坂正孝議員。

○2 番（脇坂正孝君）

皆様おはようございます。梅雨に入った途端に雨が激しくなってきました。適度な降雨で災害なく実りの秋を迎えたいものと願っております。

それでは 3 件ほど質問をいたします。

1. 寄贈された貴重な資料について。

町内外から歴史的に貴重な資料が数多く寄贈されています。受贈後の資料は適切に保存し、調査・研究・公開等なされていますが、収蔵する施設が手狭になってきたと聞いています。今後も貴重な資料の寄贈が考えられ、十分な受入れ体制を整えておく必要があると思ひ、次のことを問います。

（1）過去 3 年間の寄贈件数と、令和 6 年度末までの累計件数はどうか。

（2）寄贈資料の収蔵は、現在どう行っているのか。

（3）寄贈資料は、どのように活用しているのか。

（4）収蔵施設として、空き教室や、町有財産となった十八親和銀行旧波佐見支店を活用できないか。

2. 図書館を利用する環境の充実について。

図書館は「知識や情報の拠点」として、本町の貴重な教育・文化施設であります。しかし、現状は総合文化会館の奥に位置し、また、面積も狭く、利用しづらいとの声を聞いております。図書館は町民にとってより身近な施設であるべきとの考えから、次のことを問います。

（1）図書館協議会の開催状況と、その主な協議事項は何か。

（2）来館者及び貸出冊数の推移はどうなっているのか。

（3）総合文化会館の玄関に図書館の看板を掲げるとともに、役場庁舎、東小校区、南小校区にそれぞれ返却ポストを新設できないか。

（4）ホームページの改善はできないか。

（5）閲覧室——開架書架でございます。を拡張するため、旧教育委員会事務室などの改修はでき

ないか。

3. 孤独死・孤立死について。

2024年に死後8日以上経過して見つかった人——まあ孤立死でございますが。これが全国で約2万2,000人上ったとの報道がっております。痛ましく残念であり、少しでも防止することが必要と考え、次のことを問います。

(1) 本町で発生した孤独死・孤立死の過去3年間の状況はどうか。

(2) 孤独死・孤立死があった場合の対応はどうしているのか。

(3) 孤独死・孤立死を防止するための対応策はどうか。

以上、壇上からの質問を終わります。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

皆様おはようございます。それでは2番 脇坂正孝議員の御質問についてお答えをいたします。まず、質問と答弁の順番が前後しますので御了承願います。

3. 孤独死、孤立死についてのお尋ねで、(1) 本町で発生した孤独死・孤立死の過去3か年の状況はどうか、というお尋ねですが。まず孤独死や孤立死は近年社会問題となっており、深刻な問題だと受け止めております。本町の発生状況につきましては、保健所、警察署にも情報提供を求めた結果、死後8日以上経過して発見された事案は、令和6年度に1件と伺っています。

(2) 孤独死、孤立死があった場合の対応はどうしているのか、とのお尋ねですが、警察などの見分が終わった後に近親者の手がかりが少ない場合、戸籍調査等を行い、血縁者を探します。さらに血縁者、世話人などを全く見つけることができず、身寄りがないと判断される場合は、法令に基づき考慮死亡人として死亡地の自治体が御遺体の埋葬・火葬を行うこととなります。

(3) 孤独死・孤立死を防止するための対応策はどうか、とのお尋ねですが、孤独死や孤立死を防止するためには、地域での見守り活動や情報提供の体制構築が重要だと考えています。そのために波佐見町見守りネットワーク協議会を設置し、警察、消防、地域代表、民間の事業所、行政等が連携し、見守り体制の構築に向けて検討をしています。

また現状の主な取り組みとしては包括支援センター、シルバーボランティアや民生委員が定期的に訪問するほか、近年導入し普及を進めております緊急通報システムの活用なども効果的だと思います。これはセンサーを冷蔵庫などに取付け、数日開閉がない場合に管理センターや登録した連絡先に通報が行くシステムや、自宅近辺で体に身に付けておけば異変があった場合、ストラップを引っ張るだけで通報が行くものなどがございます。これらの取り組みを進めることにより、高齢者が安心して生活できる環境づくりを目指してまいります。

なお、1番の寄贈資料、2番の図書館関係については教育委員会から答弁がでございます。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

1. 寄贈された貴重な資料について、（1）過去3年間の寄贈件数及び6年度末の累計件数はどうか、とのお尋ねでございますが。まず図書館を除く教育委員会に寄贈いただいた令和4年度から令和6年度までの寄贈件数と、寄贈点数を申し上げます。令和4年度は8件の166点。令和5年度は10件の222点。令和6年度は15件の358点。3年間の総計は33件の746点となります。

次に6年度末の累計件数につきましては把握できておりませんが、寄贈件数は6,132点となっております。これまで寄贈いただきました寄贈者の皆様の温かいお心遣いと、本町の歴史を伝える貴重な資料を託していただくことにこの場をお借りして、改めて感謝を申し上げる次第であります。

（2）寄贈資料の収蔵はどうしているのか。とのお尋ねでございますが、寄贈いただきました資料は、当館の学芸員が中心となり、丁寧に資料保存を行っております。資料の状態を良好に維持するため、収蔵場所については、歴史文化交流館内の収蔵庫を中心に保存をしています。特に古文書や掛け軸といった紙類は、湿度や温度そして光の影響を非常に受けやすいため、専用の保存室を設け、厳重な管理体制のもと適切に保存をしております。

この保存室では温湿度管理を徹底し、資料に悪影響を与える紫外線を遮断するなど、劣化を最小限に収めるための環境を整えているところです。これからも皆様からの寄贈や寄託いただいた大切な資料を後世に確実に引き継いでいくため、今後も専門性を高めながら、適切な保存管理に努めてまいります。

（3）寄贈資料の活用はどうしているのか、とのお尋ねでございますが。歴史文化交流館では、寄贈いただいた資料を単に収蔵するだけではなく、町の歴史や文化を伝える生きた教材として、積極的に活用をしています。具体的には波佐見町歴史文化交流館、陶芸の館、そして鬼木農民具資料館において常設展示を通じて公開しており、地域住民の皆様はもとより町外からの観光客、さらには地域の児童生徒にも波佐見町の豊かな歴史を広く知っていただく機会を提供しております。

特に波佐見歴史文化交流館では年間5回程度定期的に企画展を開催しております。これらの企画展では、寄贈資料を特定の時代やテーマに焦点を当てて展示することで、資料が持つ物語や背景をより深く掘り下げ、来館者の皆様に新たな発見と学びを提供しています。

今後も、引き続き寄贈資料をテーマとした企画展や体験活動を積極的に実施し、資料が持つ価値を最大限に引き出し、波佐見町の歴史文化振興に貢献してまいります。

（4）収蔵施設として空き教室や十八親和銀行旧波佐見支店の活用はできないか、とのお尋ねでございますが。現在波佐見町へ寄贈いただいた資料は、歴史文化交流館、陶芸の館、鬼木農民具資料館そして旧トダグリーンサムの計4か所で分散をして保存をしております。このうち、歴史文化交流館内の陶器類の保存スペースについては、ある程度の収蔵が進んでいますが、鬼木農民具資料館

や、旧トダグリーンサムにはまだ十分な収蔵スペースがございます。これらの施設を効果的に活用することで、現時点での資料の収蔵には支障がないと判断をしております。そのため、御提案いただきました空き教室や、十八親和銀行旧波佐見支店を直ちに収蔵施設として活用する予定はありません。

資料の適切な保存環境の維持には温湿度管理や、防犯対策など専門的な設備と管理体制が不可欠であり、既存の施設を活用することが、現在のところ最も効率的かつ効果的な方法であると考えております。しかしながら今後、寄贈いただく資料の点数や既存施設の状況に変化が生じ、収蔵スペースの確保が困難になる事態が生じた場合には、その状況を慎重に勘案をいたします。

その際には寄贈品に支障が出ないように、御提案いただいた空き教室や十八親和銀行旧波佐見支店を含めあらゆる選択肢を視野に入れ、最適な収蔵場所の確保に努め、貴重な歴史資料を未来へ確実に継承していくため、今後も収蔵関係の維持・改善に努めてまいります。

2. 図書館を利用する環境の充実について。

(1) 図書館協議会の開催状況と、その主な協議事項は何か、とのお尋ねでございますが。まず図書館協議会の開催状況については、直近では令和6年度末に開催をしております。主な協議事項といたしましては、図書館の利用状況について。利用者数、貸出冊数、旧教育委員会事務所の活用など、令和6年度の図書館の利用状況について詳細な報告を行い、現状等について共有しました。

また子供読書リーダー養成講座や、令和7年度における予算についてもあわせて説明を行い、協議を行いました。今後も定期的な開催を通じて、より開かれた魅力ある図書館づくりを目指してまいります。

(2) 来館者及び貸出冊数の推移はどうなっているのか、とのお尋ねでございますが。まず来館者についてですが、来館者自体の統計はありませんので、図書を貸出した人数として、令和2年度から令和6年度までの5年間の推移をお答えします。令和2年度は6,060人。令和3年度は5,878人。令和4年度は6,016人。令和5年度は5,683人。令和6年度は6,153人となっております。

次に、貸出し冊数の推移ですが。令和2年度は1万9,182冊。令和3年度は1万9,417冊。令和4年度は2万357冊。令和5年度は1万9,363冊。令和6年度は2万583冊となっております。

(3) 総合文化会館の玄関に図書館の看板を掲げるとともに、役場庁舎、東小学校区、南小学校区にそれぞれ返却ポストを新設できないか、とのお尋ねでございますが、まず総合文化会館玄関への図書館の看板設置について答弁をさせていただきます。

御指摘のとおり現状の案内表示では、図書館の位置が分かりづらいという御意見を頂いており、この点を課題として認識をしております。これまでの紙質のものからラミネート加工された表示への変更は行っておりますが、利用者の皆様にさらに分かりやすく図書館の場所をお知らせするため、より視認性の高いしっかりした看板の設置を行うよう準備を進めております。また文化会館内にお

いても、図書館への動線が分かりやすいよう、通路内に案内表示を新設するなど、来館された方がスムーズに図書館へたどり着けるよう工夫してまいります。

次に、返却ポストの新設についてに関する御提案ですが、現在、総合文化会館正面玄関わきに返却ポストを設置しており、図書館の閉館時間帯でも図書を返却できる体制を整えております。これは利用者の皆様の利便性向上に一定程度寄与していることから、御提案の場所への新たな返却ポストの設置については、現段階では予定はございません。

理由といたしましては、複数の箇所に返却ポストを設置した場合、回収頻度や回収時の図書の安全性の確保、また投函された図書の破損リスクの管理が大きな課題となります。定期的な回収には新たな人的コストや、車両の運行コストが発生し、限られた予算と人員の中で、複数の地点での適切な回収体制を構築することは困難であると判断をしております。また、返却処理までのタイムラグによる利用者の不便や、投函された図書が屋外の環境で損傷するリスクも懸念をされます。

大切な図書資料の品質を維持し、長期的な利用に供するためには、適切な管理が不可欠であると考えております。今後も図書館協議会での御意見や町民の皆様からの声に真摯に耳を傾け、波佐見町の実情に合ったきめ細やかなサービス向上に努めてまいり所存でございますので、御理解と御協力のほど、よろしくお願いを申し上げます。

(4) ホームページの改善はできないか、とのお尋ねでございますが、本町のホームページは、本年3月にリニューアルしたばかりでございますが、図書館関連ページにおいては幾つか改善すべき点が明らかになっております。具体的には蔵書検索機能の精度が低い、文字が見づらいといった点に御意見を頂いており、利用者の皆様に御不便をおかけしている現状を把握しております。

これらの問題点に対し、現在ホームページの修正作業を鋭意進めているところでございます。利用者の皆様がより快適に蔵書を検索でき、また必要な情報をスムーズに得られるよう、機能面、デザイン面双方から改善を図ってまいります。

今後も図書館の利用者の皆様や、図書館協議会委員の皆様からの貴重な御意見、御要望を丁寧に伺いながら、より使いやすく魅力的なホームページの構築に努めてまいります。

(5) 閲覧室（開架書庫）を拡張するため、旧教育委員会事務室などの改修はできないか、とのお尋ねでございますが、まず御提案のありました旧教育委員会事務室の現状について御説明をいたします。

現在、このスペースは総合文化会館の管理運営を委託しておりますルピナス倶楽部の事務スペースとして活用されております。また図書館の重要な業務である本の補修業務や、未整理資料の一時保管などを行うバックヤードとしても使用しており、図書館運営には欠かせない機能を有しております。

御質問の閲覧室、開架書庫のため、旧教育委員会事務室などの改修はできないかとのことですが、

現在の状況といたしましては、図書館全体の整備について、関係部署と連携し幅広く協議を進めているところでございます。

図書館の機能強化には単に開架スペースの拡張だけではなく、学習スペースの確保、多目的利用空間の創出、そして既存施設の老朽化対策など、多角的な視点からの検討が必要となります。旧教育委員会事務室の改修もその選択肢の一つではございますが、図書館全体の将来像を踏まえた上で、最も効果的かつ効率的な整備計画を策定することが重要であると考えております。

ある程度の方向性が見えてきた際には、その内容や具体的な整備計画について改めて議会の皆様にご説明をし、御理解を賜る機会を設けたいと存じております。

以上、壇上からの答弁を終わります。

○議長（尾上和孝君） 脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

順を追って質問をさせていただきますが、資料の寄贈件数ですが4年度、5年度、6年度とずつとこう100点ずつぐらい多くなっているわけですが、これは近年特に寄贈資料数が多いわけですが、そこあたりの理由は何かありますか。

○議長（尾上和孝君） 林田教育次長。

○教育次長（林田孝行君）

先ほど教育長が申し上げましたとおり、年々増加傾向にはございます、寄贈点数が。この要因と申しますのは、そのときの年によっても若干違うであろうかと思いますが——ちなみに令和6年度でいきますと、本来であれば先ほど申し上げた358点と言いましたが、焼き物の陶片関係でいきますと、そのほかにも頂いております、数は膨大な数となっております。ですので、その年によって様々な違いがありますので、要因と申しますのも、ちょっとなかなか今判断はできないところでございます。

○議長（尾上和孝君） 脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

年によって違うと、そういうふうな内容によっても違うというふうなことかと思いますが、次に現在、主として歴史文化交流館そして陶芸の館ですか。鬼木の農民具資料館、民間施設ということで保存をされていると思います。

これは鬼木の資料館のほうでございませぬ。そして歴史文化交流館の新しくできた、いわゆる収蔵庫が入っている、右手のほうになります、こちらでございませぬ。これは先ほどからおっしゃった陶器類の収蔵ということで、こちら歴史文化交流館の収蔵庫のほうにきちんと整理して、収蔵してあります。これが古文書関係、これは聞きますと、ちゃんと燻蒸と申しますか、いわゆる虫から食われないようなそういう処理をした上で、先ほど教育長がおっしゃったちゃんとした部屋、温度

管理等がしてある部屋で保存をしてあるということです。

そういったことできちんと収蔵し、あと活用されてると思うわけですが、私は以前もう鬼木の歴史資料館が、あそこが一時期増築の話があっているわけですよ。なぜそう増築かと申しますと、もう収蔵し切れなくなるというふうなことで、鬼木の資料館が2階にもう少し入れる場所が必要だと、そういったことで計画されたのですが、残念ながらちょっと建築法上の問題がありまして、そこは見送ったと、そういうふうな経緯がありますので、今後寄贈された資料これをどうされるのか、ということでもまだまだ余裕がありますという答弁でありましたが、この辺は先の見通しはどうか。

○議長（尾上和孝君） 林田教育次長。

○教育次長（林田孝行君）

先ほど教育長が申し上げましたとおり、旧トダグリーンサムと鬼木の農民具資料館がちょっと確認をさせていただきました。そうしたそうしたところ、鬼木の農民具資料館については、展示されているスペースの裏に倉庫的なものがございまして、それが2階建てとなっております。そこには数多くのそういった資料がございまして、それを今後ですね整理をしていくということで計画をしております。そうすることによって、そのスペースの確保が生まれ、そこに収蔵庫として活用していきたいと思っております。また、旧トダグリーンさんにおいても、あそこが2階建てとなっております、かなりスペースもまだ余地がございまして、そこを活用していきたいということで考えております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

遅かれ早かれ満杯になるということが考えられはするわけですが、特に現在は進歩が非常に早うございまして、以前は50年、100年でいわゆる古いものになるというふうな時代でありましたけど、もう例えば道具類なんか10年前のがそういうふうな資料に値すると、そういうふうな世の中になってきました。

それとか例えば空き家を解体したら、貴重なものが出てきたとか。そういった町民の方もおられるかと思っております。そういうことで今後とも多くの寄贈が予想されるわけですね。

それで、やはり貴重な資料を受入れ、そしてまた収蔵し活用していくためには、十分な収蔵施設が必要であり、それが寄附された方に報いることでありますし、そしてまた本町の歴史文化を知る貴重な向上発展につながる貴重なものでございますので、その辺は並行しながら進めていただきたいと思います。

たまたま空き教室とか、十八銀行の旧波佐見支店この辺を候補にはどうかというふうなことで挙げましたが、そこまでは必要ないと——現在のところですね、ということですが、やはり貴重な資料を収蔵し、そしてまた展示する。そういうような施設もぜひ今後確保していただければと思いま

す。

それでは次に図書館協議会、図書館のほうに移ります。

図書館協議会の開催状況をお尋ねしましたが、令和6年度は6年度末に開かれたというふうなことです。これは委員さんからの意見、あるいは提案等でそういったことで具現化を図るものというのとはなかったでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 林田教育次長。

○教育次長（林田孝行君）

図書館協議会を6年度末ということで教育長のほうから答弁がございました。正式には令和7年の3月18日に行いまして、その中で議題といたしまして、図書館の利用状況また令和7年度の予算についてということで御説明したところでございます。

その中で、何か具現化ということですが、例えば図書館の児童コーナーのそういった要望なり、あと図書館の大規模改修等について説明を行った際に、いろんな御意見を頂いたところでございます。それと、図書館協議会が令和6年度は1度行いましたので、それを複数回開催してほしいという要望等もあっております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

今委員さんの言葉にありましたとおり、数回開いてほしいということでございますが、やはりですね開催時期が一年度末ということでありましたら、反省としてはいいかもしれませんが、なかなか委員さんからの御意見を生かせないというふうなことも考えられます。

委員さんがおっしゃったとおり、意見にありましたとおり、年度初めの開催。こういったものを含めて、必要に応じて年の複数回開催をぜひお願いしたいと思っております。

そして児童コーナーの提案があったということですが、これはどういうふうにあと対応されますか。

○議長（尾上和孝君） 林田教育次長。

○教育次長（林田孝行君）

まず先ほど冒頭に申し上げられました、議員から御指摘ありました協議会の開催を年度初めにとということでしたが、今年度は8月に予定をするように今のところ進めているところでございます。

それと児童コーナーの床の張り替えと言いましたが、これは令和7年度の予算ということでございます。それで先ほど教育長のほうから答弁がございましたが、今後大規模な改修といいますか、整備等も含めて検討を進めるところでございますので、そういったところと並行しながら、よりよい図書館の改修等に努めていきたいと思っておりますので、現段階でいつというのはちょっとお控えさせていただきたいと思っております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

委員さんは5名ですかね。と思いますが、それぞれに分野別にいろんな御意見をお持ちかと思うので、ぜひそのあたりの御意見を参考にされ、聞き、そしてまた年に数回開催というふうなことで後の検証もできるような、そういった方向でこの会を進めていただければと思います。図書館に関しては、社会教育委員とか、それからいろいろあるかもしれませんが、一番身近な委員会でございますので、そこら辺は、よろしく願いをしたいと思います。

ちょっと先ほどですね、図書館来館者及び貸出し冊数の推移ということでお尋ねしまして、おおむねここ5年は6,000人前後ですね。貸出冊数が2万冊前後ということで動いておりますが、ちょっと私の所見を申しますと図書館は教育文化情報こういった提供の施設であると同時に、交流ですね。娯楽、それから趣味の学習等々、多くの機能を持っております。その多くの効果を町民が無料で享受することができる多分唯一の施設かと思います。

別の角度からPRしますと、まず経済的な効果としまして、貸出冊数が今ありましたとおり2万冊としますと、図書資料が今1,500円以上ですが、1,500円としてもその金額は3,000万円。3,000万円の金額が町民の方が本を買わずに、自分の家計を傷めずに館内閲覧や、借りることによってそれを享受することができるわけですね。それで年間現在7年度の図書購入費が350万円ですか。それで、館内閲覧を含めますと恐らくその10倍は、効果を町民に与えることになろうかと思っております。

以前ある図書館長が図書館の資料を利用すれば、住民税の納めた住民税の一部を取り戻せることができる。仮に1,000円、1,500円の本を実際10冊借りれば1万5,000円。これは家族4人で借りれば6万円というふうなことになりまして、そういった効果も大きな家計の節約ということで考えられるわけですね。そしてまた図書館の本というのは、いろんな角度から職員さんが、あるいは業者の方が選書されておりますので、子供にとっても安心して読める本ということでございます。

さらに図書館のある自治体、図書館ある町は、町としての評価も非常に上がります。上がるということをお聞いております。

そういったことも含めまして、例えば移住、定住を希望される方がインターネットを見て、図書館がない町だということであればなかなか、どうかなと思われるかもしれませんが、図書館がある町というのはそういった意味でも、移住定住の大きな契機になるというふうなことも私は聞いております。そういったことを含めまして、突然ですが副町長、図書館をどう認識されてますか。

○議長（尾上和孝君） 村山副町長。

○副町長（村山弘司君）

図書の効用についてのお尋ねでございます。まさに脇坂議員おっしゃるとおり、図書館は子供たちあるいはその町民の皆さん方の学習の場。あるいは知識を伸ばす場として、あらゆる効果がある

と思いますし、にぎわいを創出するという部分でも、図書館というのは大きな効果を及ぼすものだというふうに思っています。

そういった意味で、他の市町でもまちづくりの成功例として図書館が例として挙げられることがあるというふうに認識をしております。

今後に向けてもそういったにぎわいの創出というのは大切でございますので、今後の整備の方向性としてそういったものをしっかり意識しながら、検討を進めてまいりたいというふうに思っております。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

これは総合文化会館の玄関でございますが、入り口の扉に「図書館1階の奥にあります」というような表示をされました。この前には多分表おもてにされていたのではなかろうかと思っておりますけど、一時期風で飛んで、ない状態でありましたが、今度はちゃんときちっと内側に貼って——ラミネート加工でしょうか、そういったことで作っております。非常によくできていると思っておりますが、先ほどの話では看板の設置をするというふうなことでございますので、ぜひ早いうちにお願いをしたいと思っております。

そしてまた、返却ポスト等ですけどね、この右側にあるちょっと1メートルぐらいちょっと背の高いのが返却ポストで、ここ1か所しかないわけですが、役場に「よりそっと」ができた関係で恐らく保護者の方、子供さん、こういった方の来客が昨日たしか2,000人ぐらいと聞きましたが、そういったことも含めましてですね、もうここにこられた際に5冊、10冊と借りられる方でも読んでしまったら早めに返そうということで、その辺の返却の需要が多くなり、そしてまたそれをここで改修することによって、教育長は逆に遅くなると言われましたが、早い回転でできるのではなかろうかと私は思っております。

そういったことも含めまして、図書館へのリピートということからすれば逆行しますが、もうここにこられたついでに返却をしようと。そういうふうな声も多くあると思っておりますので、これはもう再度考えてもらえばと思っておりますけど、いかがでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 林田教育次長。

○教育次長（林田孝行君）

「よりそっと」のほうにということでございます。「よりそっと」と文化会館は結構近い距離でもございますので、そこは一つの意見ということで受けたいということで考えておりますが、この返却ポストの先ほど1メートルという分けた経験がありましたけど、あの程度の返却ポストとなれば、ネット上で調べたところ約20万円程度かかるようでございます。

ですから、そういった費用も予算もかかってくることとなりますので、そこは先ほど申し上げま

したが、検討はしたいと思いますが、一応そういうことでございます。すいません。

○議長（尾上和孝君） 脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

続きまして、ホームページでございます。これは館内の模様をイラストで書かれた今年4月の広報はさみです。よくできております。非常に工夫して読みやすくできるかと思えます。そしてまた本の紹介も1ページにわたって10冊ぐらいしてあります。例月では3冊か4冊ですが、こういうふうなことでこれをぜひ、本の紹介なんかも月に120冊買われていると、購入されてるということですので、ぜひ多くの本の紹介を1ページ使ってでもお願いをしたいと思えます。

図書館だよりというのを去年、今年の1月号に第1号。そしてまた2号が4月号に掲載されておりますが、これも非常にいいことだと思いますので、ぜひ3号、4号と続けていただければと思います。ホームページの中で本町の場合、図書館を検索しますと利用規定というのは利用料の方法ということでこういうふうな文字だけの画面に行きます。そしてまた、先ほど教育長から話がありましたとおり、検索もなかなかしづらい。

そういったことも含めまして、これは新上五島町立の図書館ですがここにありますように利用案内とかそれから図書館分館の状況、そして本の紹介そういったものがいろんな情報がここに詰めてあります。

そして真ん中に中央に写真がありまして——これもういろいろ分館によって違って来るんですよ。そそういった掲載がですね。長与とか時津とか、それから佐々町。こういった県内の図書館、町立図書館もほとんどこういうふうな方式を採用しておりますので、ぜひ本町でもこのような方式をお願いしたいと思っております。これについてはいかがですか。

○議長（尾上和孝君） 林田教育次長。

○教育次長（林田孝行君）

ありがとうございます。この御質問を頂きましてから、先ほど脇坂議員のほうからもありましたとおり、佐々町と伊万里市とまた嬉野町の視察をさせていただきました。その中で運営自体その掲示等もとてもすぐれている市町でございました。なおかつこのホームページにつきましても、すぐれてる面が数多くありましたので、今週中もしくは来週中には佐々町さんあたりを参考とさせていただきますは、リニューアルしたいということで検討しているところでございます。以上です。

○議長（尾上和孝君） 脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

ぜひ、早めの改修をお願いしたいと思います。

そしてまた、閲覧室の拡張につきましてですが、私も総合文化会館の図面をちょっとお借りしまして、いろんな方策——いかにしたら広くなるかというふうなことを模索しましたが、なかなかい

い案は出ません。

いろんな皆さんがそういうふう感じておられるかと思うんですが、当面、そういうふうなことで改革、こちらの改善のための委員会もスタートされるんじゃないかならうかと思っておりますが、もうここまで来ましたら、新館を含めて設置に新館も含めて検討していただければと思いますが、そのあたり町長いかがでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

図書館についての考え方ですが、以前から私度々いろいろな会議の中で報告をさせていただいておりますが、一番印象に残っておるのは、私の中学校の体育の先生が「体の栄養は食べ物。心の栄養は読書」いう、体育の先生がおっしゃったことが一番印象に残っております。

そういうことを考えれば、本当に町民の皆様には、読書を進めてほしい、読んでほしいという気持ちは強ございます。そういった意味におきまして、図書館の整備については大変重要な事項だと考えておりますので、新たな図書館を造るのかどうかは別としまして、図書館機能の充実ということについては先ほど来から教育長のほうから答弁がございましたように、今後十分に検討を進めまして、この文化会館の改修なのか、あるいは増築なのか、あらゆる方面で検討を進めてまいりまして、そのあと議員の皆様にも御検討いただきたいというふうな思いでございます。

○議長（尾上和孝君） 脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

その辺をいろんな御意見を含めて御検討をお願いしたいと思います。施設の整備はすぐにはできないというふうに思うわけですが、先日ある利用者の方から指摘を受けましたので、この場を借りて申し上げたいと思います。

まず1点が、図書館閲覧室の照明が切れたままであります。そして、ランプの位置が高くて、窓が小さいため、全体的に暗いと。そして、LEDへの切替えが必要であるというふうなことです。

そしてまた2番目に玄関ホールの照明、それから向かって左側に学習室を最近配置されておりますが、こちらのほうもやはり全体的にランプの位置が高うございましてここも照明が暗い。学習するにはちょっときついなというふうに思っております。

それでも蛍光灯も、ここ一、二年で品切れとありますので、ぜひLEDへの早めの取り替えをお願いしたいと思います。

あと一点、電子案内版ですか。あれが入って玄関すぐのところありますが、これも長いこと修繕がされてないというふうなことで、早く修繕をしてほしいということでございます。

このほかにもあろうかと思いますが、いま一度ですね、施設設備を点検してもらいまして、使いやすい施設——教育委員会が役場に移転されたことによって使いにくくなったと言われぬような

方向で、改めて改修なり点検をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 林田教育次長。

○教育次長（林田孝行君）

まずホール等の水銀灯ですが、議員お説のとおり2027年に製造中止となろうかと思っております。それに伴いまして、今のところその整備計画を予定しているところでございます。

それと、玄関入って右側にサイネージの40、50型ぐらいの表示が壊れてるということで御指摘いただきました。それも、もう近々見積りを取りまして、財政と協議いたしまして、補正予算等で設置のほうに向かいたいと思っております。

今は壁式でしておりますが、それを正面玄関のほうに設置をしまして、より来館者の方に分かりやすくしていきたいということで進めていきたいと思っております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

それでは3番目の項目に入りたいと思います。孤独死・孤立死の問題でございますが。まあ、孤立死はですね、亡くなって8日以上経たという場合に、そういうふうに定義をしてありますが、おそらく8日以内、7日以内ということでいけば全国で2万2,000人。本町で令和6年に1件ということでございますが、かなりあったんじゃないかと危惧をしております。

本町でも孤独・孤立の防止のために、いろんな事業をされておりますが、これはもう私も承知してるわけですが、今回この中で、先ほど町長がおっしゃった緊急通報システムですね。これは非常に有効かと思っております。

広報はさみで2024年（昨年）の7月号で紹介してありますが、まだ普及が少ないのではなかろうかと思っておりますが、現在このシステムの貸出状況、そして65歳以上の独り暮らしの方がどのくらいおられるのか、これを質問いたします。

○議長（尾上和孝君） 井関長寿支援課長。

○長寿支援課長（井関昌男君）

緊急通報システムの現在の貸出し状況でございますが、6年度末でタイプが2種類ございまして固定型が45件、携帯型が54件になっております。合計99件の貸出しを行っている状況でございます。

独居世帯の数でございますが、ちょっと国勢調査の世帯数で申し上げます。ちょっと古いですが令和2年度ですね。2年度で本町の独居世帯数でございますが、高齢者ですね。493世帯になっております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

対象となられる方と言ったらおかしいのですが493人おられて、約100台ということで5人に1人、

20%程度の普及ということですので。これを今、広報それから啓発はあらゆる場所でされていると思いますが、さらなる普及拡大のためですね。いきいき大学ですか、こちらにはかなり高齢者も来られますので、ここの中で説明をされる場はとれないでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

いきいき大学も今年度につきましては年間スケジュールを全て決まっておりますので、今の要望等がどのタイミングで行えるか、担当とも協議、検討していきたいと思います。

○議長（尾上和孝君） 脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

10分か、15分あればよろしいかと思うのですが、ぜひ早めをお願いをしたいと思います。

そして今のはまだ意思が伝達されるような状況のときでございますけど、もう意思の伝達がなかなかできなくなったというふうな時にですね、一つの早期発見、亡くなった場合も含むわけですが。その一つとして、もう自治体によっては水道あるいは電気、郵便等の事業者と協定を結んで電気・水道のライフラインの状況に変動があったりした場合ですね、そしてまた郵便物が溜まったりした場合は、それぞれホットラインで役場等に警察等に連絡してもらおうと。そういうふうな協力を仰ぐ仕組みもあるようですが、本町ではそのような取り組みはできませんか。

○議長（尾上和孝君） 伊藤水道課長。

○水道課長（伊藤幸治君）

水道ではですね水道検針を現在7名委託しております、月1回の検針で6,100世帯の検針を担っていただいております。1人当たりですね、平均の検針件数が870件程度となっております、自営業を営まれている方が時間の調整を行いながらやっておられます。

検針業務内容につきましては、各世帯の事業所の入り口に設置してある水道メーターの数値を読み、携帯用端末に入力して、検針票——使用料のお知らせということで、ポストに投函する作業になっております。検針作業の中で、住民の方とのコミュニティーを築かれ、郵便物や新聞等が放置されている場合は、自治会等への報告等など対応できる部分もあるとは思っております。

ただですね、月1回と限られた業務でございますので、やはり地域の横のつながりが重要になってくるとは考えております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

水道にしる、電気にしる、月1回かと思っておりますので、いろいろこう組み合わせてもらってですよ。例えばそういった業務をお願いするところが5か所、6か所となれば、もう1週間に一遍ぐらいなるわけだからですね。水道だけでいきますと月1回かもしれませんが、その数を増やすことによって、

その辺の感覚も短くなりますので、そういうふうな方向をぜひ考えていただきたいと思います。

最後になりますが、町長も最初にこれ大きな問題だというふうなことでおっしゃっておりますが、いろんな対応策を各自治体進めておりますが、町全体として、町長いかがでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

全てを行政が面倒見るとするのは、かなり不可能なことだと思います。これはやはり地域のつながり等が非常に試されることでもあろうかと思えます。

このコミュニティーが崩壊とか言っておりますが、そういったものが大切にされないと、なかなか高齢者あるいは障がい者、あるいは社会的弱者。こういった方の救いってのはなかなか難しいものがあるかと思えますが、行政としてできる範囲については積極的に取り組んでまいりたいというふうに思います。

○議長（尾上和孝君）

以上で、2番脇坂正孝議員の質問を終わります。

しばらく休憩します。11時10分から再開します。

午前11時00分 休憩

午前11時10分 再開

○議長（尾上和孝君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、7番 三石孝議員。

○7番（三石孝君）

皆さんおはようございます。通告に従いまして質問いたします。

1. 見守り支援事業について。

少子高齢化が着実に進行している中、独居の高齢者や単身者も増加傾向にある。緊急時の対応に不安を抱える人も少なくないと言われており、本町においても数々の見守り支援策が行われている。そこで次のことを問う。

（1）見守り支援事業の内容と利用状況はどうか。

（2）その周知の方法はどうか。

2. 農業振興について。

6月に入り、いよいよ田植えのシーズンが到来いたしました。米価の改定も行われ、農家に活気が戻ってきたような感じがいたします。一方では、高齢などの理由から農業の継続を断念されるケースも発生していると伺います。

このような中、本町には農業支援の単独事業として、小規模農林事業と農林業経営支援事業の補

助制度があり、これらの活用でさらなる活性化が図られるものと期待をしているところでございます。

そこで次のことを問います。

- (1) 小規模農林事業の近年の申請状況はどうか。
- (2) 本年度から始まった、農林業経営支援事業の補助内容はこういったものか。
- (3) 農林業経営支援事業の課題と対策は。

3. 公共施設の整備について。

農村環境改善センターは多目的研修施設として昭和55年に建設され、築45年となった。近年、老朽化に伴う改修工事が行われてきたものの、更なる改修を求める声も多い。

特に、ホールの空調設備については、改修を強く求められているが、その計画はないのか。

以上、壇上からの質問といたします。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

7番 三石孝議員の御質問についてお答えをいたします。

1. 見守り支援事業についてということで、(1) 見守り支援事業の内容と利用状況はどうかというお尋ねでございますが。令和2年に実施された国勢調査によりますと、本町の高齢独居世帯は493世帯であり、平成27年調査時点の428世帯から65世帯増加している状況です。高齢化率につきましても、令和7年3月31日現在33.7%であり、その率は年々上昇してし続けている状況であります。少子高齢化、核家族化が進展する社会において、高齢者のライフスタイルや生活意識、ニーズ等の多様化など様々な生活課題が予測され、地域全体で高齢者を支え合う体制づくりは重要となっております。

現在、本町におけます高齢者の見守り支援体制につきましては、自治会をはじめとして民生委員児童委員、社会福祉協議会、高齢者等見守りネットワーク協議会、見守り協定事業所等により、独居高齢者が安心して生活できるよう見守りを行っています。見守り事業としまして、緊急通報体制整備事業と安心見守り事業があり、緊急通報サービスは急な病気等に対応するため、独居高齢者等に緊急通報装置を貸与し、安全センターと24時間結ぶことにより、家庭内で発生した緊急事態の連絡支援体制を確立し、日常生活における不安解消に努めているところであります。

令和6年度末の緊急通報装置貸与件数は固定型45件、携帯型が54件の合計99件になります。緊急対応となったケースは、令和6年度は3件でありました。

安心見守り事業は、行方不明になる恐れがある高齢者にQRコードの書かれた見守りシールを交付し、衣類等に張っていただき、行方不明になった際、発見者がQRコードを読み取ると家族等にメールが届き、専用の伝言板上で発見者と家族等とのやりとりができスムーズな保護につながるも

のであります。令和6年度末の登録者数は12人になります。現在この事業の利用により保護につながったケースはございません。

(2) その周知方法はどうかとお尋ねですが、本町では、民生委員、児童委員協議会や老人クラブ連合会に訪問し、事業内容を説明し周知を図っております。また窓口での周知のほか、広報やホームページなどにおいても装置の内容や利用方法について掲載をしております。

安心見守り事業は毎年1回行っております。徘徊模擬訓練において実践を交えた周知を行っております。今後も引き続き利用した人が、適切に利用できるよう周知に努めてまいりたいと思います。

次に、2. 農業振興についてということで、(1) 小規模農林事業の近年の申請状況はどうかとお尋ねですが。小規模農林事業は、農林業の近代化及び生産力の増強と経営基盤の強化を図るために、国や県の補助対象とならない小規模な事業を実施する団体または個人に対して、町の単独事業として補助を行っております。

申請状況については令和6年度の実績として26件あり、内訳として、申請が多いものから用排水路整備が11件、農林道整備が4件、農地等災害が4件、暗渠排水整備が3件となっています。令和7年度については5月5月末現在で10件の申請を受け付けています。

(2) の今年度から始まった農林業経営支援事業の補助内容はこういったものか、とお尋ねですが。これまでの補助事業は、担い手として認定農業者や、集落営農法人、そして同一品目を作付栽培する複数人で構成する任意組織などに限られていましたが、一般の農家にも門戸を広げようと制度設計を行っております。

補助対象者は波佐見町に住所を有し、町内で農林業経営を営む団体または個人で、町税等の滞納がないものとしております。また補助対象経費については、農産物生産に係るものを対象としており、3つのメニューを用意しています。

まず中高含む農業用機械の導入に要する経費については、事業費上限が100万円、下限20万円とし、3分の1を補助しております。次に農業用機械の資格免許取得に要する経費については、対象経費の3分の1を補助しております。

次にスマート農業の導入に要する経費については、事業費上限120万円、下限20万円、対象経費の2分の1を補助しようと考えております。また認定農業者や集落営農法人については、補助率の5%加算を行うようにしております。

(3) 農林業経営支援事業の課題と対策は、とお尋ねですが、現在の波佐見町の農業の現状は、認定農業者や集落営農法人が管理している農地が全体の36%程度で、残りの6割近くの農地は、一般の個人農家の方が管理をされており、その方々も高齢化し、また近年の夏場の猛暑など農作業には大変苦勞されているのが現状です。

この事業は、その波佐見町の農地を支えられている、一般農家の経営を少しでも支え農地を維持

してもらふことを目的として、3か年の実証事業として立ち上げたところでございます。本事業の課題としては、今年度が初年度ということもあり、所要額の把握が困難であったことが一番の課題であったと考えております。

事業をスタートし、4月中旬には当初予算枠を上回る申請がなされ、補助率の調整を行うとともに、本議会により当初予算を倍増する補正議案を提案し、対応することとしており先日承認をいただきましたが、それでも全ての要望にこたえることができない事態が生じております。このため今後引き続き、来年度に向けて農業者の要望、把握に努めるとともに、予算にも限りがあることから、要望把握と同時に、どのような判断で要望の優先度を高めるかなど、補助制度の見直しも含め検討を行うこととしております。

3. 公共施設の整備について。

農村環境改善センターは多目的研修施設としてございますが、そのホールの空調設備について、改修を強く求められているがその計画はないのか、とのお尋ねですが。改善センターの最近の大きな改修工事については、長寿命化計画に基づき令和元年度に屋上防水工事、令和4年度に外壁の改修を行っています。ホールの空調については、老朽化が進んでいるためと思われませんが、若干の異音が発生している事実は確認しております。今後どのような対応ができるのか、専門家と協議しながら検討してまいりたいと考えております。

以上で、壇上からの答弁を終わります。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

最初に見守り支援事業について、ということで。同僚議員から先ほど同じような、孤独死との関連で見守り支援についての御質問があった際に、確かに町長のほうからは、町が全ての方の見守りを含めて見ることは物理的にも難しいと地域の人たちと一緒にあって、守って支えていかなくちゃいけないというふうなこともおっしゃいましたが、実際問題、この緊急通報システムの存在によりまして、いろんな形で、安心を町民に届けられていらっしゃるんだというふうには理解しております。

この制度を運用されてる形になりますが、行政のほうには感謝申し上げているところではございますが、まずもってこの緊急通報システムというのは、独り暮らしの高齢者及び身体障がい者等に対してということで、目的として第1条に書かれておりますが、波佐見町における高齢者に限らず、一人暮らしの方というのは、実際何世帯ぐらいあるというふうなことで把握をされてますか。

○議長（尾上和孝君） 小佐々住民福祉課長。

○住民福祉課長（小佐々慶太君）

令和7年4月末現在の波佐見町住民基本台帳によれば、全世帯数5,548に対して、単身のみは1,631

世帯となっており、内訳として65歳以上は886世帯、65歳未満は745世帯となっております。なお、この中には、家族内でも住民票を分けている方や病院施設などに住民票がある方も含まれております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

先ほどシステムの内容について町長のほうから壇上から御答弁がございました中身についてですが、より具体的にその内容について、町民の方が全て御存じではないということもありますし、お知らせ等の周知の方法等もありますから、この議会の一般質問の場をお借りしまして、できれば内容について担当課のほうから御説明いただければと思いますがいかがですか。

○議長（尾上和孝君） 井関長寿支援課長。

○長寿支援課長（井関昌男君）

この一般質問の中で、緊急通報システムと安心見守り事業についてのもので、説明ということですので、せつかく時間を頂きましたので、モニターをちょっと見ていただきながら説明をさせていただきたいと思います。

それではまず緊急通報システムの設置事業でございますが、先ほどですね対象者は話がありましたとおりでございます。健康に不安のあるおおむね65歳以上の独り暮らしの高齢者等になります。利用者の健康相談や緊急時の消防への通報など、緊急ボタンを押すことで、受信センターにつながる緊急通報装置の貸与を無料で行っております。

この看護師が24時間365日対応されている状況でございます。タイプは2種類ございまして、固定型と携帯型がございます。今写真に載ってる部分が固定型になります。ボタンは緊急ボタン。それと相談ボタン。もし間違っただけの取消ボタンがございます。固定型にはペンダントがついておりまして、このペンダントはですね押すだけで受信センターにつながるようになっております。

次のこれは携帯型になっております。緊急時の場合はですね、上のストラップを上げますと受信センターにつながるようになっております。

続きまして、これは見守り安心事業でございますが、在宅で生活する、認知症高齢者及び介護する家族の支援のために行っている事業でございます。行方不明になる恐れのある高齢者の情報を事前登録していただく必要がございます。

QRコードつきの見守りシールを交付いたしまして、このシールを高齢者の方に、服や帽子やつえなどに貼り付けていただき、もし行方不明になった場合に発見者がQRコードを読み取ると専用の伝言場で、発見者と家族等のやりとりができ、スムーズな保護につなげるものでございます。

以上で、この緊急通報システム設置事業と、安心見守り事業についての説明を終わりたいと思います。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

この事業はですね要綱がございまして、要綱の目的は先ほど申しましたとおりですね、独り暮らしの高齢者及び身体障がい者に対してというふうなことで規定されております。

実際のところですね、お独り暮らしの数は先ほどおっしゃっていただきましたが、またこの4条のほうに、お独り暮らしの高齢者という規定の中の意味合いを、意義を書いているんですよ。「おおむね65歳以上の独り暮らし」というふうなことで具体的書かれている。

このおおむねというのはどういうふうに理解してよろしいですか。

○議長（尾上和孝君） 井関長寿支援課長。

○長寿支援課長（井関昌男君）

この先ほど言われました緊急通報システム設置事業の実施要綱であります4条の対象者でございます。このおおむね65歳以上の独り暮らしと、その対象者をちょっと読み上げますと、「おおむね65歳以上の独り暮らしの高齢者またはそれに類する高齢者」と「独り暮らしの重度身体障がい者等」とその他、特に町長が必要と認める者という状況でございます。おおむね65歳以上というのはその状況でございますが、過去に申請があった方で50代の方もこの設置の状況で申請をされて決定をした経緯もございます。

申請する際にこの身体状況であるとか、健康状態それで日常生活状況を把握しながら、本当適正に必要な方に貸与決定をしているという状況でございます。以上です。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○長寿支援課長（井関昌男君）

今御回答があったように、65歳という年齢的には区切ってありますけど、概ねという解釈の中でも、現実的にこの緊急通報システムを御利用されてる方の数というのはわかりますか。

○議長（尾上和孝君） 小佐々住民福祉課長。

○住民福祉課長（小佐々慶太君）

こちら住民福祉課では把握しております数ですが、全体が令和7年4月末現在で98件の登録がございまして、議員が恐らくお尋ねになられていらっしゃる64歳未満の数ですが第4条の（2）に該当される方が1名いらっしゃいます。以上です。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

この制度を利用するにあたって、もう一つやはり条件がございまして。5条に緊急時に対応できる協力員を3人確保しなければならないと、こういう条件がございまして。この辺についての意味合いはどういう意味を持っているのか。その内容について御説明ください。

○議長（尾上和孝君） 井関長寿支援課長。

○長寿支援課長（井関昌男君）

申請時に協力員を3名出していただくような形になります。この緊急通報で利用者がボタン押された場合は、安全センターに行きまして、それ現地に駆けつけて状況を把握していただくということで協力員を3名お願いしている状況でございます。

近所の知り合いの方であったりとか、民生委員さんであったりとか、そういうかたちで、駆けつけていただける方を3名していただいて、安全確認をしている状況でございます。以上です。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

このようにですね町、行政ができることを、いろんな民間を使いながらですね、見守りたいと、支援をしてるというふうなことでございますし、町長が発言なさったように、やはり行政だけではできなくて、この制度の中でも近隣の人たち、緊急時に現場に駆けつける人たちのスタッフ、やはり地域のコミュニティーがやはり必要になってくるということでございます。

そういう意味からするとやはりこの活用に当たっては、限られた人になってはいるものですね、やはり申請があった際には、その方の御事情とかをしっかりとお聞きになって、この年齢とかに関する範囲をちょっと拡大しながら、やっていただきたい。そういうふうに思います。

といいますのも、私の知り合いが数人ですね、緊急通報システムを知らなかったばかりに、おひとり暮らしの方が救急車で運ばれて大きな病気にかかってしまわれたとそういうようなこともございました。そういう中からすると、いろんな方たちの御事情があって御相談があったときにはまた、そういう形で相談を受けてやっていただきたい。

また先ほどのQRコードをつけて例えば認知症の方で徘徊等の症状がある方についてはですね、第三者が介入しないとその情報が家族に伝わらない。これもいろんな形で利用者が少ないということでございますが、なかなかこれに対する解決策はないとは思いますが、何かいい方法があったら、いろんな形で町民の生命を守るために御努力いただければと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 井関長寿支援課長。

○長寿支援課長（井関昌男君）

まず年齢の状況もお話しされましたので、ついでにちょっと御紹介させていただければと思うんですが。今長崎県の救急安心センターというところですね——これはもう年齢関係なしです。救急車を呼んだりとか、病院に行ったりとか、もし迷った場合は、これは救急医療電話相談というのがございまして#7119こちらに電話していただければつながります。

この状況で実際救急車を呼んでいいのかどうかというところの悩んだ場合もこの#7119。こちらに電話していただければ、24時間365日で対応されておりますので、この御利用をしていただければと

いうふうに思っております。

今後、安心見守り隊の状況については、今後も全国的な取り組み等も参考にしながら、波佐見町にとってどういうものかいいものかですね、取り入れながら勉強させていただきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

ぜひともいろんな形で研究していただいて、また新しい制度があったらそれを普及していただく。周知の方法も先ほど答弁にございましたように、いろんな形で出向いて行ってですね、御紹介して行って。それが一番早くて理解もできますし、質問があったときの対処もできると思いますので、その辺を頭に入れて今後進めていただきたいというように思います。

続きましてですね、ちょっと順番は前後しますが、公共施設の整備についてということのほうに先に質問させていただきます。ここはもう限られた施設ですね、農村環境改善センター。これについての改修の件でございますが、先ほど答弁の中ではやはりホールにおける空調機の音、騒音って言ったならあれですね。空調機の排出口といいますか、そこのほうからの音が、ちょっと耳障りがするというふうな状況で伺っております。専門家に見てもらって対応したいということでございますが、農林課のほうではどのような把握をされてますか。

農林課のほうではどのような把握をして対応しようと考えていますか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

ホールのそういった異音ということで御要望が出ておりますので、ちょっとどういった原因でそういった異音が発生するのかというのはちょっと我々ではちょっと分かりかねるところがございますので、専門家等々にお尋ねしながら対応してまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

専門課で対応していただくということで、私も先ほど答弁あったんですけど、実際これ結構前からそういう状態が続いてるというのを伺っています。多分もう一回は専門家に見てるんじゃないかな、というように思っておりますが。それでも改善されなかったというので、私のほうにもたくさんの方がですね御声を上げていただいたと。

そもそもですね、この施設の使用目的は御存じのとおり、地域社会の連帯感の向上に関するとか、農林業の経営技術の向上に関するとか、云々かんぬんということで南地区ではやはり唯一の公共施設っていいですか、なっております。

現在この施設には、駄野地区の土地改良区、災害時の避難所にもなっています。「のんなっせ号」のバス停留所になっています。日本赤十字波佐見町分区ですか、それと長崎県共同募金会。町ボランティアセンター等々がございます。

いろんな形で農村環境改善センターは利用が多いと。そういうことを考えますと、のんびりもしておられないわけですね。

要は何でかって言ったら、もう梅雨に入ります。入りました。こういう時期は先ほども言いました避難所になっています。騒音というか、この湿気対策には空調機を使います。数がたくさん入れれば、やはり使用頻度も上がりますし、その休む睡眠時にですね、やはり切らすわけにいかない。騒音がそういうふうな状況になってるのに、これはゆっくり考えちゃおられんなというふうに思いますが、どうですか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

そういった今後の利用状況も考えられると思いますので、なるべく早く業者さんとちょっと打合せを行いたいと思っております。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

避難所については指定避難所ということです。

もう一つは7月に参議院選挙も予定されております。選挙でいったらいろんな形で、町長の選挙があつたり、県議の選挙があつたりというふうなことで続く。そういう中での個人演説会を開催するにあたっては公職選挙法の中でも、公営施設として農村環境改善センターというのが指定されています。

そういうことも含めてですね、急いで改修しないといけないというように思いますし、その改修に当たっても施設整備室というのもできます。だから今までのスピードじゃなくて、もっと速いスピードで対応できるような体制も、公共施設についてはできておりますから、それを活用しながらスピード感を持って進めていただきたいと思いますと思いますが、町長どうですか。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

私も3年前の選挙のときは改善センター使わせてもらいまして、冷房も入れさせてもらいました。ただ声が聞こえんやっつというほどの音が出たという感想はございませんので、ちゃんと音声マイクを使っておりましたので声は届いてたように感じます。

おっしゃるとおりかなりあそこの施設も古うございますので、それぞれ老朽化しまして、それぞれの設備もそろそろ更新時期に入っております。そういったことで、それぞれの施設につきまして

は長寿命化計画ということで、不具合のところは修繕をしながら、何年も持たせるという方針で整備しております。その中におきまして御指摘の改善センターの空調設備——これは各部屋の空調は私がちょうど農林課の担当的に入替えた経過がございますが、ホールについてはですね、たまたまあそこボイラーというか、チラーを使った個別の空調施設になつとるわけですね。かなりの経費を要したもんですから、そこだけはちょっと配管の改修ぐらいで済ませた経緯がございます。

おっしゃるとおり早急な改修を望まれる声が多いということでございますので、今後の毎年振興実施計画、次年度以降の予算配分がございますので、その中で年次計画を持ちながらですね、対応してまいりたいというふうに思っております。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

今進んだ回答を頂きまして、その方向でぜひとも年次計画も含めて、振興計画の中に取り入れていただきましてやっていただきたい。いうふうに思います。それについても一丁目一番地の振興計画の中に入れていただきましてですね、早急にやっていただきたいというふうに希望をいたしておきます。

引き続きまして、2番に戻りまして農業振興についてです。他町に比べて農業振興に関しても町単独で、土地改良関係におきましては小規模農林事業をもうずっと前から進めていらっしゃいます。それも採択基準も見直し見直しということで、利用しやすいように改正もされてきているのも事実でございます。今回もいろんな形で利用される方が多いということでございますが、この小規模農林事業のですね、本年度の予算については幾らになっていきますか。

○議長（尾上和孝君） 太田農林課参事。

○農林課参事（太田克宏君）

7年度の予算につきましては600万円となっております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

600万円ですね。これは皆さんも当然御存じなんですけど、本年度は当初600万円ですけど、もうずっと遡っていきますと最初は定額で予算組まれて、申請が多いからちゅうことで補正を組まれている。このケースが結構ありまして、大方これぐらいの予算でよかろうということで、お組みになってるというふうに思います。

実際のところ、この小規模農林事業におきましても、令和5年が利用されたのが554万5,000円。令和6年度が983万8,000円。令和7年度が今のところ464万1,000円という

やはり農業者が本来これは補助額ですからね。本当の工事費がもっと補助率との関係で、多くなるのですよ。それだけ農業者は農地へのアクセスとか、今は減反政策を見直してどうか言います

けど、この同僚議員の農業に関する質問の際に町長がお答えになりましたのでね。なかなか減反政策をずっと進める中できていたので、生産調整をやってくださって、今米作りなさいているのですが、これはもう実際に米作ってくださいとなったら水が足りないのですよ。そういう意味からしても、水路に関してはいろんなかたちで老朽化してます。

区画整理事業というのをやられてから、もう半世紀近くたちますので、圃場整備をされているところでもですね、この間の駄野地区のやり直しちゅうか、区画整理されたように、どこの農地でも水路が傷んでる状況でございます。だからこそ皆さんができる範囲内で、この小規模農林事業を使ってやられているということでございます。

今後この事業をするに当たっても、現在のところ令和7年度で600万円の予算に対して、464万1,000円というふうな形でいってますが、この状態が予算をオーバーすることが、仮にあったらどういふふうに対応されますか。

○議長（尾上和孝君） 太田農林課参事。

○農林課参事（太田克宏君）

予算がオーバーする場合にとの御質問でございますが、申請の内容によって検討させていただく部分はあるかと思うんですが、やはり水路の関係とか緊急を要するものですか、災害復旧に要するものというところは、私たちとしては補正をお願いしたいとは思っております。

ただ、農道の舗装ですとか調整が可能なものについては分割してお願いしたり、次年度でお願いしたりという部分はあるかと思えます。以上です。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

もう緊急性があつてね、災害が発生してどうにもならないということも当然ありますし、国県の災害は適用基準に合わなかった場合には、何とかしないと農業者がどうにもならないという状況になりますので、その辺に関しては積極的に予算立てをしていただきたいというふうに思います。

さて次のですね、今回新年度で初めて新設されました農林業経営支援事業補助金というふうな事業についての御質問をさせていただきます。

この内容についてですが、広報はさみに載っております部分の御紹介の中身について、それぞれの項目で少しずつ質問させていただきたいと思えますのでよろしく願いいたします。

まず、対象になる農業者は波佐見町に住所を有し、町内で農林業経営農産物とかね、出荷販売を営む団体または個人ということになっておりますが、やはりこういう人たちについては家庭菜園をやっていて、例えば直売所に出すような農家さんはどうなりますか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

家庭菜園というところが、ちょっと基準というのが我々としては今のところはっきりはしておりませんが、農業経営ですね。ですので、その収入が農業の経営に入っていくというところであれば対象になってくるかなというふうに思っておりますが、家庭菜園のレベルというところがまだ明確な判断ができてないところでございます。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

それではですね対象経費ということで、農業用機械導入に関する経費というところは中古も含むということですが。これは先ほど町長の答弁では3分の1というふうなことで御答弁があつてますが、補助額の対象額の50%以内。これは3分の1が50%以内に該当しますので、問題ないのですが、事業費が上限100万円。こら辺はもう機械購入における対象費の50%以内。50%までは出せますよということですが、これはどういうものを購入したときに、この50%までになりますか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

当初はですねそういった50%以内というところでこの事業を始めさせていただいておりましたが、補正予算の折にも御説明申し上げましたが、4月スタートしてもう本当、中旬第2週ぐらいには当初予定をしておりました300万円の枠を超える勢いで、そういった要望がなされてまいりました。そうした折に、この50%というところを考えてみる時ですね、できるだけ多くの農家の方に我々は届けたいと、この予算を有効利用したいというところを考えまして。それと一つ参考にさせていただいたのは、県の事業とほかの事業が3分の1というところがございましたので。当初は確かに50%というところで動き出したんですが、先ほど申したとおり、多くの方にこの事業を受けていただきたいということで、3分の1という方針を出しまして、対応をしたというところでございます。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

ここの対象経費の中に今申し上げました農業経費、農業用機械の資格、スマート農業の導入とこの3項目あります。これは例えば当初予算の300万円に関して、割り振りとか、ある程度の予定を組んで、300万円の予算を使い切るというふうな御予定だったのですか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

対象給付費として、三つのパターンというか、対象物がございましてそれぞれに予算枠を設けてというのは考えておりませんでした。全体的にということで、当初300万というところで予算化をし

ております。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

最後の欄に認定農業者は上記補助率に5%を加算すると書いてある。これは基本的に認定農業者を優遇する措置だというふうに私も理解しますし、法人であるとか認定農業者の人たちが率先して農業引っ張ってらっしゃるといふこともあるだろうと思います。が、認定農業者に登録しながら、いろんな形で農業振興を進める方たちにとって、「たった5%や」ということでございます。

認定農業者は何人いらっしゃいますかって、今これぐらいいます。認定農業者も高齢化でというのが行政側の答弁。

じゃあ認定農業者の利点、メリット、どこにあるんでしょうか。となったときにはですね、できるだけこの認定農業者に対する上記補助率に対して5%という低い利率じゃなくて10%、20%を出してでも認定農業者の育成も含めてやられたらどうかと思いますがどうでしょう。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

この事業においては5%でございます。ほかの国の事業、県の事業におきましては先ほど事業の目的であるそういった一般の農家の方を対象にするというところから考えを持ってきておりますので、今、認定農業者ということでお話がありますが、そういった一般の農家の方はそういった国の事業、県の事業というのは受けられません。当然そういったところで認定農業者の方は一般の農家の方よりも補助事業的に恵まれていると言ったらちょっと表現おかしいでございますが、いろんなメニューがほかにも、対応できるというメニューがございます。

ですので、認定農業者の方がここで優遇されていないんじゃないかという趣旨の御質問だと思っておりますが、我々としてはまず5%というところでですね、ほかの一般の農家の方にとにかく広く行き渡るような形でいきたいと思っておりますので、御理解のほうよろしく願いいたします。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

理解します。そういう理由があるならばそういうことで、認定農業者の方も御理解なさると思います。

この補助金の交付要綱というのがございまして、これは補助対象者等という2条にこういうことが書いてあります。補助回数。同一年度において1営業体あたり1回限りとする。1年度内ということで、これは年度が変われば同じ人もまた必要に応じて申込みまたは申請が可能だという理解でよろしいですか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

第2条に第2項、補助回数は同一年度において、1経営体当たり1回限りとするという項目を設けております。この項目、この要綱を読むところであれば、来年度は可能ということになってまいります。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

要綱を読むところによればじゃないですよ。要綱に書いてあるんだから。そういう理解でよろしいということで、しっかり御答弁をお願いします。

では基本的にこの要綱の中に第1条に、この要綱は農業者の確保及び育成を図り、地域農業の振興と農村地域の活性化に資するために、予算の範囲内において補助金を交付する。しっかり書いてあります。

そして広報はさみにおいても、予算の都合もありますのでと、活用の御希望のある方は早めに農林課農政班まで御相談くださいと。こういう文言が使われています。確かにそうですね。300万円の当初予算が2週間でパンクしたと。今農林課長も答弁されています。ただですね、この2週間というのは、4月1日からの2週間だと判断しているんですけど、それに間違いはないですか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

そのとおりでございます。4月1日からの2週間でございます。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

そうしますとですね、多分4月14日の日に自治会長会が開催されまして、自治会町会を通じてですね、町民への配布物が、その町民に届くのはやはりこのスケジュールからするとやっぱ20日前後です。早いところは、20日前後というのはもう2週間過ぎているじゃないですか。一般の方たちが、この情報を知る機会は平等であらんといかんですな。そこに過ぎた段階で、農家が見られている。

しかしこれを見た瞬間に、行かんばいかんねって行かれたら、窓口でもうパンク状態ですよというふうなことで、申請まではできませんでしたという人が数名いらっしゃいました、私のところに。

その人たちに対しては、やはり早く情報を知り得た方々がやはり得をするという状況になっている。すなわち町民の農民の農家の人たちの不平等感が蔓延している。それに対してどういう対応をこれからされますか。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

我々もこの4月1日、始まってからもう1日からですね、そういったお話を頂いております。そういった方々の情報収集というのはいかにのかというところで、後だってお話を聞いたところ、一つは機械を買おうと思ってそういった販売所に行ったらそういった事業が始まるらしいよという情報をもらったというところが一つ。それとあと議員さんから聞いたという方もいらっしゃいました。

それと、この放送が流されておりますので、波佐見テレビで見たという方もいらっしゃるかもしれませんが、そのどのよう形で最初に情報を仕入れたかという調査までは行っておりませんが、今のところそういった3パターンかなというふうには思っております。

それと農業者の間で、あるらしいよというのが横に広がっていったのかなというふうに思っております。確かに最初に農家全員の方に等しく情報を知らしめる手段として広報はさみの4月号に掲載をしております、20日前後に届いた方からも、いらっしゃるかと思っております。

先ほど申しましたが、中旬ぐらいに300万円の枠がもう突破するだろうと。しかもですね3分の1の補助率にして、300万円を突破するだろうというのがもう分かっておりますので、広報が届いた後にまたそういった方が来られるかもしれないというところありましたが、今回、今年度につきましてはですね、まず初年度というところで300万円の対応、プラス300万円で600万円ということで、させていただきたいと思っております。

そういった情報を後から知りえたという方の対応については、というところで御質問でございますが、そこにつきましては窓口で御説明を申し上げまして、来年度の予算の参考にさせていただきまますということですね、一応御理解をいただいたと我々は思っておりますので、来年度申請をなされるものと、いうふうに思っております。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

課長は私の質問をちゃんと聞いて、質問に答えてください。情報がどうだこうだ、だらだらだら話をされても全然話が進みませんよ。

私が聞いたのは漏れた人とか、そういう人に対して最後におっしゃったような内容の具体的なものを聞きたかった。情報をどこから仕入れたかどうか、こうとかというのを説明してくださいって一言も言っていません。頼みますよ、答弁。

この問題は確かにですね大きな、農家にとっては問題となっております。これに対して町長はどういうふうにお考えになってるかということをお聞きしたいのですが、私町長が当選されて令和4年の9月の最初の議会の折に町長が公約として、私がやることリストの中に、農業の収入アップについて、農業振興を進めるというふうに書かれていらっしゃいました。具体的な取り組みは今持ち合わせてないというのが回答でございました。御存じだと思います。

記憶にあると思いますが、このようにですね、すばらしい制度をお作りになってます。なるほど、この数年間でこういう制度を作るためにいろんな研さん、研究をされてこられたんだなというふうなことで、敬意を表したい。

まさしく農業者が喉から手が出るように、欲しいものをちゃんと考えて制度化されたということに対しては、本当にありがたく、私も農家の一人として感謝守り申し上げたいと思います。そういうことで直接的ではございませんが、所得向上、政策に間接的に資するものでございます。

御存じのとおり中山間が多い波佐見町の農業においては「機械が古くなって動かんごとになったけんがもう一回買おうか。もう買えないから農業やめよう。」という人がたくさんいらっしゃる。その中で、少しでも農家のためになるように、農業を続けてほしい、そういう思いでお作りになったと思います。

こういう農家の期待に答えるような制度をお作りになった町長、今後この農機具等の農林業経営支援事業をぜひとも続けていただき、チャンスがあつて予算があればですね、9月にも、今回6月に300万円の補正ありましたけど、9月、12月と小規模農林事業と対比しても劣らないような制度に作り上げていただきたいと思いますが、いかがですか。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

非常に力強いお言葉を、何かはじめて三石議員から褒められたようなんですがありがとうございます。

おっしゃったとおりですね、私も本当に農業に非常に危機感を覚えています。今国が米不足だ、いろいろ言っていますが、本当に農地が守られていくのかと不安でございます。やはり、ずっと言っていますが、日本は食料と防衛は安全保障の基幹だと考えておりますので、そういった農地を守っていただくのは本当に農業者でございます。いくら消費者が農地を守ると言っても、誰も加勢には来てくれません。

実際、草刈りをしたり、農作業したりしているのは農業者でございますので、そういった方々の少しでもお力添えになるような施策を今後もしっかりと考えていきたいと思っておりますし、今回の補正につきましても、当初予算の倍にはなりましたが本来ならばもう少しという要望もたくさんございました。しかし当初予算として設定した以上、4倍も5倍もつけるわけにはいきませんので、やはり農業者の方に御理解をいただきまして、次年度にちょっと御要望ということでお願いしたところでございます。

今後とも要望しっかりお受けしながら、施策を進めてまいりたいというふうに思います。ありがとうございました。

○議長（尾上和孝君）

以上で、7番三石孝議員の質問を終わります。しばらく休憩します。

13時30分から再開します。

午後0時10分 休憩

午後1時30分 再開

○議長（尾上和孝君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、1番 前田博司議員。

○1番（前田博司君）

皆さんこんにちは。昨夜からの雨も多少小康状態に入り、ちょっと落ちついてきたかなとは思っております。今朝も朝早くから職員の方がかっぱを着て、出かけられるのを見て、また大変な時期が来たなと思っております。大きな災害が起こらなければ良いなと思っております。それでは通告に従い質問をします。

1. 災害時における避難所について。

近年、全国各地で大雨・ゲリラ豪雨に伴う災害が発生することが多くなりました。過去、大雨による大被害を受けた方の声では、「避難準備情報の発令を耳にしても避難を始める情報として認識できなかった」や「まだ余裕があるだろうと思った」などという声があります。

大雨やゲリラ豪雨による被害予想ができていないケースが見られると聞いたことがあります。いかに備えた心構えが大事なのかと考えさせられます。

そこで、次のことを問います。

（1）災害時における指定避難所、指定緊急避難所、福祉避難所とは、それぞれどのような役割をするのか。

（2）指定避難所等以外の避難所にはどのようなものがあるのか。

（3）災害の種類によっては指定避難所が変わることがあるのか。

（4）避難情報等の発令や避難所開設のタイミングについて、町民の方は十分な認識ができているのか。

（5）自治会や事業所等における避難訓練や防災意識の醸成を図る啓発はできているか。

2. 各地区の公民館について。

各自治会の公民館や集会所は地域住民の交流の場・憩いの場としてだけではなく、災害時の避難所としても重要な役割があると考えますが、人口減少などにより施設の維持が困難になりつつあると聞いております。

そこで、次のことを問います。

- (1) 今後、各地区の公民館が果たす役割についてどのように考えるか。
- (2) 各地区の公民館等の老朽化の状況は把握できているか。
- (3) 建て替えに対する現在の補助制度は十分と言えるか。

以上、壇上からの質問を終わります。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

それでは1番 前田博司議員の御質問についてお答えをいたします。

1. 災害時における避難所についてということで、(1) 指定避難所、指定緊急避難所、福祉避難所とは、それぞれどのような役割をするのかとお尋ねですが。

まず指定避難所ですが、災害時に避難者や被災者が災害の危険性がなくなるまで一定期間滞在する施設で、本町では、町が所有する公共施設に加え、各自治会の公民館を指定しています。

次に、指定緊急避難所ですが、災害時の危険が逼迫した状況や、災害発生時に緊急的に避難する場所や施設で、本町では町が所有する公共施設に加え、各自治会のグラウンドを指定しています。

そして福祉避難所は、高齢者や障がい者の方など特別な支援が必要な方々を対象としたもので、本町では介護施設を中心に協定を締結の上、6か所を指定しています。

(2) 指定避難所等以外の避難場所にはどのようなものがあるのかとお尋ねですが、先ほど申し上げました指定避難所等は、自宅や避難経路が土砂災害等の災害により、危険がある場合や災害からの復旧が自宅で困難な場合に避難していただくものです。

一方で町が指定する避難所のほかに親類、知人宅や宿泊施設に避難すること自体は何ら問題ございません。また、自宅周辺に差し迫った危険性が少ない場合など、自宅での安全が確保される場合は、必ずしも避難所に避難しない——いわゆる自宅避難でよいと判断しています。

(3) 災害の種類によっては指定避難所が変わることがあるのかとお尋ねですが、これら指定避難所等のうち、土砂災害等の警戒区域に入っているなど、災害の種類によって避難に向かない施設もあるため、その類型ごとに避難の可否を定めています。

これら指定避難所等の指定状況や対象とする災害の種類については、毎年6月の町広報紙及び町ホームページで周知をしております。

(4) 避難情報等の発令や避難所開設のタイミングについて、町民は認知できているのかとお尋ねですが、本町では大雨警報等の警戒レベル3から以降の気象状況等を総合的に判断し、高齢者等避難を発令の上、町内3か所の公共施設を避難所として開設し、その後の気象状況や災害発生状況に応じて、避難指示の発令や追加の避難所を開設することとしています。

また避難情報については防災無線、防災メール、町ホームページ、LINE、エリアメールを通じて町民の皆さんにお知らせしており、国のLアラートを通じて報道機関にも情報提供を行っていま

す。

これらの運用も含め災害への備え、対応については、令和5年3月に全世帯に配布をしました波佐見町防災マップでも周知しているところです。今後ともこれら災害の対応を積み重ねることで、町民皆様の認知を高めてまいりたいと考えています。

(5) 自治会や事業所等における避難訓練や防災意識の醸成を図る啓発はできているのかとのお尋ねですが、自治会については自主的に支え合いマップづくり、避難訓練、防災講習会などを通じて、避難経路の把握や防災意識の醸成を進められています。また担当課においても、自治会役員やボランティアを対象とした防災研修会も定期的に行い、自治会訓練にも出向いて連携を深めています。

加えて、事業所については、物資の提供等を目的に災害時応援協定の締結を進めており、引き続き地元事業所を含めた啓発を行い、連携の拡大を進めてまいりたいと考えています。

2. 各地区の公民館についてということで、人口減少などにより施設の維持が困難となりつつあるがということで、(1) 今後、各地区の公民館が果たす役割についてどのように考えているのか。

(2) 各地区の公民館の老朽化の状況を把握できているのか、とのお尋ねですが。各自治会の公民館は昭和50年代前半から国や県の補助制度を活用して整備されたものが多く、自治会総会をはじめとする各種行事をはじめ、最近は介護予防運動などの場所としても利用されており、住民自治と地域住民の融和と親睦を深める重要な施設として認識をしております。

併せて自治会の連合班単位でも集会所を保有している自治会も多く、自治会公民館を中心とした自治会の組織的な活動の一翼を担っているものと認識をしております。一方で自治会公民館をはじめ、連合班の集会所の多くは今後築50年を迎えることになり、一部施設では長期的な維持補修の時期になることから、これらを見据え、基金積立て等を行っている自治体もあると聞き及んでいます。

そこで、今後各自治会の公民館が果たす役割についてどのように考えているかとのお尋ねですが、町としては、自治会の公民館が果たす役割は大きいものがあり、引き続き積極的に活用していただきたいと考えています。

一方で施設が長期的な維持補修の時期を迎え、今後の自治会活動を見据えた場合、施設の在り方についても、規模や統廃合について自治会内の論議や、検討が行われることを期待するものです。

いずれにしても、自治会所有の施設でありますので、行政としては、よりよい議論と検証ができるよう、自治会に対し情報提供や相談に応じたいと考えています。

(3) 建て替えに対する現在の補助制度等は十分と言えるか、とのお尋ねですが。各地区の公民館建設に活用できる補助制度としては、まず本町単独事業の地域振興事業補助金があります。そのメニューの中に公民館建設事業があり、公民館の建設に対し、地域ごとの補助率のもとに、事業費上限として1,700万円が設定されています。補助金限度額で申しますと地域により510万円から680万円

となります。

そのほかに、一般社団法人自治総合センターが実施しているコミュニティーセンター助成事業という補助メニューがあり、登記名義人が単独の認可地縁団体であることなど、一定の条件のもとに、対象となる事業費の5分の3以内に相当する額で、補助金の限度額として2,000万円までの制度があります。

現段階でお示しできる補助制度としてはこの2つの制度となり、昨今の原材料高騰など物価上昇時代において、決して十分ではないかもしれませんが、現行制度を十分に活用していただき、時代に合った適正な規模において公民館の建設について御検討いただければと思います。

以上で、壇上からの答弁を終わります。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

それでは再質問していきます。ちょっと資料がばらばらになったんで、順番が前後するかもしれませんが申し訳ありません。

まず避難所ですがそれぞれの避難所ですね。避難所としての表示があるのか。また周辺に避難所への誘導ができるような看板があるのか。

よその町に行くと、波佐見には関係ないですけど、ここの場所は海拔何メートルですよという表示もよく見ます。避難所こっちですよって書いてある、避難所まで何メートルとかというのがありますが、波佐見町に現在そういうのがあるのか。必要だと思うのですが、どうでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

まず指定避難所でございますが、玄関のところに避難場所ということは表示をしております。先ほどちょっと話違いますが、脇坂議員のところで総合文化会館の玄関の写真がありましたが、あそこにも避難所ということで白地に緑色で表示をしております。自治会の公民館も同じでございます。

一方で今お話があったように、他の自治体では電柱に海拔何メートルとか、あるいは避難所の方向を掲げるところもございます。残念ながら波佐見町はそういったところはございません。先般の防災担当課長会議でも大村市の事例としてそういった発表がありましたので、今後波佐見町でもやはり検討すべき事項というふうに考えております。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

それで災害発生時というのは、よく避難指示とか出ますけど、必ずしも自宅にいるわけではありません。どこにいるか分からない状態ですよ。しかも、これは町民に限ったことではない。その時点で町内におられる方です。

そうなるとう町外の方でも、よその町と同じような情報提示があれば分かりますが、それがなければどこへ避難していいかも分かりません。

特に被害が起きるようなときに観光客が来るかという、そんなことはないのかなと思うんですけど。たまたまここに居合わせたということで被災する方もいらっしゃいます。そういった方への十分な対応ができていないのではないかとこのように考えるんですが、いかがでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

町民の方についてはこれまで防災無線だったり、防災メールの登録だったり、LINEの登録をお願いし、様々な情報——災害情報も含めて御提供できる体制を整えていると考えております。

一方で今議員がおっしゃったように、たまたま波佐見にいらっしゃった方について、どういった情報伝達があるかということでございますが、それは通信事業者が準備しています、——名前はちょっとばらばらですが、例えばエリアメールというのがあります。これは町内にいらっしゃる方について、町内の基地局から一斉に情報発信をするものでございます。例えばでございますが、その中に町のホームページのアドレスを誘導するとか。ということで波佐見町のホームページになると、避難所の開設状況あるいは混雑状況を提示しておりますので、そういった提供ができるというふうに考えております。

このエリアメールの発信についてはですね、総務課の担当のほうでできるように整えておりますので、今後状況を見ながら運用も柔軟に対応したいと考えております。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

それではですね、福祉避難所についてなのですが、これは民間の施設を指定されているということですが、先ほど協定結んでるとかという話があって、ホームページ見ると4か所挙がっていたんですが、先ほど6か所でしたかね。すいません6か所教えていただけますか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

まず議員がおっしゃったとおり、令和6年度までは4か所の指定をしておりました。今回新たに協定を締結いたしまして、2か所追加をし、町長答弁があったとおり6か所を現在指定しているところでございます。

内容については町長答弁があったとおり、デイサービスセンターの方が4か所、そして就労支援センターの事業所が2か所、計6か所となっております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

福祉避難所ですが、私ホームページに載っている4か所しか見てなかったんですが、民間の施設ですので致し方ないところはあるのですが、地域に偏りがあるように思います。

もうちょっと広げるといふか、満遍なくというのはなかなか難しいと思いますけど、こういう福祉避難所というのは、やはり近いところになかなかその機能を果たせるようなもんじゃないかなと気もするんで。もう少し幅広げられないかなと思うのですがどうでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

おっしゃるとおりでございます。町内を見渡すと一定の偏りがあるのは事実かなと思います。一方で、施設自体は小さいながらも、町内点在しているところがございます。

今回そういうことも踏まえて、事業者様とお話をする機会がございまして、2か所追加したということでございます。今後におきましてもやはり事業者の方とお話をしながら、趣旨を理解をしていただいて協定の締結を進め、可能であれば町内満遍なくそういった施設があることをこちらとしても考えてるところでございます。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

この避難については、先ほど町長答弁もありましたが、指定避難所への避難か自主的な避難か、なかなかこれは判断することは難しいですし、個別に一つ一つ事情が違いますので、行政側が一方的にこっちはすよとも言えません。これ個人の判断に委ねるところが非常に大きいので、なかなか難しいとは思いますが、行政としてどのような誘導が効果的なのか。もし、お考えがあれば教えてください。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

まず災害については、自助・共助・公助が基本です。自分の命は自分で守っていただくというのが基本でございます。まずもって自分の自宅あるいは避難経路にどんな危険性が潜んでいるかというのは、ぜひ確認をしてほしいと思います。

これについては町長答弁があったとおり令和5年3月に配付しました。この波佐見町防災マップにもハザードマップ等をつけておりますので、そこで確認をしていただきたいと思います。

一方で共助の部分でございますが、やはり自力で避難ができない方がいらっしゃいます。いわゆる要支援者という方でございます。これについては、やはり自治会や関係団体をもとに現在支え合いマップづくりというのが行われております。それは、そういった体が御不自由な方、避難支援を要する方について、どこに住んでいらっしゃるか、あるいはその方をどういうふう安全に避難す

るかということ地域全体で、今考えております。

その中でこういった避難経路がやはり安全かということ地域全体で見ていただいて、例えばでございますが、町が開設する避難所に誰が誘導するか、どういう経路であるかということをしております。

最後の公助になりますが、そういった関係機関の方と連携しながら、町とすれば避難所運営をしていく。そういう方が来られたら適切に対応すると。こういうことで三位一体の状況を今考えてるところでございます。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

その中で、避難所へ避難する場合に大事になってくるのは避難経路なんですけど、これ災害の種類にもよりますけど、主に大雨洪水ですね、この場合に避難の経路に向かないところもあると思うんです。こういうところも、なかなかここ危ないんですよって指定するのは難しいと思うんですが、理想的な避難経路としてはこんな感じですよというのは、明示できたりはしませんか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

本町の災害は今おっしゃっていただいたような、大雨のときの土砂災害が一番大きいと思います。そこでさっきの話でも触れましたが、まずは自分の自宅、避難経路がどんな状況であるかについて、ぜひ確認をしていただきたいと思います。ここはもう千差万別だと思います。

それぞれありますので、各々がやはりそういったハザードマップあるいは今回整備をいたしました3D都市モデルを見ていただくと、その立体的に可視化されてますので、ぜひ御家族あるいは地域の方で検討していただければと思います。

それが基本的には理想の避難経路となると思います。そこでやはりそういったハザードマップ、3Dモデルが見れないという方については、総務課のほうでそういったのを見れる端末を準備しておりますので、来ていただければアドバイス等はできるというふうに考えております。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

その避難所で、公共施設や各地区の公民館以外に——これ先ほど答弁中にもありましたが、いつどこで起こるか分からないことなんで、例えば民間——支援物資等で協定を結んだりとかって話ありましたが。例えば民間の頑丈な建物、例えば倉庫とかそういうようなところで、就業時間内であれば、その従業員の方々は、まずそこに避難というふうに考えるだろうと思います。そういうときに、その周りの方も避難できるような、そういう避難所の役割を果たせるようなことが、できるんですよというような協定とか周知とかできないでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

まずおっしゃっていただいたような、事業所の建物等が避難所として活用できるかということについて、残念ながら本町はその点については遅れているというのは認めざるを得ません。

他の自治体においては、今おっしゃったような建物を緊急避難として指定している等もあると聞いております。例えばではございますが、その施設がやはり耐震があるか、立地的にどうかということも調査をする必要があります。今後やはり事業者の方と意見交換をする場も設けたいというふうにも考えておりますし、情報発信をしたいと考えております。

ただし町の避難所が原則安全だという考えには変わりはありません。可能であれば警戒レベル3から高齢者等避難開始を行いますので、ぜひその時点から早め早めの避難をお願いしたいということで、皆さん方の御理解を得たいというふうに考えております。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

次の質問をしようと思ったところで、今の課長の答弁の中に避難所のほうが安全だからというお言葉がありましたが、これ、ホームページに載っている避難所一覧というのを自分なりに精査して色分けして、これを出そうと思ったんですけど、小さくて逆に見づらいただろうと思ってもう出しませんでした。この中でいくと避難の種類によっては、避難する場所も変わってくるんですが、波佐見町で先ほども課長も言われましたけど、波佐見町の中で一番重要視されるのがやはり大雨による洪水とか土砂災害だろうと思いますが、それに向いてない箇所というのがかなりありますね。

洪水関係に関しては、避難所のグラウンド等は除きますけど33か所中10か所はバツがついています。土砂災害においては14か所がバツついております。

見ると東中央地区はほぼほぼどちらかバツついております。最悪というか永尾地区に改善センターと元分校があるんですが、これ両方ともバツです。

どういうふうに今後は考えていきますか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

やはり自治会の公民館の建設された経過等がやはりあると思います。どうしても空き地とか、あるいは元にあったそういった場所に、今の公民館建建てられていて、その時点ではやはり災害の危険性がそこまで吟味されていたかというのは不明でございます。ただし結果とすれば今議員がおっしゃったように洪水だったり、土砂災害に向かない施設が多いというのは事実でございます。

先ほど申した波佐見町防災マップでも、施設が向いているか、向いてないかというのは、○×形式でしておりますので、それについては確認をしていただくと共に、今回こういうお話もありまし

たので、6月の自治会長定例会で自治会長さんに再度公民館の危険度というか、災害に向き不向きを周知しようと思ってます。

そこで住民の方がどういうふうにより行動されるかということでございますが、町長の答弁にあったとおり、まずはやはり町の施設に御避難をしていただきたいと思います。そして、自分たちの地域、やはり山間部であれば避難についてですね、万一ことが起こり得るということでございますので、早め早めに避難をしていただきたいと思います。そのためにも地域全体で防災力の意識を醸成していただいて、地域全体でそういった方を、要支援者も含めて避難の確保をお願いしたいと考えております。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

これは最初に本来は聞くべきだったんですが、もう課長が答えられましたので。波佐見町において最も警戒すべき災害とは何でしょうというのは、先ほどから言ってるように大雨による洪水とか、土砂災害ですね。地震なんていうのはそうそうあるもんじゃないだろうなと思いますが、ホームページ見ると地震に対する避難所について、この30数か所ある避難所全てに丸がついています。しかし、答弁の中にもありましたが、建設年度がかなり古くて、ほぼほぼ耐震性のないんじゃないかなと。災害が起きるような地震が来た場合には、ほとんど潰れてないんじゃないかなと思うんですよね。どこ逃げるんですかって話になってくるのかなあと思うんです。そういうときは外のグラウンドで一時しのぐしかないのかなと思うんですが、この辺はどうお考えですか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

今回ですね前田議員のほうから災害と公民館ということで、セットで御質問頂いて、実は公民館の建設年度を――税務の資料であるんですが、調査させていただきました。そうすると今おっしゃったような公民館がいつできたかというのがある程度分かりました。そこでございますが昭和56年5月31日以前に建設、建築の認可がおりたところについては、旧耐震基準ということになっておりまして、いわゆる耐震基準が不足していると、強度が不足してると言われております。今回調べて22地区のうち6か所がその旧耐震基準で建てられているというふうになります。

耐震診断の必要はあると思いますが、一般的な基準でいうとその公民館は耐震の基準を満たさないということになりますので、避難には向かないということになります。今後精査をして、避難所の指定について自治会の皆様と協議の上どうするか。地域防災計画にも掲げております。変更については次年度の地域防災計画、もう既に今年度終わってしまいましたので、次年度に向けて検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

ぜひとも実態に合うようによろしく願いいたします。

それでは避難のタイミング等の周知についてですが、周知は十分行っているという答弁もありましたが、災害が起きたときはそれは盛んに放送もしますし、これは分かりやすいと思います。

ですが常日頃から、特に避難所開設等じゃなくて、自主避難等を考えたときに、やはり常日頃から自分自身で考える力をつけないといけないと思います。そういうことに対する情報提供は必要じゃないかなと思っております。この辺についてどのようにお考えですか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

やはり御自身がどのように考えて行動を起こすかということで、今前田議員がおっしゃったような、機運というのが大切だと思っております。例えばではございますが、自治会の主催の災害講習会だったり、あるいは避難訓練であったりという中では盛んにそういった災害に対する意識の醸成について行動をされています。一方で、全ての方が参加されているわけではございません。

ですので、やはり適切な情報の提供あるいは周知ですね。その辺をやはり広報だったり、町の伝達手段であったりということで周知することが大切だと思います。

例えばではございますが、本日のようなやはり大雨が降りますよというような情報があったとき、今回は特に情報提供しておりませんが、やはり今後はこういったときにどう情報提供やっていくかということも一つの教訓だというふうに思いますので、議員の御提案も踏まえて今後検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

はい、そうですね。それでいくと広報紙等においても、毎年のように情報提供はされてるのを知っています。ですが先ほどの防災マップ等もですけど、全戸配られておりますが果たしてどれだけの人の目につくところに置いているのか。棚の中にしまい込んで見ていない人が多いんじゃないかなという気がしています。

そうであれば例えば広報紙なんかでも——4月頃に広報するんでしょうが、しつこいぐらいに例えば4、5、6とか、もう6月梅雨時期ですよ。これから夏になると大雨の時期に来ます。何回となく、しつこいぐらいに周知をして、うるさいと言われるぐらいにやったほうが……。じゃないと多分残らないのですよ、頭の中に。一回言っただけでは。ほかの放送局にお願いするのはなかなか難しいと思うのですけど、波佐見テレビ等でもこの時期になると毎日のように放送を流すとかですね。そういったことを考えたらどうかと思うのですけど、いかがでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

そうですね、やはり災害はですね起こってしまったらやはり手後れになるというところでございまして、やはり事前の準備というのが必要だと思います。今回町のホームページもリニューアルしまして町の防災のサイトも一新をいたしました。かなり見やすくなったというように考えております。

また先ほど触れましたが3D都市モデルもそこから入るようというふうにも考えております。今後においても6月の広報誌で災害の危険度、町のホームページにも誘導のQRコード等もつけましたので、この辺をまずはやっていきたいと思っております。

加えて、やはり今回6月ということですが、御提案あったとおり4月、5月からやはり早め早めに情報提供すべきということですが、次年度に向けてその点については改めてまいりたいと考えております。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

現在ですね、自主的に避難訓練等を実施している自治会、どのぐらいございますか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

統計的にはとっておりませんが、おおむね3分の2程度はやられてるという認識でございまして。

例えばではございますが、先月5月の末には折敷瀬郷のほうで防災講習会もありまして我々行っておりますし、今から夏から秋にかけて各地区では、先ほど触れましたが、支え合いのマップ作りというところが始まりまして、我々も呼ばれて参加するところがございます。

一方で行われている地区も、行われていない地区もあるようでございます。その辺も踏まえて自治会長さんの皆様と情報交換をして、冒頭申したとおりちょっと統計的にもとっておりませんので、把握を行いたいというように考えております。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

そうですね。できるだけじゃなくて、全地区が行えるように。それと一回やったら終わりじゃないんですね。非常に申し上げにくいのですが、ちょっと前に庁舎内でも避難訓練をやりましたよね。参加しましたが、形骸的で全くもって避難訓練の体をなしていないような、何の緊張感もないような避難訓練ですよ。

もう少し職員の皆さんは緊張感を持った避難訓練の在り方というのを率先してやっていただいて、各地区が真剣みであるような避難訓練になるような模範となっていきたいと思っております。そこはもうちょっと考えてやっていただきたいなと思っております。

それと避難訓練等については先ほど言いました役場もそうですけど、各自治会等がやっています。

民間企業において避難訓練等をやっている事業者さんがあるのは把握されていますか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

申し訳ございません。正確な数字と実態等というのはこちらのほうで把握できておりません。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

何度も言うようですが、災害はいつ起こるか分かりませんので、これは民間企業であれ、もういろんな事業者さんで、特に病院関係なんかはよく定期的にやっていると聞いていますが、一般企業においても避難訓練等を行うように推奨するように。もうちょっと指導というか、やっていただけたらなと思っております。

それでは次の公民館についてですが、公民館の老朽化が著しいということで、確かに公民館と一言で言っても、各地区の核となる公民館と、それ以外の小さな集会所。昔作った集会所がいっぱい残っていますよね。今それぞれに運営ができていますけど、将来的には全てを残すようなことは多分難しいと思うのですよね。やはり言ってましたとおり、集約等は必ず出てくるのかなと思つてます。

で、なくすわけにもいかないだろうと。やっぱ重要性の、必要性のところも先ほど町長答弁の中にもありましたが、そういうことを考えると、無くすわけにはいかないのだろうと思つてますが、これは私の住んでいる地区でもあるのですが、その公民館の必要性等について議論する中で、借金してまでもつくらなくていいよと。自治会活動に参加しない人も多いものですから、要らないよと。いう人もかなり、いるのはいるんです。私はそう思いません。やっぱ必要だろうと思つてます。

この公民館が必要なんですよというのを先ほど答弁いただきましたけど、こういうのは、住民向けに発することはできますか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

まずは自治会活動について、どういった形で自治会に御加入をされてる方、あるいは未加入されてる方について周知を図るべきかということになると思つています。例えばではございますが、自治会加入のパンフレットを今回作りまして、6月1日から転入者の方には配付をしとるということも始めております。

その中の延長としてですね、やはり自治会公民館が必要だということは、やはり自治会皆様が役員も含めてですね、皆様がそういった自治会活動をアピールしてほしいと、こちらとしては願うものでございます。

自治会様々な活動があります。その中で公民館の位置づけということもやはり明確にさせていただ

く必要がありますし、それについて、町として自治会の皆様にアドバイスもできるというふうには考えております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

答弁の中に各地区公民館の老朽化については、今回調査したという答弁がありました。数か所は耐震基準以前のものでありましたが、私が思っていたのは、ほとんどが耐震基準以前かなと思っただけですが、もう一度お願いします。耐震基準以前のものは何棟ぐらいあるんですか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

建設年度しか分かりませんので、先ほど申したとおり耐震基準の切替え、昭和56年5月31日以前か、後かというのが分からない。1981年になりますので、その施設が数か所ございます。それを踏まえてみると22か所の地区のうち6か所が旧耐震基準——要するに耐震基準を満たしてないのではないかと思われる施設でございます。以上です。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

すいません。私もちょっと今回調べてこなかったんですけど、ざっくりとして申し訳ないんですけど。そのあとにもう一度耐震基準が変わったじゃなかったかなと、ちょっと認識してたんです。

例えばですね、宿のコミュニティーセンターと同じようなものを今造るとしたら、耐震基準に合っていないから同じような造り方はできないですよというふうに私は伺ったような記憶があるんですよ。それはそれで大丈夫なんでしょうけど、今後はそれと同じような造り方できませんよって。新しい基準でやってくださいよ。だからその新しい基準でやると、ほとんどみんな合わないのかなというふうな認識でいたのですが、そこで維持するのが大変だという中で、今後行政としてはどういう対応策があると思いますか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

まずはその耐震基準ということの観点からお答えしますと、今私のほうが言ったのは、旧耐震基準ということで、そこが大きな木造の大きなポイントになってると思います。今議員がおっしゃったようにその基準で、昭和56年6月1日以降の建物でもそれを満たしているのかどうかというのは、究極はやはり耐震診断をするしかないという判断でございます。

自治会の公民館がそこまでされているという情報を私どもは得ておりませんので、今後は自治会でそういった施設の長寿命化をされた際に、そこまで含めてされるかどうかは自治会の御判断だというふうにも考えております。

一方で、いわゆる見た目の老朽度、老朽化というのはやはり進んでおりますので、自治会においても今後の長期的な維持補修も考えられてるところも聞き及んでおります。それを踏まえて自治会の皆さんと相談があったときはやはり役場としてもいろんなアドバイスはできるのではないかなというふうには考えております。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

そこで最後、すいません最後じゃないのですが、この公民館の建て替えに対する補助制度、補助金について先ほど地域振興とコミュニティー支援の2つが挙げられたのですが主にですね。この2つは併用できるのですか。

○議長（尾上和孝君） 澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

併用できません。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

このコミュニティー助成事業というのは申請したら——必ずではないですけど申請したら、即受けられるようなものですか。

○議長（尾上和孝君） 澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

申請イコール採択ではございません。これと類似した同じ自治総合センター事業で250万円までのいろんな備品を各地区の公民館等に整備される事業もありますが、今年度なんかも数件申込みをしましたが2件しか採択をされませんでした。

そのように採択率は100%ではないということは御承知おきください。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

俗に言う宝くじに当たるようなもんだと、何かいう話もよく自治会とかでも聞くんですね。当たらないと駄目だよと。

そこで、現在私の住んでる地区でいうと、振興補助金でも地区別でいうと、補助額にすると少ないほうになってしまいますね。これは地区割りをしてるんじゃないのかなと思うんですが。

そこで公民館を建てかえると考えたときに、やはりそれなりの一定規模の人口ありますので、ざっくり考えただけでも1億円近くかかるのですね。大きさに言うと、この間完成しました福祉組合のエール、これと同じぐらいの床面積ぐらいよね。今私が住んでいる湯無田でも、大き過ぎるんでちっちゃくしたらこのぐらいあるぐらいだよ、あれ幾らかかったのって聞いたら、大体1億円

だった。そのぐらいかかるんじゃないかなあと言われてます。

それでこの補助額では到底——積立てもしてありますが、到底できるものではないよなって。そこでやはり住民たちが考えるのは、そんなに借金してまで作れないよなって。要らないよなっていう結論にいつてしまうんですよね。もうちょっと何とかならないかな。

要はですねこの地域振興補助でも改修改築という書き方してるんで、修繕と考えたらこのぐらいの金額でもいいのかなと思うのですが、完全に建て替えとなると、ちょっと桁違うよなというぐらいに、足りてないように思ってしまうんですよ。何でもかんでも補助くれというのもどうかと思うんですけれど。この点についてはもうちょっと何とかならないものでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

町単独の事業の分についてはですね、特に湯無田地区については、C地区の区分となりまして510万円までが限度額というような——補助金ベースになっております。言われるように到底足りるものではないというふうに思っております。

先ほどですね地域コミュニティー、自治総合センターの宝くじに当たるようなものと言われましたが、競争率、町自体でどんどん、どんどん公民館の建設の補助金が上がってくるものではないというふうに思ってますので。出ても町から一つだと思っております。その年度においてはですね。

そういうところを考えると、この事業をまず狙うべきであってですね。町単独がなかなかこう上げることは難しいかもしれませんが、この自治総合センターの事業を活用してもらって、令和6年度までは1,500万円でした。令和7年度から2,000万円まで補助金の枠が上がっておりますので、ぜひこちらのほう御検討いただければというふうに思っております。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

なかなかですね補助増額等も、増額というと必ず難しいと言われる、仕方ないところもあるかなと思うんですけれど。例えばその地区でも借入金して建てないとなかなか、手持ちだけでは、補助金だけでは難しいというところがあると思います。

であれば例えば利息に関する補助とか、そういったことは考えられませんかでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

既に利息の補助について制度がございます。波佐見町地域振興事業資金貸付基金という制度がありまして、1事業500万円以内というふうなちょっと枠がちょっと小さいものなんですが、貸付利率が3%以内というふうに条例上なってますが、運用でここ無利子というような運用を行っております。過去にも、自治会のほうでこれを借上げて5年間の返済期間で償還されたケースもあります。

このあたりは現状この制度があるということですので、公民館の建設に対してはなかなか合わない制度かもしれませんが、こういう制度があるということだけをちょっと御紹介しておきます。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

先ほどから最初のほうから出てますように、老朽化してる公民館等については、今後そういった建て替え、建てかえるときは必ず人口減少もあるので規模はだんだん縮小してくるんでしょうけど、建て替えという需要は出てくると思います。

であれば、そういう公民館建設等に特化したような補助制度をもう少し拡充していただきたいと願うものであります。

それとですね、途中で出てきました自分のところがどのぐらい危ないのか。いわゆる耐震診断等にもですね、お金がかかりますので自治会から相談がある場合には、十分相談に乗っていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

実際ですねそういう建設に対して、今一番大きな問題となってる地区もございますので、どういう方法でできるのか、またこういう補助制度を本当にこのままでいいのか。そういうところも含めてですね、十分こちらとしても検討させていただきたいというふうに思っております。

○議長（尾上和孝君） 前田議員。

○1番（前田博司君）

もう最後にします。町長、最初のほうから言った避難所等のことで、避難所としての向いてない施設も多いですし、さっき今言われた公民館の問題ですね。もうちょっと地域自治に寄り添って考えていただきたいのですが、どのようにお考えですか。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

やはり住まいの地域によってはですね、いくら避難しろと言われても避難できない。特にもう私の家なんか避難できません。大雨とか土砂災害があればですね、もう区域に含まれておりますので。そういった中で、その中においても最も安全な対応を自ら考えなくてはいけないという状況でございます。

おっしゃったように各地区の公民館はですね、その地区のよりどころとなるいろんなその地区内の運営をする、話し合いをする場所であったり避難所、安全を確保する場所であったり、その用途はいろいろ広がっているというように思います。先ほど自治センターの補助額が7年度から拡大したということ踏まえれば、本町についてもその対象枠の拡大といいますか事業費の拡大も十分検討

に値するのかなと。

それとあわせて耐震診断についても個人の住宅については何か幾らかたしか補助があったというふうに思いますが、こういった自治会が所有するものについての補助制度というのは確かにまだ確立はされていないのかなというふうに思いますので、そういったものも踏まえまして、本町の中でどういう対応ができるのか、できるだけ前向きな検討をしてみたいというふうに思っております。

○議長（尾上和孝君）

以上で、1番前田博司議員の質問を終わります。

しばらく休憩します。14時40分から再開します。

午後2時25分 休憩

午後2時40分 再開

○議長（尾上和孝君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は9番 福田勝也議員。

○9番（福田勝也君）

皆さんこんにちは。それでは通告に従いまして質問いたします。

ふるさとづくり応援寄附金、及び基金の活用について。

平成29年度から順調に推移している「ふるさとづくり応援寄附金」は、令和3年度に20億3,000万円に達し、現在においても約18億円の寄附額となっております。

このことは、本町の事業者の売上げにも大きく寄与しているだけでなく、町政運営においても多様な事業の財源に活用されています。

そこで次のことを問います。

(1) ふるさとづくり応援寄附金の令和6年度の実績と、「ふるさと納税3.0」の活用状況はどうなっているのか。

(2) 基金を活用するにあたっては、どのような基準、要件としているのか。

以上、壇上より質問を終わります。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

9番 福田勝也議員の御質問についてお答えをいたします。

ふるさとづくり応援寄附金及び基金の活用についてということで、(1) ふるさとづくり応援寄附金の令和6年度実績と、ふるさと納税3.0の活用状況はどうなっているのか、とのお尋ねですが。

ふるさとづくり応援寄附金の令和6年度の寄附額は、5万9,440件の18億2,686万200円となってい

ます。そのうち、ふるさと納税を利用したクラウドファンディングであるふるさと納税3.0につきましては、2つの事業を合わせて57件、228万8,000円の寄附を頂いたところでございます。

ふるさと納税3.0につきましては、令和6年度に実施した申請者様が、継続を希望されていますので、令和7年度も引き続き実施予定ですが、加速化あるいは集客の面から波佐見町のポータルサイトから、より大きなサイトへ移転させ実施する予定としています。

(2) 基金を活用するに当たってどのような基準、要件としているのか。とのお尋ねですが、ふるさとづくり応援基金の活用については、条例の定めによりましてふるさとを元気に楽しくする活動に関する事業、未来に伝えたい伝統文化の保存整備に関する事業、懐かしい景観、新しい町並み整備に関する事業、次世代を担う子供たちの健全育成に関する事業、その他町長が必要と認め認める事業の5事業としており、その目的の経費の全部または一部に充てることとしています。

具体的には、実施する事業と基金の目的が一致した場合に、将来寄附額が減少しても、事業実施に影響が限定的な、いわゆる臨時的事業を中心としてその財源として活用をしています。

以上で、壇上からの答弁を終わります。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

これまでこのふるさとづくりの応援寄附金、基金の活用については毎年させていただいておるんですが、去年の9月議会においてもしましたので引き続き質問していきたいと思っております。

本町の寄附額は県内でも佐世保市に次ぐ2番目に多くの寄附を頂いているわけですが、同時に返礼品として本町の焼き物を中心として、特産品の売上げにも寄与し、本町の地場産業の維持、発展にも大きく影響しているものと考えております。また寄附金のおかげで事業者の売上げだけでなく、寄附額の半分が基金として積み上げられ、いろんな事業に活用されているところでございます。

このふるさとづくり応援寄附金のおかげ、ほかの自治体よりも町民の皆さんに、よりよい行政サービスができているものと思っております。よってふるさとづくり応援寄附金をどう伸ばしていくか。また基金をどのように有効活用し、町民の皆様には行政サービスを提供するのか。また元気なまちづくりとして、どのような事業をし、町の発展を図っていくことが大切になっていくんじゃないかなと思っております。

それではこれから再質問をしていきたいと思いますが、6年度の寄附金の実績なのですが、先ほど答弁でもありましたように、6年度につきましても約6万件弱ですね。それで18億円を越す寄附額となっておりますが、これは去年9月議会に同じような質問をして、これ令和5年度までの実績になっているのですが、令和6年度は先ほど答弁いただきましたとおり18億2,000万円ですかね、件数にして5万9,000件ほどということとなっております。そういった形で順調に令和5年、6年と同水準の寄附額を頂いておりますが。

先ほどありますけど、令和4年度が8万件。あるいは令和3年度は8万2,000件あります。こういった形で件数的には8万件から6万件、5万9,000件というかたちで、寄附額はそう変わらないのですけど件数が下がってきております。この前の決算審査9月の決算審査におきまして、こういった件数が減ってきた要件として、キャノンのカメラなどそういった高額な品目が増えてきているというような回答を頂きましたが、前年度6年度の返礼品の品目の内訳というものはどのようになっているのでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

品目の内訳でございますが、先ほど申し上げましたとおり18億2,686万円が総額で、そのうち焼き物——波佐見焼が5万1,528件、14億1,600万円と全体の77.5%を占めております。その他、長崎和牛が2億3,000万円、12.6%。カメラが1億2,700万円、6.9%の寄附額となっております。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

そうですね、やはり焼き物が大半を占めているということですが、これまでやはり焼き物関係が77.5%ということでした。それでその前の令和3年ピーク時においてですね、やはり8割、9割ぐらいあったかと思うのですが、焼き物の返礼として、ピーク時の令和3年度と比較して、今年の焼き物の売上げにどのくらい差があるのかお知らせください。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

令和3年度におきましては、全体で20億3,800万円の寄附を頂き、そのうち波佐見焼は18億1,800万円、約89%を占めておりました。令和6年度では、先ほど申し上げましたとおり、14億1,600万円程度でございますので、金額にして波佐見焼だけで申し上げますと、約4億円の減少となっております。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

ただいま答弁いただきましたが約4億円ですね、減少というふうな結果が出ているんですが、今の窯業界の課題としては生地屋さんの廃業であるなど、そういったものがちょっと見受けられるんですが、やはり商品、返礼品ですね。こういったものの不足の影響というものはございませんでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

生地業等の廃業が、近年問題になってると思いますが、そのあたりの影響はあると認識をしてお

ります。ふるさと納税の返礼品のページには、3か月以内発送と今表示をしているところがございます。

発送が遅くなることによって、寄附者離れが懸念されて、寄附額の伸び悩みにつながる可能性もございます。ただし現在の状況で寄附額がさらに増加した場合、さらなる納期遅延の可能性もあるということが見込まれます。そのためですね、今後も生地製造業者への支援として、生地生産環境改善対策事業費補助金などの対策を引き続き行っていきたくて思っております。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

そうですね窯業界についてはですね、そのようなですねやはり生地屋さんの減少とか、担い手不足というようなかたちでやはり影響も出てきているんじゃないかなと思いますので、今先ほど言われました対策ですかね、補助金ですかね。そういったものを十分検討されて対応していただきたいなと思っております。

○議長（尾上和孝君）

それでは今の和牛についての回答をいただいたのですが、農産物についてもあったかと思うのですが、農産物についてはどのような推移をしているのかお知らせください。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

農産物につきましてはですね、ふるさと納税の返礼品としての比率はですね、比較的小さくて大きな変動はございません。ただし近年注目されております米につきましては、令和3年度において170万円であったものが、令和6年度には寄附金ベースですけど1,300万円と大幅に増加している状況でございます。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

それと、ほかの自治体では牛肉が順調に伸びて、大きな寄附額を頂いている地域の自治体もございます。本町の牛肉による先ほど和牛についての実績がありましたが、本町の和牛の取り組みについては、私も見せてもらったのですが、町外の精肉店の登録とかございましたが、本町の業者さんについての取り組みというのはどのようにされているのでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

牛肉についてはふるさと納税のかなりの額を占めておりまして、私たちも重要視しているところではございます。牛肉につきましては以前は町内業者1か所が返礼品として取扱いをしていただいております。ただし店舗のほうがお忙しくなったということで、取りやめをされております。

その後、今の中間事業者スチームシップになりましてから、町内の各事業者に案内をしましたが、受託はしていただけなかったということで、今現在は町外の事業者をお願いをしているところでございます。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

ふるさと応援寄附金の取り組みとして、先ほど答弁ありましたスチームシップさんですね。スチームシップさんが窓口としてやっておられますが、そういった返礼品の促進に向けてスチームシップさんと、どのような協議をなされているのかお知らせください。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

スチームシップとはですね、毎月寄附状況の報告や、新たな施策に関する協議を行っております。また先月の30日には事業者説明会を開催しまして、事業者50名以上の参加をいただいているところでございます。

また、この中で昨年度におきましては寄附者に町を訪れていただく招待状企画を行いました。それが高く評価されまして、ふるさとチョイスアワードの事業者部門で大賞を受賞いたしております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

そうですね、やはりふるさと寄附金についてはやはり町の運営としましてもやはり事業者さんの売上げにつながり、あるいは町の基金のおかげで行政サービスができることがありますので、やはりさらなる寄附が頂けるような、取り組みについて積極的に進めていただきたいと思っております。

それでもう一つのふるさと納税3.0の件ですが、去年の9月議会でもお伺いしたのですが、約4件の事業者さんから問合せがあったということの答弁をいただいたんですが、今回でもやはり登録されて事業展開されているというところが57件で228万円ですかね、あるということでした。

3.0のこの制度を踏まえてお伺いしますが、事業者さんが商品開発などの必要な事業費といいますか、その目標額を立ててその5割をクラウドファンディング的な寄附を集めて、事業展開するというような形かと認識しているのですが、先ほどの件数においては、そのような目標額の5割をクリアして、事業を展開されているのか。そこら辺をちょっとお伺いします。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

ふるさと納税3.0についてちょっと簡単に説明をさせていただきます。申し訳ございません。

まず例えば1,000万円事業費が欲しいということでされた場合にはですね、2.5倍の2,500万円のク

クラウドファンディングをします。そのうちの4割が本人の、事業者へ補助というかたになりますので、それが1,000万円というかたちになります。これの50%以上。例えば1,000万円だったら先ほどの2,500万円のクラウドファンディングですので、1,250万円以上集まった段階で事業は実施をしていただくというかたちになります。返礼品のほうも30%用意していただきますので、1,000万円と返礼品の700万円が事業者のほうに入るというような仕組みになっております。

先ほどの事業者ですが、令和の6年度に実施したときにはお問合せが4件ございまして、そのうちの2件が実施をされております。町長答弁にありましたように57件228万8,000円の御寄附を頂いているところですが、まだ50%に達しておりませんので、申請者様からまだ継続してクラウドファンディングを行いたいという御意向がございましたので、令和7年度にはより大きなサイトに移転をしまして、クラウドファンディングを実施したいというふうに考えております。引き続き実施をしていきます。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

その目標金額ですね、50%の幾らというのがあるかと思うのですが、このクラウドファンディング的な期間というのは、申請されて、登録されて、何か月以内とか1年以内にとかって、そういうふうな制限期間というものがあるものかどうか、お伺いします。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

一応期間は設けますが、今回出ている2件につきましては今取り扱われてる商品の増産のための施策でございましたので、今のクラウドファンディングで集めている途中でも、返礼品をそのままお送りして、寄附者との関係は終わってるといような状況でございます。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

その2件の今展開されている事業者さんなんですが、これは2件とも窯業界といいますか、焼き物業界の方なんでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

はい、2件とも窯業界の方でございます。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

最初の答弁で57件の申請っていいですか、ありましたよね。その中の業種も焼き物屋さんばかりなのか、あるいは多種目の方も一応登録ちゃうか、ほかの業者さんもいらっしゃるのか。そこら

辺はどうですか。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

先ほどの答弁のほうは2つの事業に57件のふるさと納税の申込みがあったということですね。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

そのふるさと納税3.0を幅広く活用するために、事業者さんにどのような働きかけとか、あるいは促進をやっているのか。お知らせください。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

先ほど申しあげました5月30日に開催をいたしました事業者説明会においても、ふるさと納税3.0について御説明をさせていただきました。説明後には口頭ではございますが2社から問合せをいただいております。

また令和6年度までは波佐見町のふるさと納税特設サイトのほうで実施しておりましたが、先ほども申しあげましたが、今度大きな——ふるさとチョイスというところのガバメントクラウドファンディングページの開設を予定しております、現在準備中でございます。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

そうですね。それでは（1）のほうは以上で終わりたいと思いますが、やはりふるさと応援寄附金についてはやはりいろんな事業者さんの展開といいますか、売上げの事業展開だけでなくですね、本町にも行政サービスにつながることで、ますますこういった取り組みについてもやっていただきたいと思っております。

それでは（2）の基金の活用についての質問に移らせていただきたいと思っております。これが7年度の一般会計当初予算のふるさとづくり応援寄附金の活用事業の一覧表でございますが、事業数が多くて見えづらいところがありますが、前年の6年度の事業についてもちょっと去年お伺いしたのですが、6年度の当初予算では18の中分類の中で81の事業を約8億円活用されておりますが、今年度7年度のこの事業においてはです、幾つの事業計画となっているのかお知らせください。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

令和7年度におきましては、83の事業に、ふるさと応援寄附金を充当しているところでございます。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

このうち今回6年度が81の事業、今年度、7年度が83の事業ということで。このうち、83件のうち新規事業というのは何件ございますでしょうか。またどのような事業なのかお知らせください。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

新規事業は13ございます。例えばですね、放課後待機児童緊急対策事業、このこども家庭センターの2項欄の対応ですね。や、環境美化の対策事業費を活用した草刈り機の機械購入等がございます。以上です。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

ということはですよ新規事業が13件で、去年が81の事業で、今年度83ということで。13件が新規ですので、11件がほかの事業がなくなったと思うんですが、事業の内容については毎年見直されているというようなことですが、廃止あるいは似たような事業を統合したとか、そういった事例をちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

特に廃止とか統合ということではございませんが、ほとんどが昨年度で完了した事業。例えば新庁舎建設事業や、こども家庭センターの管理費や、単年度で実施をされた各種計画策定事業などが、そういうところに当たります。以上です。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

事業の内容で、町の単独事業とまたあるいは国や県の補助事業に乗かってやる事業とかありますよね。そういったものの割合というのはどのくらい分かりますでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

一部ですね、補助事業に充当しておるのもありますが、ほとんどの事業が単独事業となっております。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

それとあと内容についてはですね、この内容について道路とかあるいは桜づつみ歩道の整備事業、あるいは自治会からのですね要望があっている交通安全の施設の設置とか、そういった整備事業があるかと思えますけど。こういった整備事業と、あとその補助事業とかですね委託業務の事業。

こういったものの割合というのはどのようになってるでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

大変申し訳ございません。その辺のところはですねちょっと分析ができておりません。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

それとですね先ほど申しました道路の補修工事とかあるいは交通安全の施設の設置というところで、こういった事業というのは、以前まだこのふるさと応援基金がない時代——時代といいますか、時は一般財源で対応されてたと思うんですが、このような事業で、なぜこう一般財源からふるさと応援基金の活用事業にシフトされたのか。そういったちょっと理由とか、経緯がどのようになったのかお尋ねします。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

現在ですねふるさと納税に活用して——以前一般財源で活用していて、ふるさと納税に活用している事業といたしましては、定住奨励金や体育施設の改修工事、また学力向上や学校給食センターの補修などがございますが、財政といたしましては、できれば一般財源が使う必要があるものについて、臨時的なものについては、ふるさと納税を充てて、できるだけ一般財源を使わない方向で組立てをしているところでございます。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

それと今年もプレミアム商品券の事業をやられるかと思うのですが、以前されたプレミアム商品券は、国の補助事業に乗かって、ふるさとづくり応援寄附金を使ってやられた事業かと思うのですが、今年もプレミアム商品券も国の補助事業にですね、今年も財政調整基金をと抱き合わせでされるかと思っているのですが、このふるさとづくり応援寄附金と財政調整基金の活用の違いというのはどうなのでしょう。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

議員おっしゃるとおりですね。以前はコロナ禍や物価高騰の対策として、プレミアム商品券事業についても、国の補助事業とともにふるさとづくり応援基金の充当をしておりました。ですが、プレミアム商品券等は事業費が大きいほか、寄附者に対してメリットがないなど、ふるさと納税の寄附者の意向に沿わない可能性があることを考慮いたしまして、国からの補助金を主体としまして、不足分については一般財源で対応するようにいたしております。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

先ほども見ていただきました7年度の活用事業の一覧なんですけど、こういった7年、6年、5年とですね私もちょっと内容のほうを比較してみたんですよね。もうほぼほぼ、もう9割方同じ活用事業になっておいて、金額についても幾らかの増減はあるのですが、ほとんど同じ事業に、同じような活用金額というような内容になっております。それと

これが去年の9月議会において、令和5年度までの寄附額の総額と、その5つの目的とする事業の活用額の累計のほうを出していただいている資料なんですけど、先ほども言ったとおり、同じ事業に同じ金額を充てていけば、割合はほとんど変わっていかないと思うんですよね。

いつも答弁で頂いております、寄附者の意向に沿って基金の活用を進めますというような答弁があっている割には全然この割合が変わっていかないというふうなところもあるんですよね。

それで前回も、この寄附者の意向事業、寄附額とこの活用の割合を見てどのように考えますか、というような質問をしたところ、「この表はあくまでも今まで活用した額の割合でございますので寄附額からすればまだ基金に残っているということでございます。申し上げますとすれば、この目的に該当するような事業を、まだ模索中といいますか考えておきまして、なかなか実行に行けないというところではないかなと思っております。今後におきましては、各課、各事業担当する所管課のほうからもすばらしい案が出てくるんじゃないかなと期待しております。」というような答弁を頂いておるんですが、やはりこの基金の活用にあたって、いろんな新規事業そういったものの提案をしていただきたいと思いますと思うのですが、今年度7年の編成に向けては各担当部署からそういった目立った企画提案がなかったというようなことで考えてよろしいのでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

予算編成をするときにはですね、夏に行っております振興実施計画と、当初予算のところにおいて新しい事業というのは協議をするようにしておるんですが、大きい事業が今年度は上がってこなかったというところが実情でございます。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

これまで、令和5年度までに累計で38億円以上の基金の活用がなされているんですが、この前の一般質問でもこの基金の活用をした目玉といいますか、そういった主な事業というのを聞いたところ、これも先ほど今道路の改修工事とか、あるいはDX関係の事業が目玉じゃないかなというような回答をいただいているのですが、この事業もそもそも本来一般会計とするような事業でありますので、純粋な基金の活用事業ではどうかなというところは思うんです。

6年度も8億円程度の基金を活用して、累計6年度までに46億円の基金を活用されているのですが、この基金の活用の成果っていいですか、その辺の評価はどのようにお考えですか。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

大変難しい質問でございまして。そうですねこの寄附を頂いていることによって、18億円もの寄附を頂いていることによって、同規模の市町村と比較すると大変大きな事業をさせていただいていると思います。町民にも還元ができていますし、言われたとおり事業者への還元もできていると思っております。

ただ大きな成果と言われますと、なかなか、ちょっと今のところ私の今頭に浮かばないのが実情でございます。申し訳ございません。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

たくさんの寄附を頂きまして、多くの事業に活用させていただいておるのは議員御指摘のとおりでございます。ただやはりこの予算規模が他町と比較しまして、例えば隣の町を出して非常に申し訳ないんですけど、川棚町と比較しますと一般会計でも30億円程度の差がございますし、それだけ事業が大きいと。あまり変わらない職員数でそれだけの事業をやっているわけですね。

昨年の本町の人口は確かに減っておりますが、自然動態の人口が200数十人亡くなって、90人ほど生まれてますので、130人か140人ほどの減でございます。しかし転出、転入による増減、社会増減は74人の増という成果が出ております。これは、やはりその町に魅力がないと町への移住定住といえますか、人口増というのはなかなかないものだと思います。

それは何かと言いますと、もろもろのそうした小さな事業への財源を、ふるさと納税として活用させていただいて、魅力あるまちづくりに少しでも活用できている成果が他町からの魅力となって、本町に転入をしていただいている成果ではないのかなと。いうふうな思いでございますので、大きな事業にぼんとふるさと納税を使うということだけが、やはり成果ではないのかなと。

やはりそういった端々に対して、政策を持っていくということも一つのふるさと納税の活用方法だというふうに思いますので、そういった成果が数字としては、あらわれているということを御報告申し上げたいというふうに思います。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

そのように理解したいと思います。もちろん私も先ほど町長から答弁いただいたように、同規模の川棚町あるいは、佐々町ですね。佐々町の7年度の一般会計予算を見ましても、一般会計74億6,300万円の事業費で、1年間運営をされていると。波佐見町と約30億円違う予算の中で、やはり波佐見

町は恵まれてるなというふうなところを感じているところでございますが、やはりそういったそこから辺に大きな差が出てくるというのも、一つこのふるさと応援寄附金のおかげでこういうふうな行政サービス事業が行われているということは重々承知しているところでございます。

そういった形で、やはりこの寄附金については、やはり私も何度も質問させていただいているのですが、以前もこのふるさと応援寄附金。この制度自体が今後どうなっていくのか、制度自体がですね。あるいは寄附金の動向もどのように推移していくのか不透明というようなところで、やはり使い方についても、人件費とかあと計上経費ですね。それだとかあと継続事業には活用しないという答弁もいただいているのですよね。

たればの話ですれば切りがないんですが。こういった寄附金がなくなったらどうするのかという問題もですね、答弁からすればこういった問題も出てきますので、やはり事業の見直しというか、やはり横並びの予算の計上というのもどうかというところで提案したところでございます。そういったところも踏まえて、やはり事業の見直しというのもやはり進めていかなければいけないんじゃないかなと思っております。

予算編成にあたっては、各担当部署から款項目節のですね事業に沿ってですね、予算を組まれて、財政部局で予算要求されるわけなんですけど、その内容とか金額等精査されて一般財源とする事業、あるいはふるさと基金による事業に振り分けられるかと思うのですが、大体全体の事業で、全ての事業がこの大分類に該当する5つの事業に該当するかと思うのですが、全体的に一般的でよろしいですけど、一般財源とふるさと基金。どちらの財源で活用事業として、その判断基準というのはどのように振り分けられているのでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

町の予算編成方針としては、先ほどからもお話に上がっておりますけど、ふるさと応援基金を充当する場合はですね、毎年度継続して固定的に支出される経常的経費と、それ以外の臨時的経費とに分類をいたしまして、原則として臨時的経費に限定して対応することとしております。

一般財源は税収や各種譲与、交付金が主なものでございますが、限りある財源であることからですね、ふるさとづくり応援基金による充当可能な事業については、極力基金を活用しまして、それ以外は必要に応じて一般財源や、財政調整基金を活用させていただいているところでございます。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

そうですねこの基金の活用の事業というのが、やはり先ほどからも申しましたとおり継続事業と申しますか、ずっと事業の内容も先ほど言われた基準かと思うんですけど、そういった振り分けの方法がこの5つの目的とする事業の内容に、基金を活用してされているわけなんですけど、基金を

活用した事業というよりも、基金に振り分けた事業というような、そういった感覚があるのですね。我々からすればですね。

そういった形で、もちろん中にはやはり波佐見高校の支援や、あるいは給食の費の無償化。あるいは教育委員会でいえば子供たちの九州大会とか、全国大会に行く遠征費大会の遠征費とかですね。あるいは先ほど出たプレミアム商品券とか、そういった内容についてはやはり基金のありがたみというのがあるんですが。

やはりこの振り分けられた事業じゃなくして、この5つの事業がございますよね。僕はふるさとを元気に楽しくする活動に関する事業に今までは充てがっている、みたいな形なんですよね。じゃなくて、波佐見町を元気にするために何ができるかというような事業の在り方であってほしいなと思っているのですよね。そういった形の事業活用ができないかということで、各担当課からそういった案がどんどん出てこないのかなというふうなところを考えているわけですけど。そういうふうな元気なまちづくりのために何ができるかと、というような発想の中で、この基金の活用をしていただきたいなと思っているのですが、いかがですか。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

現状ですね議員がおっしゃるように基金を振り分けているというのが実情でございます。おっしゃるようになりますね、各担当課からこういうのをしたいというのが、積極的に出てくれば振興実施計画など、当初予算の協議の中で町長と財政当局と詰めていきたいと思っております。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

ぜひですねそのような案件出てきてですね、元気なまちづくりのほうで作っていただきたいなと本当に願っています。農業界でもやはり今農業者の、就農者の高齢化とか、あるいは担い手不足。収入の不安定とかですねそういった近々の問題が山積しておりますが、やはり農業関係者ってなれば国の施策等もございますので、なかなか独自の支援策が難しいとは思っております。

金曜日、議会初日に補正予算でありましたこの農業経営支援事業補助金ですね。こういった事業費というか、支援というようなこういうふうな企画をやはり各担当課でどんどんして、この基金の活用に当たってもらいたいなというふうに思っております。

それとやはり農業関係だけじゃなくして、元気なまちづくりとしてやはり基幹産業である焼き物業界。窯業界ですね。窯業界においても先ほどから言っています、生地屋さんの廃業だったり、担い手だったり、今度は陶土の高騰までありますが。この基金を使って、何とかこの事業者さんの対応策・支援策につなげてもらいたいと思っておりますけど、商工観光課長どうでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

窯業界への支援につきましてはですね、当然我々もいろんな支援策等も検討しておりますが、窯業界の各団体のほうからもですね、いろんな形で要望が上がっているような状況でございます。当然いろんな支援をするにあたりましては、各団体の御意見をいただきながら、効率のいい施策を打っていく必要があろうかと思っておりますので、今後議員もおっしゃられたように、陶土、陶石代の値上げ等も予定されておりますので、そういったところに、いろんな予算が配分できるように、今後調整等も図っていきいたいというふうに考えております。

○議長（尾上和孝君） 福田議員。

○9番（福田勝也君）

そのようにですね、やはり今直面している課題とか問題。そういったものに積極的に対応されて、もう補正でもよろしいんで、そういうふうなところの予算の確保に努めていただきたいなと思っております。

あと教育委員会にもいろんなことを尋ねたいと思いますが、もう時間もございませんので、所管事務調査でたっぷり調査したいなと思っておりますので、よろしくお願いします。

そういった形で、この基金の活用についてはですね、やはり一般財源との差別化っていいですか、基金を振り分けられる事業というかですね、そういった活用基準の整理というのも、一つ必要じゃないかなと思っております。そういったところの整備とやはり、後々事業の内容についても、やはり補助事業も大切ですし、僕は整備事業も大事じゃないかなと思っております。

やはり昨日もお話ありました「よりそっと」の件でもですよ、やはりこういった事業を整備するというのもやはり利用者さんのメリットであったり、仕事のやりやすさだったりとか、そういった相乗効果という有効活用できる施設であれば、こういった事業も展開していいんじゃないかなと思っております。

継続事業は少ない金額でもう10年すれば大きなお金になってくるのですよね。やはりその整備事業は単年で、大きなお金かもしれませんが、そういった感じもできますので、やはり一般財源との差別化を図って、こういった補助事業あるいは整備事業にどんどん、基金としての活用をぜひ検討していただきたいと思っておりますがいかがですか。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

施設等の整備ということであろうかと思っておりますが、そういうところも担当課のほうが一番よく分かっていると思っておりますので、担当課からそういう計画を出していただいて、こちらのほうでも審査をしていきいたいと思っております。

○議長（尾上和孝君）

以上で、9番 福田勝也議員の質問を終わります。しばらく休憩します。

15時45分から再開します。

午後3時32分 休憩

午後3時45分 再開

○議長（尾上和孝君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、11番 北村清美議員。

○11番（北村清美君）

皆さんこんにちは。通告に従い、次の質問をいたします。

1. 災害対策について。

今年2月に、岩手県大船渡市で発生した山林火災では、約3,370ヘクタールを消失しました。消防庁と林野庁は合同検討会を開き、消火活動を検証し、火災予防策の報告書を夏までにまとめるとあります。

本町も地震・豪雨災害などに加え、山林火災への対策も考えなければなりません。季節に関係なく災害は起こりえる状況でございます。

そこで次のことを問います。

- (1) 避難所の課題には、どういったことあるのでしょうか。
- (2) 消防団が抱えてる課題は、何があるのでしょうか。
- (3) 耐震水道管への交換状況、また、課題としてはどういったものがあるのでしょうか。

2. 町政運営について。

デジタル社会の進展、格差の拡大、不安定な政治など、世の中は常に変化をし、これまでの常識が通用しない時代になっています。だからこそ「波佐見町の未来を守り、育てるために何をするか」との観点で、新たな発想、軸の発見によって予測困難な未来への心構えを町民の皆さんとともに考えることは大事じゃないでしょうか。

理想の世界を描き、現状を把握し、そのギャップを問題点と捉え、解決の糸口を見つけることは大変重要となってきます。

現在、約1,740の自治体があります。100年後には300～400程度になるかと言われております。何が何でも「波佐見町は存続しなければならない」と考えています。

そこで、次のことを問います。

(1) 四方遠方に目を配り、波佐見町のサバイブ（生き残り）をかけた、かじ取りを今後どのように行うべきか考えているのか問います。

以上、壇上からの質問を終わります。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

11番 北村清美議員の御質問についてお答えをいたします。

1. 災害対策についてということで、（1）避難所の課題にはどういったことがあるのか、とのお尋ねですが。前田議員の質問でも答弁をしましており、現在、高齢者等避難から公共施設3か所を避難所として開設し、避難の受入れを行っており、パーテーション、非常食をはじめとする災害備品、備蓄品の拡充を計画的に行っています。また体育センターについては、追加の避難所として運用できるように、空調機設置工事を進めています。

しかしながら大規模災害時には、町が所有する公共施設では全ての受入れが困難で指定している自治会公民館に分散して受入れをお願いすることになりますが、自治公民館には物資の備蓄が十分でないうえ、運営体制も自治会をお願いすることとなるために、その拡充が課題と認識しています。

（2）消防団が抱えている課題は何があるのかとのお尋ねですが、消防団を取り巻く大きな課題は、消防団に入団していただける方が少なくなっている、に尽きます。これは少子化による若年層の減少や、価値観や生活様式の多様化に伴い、消防団をはじめとする地域貢献への意識の変化があることが挙げられます。

本町といたしましても、消防団活動の周知や小学校における体験教室など様々な対策を行っております。また団員の報酬や、執務手当の出動手当の直接支給、分団運営費の拡充等処遇改善を進めているところです。

一方で、消防団員の減少はこれからも一定数進むと思われまますので、消防団OBをはじめとする地域の連携を進め、地域全体で防火防災体制の構築を進める必要もあると考えています。

（3）耐震水道管への交換状況また課題としてはどういったものがあるのか、とのお尋ねですが。波佐見町の水道管路の総延長は約179キロメートルありますが、そのうち耐震適合性がある管については、約23キロメートルで、進捗率については約13%となっています。また総延長のうち、耐用年数を経過した管路は41キロメートルあり、その割合は約23%となっています。

現在水道管の更新に合わせて耐震化を図っており、漏水率が高い塩化ビニール管を優先し、安定供給を基本に漏水状況や、他事業との関連性、重要度等を勘案しながら効率的に更新に努めております。

課題につきましては、不安定な世界情勢等の影響を受けて、人件費や水道資材等が高騰していることから、事業費が拡大し、老朽管の更新について距離を延ばすことが難しい状況にあることです。持続可能な水道事業経営を図る観点から、令和2年度に波佐見町水道ビジョン並びに波佐見町水道事業経営戦略を策定しており、令和7年度においては経営戦略の中間見直しを行い、将来的な経営

安定に向けて取り組むようにしております。

2. 町政運営について。

現在全国には1,740の自治体があると。100年後には300～400程度になると言われているが、何が何でも「波佐見町は存続しなければならない」という強い思いの中で、

(1) 四方遠方に目を配り、波佐見町の生き残り——サバイブをかけたかじ取りを今後どう行うべきと考えているか、とのお尋ねですが。私たち自治体を取り巻く環境は少子高齢化、人口減少社会の到来など、これまでに経験したことがない社会構造の変化の中で、価値観の多様化、社会情報の急速な発達に伴い、常に変化への対応を求められ、過去の成功体験が通用しない、答えがない世界の中で、町の施策を進めていく必要があります。

我が国の人口減少が顕著になる中、本町においても自然減の流れはいかんともしがたく、転入増加による社会増により、町の基盤となる人口、経済規模、地域コミュニティを維持し、持続可能なまちづくりを進めていくことが重要な課題だと考えています。そのため、これまでも期待に応え、選ばれる波佐見町として「波佐見町に住んでよかった」「住みたい」と思われる施策を議会とともに積極的に行っていることは御理解のことと存じます。

そこで波佐見町のサバイブ（生き残り）をかけた、かじ取りを今後どう行うべきと考えているか。とのお尋ねですが、私は波佐見町の首長として、地域の未来を見据えたかじ取りを行うことは重要な使命であり、責任であると考えています。そのことから、これまでも議会、関係団体、自治会をはじめとする町民皆様そして職員とのコミュニケーションを密にし、これら現場の声を大切にしながら町政運営に臨んでいますし、これからもそうすべきと考えています。

また地域の課題の解決には、その把握と合意形成並びに柔軟な発想も大切だと考えていますので、様々な機会を捉えて情報交換も行っております。そして町長として、波佐見町の将来像と組織の目標をしっかりと提示し、議会とも歩調を合わせて、その方向性と具体的な施策について具現化を図り、その施策の実現のために、全力で町政に邁進したいと考えています。

波佐見町は元気な町と言われておりますが、これも今までの施策が実を結んだ結果であり、その根底にあるのは、人材を育成し人に投資を行ってきたからだとも考えています。そのためにも、今後とも次世代を担う子育て世代に寄り添う施策の充実を図りながら、副町長や教育長あるいは管理職、職員との意思疎通を図りながら、力を合わせて町政運営を行ってまいりたいと考えていますので、議員の皆様の御協力を賜りますようお願いをいたします。

以上で壇上からの答弁を終わります。

○議長（尾上和孝君） 北村議員。

○11番（北村清美君）

質問に入る前に皆さんにお願いしたいことがあります。答弁は明瞭簡単をお願いします。ただこれ

だけです。じゃあ入っていきます。

今避難所の件は、前田議員がかなり質問されてましたので別に何もありませんけど、ちょっと補足して質問させていただきます。備品の問題は大丈夫ですか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

町が備蓄してる備品でございますが、国の指針に基づきまして、それを満たす備品については準備ができております。

○議長（尾上和孝君） 北村議員。

○11番（北村清美君）

先月の5月27日に内閣の研修会に行ってきました。そのときに問題解決じゃないんですけど、問題点が上がりました。まず第一に自治体は、消防と警察の連絡を密にすることが、ふだんの活動が非常に必要だというふうに言われましたけど、その点どうですか。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

まず消防と警察が連携してるかということでございますが、年1回の波佐見町防災会議の折には、消防あるいは警察の代表の方にも、出席をいただきます。そして我々総務課が消防と警察、相互に連絡体制を整えておりますので、私たちが仲立ちとして、連携はとれているものと考えております。

○議長（尾上和孝君） 北村議員。

○11番（北村清美君）

その中にいろんな問題点がちょっとあったことを記録しております。それはなぜかということ、避難所に避難された方の一番必要なのは何かということですね。これが出てきたのが、現金なんですよ。お金。これが長期化にわたるとそれが、必ず必要になりますというようなことが挙がりました。

そのため国として、内閣府としては何を要望するかと。まず第一点、災害基金を作ってくださいというような話がありました。それでは波佐見町はと聞きましたけど、災害基金はないと。それはそれでいいんですよ、財調から出します、そのときは、ということなんです。これはもう一つ考えると、災害基金を作って、そのお金を内部留保するというような考え方もあるかと思えます。これはあなた方が考える必要があるものですから、そういうことで現金給付するのは頭に置いてください。

それともう一つ支援DXというのが説明がありまして、その中でクラウド被災支援システムというふうなことをやると。これは新総合防災情報システムということらしいです。その点、総務課長これ御存じですか。どういうことをするのかちょっと説明してください。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

今、北村議員がおっしゃった国が運営する、新総合災害情報システムでございますが、これは広域的な災害が起こったときに、国、県、町が連携して被災情報の一元化を図るものでございます。事前に御質問いただいておりますので、長崎県に確認したところ、現時点では国と県の間で運用が開始されたということでございます。

県内においてはまだまだこれからということでございますが、しかるべき時期に県から提示があったときには参加したいというふうに考えております。

○議長（尾上和孝君） 北村議員。

○11番（北村清美君）

これちょっと今説明されなかったですけど、何が主体的にやるのかというところちょっと簡単に言います。

まず物質支援。それと広域連合——ちょっと言われましたよね。それと入退所管理——避難所の管理。それから罹災証明書。それから支援業務の最適化と、この3点に重点絞った情報システムみたいです。もうこれが必要だと思います。

何かこういろいろごちゃごちゃとすると、何か職員の方が皆さん避難所の世話で、復旧作業のことはできないと状態が続いたということの反省論みたいです。そういうことで、完璧になりましたらぜひ、早速でも波佐見町は取り入れてもらいたいと思います。

それと、今先ほど問題点の山火事が起こりました。全国的に10か所ほど大きな山火事ですね。僕はロサンゼルスの山火事もう他人事で見ましたが、これが日本にも起こるとはもう夢にも思わなかったです。波佐見はもう山の中でしょ。昨日の答弁の中にも約65%~70%は山というふうに答弁ありましたが、こういう事実を見ますとね、非常に波佐見町もうかうかしておられないんですよ。そのために何が問題なのか、夏までに報告書ができるということですので、それまでの一応中間報告は出ております。

まず火災警報発令というのが消防法にあるみたいです。これを発令したのは知ってるのか、知らないか分かりませんが、6市だけだというふうに報告なっております。これは一応条例を作って、それから罰則を含むということでこの条件があります。乾燥度、空気乾燥、それから強風、もろもろの条件があります。これをした場合に、速やかに火災警報を発令したほうがいいんじゃないかというように促されております。

それと山火事が起こった場合に燃え方がすごいんですってね、乾燥した場合には。葉っぱまで燃えてしまうのですって。これ樹冠火かって言うらしい。樹木の「樹」に、ちょっとなんですかね、ああ「冠かんむり」ですね、そして「火」と。樹冠火という燃え方みたいです。

これが全部灰を落とすわけですね。灰を落としたら、これが後日土砂災害の対象になるというこ

とですので、この火災警報というのは非常に大事だと思いますが、どうですか。総務課長。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

私どもも火災警報発令という言葉自体は知っておりましたが、おっしゃるとおり県内見渡しても発令をしたという事実は確認できておりません。聞くところによると消防庁では、その発令基準を明確にするということを、今後各市町のほうに通達をするということでございます。

一方で、今回全国的に山火事が多発をいたしました。今、議員がおっしゃったような樹冠火についてですね、たまたまでございますが日曜日の朝5時20分からでしたかね、テレビの中でそういう大船渡市の状況もあっておりまして、様々な自治体の担当者のインタビューもあっておりまして、やはり山火事は恐ろしいものだということを私自身も認識したところでございます。

○議長（尾上和孝君） 北村議員。

○11番（北村清美君）

そういうことで大いにこれは検討をしてください。

じゃあ次行きます。消防団の問題です。先ほど答弁の中にも非常に団員不足というようなことが顕著に出てるといふ答弁があつてます。その中で波佐見町の場合は、定員数と今の実質の団員数は分かってると思いますので、ちょっとここで言ってください。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

御存じのとおり、消防団については年々減少しております。消防団の定数は条例で330名となっておりますが、今年度4月1日の補助団員除いた現団員数は226名でございます。

○議長（尾上和孝君） 北村議員。

○11番（北村清美君）

皆さんお聞きになったでしょ。充足率は70%ですかね。あと30%足りないです。現実には。じゃあそこでどうするかですね、増える見込みがない。ここで答弁中も少し触れましたけど、実は先週の6日の日、中尾郷、鬼木郷、井石郷、金屋郷の自治会長——地区の連絡会議ですけど、協議会が開催しました。それで一応聞いてましたが、やはりこの中で問題が挙がっているわけですよ。この中にやはり消防団員の減少が危惧されるので、元気な老人——老人というのもおかしい。老人の補助団員の有資格者を認めるべきじゃないかというふうに発言があつております、文書ですよ。

だからあとは5分団の活動、今一番少ないですからね。その問題が出ました。それから、要するにもろもろそういうことで、現実には中尾郷では自衛消防隊約25名まだ存続しております。いざとなったら動きます。だからこの活動に——30%不足してるわけです。いざというときには、何か起こさないといかんでしょう。職員だけでやりますか、自治会の役員だけやりますか。無理ですよ。今あ

る資源を活用したらいいんじゃないでしょうか。どうでしょうか。これで各部落、各消防団でもいけれど自衛消防隊を発足させて、町から指導せんですか。どうでしょう。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

おっしゃるとおりですね、補助団員制度がありながらも充足率——補助団員を合わせたところでもですね、265名程度ということで到底定員は満たないという状況でございます。

したがいまして地域で災害あるいは火災が起こったときにはですね、生活様式も多様化しておりますので、消防団なりでだけです、対応できるかという、不安な面がございます。

そこで議員がおっしゃったように、中尾郷ではすばらしい取り組みがございまして、以前1年ほど前でございますが、自治会長定例会のほうにその代表者の方に来ていただいて、ご考案をいただいたという状況でございます。私どもとしてもやはりその広がり、地域全体に広がるようもう一度ですね、組立て直しをしなければいけないということで考えております。

○議長（尾上和孝君） 北村議員。

○11番（北村清美君）

じゃあちょっと水道の件に行きます。これ、もう昨年の6月に、これは一般質問しています。その後どうなったかは、ちょっと経過を聞きながらやっていきたいと思えます。

去年は耐震水道管というのが11%と記憶しております。今年度は、これは水道課長、何%ですか。

○議長（尾上和孝君） 伊藤水道課長。

○水道課長（伊藤幸治君）

先ほど答弁にありましたように現在13%となっております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 北村議員。

○11番（北村清美君）

それではですね、ちょっと少し主だったところの、ちょっとその耐震化率点を言ってもらえますか。まず全国とか長崎県とか長崎市、佐々町、川棚町、福岡ぐらまで、どうでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 伊藤水道課長。

○水道課長（伊藤幸治君）

最新の全国とかの平均を、ちょっと今から言っていきます。全国平均が42%。長崎県の平均が33%。あと町になるのですが、東彼杵町が12%、川棚町が26%、新上五島町30%、佐々町48%、長与町53%、あと佐世保市が25%となっております。

○議長（尾上和孝君） 北村議員。

○11番（北村清美君）

昨年も申し上げましたけど、本当に本町は遅れていますよね。隣町同じ規模の佐々町に比べたら

もう全然低いです。これは約180キロメートルは広過ぎるという面もありますが、それにしてもちょっとお粗末ですね、としか言わざるを得ません。

そのためにじゃあどうすべきかですね。先ほど答弁の中にも今年度中間の見直しをされるということですので、ぜひこれを加味されて、やっていただきたいと思います。

先週の日曜日に読売新聞に鉛給水管というのが、非常にまだ全国に敷設されておるということで非常に問題だというふうに載っておりました。これ波佐見町はどうなんですか。

○議長（尾上和孝君） 伊藤水道課長。

○水道課長（伊藤幸治君）

波佐見町においては鉛管のほうは存在しておりません。ないということです。以上です。

○議長（尾上和孝君） 北村議員。

○11番（北村清美君）

それで耐震化のことなんですけど、今朝の長崎新聞見られたと思います。佐世保市は来年度から28%の値上げをしたいというふうな記事が載っていました。耐震化率が佐世保市は今説明では25%だった。25%で約3割近い値上げをせざるを得ないということですね、いろんなこと。

というようなことで、本町は13%ですよ。その比率からいきますと、どうでしょうか。もうちょっと上げなきゃいけなくなりますね。値段安いとは別として。やはりそういう類いのことを本当に真剣に考えないと、災害とかいざ起きた場合にどうしますか。熊本の場合はよかったんですよ、80%の耐震化率があったから。そいけん0.02%しか被害がなかった。この事実はですねやはり知っとかないといかん。

だから私は言うのは、今の計算で年間1億かな、回して、5年で6億かな、7億の交換のあれをされたと聞きましたけど、それが20年かかるのであれば、15年でせめて長崎県並み、全国平均並みに持っていけるような計画を立てたらいいんじゃないでしょうか。ちなみに佐世保市は約3割の28%の値上げをすると、予定というふうに出ています。こんな物価高騰の折だからなかなかやりにくいです。でもこれやらざるを得ないです。と、ということで今回の要望として、7年今年中に中間計画をされます。ぜひその旨を考慮して考えていただきたいと思います。

次に今日のメインです。これをなぜ思ったかどうか。私の知ってる地域の中で十七、八人の方が本当に「三役さんの意見を聞いたことがない」「波佐見町をどう考えているのか」と。「しばしば聞くけど本当はどう考えているか」ということがずーっとこう積み積もって、こういう質問の形態—こういう意欲のある答弁をしてもらいたい、知ってもらいたいということがちょっとありまして、今日はそれをぜひ実行させていただきたいと思います。

時間的には一応5分というふうに各人、一応5人の方というふうに思っておりますのでよろしく願います。管理職の中から2人ほどちょっと代表させていただきたいと思います。そのあと三役

ということで、こちらから指名していきますのでよろしくをお願いします。

まずトップバッターは澤田企画情報課長。よろしくをお願いします。要するにこれはですね、MVVってあるでしょう。ちょっとこれミッションでしょ、ビジョン、それとバリュー、言葉御存じだと思います。日本語で言うと何て言いますかね、要するに使命、存在意義ですよ、ミッションはね。ビジョンは将来像。バリューというのは行動指針。というようなことをこの3点において、表明してもらいたいと思います。よろしくをお願いします。

○議長（尾上和孝君） 澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

ちょっと戸惑っていますが。あくまで個人的な感想ということでお話しさせていただきます。波佐見町は比較的元気なまちだと言われております。ただそれは窯業界を初めとする、あらゆる民間事業者また地区自治会、地域のコミュニティーが活発で、また交流人口についても、官民一体となった取り組みが功を奏して、このような元気なまちになっているというふうに感じております。

そのような中でも本町の職員の役割というのが、この町を支えていく中で非常に大きいものがあると思っております。部署にもよりますが施策立案、企画運営をはじめ行政施策の牽引役として町の中心とならなければならないと思っております。常にアンテナを張って、インプットし、人の話を聞き、地域や各種団体と交流することが大切だと思っております。その中にヒントがあり、想像し、発想——アイデアとなってニーズを酌み取り、施策へとつながっていくんじゃないかと思っております。このような住民との距離を縮めることが、シビックプライドを醸成する一助になるんじゃないかというふうに私は思っております。

先日、包括連携を締結しました伊万里市発祥のアイ・ケイ・ケイホールディングス株式会社は、九州沖縄の大学等の人気就職先ランキングで2年連続1位であります。なんでかといいますと、これは当然条件面もあるでしょう。でもですね、その経営理念の中に——ホームページ等見れば分かるんですが、「使命」という表現をされています。ビジョンの中でまずバリューとして「誠実であれ！情熱をもって 挑戦する！」とあります。またパーパスが「ご縁ある人々の笑顔のために」であり、ミッションではですね、「私たちは2028年までに、7年後日本を代表する、ワクワクする未来事業をつくる」と設定をされております。そして、それを達成するために社員のチャレンジを後押しされてます。このチャレンジへのもっといいのは、そのチャレンジのプロセスを経営陣は評価されています。結果だけじゃないですね。

このような社風が若者の支持を得ているのだと、これを見て私はちょっと感じました。このことは大いに感銘することであり、私たち町職員も町査定のため、これ共感する部分があって情熱を持って挑戦して——チャレンジですね。町民の幸せのため、わくわくする仕事をしないといけないんだと思っております。

先ほどふるさと納税もありました。アイデアを出さないといけないんです。この職員の姿勢こそが、これからの生き残りをかけた一つの視点だと私は強く思っているところです。思いの半分も出せませんでした。この辺にしたいと思います。以上です。

○議長（尾上和孝君） 北村議員。

○11番（北村清美君）

さあ、次は総務課長。よろしくお願いします。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

何を話そうかと思いますが、私は平成2年の入庁でございます。当時はバブルの絶頂期でございます。入ったときは世間が大変活気にもありました。役場の中もどちらかというと、まだ昭和の時代が色濃く残っておりまして、職員もかなり余裕があったのかなと思います。その後バブルが崩壊しまして、町内の景気もどんどん悪くなり、併せて経済対策そして市町村合併の流れがどんっと押し寄せました。

私は当時、財政のほうにおりまして危機的な財政の中で、どうやって財政を運営していくか。ということを先輩方、町長はじめ見ていたときに、この町どうなるんだろうなという不安がやはりめぐったことを覚えています。

その後単独を選択し、集中改革プランや、その後の行革をして、ふるさと納税という財源があって、財政が劇的に改善をいたしまして、隔世の感があるなというのが率直な状況でございます。

その中で地方自治体はですね、常に今から変化を求められると思います。時代も変わってきます。職員に求められる資質能力もどんどん変わってきます。それに私たちがどうついていくかというのは、やはり職員のおのおのも大切だと思いますが、組織的にやっていくことが大切だと思います。そのためにも私総務課長として思うことは、まず町長、副町長の補佐役としてすることも当然ですが、町長、副町長が判断、決断ができるよう、情報を収集したり、分析をしたり、そして提言、提案をしたいということを心がけております。

併せて総務課として組織全体も見ておりますので、組織の活性化あるいは職員の資質能力を今後やるべきだと思っております。それに私——個人的でございますが、年長の管理職として、やはり今後私たちの今までの仕事を引き継いでくれる、後輩たちの見本となるように仕事に邁進をしたいと思っております。その思いはもう澤田課長とも一緒でございます。

今後、波佐見町が生き残っていくためには、職員全員が力を合わせなければいけないと思います。そのためにも一人一人の資質能力を上げるために微力でございますが、私も総務課長として頑張っていきたいと考えております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 北村議員。

○11番（北村清美君）

さて、いよいよ三役に入ります。まず最初に村山副町長、よろしくお願ひします。

○議長（尾上和孝君） 村山副町長。

○副町長（村山弘司君）

副町長としてこの波佐見町をどうやって生き残っていくか、そのかじ取りをどうしていくかというふうなお尋ねだというふうに理解をしております。優秀な両課長さんがですね、今答弁をされましたので、重なるところがかなり多いかなというふうに思いますが。去年4月に波佐見町に来て思うのは、やはり答弁にあるとおり元気な町だなというふうに思います。その要因というのは以前答弁の中でも申し上げたことありますが、波佐見町目線という佐世保市に隣接をして、西九州自動車道や九州自動車道とアクセスがあって、自然豊かな町であるということとか。あるいは窯業界と皆さんたちが生まれて、波佐見焼がそうこうして、そこに多くのにぎわいが発生をしている。その中で交流人口の拡大につながっているということで、にぎわいができているというのも大きな要因だというふうに思います。

1年間暮らしてみても、私が住んでいる宿郷の周りにはスーパーもありますし、コンビニもありますし、何ひとつ不自由、不便がありません。そういう中で夜のにぎわいも3町と比べると波佐見町の場合は大きな料理、飲食店もありますし、夜のにぎわいもまだまだ残っているというふうに思っております。

そういった中で、やはり地域の力が何より大きいのかなというふうに思っております。自治会の皆さん方とお話をしたときもそう思いましたし、それぞれの各団体の皆さんたちが波佐見町を元気にしようという思いを持って、それぞれ役割を担って、波佐見町のことを一生懸命頑張っておられる。そのことが町長答弁にもありましたが、昨年度は社会増にそれが結果として出てきているということもあるし。人口減少、高齢化の話が出ていますが、波佐見町の人口減少率あるいは高齢化を見ても、県下の市町の中ではまだまだ緩やかでありますし、元気な町だということがその結果にも現れているというふうに思っております。

私、副町長ということで2年目を迎えますが、前川町長をしっかりと補佐をしながら、管理職の皆さん方と一緒に、役場組織一体となって、総合計画に掲げた各種の施策あるいは各種の課題の解決に向けて、しっかり取り組んでいくことが私の使命だと思っております。2年目を迎えるということで、今年は自分自身にも目標を設定したいということで――町長には4年間の任期の中で公約というものがございしますが、副町長にはそういったものがございませんので、各課長の業績評価をベースにして私自身の業績評価の目標というものを作りながら、この2年目を迎えていきたいというふうに思っております。

波佐見町が元気でいられる町として、しっかりとにぎわいと安全・安心な町が継続していくように、

しっかり私自身も努めてまいりたいというふうに思っております。以上でございます。

○11番（北村清美君）

いよいよ教育長になりましたよ。一番投資をしたい業界ですので、教育長との答弁を期待しております。よろしく。

○議長（尾上和孝君） 森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

期待に沿えるような答弁ができないかもしれません。相変わらずのことを言うと思います。教育はまちづくりの根幹であり、人への投資はまちづくりの投資であるという基本的な考え、スタンスのもと教育のまちとして選ばれる波佐見町をつくりたいと思っています。子供たちに町内外の大人たちに、何より先生たちに選ばれるまちをつくりたいということを強く思っております。本課の各班の職員、スタッフと話をしています。

今年度、来年度は大きな変革の年である。ぜひ結果・成果を出してほしい。結果・成果が出ないのであれば、見通しと道筋を示すこの2年間にしてほしいということを強く願い、共に頑張ろうということで話をしております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 北村議員。

○11番（北村清美君）

さて、お待たせしました町長。5分——ちょっと皆さん短いから、ちょっと10分ぐらい話してください。よろしく。

○議長（尾上和孝君） 前川町長。

○町長（前川芳徳君）

今のこの議会のこの流れが果たしてその、一般質問の流れに合うのかと、一つ私は疑問がございます。この一般質問の中でお互いの政策論争を討論する場だというふうに思いますのでそれぞれの考えを述べるのはどうかな、という思いでございますが、せっかくの機会でございますので2分ほど話させていただきます。

今発言をいたしました課長あるいは副町長、教育長、それぞれの思いを実現する、させたいという思いが私にはございますし、そういった職員を育てていくのが私の使命であると。それをもって町政をつかさどっていくと。いろいろな町民の期待に応えていく姿が、本来あるべき姿ではないかなというふうに思います。

いろいろやる点において、一人でやることには——私、町長でやることには限りがございますので、その力となるのはやはり職員でございます。今ちょうど職員1人を国のほうに派遣しております。内閣府の地方創生推進室に26歳の若者を派遣しております。

自ら手を挙げて——実は副知事のほうから「どこの市町村もおらんから、波佐見町からおりませ

んか」という打診がありまして、職員に諮ったところ「行きたいです」と手を挙げた職員がおりました。心配でした。やはり全国から集まってくるわけで——300人ほど内閣府に集まっているそうですが、その半分以上が各地方公共団体から集まってきている中で、当人が一番若いです。ほとんど30歳過ぎの係長クラスが来てそう。うちは本当若い職員で、まだ役場の経験も3年ぐらいでした。そういった中で、私もちょっと不安でございましたので、先日東京に登った際に本人に会って現状を確認してきましたら、目がきらきら光っているんですよ。

なぜきらきら光るのかと思いました。それだけの精神力が本人にあったことでしょう。それから、たくさんの刺激をやはり国に行き行って受けるわけですね。この町の中の器だけじゃなくて、全国から来るそういった職員、あるいは直接国の施策がダイレクトに来るわけですね。国会対策として夜の10時半まで残ったりとか、専門用語の羅列でなかなか理解できないのを自分でも解釈する時間がかかりますと言いながら、目がきらきら光っているわけですよ。そこの中で本人が言ったのは、「ぜひこの経験を生かして、知り得た知識を波佐見町で生かしたい」と。「波佐見町に生かせるような施策がどんどんあればどんどん拾ってきてそれをどんどん地元に戻元しますから」と。その発言にどれだけ勇気づけられたことかですよ。うれしかったです。

そういった職員を今後ぜひうちからもっと増やして、職員力を上げて、波佐見町の力を伸ばすことが私の仕事だというふうに思っております。町長選に出る際から、考えはとにかく「公金も自分のお金と思って使え」という財政規律を重んじていくということと、「できない理由よりできる方法を考えよう」という姿勢で、町政運営には臨んでまいりたいと思っております。

ぜひ度々申しますけど、今回の議会の中で大分職員のほうも褒めていただきましたので、職員も喜んで仕事に励んでくれると思います。議会の皆様とも協力し合いながら、職員が働きやすい環境にしていきたいまして——いろいろ提案しますが、そこの中でもし仮に失敗しましてもそれを責めるのではなくて、次の励みにするような叱咤激励をいただければ、議会の皆様からも叱咤激励をいただければなというふうな思いでございます。そういうことで今後の町政をつかさどってまいりたいと思っておりますので、今後とも御指導よろしくお願いをいたします。

○議長（尾上和孝君） 北村議員。

○11番（北村清美君）

ちょっと時間余りましたが何か別に言うことはありませんか。

いや実はですね、これ2月13日に村上総務大臣が発言したことがあるんですね。それなにかといいますと、将来は国と市町村が、直結するシステムがいいんじゃないかということと、県庁は全部要らんというようなすごい発言がっております。総務大臣ですよ、直轄の。

だから、こういうことを想定していかないんです。だから今、皆さん方5人の方に答弁していただきましたけど——答弁というよりも決意を述べていただきましたけど。あなた方幹部は太い幹

ですので、この太い幹を崩さないように進んでもらいたいと思います。あと職員がやります。

だからそういう今の決意を皆さん、職員はじめ町民の皆さんも議員のみんなも聞いています。そういうのを期待しながらですね、波佐見町が間違わないようなかじ取りをぜひお願いして、今回の一般質問を終わりたいと思います。終わります。

○議長（尾上和孝君）

以上で、11番 北村清美議員の質問を終わります。

以上で通告がありました一般質問が全部終了しました。以上で、本日の日程は全部終了します。本日はこれで散会します。御起立ください。お疲れさまでした。

午後 4 時 33 分 散会

第 11 日目（6 月 16 日）（月曜日）

諸 報 告

諸般の報告

議長報告

議 事 日 程

- 第 1 議案第 39 号 波佐見町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例
- 第 2 議案第 40 号 波佐見町水道条例の一部を改正する条例
- 第 3 議案第 41 号 専決処分の承認を求めることについて
(波佐見町税条例の一部を改正する条例)
- 第 4 議案第 42 号 専決処分の承認を求めることについて
(波佐見町地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化のための固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例)
- 第 5 議案第 43 号 専決処分の承認を求めることについて
(波佐見町税条例の一部を改正する条例)
- 第 6 議案第 44 号 専決処分の承認を求めることについて
(令和 5 年度波佐見町国民健康保険事業特別会計補正予算（第 4 号）)
- 第 7 議案第 45 号 専決処分の承認を求めることについて
(令和 5 年度波佐見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 2 号）)
- 第 8 議案第 46 号 専決処分の承認を求めることについて
(令和 5 年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算（第 4 号）)
- 第 9 報告第 2 号 波佐見町私債権管理条例に基づく債権放棄について
- 第 10 報告第 3 号 令和 6 年度波佐見町一般会計予算繰越明許費繰越計算書の報告について
- 第 10 報告第 4 号 令和 6 年度波佐見町一般会計予算事故繰越し繰越計算書の報告について
- 第 25 閉会中の継続調査申出について
(総務文教委員会、産業厚生委員会、議会運営委員会)

第11日目（6月16日）（月曜日）

1. 出席議員

1 番	前 田 博 司	2 番	脇 坂 正 孝
3 番	澤 田 昭 則	4 番	横 山 聖 代
5 番	岡 村 真由美	6 番	岡 村 達 馬
7 番	三 石 孝	8 番	城 後 光
9 番	福 田 勝 也	10 番	田 添 有 喜
11 番	北 村 清 美	12 番	尾 上 和 孝

2. 欠席議員

な し

3. 議会事務局職員出席者

議会事務局長 古賀 真悟 書 記 一瀬 若菜

4. 説明のために出席した者

町 長	前 川 芳 徳	副 町 長	村 山 弘 司
総 務 課 長	福 田 博 治	企画情報課長	澤 田 健 一
商工観光課長	太 田 誠 也	施設整備室長	大 橋 秀 一
税務財政課長	松 添 博	住民福祉課長	小佐々 慶 太
農 林 課 長 兼 農業委員会事務局長	朝 長 哲 也	農 林 課 長 参 事	太 田 克 宏
建 設 課 長	本 山 征 一 郎	水 道 課 長	伊 藤 幸 治
長 寿 支 援 課 長	井 関 昌 男	子ども・健康保険課長	石 橋 万 里 子
会 計 管 理 者 兼 会 計 課 長	串 島 佳 織	教 育 課 長	森 田 法 幸
教 育 次 長 兼 給食センター所長	林 田 孝 行	総務課課長補佐	坂 本 昌 俊
税務財政課課長補佐	鶴 田 秀 幸		

午前 10 時 開議

○議長（尾上和孝君）

御起立ください。皆さん、おはようございます。ただいまから令和 7 年第 2 回波佐見町議会定例会第 11 日の会議を開きます。本日の議事日程はあらかじめお手元に配付のとおりです。

諸報告 諸般の報告

○議長（尾上和孝君）

これから諸般の報告を行います。今定例会までに陳情 1 件を受理しました。陳情 1 件については、配付にとどめておきますので、御了承願います。

これから議事に入ります。

日程第 1 議案第 39 号

○議長（尾上和孝君）

日程第 1. 議案第 39 号 波佐見町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。本案について内容説明を求めます。

澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

議案 39 号について御説明いたします。

議案 39 号 波佐見町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例。波佐見町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を別紙のとおり改正する。

提案理由としましては、今年度予定されている基幹系システムの主要 20 業務及びそれに関連する業務システムの標準化において住登外者宛名番号管理機能が実装され、他業務との個人番号による連携上必要となるため、所要の改正を行うものであります。別紙を御覧ください。

今回の条例については、「各業務間の同一人判定に個人情報を利用する場合は条例の制定が必要」とされておりましたが、法令等によりまして、令和 7 年度中に対応が必要となるシステム標準化共通化に伴い、「住登外者宛名番号管理機能を実装する場合は、業務間の同一判定に個人番号を利用しない場合も条例の制定が必要」とデジタル庁が整備をされたということで、今回標記条例を別表第 1～別表第 3 のそれぞれの項目についてですね、住登外者宛名番号管理機能に係る文言を追加するものでございます。

それぞれですね、20 業務にあたる改正内容が反映される形となりますので、相当なページ数となっております。最初に主なものについて説明したいと思います。

最初に 2 ページを御覧ください。2 ページの部分ですが、波佐見町個人番号の利用及び特定個人

情報の提供に関する条例の別表第1中の生活に困窮する外国人に関する生活保護の措置に関する事務があり、その次に住登外者宛名番号管理機能の項目を追加するといったものです。

次に別表2の部分ですが、こちらの児童福祉法になりますが、その事務においても同様の住登外者宛名番号管理機能の項目を追加していくというものでございます。その後同じく3ページの予防接種法の事務から、それぞれの項目におきまして、住登外者宛名情報の文言を追加していくものでございます。

また14ページの別表第3中の就学援助に関する事務についても町長部局、教育委員会部局それぞれにですね、住登外者宛名番号管理機能による住登外者の情報の管理に関する事務及び、住登外者宛名情報をそれぞれ追加するものでございます。附則としてこの条例は公布の日から施行します。

16ページ目以降は新旧対照表となりますので、後ほど御確認をお願いいたします。以上で、議案39号の説明を終わります。御審議のほどよろしくをお願いいたします。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

○議長（尾上和孝君） 岡村達馬議員。

○6番（岡村達馬君）

今回のこの39号において、いわゆる社会福祉の面に重点を置いてありますが、5ページのいわゆる地方税法云々に関する事務というところがあるんですが。話が多少ちょっとずれるかも分かりませんが、今よその自治体で家屋等が200%、300%いきなり上がったとかですね、そういうニュースを聞きます。登記簿謄本でも外国人の外国における住所について住所を見ることができるのですが。いわゆるちょっとこれ固定資産税のほうでちょっとかかっているのですが、波佐見町において住所が外国人であってですね、そのまま外国の住所で登記をされている固定資産税というのはあるんでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

今岡村議員が言われました、住所が外国にあって、波佐見町内の土地を所有されている方ということになると思いますが、町内においてそういう方はいらっしゃいません。

なお、波佐見町内の外国人だったり、町外にお住まいの外国人だったりを持たれてる事例はございますが、その事例の場合は納税管理人を町内に置かなければいけないということになっておりますので、そこで解決していると思っております。以上です。

○議長（尾上和孝君）

ほかにございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第39号波佐見町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（尾上和孝君）

起立全員であります。したがって、議案第39号は原案のとおり可決されました。

日程第2 議案第40号

○議長（尾上和孝君）

日程第2. 議案第40号 波佐見町水道条例等の一部を改正する条例を議題とします。本案について内容説明を求めます。

伊藤水道課長。

○水道課長（伊藤幸治君）

それでは議案第40号 波佐見町水道条例等の一部を改正する条例。波佐見町水道条例等の一部を別紙のとおり改正する。

提案理由ですが、災害その他非常の事態において、給水装置工事や排水設備工事に係る指定工事業者の確保が困難である場合、他の市町村長が指定した指定工事業業者等による工事を可能とし、宅内配管を早期復旧するため、関係条例の規定について所要の改正を行うものです。

2ページの別紙をお願いします。波佐見町水道条例等の一部を改正する条例。

初めに、波佐見町水道条例の一部改正について、第1条波佐見町水道条例の一部を次のように改正する。

第8条第1項に次のただし書きを加える。「ただし、災害その他非常の場合において、町長が他の市町村長又は他の市町村長が法第16条の2第1項の指定をした者が給水装置工事を施工する必要があると認められるときは、この限りでない。」

第8条中第2項中「指定給水装置工事業業者が」を削る。

第9条第2項中「指定給水装置工事業業者」を「給水装置の新設、改造又は修繕をする者及びその工事を施行する者」に改める。

次に、波佐見町公共下水道条例の一部改正について。第2条波佐見町公共下水道条例の一部を次

のように改正する。

第6条第1項中「排水設備等の新設等の工事（規則で定める軽微な工事を除く。）は、」を「排水設備等新設等の工事は、次の各号に掲げる工事を除き、」に改め、同項に次の各号を加える。

（1）規則で定める軽微な工事

（2）災害その他非常の場合において、町長が他の市町村長の指定を受けた者に工事を行わせる必要があると認められるとき、他の市町村長の指定を受けた者が行う工事

次に、波佐見町工業用水道事業給水条例の一部改正について。第3条波佐見町工業用水道事業給水条例の一部を次のように改正する。

第9条第2項中「第177号」の次に、「。以下「法」という。」を加え、同項の次にただし書を加える。「ただし、給水施設の工事の設計及び施工については、災害その他非常の場合において、町長が他の市町村長又は他の市町村長が法第16条の2第1項を指定した者が施工する必要があると認めるときは、この限りでない。」

第9条第3項中「指定給水装置工事事業者に工事の設計及び施工をさせるときは、」を削り、「竣工後」を「しゅん工後」に、「竣工検査」を「しゅん工検査」に改める。この竣工についてはですね漢字の部分はですね、常用漢字でないということから今回改めております。

4ページ以降は、今説明しました新旧対照表になりますので御確認ください。

また、公布の日から施行するように、附則で定めます。以上で説明を終わります。御審議のほどお願いいたします。

○議長（尾上和孝君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

三石議員。

○7番（三石孝君）

提案理由の中で、今回新たに他の市町村が指定した指定工事業者というふうなことでありますが、今現在、波佐見町における指定業者も数社いらっしゃると思うんですね。これはもう災害等を想定してのことだと思うんですけど。現在、令和3年度も含めてですね、こういう事態が現実的にあったんですか。

○議長（尾上和孝君） 伊藤水道課長。

○水道課長（伊藤幸治君）

水道事業においては災害において業者が不足することはございません。今回の分につきましては能登半島地震の関係で国の通達がありまして、そのような法改正して条例等の改正を行ったほうが、有事の際にスムーズに行うということで今回改正いたしております。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

すいません、私も技術的なことはよく分かりませんが。各市町がそれぞれ指定されておりますよね、業者さんを。技術的な面とか——例えば水道管を工事で扱われるわけですが。特別特化した水道管を使われるとか、そういう町によって差異があるわけですかね。水道用具に関して、その辺どうなんですか。

○議長（尾上和孝君） 伊藤水道課長。

○水道課長（伊藤幸治君）

おおむね市町村で業者の判断基準については、差異がないものと思っております。必要な器具と資格ですね。その辺があれば届けを頂ければ、大体は許可している状況でございます。参考ですが波佐見町は現在72社の指定業者がおります。町内がうち10社ですね。町外が62社の指定があります。以上です。

○議長（尾上和孝君）

ほかにありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第40号 波佐見町水道条例等の一部を改正する条例を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（尾上和孝君）

起立全員であります。したがって、議案第40号は原案のとおり可決されました。

日程第3 議案第41号

○議長（尾上和孝君）

日程第3 議案第41号 専決処分の承認を求めることについてを議題とします。本案について内容説明を求めます。

松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

それでは議案第41号 専決処分の承認を求めることについて御説明いたします。

波佐見町税条例の一部を改正する条例について、地方自治法179条第1項の規定により専決処分いたしましたので、これを報告し承認を求めるものでございます。

2ページをお願いいたします。専決処分書になります。専決理由ですが、令和7年3月31日付けで地方税法の一部が改正公布され、令和7年4月1日から一部の規定が施行されるため、地方自治法第179条第1項の規定により専決処分するものです。3ページから9ページまでが別紙といたしまして、改正文を載せております。

10ページをお願いいたします。参考資料といたしまして、今回の税条例改正の概要を作成しておりますので、そちらで説明させていただきます。まず第1条例改正の趣旨については、先ほどの専決理由と同様でございます。

2. 条例改正の概要について御説明いたします。

(1) 個人住民税につきましては、令和8年1月1日施行となっており、これは令和8年度以降の個人住民税に係るものについて適用がなされます。

①といたしまして、同一生計配偶者及び扶養親族となる要件のうち所得要件について、前年の合計所得金額の58万円以下——これ従来は48万円以下となっておりましたが、こちらが改正となっております。

②といたしまして、新たに「特定親族特別控除」を創設し、所得割の納税義務者が特定親族——いわゆる大学生年代と言われる年齢19歳以上23歳未満の親族等で、前年の合計所得が123万円以下であるものを有する場合には、以下の表のとおり、特定親族の前年の合計所得金額に応じ、所得割の課税がある納税義務者の前年の総所得金額から、一定の控除を控除するものとなっております。

11ページを御覧ください。2行目になりますが参考といたしまして、今回の地方税法の改正の分ではございませんが関連するものとして、所得税法の改正により、給与収入が190万円以下の方に関して、給与所得控除の最低保障額が55万円から65万円に上げがなされております。

(2) 地方たばこ税につきましては、紙巻きたばこよりも加熱式たばこの税負担水準が低いため、国税のたばこ税と同様の見直しを行うものです。令和8年4月1日からと令和8年10月1日から、2段階に分け、上げが行われるものとなります。

(3) 軽自動車税につきましては、現行の50cc元原付バイクが、排ガス規制への適合が困難であること等により、総排気量125cc以下で、最高出力50cc相当の4.0キロワット以下に制御した新基準原付バイクに係る軽自動車税種別割の税率を現在の50cc原付と同様の年額2,000円とするものになります。

(4) その他として、今回の地方税法の改正に伴い、項ずれ等の修正を行っております。

以上が改正内容の主なものになります。施行期日におきましては、説明資料と同様の施行期日を附則で定めております。なお、12ページから33ページまでが新旧対照表となっております。以上で、

議案第41号の説明を終わります。御審議のほどよろしく申し上げます。

○議長（尾上和孝君）

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（尾上和孝君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（尾上和孝君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第41号 専決処分の承認を求めることについてを採決します。本案は原案のとおり承認することに賛成の方は起立願います。

〔 賛成者起立 〕

○議長（尾上和孝君）

起立全員であります。したがって、議案第41号は原案のとおり可決しました。

日程第4 議案第42号

○議長（尾上和孝君）

日程第4. 議案第42号 専決処分の承認を求めることについてを議題とします。本案について内容説明を求めます。

太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

それでは議案第42号 専決処分の承認を求めることについて御説明いたします。

波佐見町地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化のための固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例について。地方自治法第179条第1項の規定により専決処分をしたので、これを報告し承認を求めるものでございます。

2ページをお願いいたします。専決処分書になります。専決理由ですが令和7年3月31日付けで地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律の一部が改正され、令和7年4月1日から一部の規定が施行されるため、地方自治法179条第1項の規定により専決処分するものです。

3ページ目をお願いいたします。別紙になります。波佐見町地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化のための固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例。

波佐見町地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化のための固定資産税の課税免

除に関する条例の一部を次のように改正する。

第3条中、令和7年3月31日を令和10年3月31日に改める。附則、この条例は令和7年4月1日から施行する。

この条例は、国が同意した長崎県の地域経済牽引事業に係る基本計画に基づき、長崎県が承認した事業者へ、町が行った固定資産税の課税を免除することができる」と規定されております。また町が行った課税免除に対して、法に基づき国の減収補填が措置されております。

専決理由でも述べましたが、令和7年3月31日付けで、地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律の一部が改正され、国の計画期間が延長されたことに伴い、本町における条例の適用期限についても同様の改正を行ったものです。

長崎県の基本計画に合致する事業者が、基本計画に基づく事業計画を県国に申請し、承認された場合、税制による支援など様々な措置が受けられるものとなっております。なお4ページは新旧対照表となっております。

以上で、議案第42号の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（尾上和孝君）

これから質疑を行います。質疑はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第42号 専決処分の承認を求めることについてを採決します。本案は原案のとおり承認することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（尾上和孝君）

起立全員であります。したがって、議案第42号は原案のとおり承認されました。

日程第5 議案第43号

○議長（尾上和孝君）

日程第5. 議案第43号 専決処分の承認を求めることについてを議題とします。本案について内容説明を求めます。

松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

議案第43号（専決第4号）令和6年度波佐見町の一般会計補正予算（第9号）について、地方自治法第179条第1項の規定により、次のとおり専決処分したのものについて承認を求めるものでございます。

歳入歳出予算の補正といたしまして、歳入歳出それぞれ1億8,900万円を減額し、総額を104億円とするものです。繰越明許費の追加及び変更については、「第2表 繰越明許費補正」によります。地方債の変更については、「第3表 地方債補正」によります。

今回の補正は令和6年度一般会計の最終補正として、決算見込みによる事業費の増減とそれに伴う財源補正を行い、見込まれる決算余剰金を基金へ積み立てることが主なものです。

7ページをお願いいたします。第2表繰越明許費の補正でございますが、1の追加分につきましては、年度内に事業完了ができなかったものについて、新たに繰り越すこととなったものです。

2の変更分につきましては、さきに承認いただいた繰越事業のうち、6つの事業において令和6年度の執行状況により繰越額を変更するものです。

8ページをお願いいたします。第3表地方債補正ですが、4つの事業でそれぞれ事業費や起債対象額の変更によって補正を行っており、内訳は記載のとおりです。

次に歳入に関し、主なものを御説明いたします。11ページをお願いいたします。11ページの1款、1項、町民税から、15ページ1款、5項、入湯税までの各町税におきましては、その実績見込みに基づき補正を行っております。

16ページをお願いいたします。16ページの2款、地方譲与税から、26ページの9款、地方特例交付金につきましては実績に基づき補正を行っております。

飛びまして、27ページをお願いいたします。10款、1項、地方交付税ですが、3月に特別交付税が交付されましたので、その実績により4,242万5,000円の補正を行っております。28ページをお願いいたします。11款、交通安全対策特別交付金から、42ページの16款、財産収入におきましては、それぞれの事業等の実績等に応じて補正を行っております。

43ページをお願いいたします。17款、1項、寄附金ですが、2目のふるさとづくり応援寄附金は、実績により2,313万9,000円減額しておりますが、今年度の寄附額は、前年度比約1,709万円減の18億2,686万200円となりました。また5目企業版ふるさと納税寄附金について、4社から計1,030万円の寄附を頂きましたので計上いたしております。

44ページをお願いいたします。18款、繰入金につきましては、各種基金を取崩して繰り入れることとしておりますが、充当事業の実績に応じて補正をしております。

45ページをお願いいたします。45～48ページの20款、諸収入につきましては、それぞれの実績等に応じて補正を行っております。

49ページをお願いいたします。21款の町債ですが、8ページの第3表地方債補正で御説明したとおり、各事業や起債対象額の変更により、いずれも減額補正を行っております。

次に歳出に移りますが、こちらは各担当課から説明いたします。まずは税務財政課所管分から説明いたします。

53ページをお願いいたします。2款、1項、5目。財産管理費の24節。積立金の一番上段ですが、歳入で御説明いたしました企業版ふるさと納税で寄附を頂いた分、全額1,030万円をまちづくり基金積立金へ積立て、今年度以降活用させていただくことで予定をいたしております。

55ページをお願いいたします。2款、1項、10目。減債基金費の24節。積立金に決算余剰金のうち1億円を補正し、合計1億2,210万9,000円積み立てることといたしております。これにより、令和6年度末時点の基金残高は4億5,114万円となります。

次に15目。ふるさと納税管理費ですが、寄附額及びかかった経費の実績に応じ、それぞれ補正額を計上しております。そのうち、24節。積立金は利子を含め、2,180万1,000円の増となり、令和6年度の積立金が約9億4,346万円となります。これにより、令和6年度末時点の基金残高は約23億3,733万円となります。税務財政課からは以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

続きまして、企画情報課所管の補正の主なものについて御説明いたします。

57ページをお願いいたします。2款、1項、18目。地方創生推進費のうち、18節。負担金、補助及び交付金は、記載の3つの補助金の合計、1,108万4,000円を減額しております。いずれも国県経由の補助金ですが、それぞれ実績に応じた減額となっております。以上で、企画情報課関連の説明を終わります。

○議長（尾上和孝君） 小佐々住民福祉課長。

○住民福祉課長（小佐々慶太君）

住民福祉課所管分の主なものについて説明いたします。65ページをお願いいたします。3款、1項、3目。障害者福祉費18節。負担金、補助及び交付金です。1番目の東彼地区保健福祉組合負担金、地域生活支援事業は328万1,000円の減額をしております。これは東彼地区障がい者支援施設エールの建て替え工事に伴う負担金が減額したためです。

19節。扶助費の主なもので4番目の自立支援医療給付費更生医療、8番目の訓練等給付費、居住訓練就労系サービス、12番目の介護給付費、日中活動施設入所系サービスはいずれも利用実績見込みにより減額しています。

66ページをお願いいたします。22節。償還金利子及び割引料の2番目の過年度自立支援給付費負担金返還金は、実績が確定したことに伴い169万4,000円減額となっております。68ページをお願いい

たします。

3款, 2項, 2目. 児童措置費. 19節. 扶助費の中で住民福祉課所管分の5番目の障害児通所給付費、6番目の障害児相談支援給付費は、いずれも利用実績見込みにより減額しています。

73ページをお願いいたします。4款, 2項, 1目. し尿処理費18節. 負担金、補助及び交付金の東彼地区保健福祉組合分担金(し尿処理)は、分担金の変更により226万8,000円減額するものです。4款, 2項, 2目. じん芥処理費18節. 負担金、補助及び交付金の東地区保健福祉組合分担金(じん芥処理)は分担金の変更により259万円減額するものです。

86ページをお願いいたします。8款, 3項, 2目. 河川公園管理費、11節. 役務費ですが、例年シルバー人材センターにお願いしていた低木剪定や除草作業が減少したため減額となっています。以上で住民福祉課所管の説明を終わります。

○議長(尾上和孝君) 石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長(石橋万里子君)

子ども・健康保険課所管分について説明いたします。ほとんどが実績に基づく減額補正となります。67ページをお願いします。3款, 2項, 1目. 児童福祉総務費は総額 1,648万2,000円の減額で、金額の大きいものでは、12節. 委託料の支援対象児童見守り強化事業委託料。68ページ18節. 一時預かり事業費補助金、19節. 福祉医療費の減額になります。

特に福祉医療費は、令和6年1月から現物給付のエリアを拡大したところで、最終的な実績は昨年度より14%上回っております。

3款, 2項, 2目. 児童措置費は総額 3,759万2,000円の減額で、国で定める公定価格が110%引上げられたことから、委託料の私立保育所施設型給付委託費や認定こども園などの施設型給付費を予算を大きく見込んでおりましたが、不用額として減額しております。また、児童手当も令和6年度中の制度改正に伴い、大きく見込んだものの不用額として減額しています。

70ページをお願いします。4款, 1項, 2目. 予防費は総額 456万3,000円の減額で、各種予防接種に係る委託料、扶助費の減額ですが、令和6年10月に開始した帯状疱疹ワクチンについては増額し、実績としましては96人に112回分の助成をしたところです。

71ページ。3目, 母子衛生費 102万1,000円。4目. 健康増進費 325万9,000円を実績に基づき減額をしています。令和6年度は母子手帳の発行が99人と回復傾向があり、母子健康診査委託料の実績としては16%増加しています。

以上で子ども・健康保険課所管分の説明を終わります。

○議長(尾上和孝君) 井関長寿支援課長。

○長寿支援課長(井関昌男君)

それでは、長寿支援課所管に関しまして御説明をいたします。戻りまして64ページをお願いいた

します。

3款, 1項, 2目. 老人福祉費全体で1,343万9,000円を減額しております。主な内容といたしましては、18節. 負担金、補助及び交付金の高齢者タクシー利用助成費を実績見込みにより280万円減額しております。27節. 介護保険事業特別会計繰出金は、介護保険事業における保険給付費や地域支援事業等の減額実績により、負担すべき繰出金を917万8,000円減額いたしております。以上で、長寿支援課所管の御説明を終わります。

○議長（尾上和孝君） 朝長農林課長。

○農林課長（朝長哲也君）

それでは農林課関係の主なものを御説明いたします。ページは76ページをお願いいたします。6款, 1項, 3目. 農業振興費の18節. 負担金、補助及び交付金のところでございますが。一番上のところに書いてあります、ながさき農林業・農山村構造改善加速化事業費補助金 267万4,000円減額をいたしております。これにつきましては昨年度は、4法人の農作業の機械を予定しておりましたが、1つの法人がちょっと見送るというところがございます、それとあと入札による減の部分がこの金額になっております。

続きまして、77ページをお願いいたします。6款, 1項, 6目. 水田農業対策費の18節. の環境保全型農業直接支払交付金 160万4,000円減額をいたしております。こちらにつきましては環境に配慮した農業ということで、法人が作付します大豆をこの事業を対象にしておりましたが、面積が減額したということでその部分につきまして減額となっております。

○議長（尾上和孝君） 太田農林課参事。

○農林課参事（太田克宏君）

引き続き農林課、農地林務班関係の主なものについて御説明いたします。77ページですが、6款, 1項, 5目. 土地改良費. 18節. 負担金、補助及び交付金ですが、172万3,000円を減額しております。1行目の県営事業で計画しているため池事業の令和6年度事業費の確定によるもので、126万8,000円を減額しております。

78ページをお願いします。10目. 多面的機能支払交付金事業費18節. 負担金、補助及び交付金ですが、431万2,000円を減額しております。こちらは長寿命化の部分に対する国県交付金の実績による減額となります。

ページが飛びまして、98ページをお願いします。11款, 1項, 1目. 農地農業用施設災害復旧費18節. 負担金、補助及び交付金ですが、県営事業で行われた自然災害防止事業の実績により128万円を減額しております。次に2目. 林道施設災害復旧費、12節. 委託料の795万7,000円の減額につきまして、測量設計業務につきましては林道虚空蔵線の地滑り災害において、災害査定時に観測の継続及び追加設計の必要がなかったこと、また6年度において新たな林道災害の発生がなかったことによ

り減額するものです。

以上で農林課関係の説明を終わります。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

それでは商工観光課所管分について御説明いたします。戻りまして、54ページをお開きください。

2款，1項，8目．諸費、17節．備品購入費でございます。定期券発行機印刷機購入費を136万3,000円増額しております。これは「かわたな・はさみタウンバス」の定期券の発行について当初、印刷機をリースするようにはしておりましたが、リースから購入へ切り替えることとして2台を購入したものです。56ページをお開きください。2款，1項，17目．地域づくり事業費、12節．委託料 地域おこし協力隊事業委託料でございます。2,221万3,000円を減額しております。地域おこし協力隊の就任時期が年度途中となったことなどに伴い、実績により減額をしております。

57ページをお開きください。18節．負担金、補助及び交付金。起業等支援事業費補助金を100万円減額しております。地域おこし協力隊隊員が退任後に町内で起業する場合の支援のための補助金となりますが、11月に退任した団員が町外へ移住したため減額をしております。

80ページをお開きください。7款，1項，2目．商工振興費でございます。18節．負担金、補助及び交付金について、補正総額775万7,000円を減額いたしております。これは各事業における実績により減額しているものです。

続きまして、7款，1項，3目．観光費でございます。13節．委託料になります。アニメツーリズム推進コンサルタント業務委託料として50万円を増額しております。この事業は令和6年度に実施した、漫画「青の花 器の森」を活用した周遊観光事業について、今後観光庁の補助事業の獲得等を目指し、観光コンテンツ化を図るため、ノベルティや漫画ファンの誘客などノウハウがあるアニメーションツーリズム協会に事業のコンサルタントを委託として、契約をしているものです。

今回事業の組替等により、増額計上を行っております。14節，工事請負費をでございます。実績に応じて総額113万2,000円を減額しております。

以上で、商工観光課所管分についての説明を終わります。

○議長（尾上和孝君） 本山建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

それでは建設課所管分の主なものについて御説明いたします。

85ページをお願いいたします。8款，土木費2項，2目．道路橋梁維持費12節．委託料につきまして686万3,000円を減額しております。これは補助事業の内示率が低かったことから、全体事業の縮小を行ったものでございます。

次に3目．道路橋梁改良費12節．委託費～21節．補償、補填及び賠償金について。町道改良事業に

おける事業の進捗に伴いまして目内で組み替えを行い、さらに198万4,000円を追加しております。

次に88ページをお願いいたします。5項、1目。住宅管理費14節。工事請負費については、入退去にかかる際の修繕のほか、入居者からの修繕要望に対し、対応する工事費でございますが、実績に基づき294万1,000円を減額しております。同じく18節。負担金、補助及び交付金については、実績により324万円を減額いたしております。

以上で、建設課所管分の説明終わります。

○議長（尾上和孝君） 伊藤水道課長。

○水道課長（伊藤幸治君）

次に水道課所管の主要な補正内容について説明いたします。

予算書の72ページをお願いします。4款、1項、5目。環境衛生費18節。負担金、補助及び交付金について、説明欄の下段に記載しておりますが、浄化槽設置整備事業費補助金の1,093万6,000円の減額となっております。減額理由につきましては、浄化槽設置補助金の申請実績によるものです。おおむね当初30件程度計上しておりますが、今年度の申請実績が19件の実績となっております。

次に、ちょっとページが飛びますが83ページをお願いいたします。7款、2項、1目。工業用水道費18節。負担金、補助及び交付金について、210万円の減額となっておりますが、説明欄に記載しております工業用水道事業会計補助金。この補助金については、工業用水事業費の不足分を補う意味で、一般会計から補助を頂いており、事業実績による減額となっております。

以上、水道課所管の説明を終わります。

○議長（尾上和孝君） 林田教育次長。

○教育次長（林田孝行君）

それでは、教育委員会関連の主なものを御説明させていただきます。31ページをお願いします。

13款、1項、6目。教育使用料1節。社会教育使用料の総合文化会館使用料として、120万円を実績に応じて増額しております。

次に歳出となります90ページをお願いします。10款、1項、2目。事務局費12節。学校施設改修実施設計業務委託料として1,267万9,000円を減額しております。これは東小学校、中央小学校エレベーター設置工事及び波佐見中学校教室棟防水改修工事に伴う設計業務委託料でしたが、工事を実施するに至らなかったため減額するものでございます。また小・中学校バリアフリートイレ設置工事について、実績に伴い併せて減額しております。

次に91ページをお願いします。10款、2項、4目。中央小学校管理費7節。報償費の学校サポーター謝礼として、141万6,000円を実績に伴い減額しております。

次に7節、報償費下の14節となります。学校設備改修工事として327万2,000円を減額しております。これは中央小学校の屋内運動場の外壁工事に伴う費用であり、5,000万円の予算に対して実績額

4,672万8,000円によるものでございます。

次に92ページをお願いします。10款，2項，7目．南小学校管理費、14節．学校設備改修工事として157万6,000円を実績に伴い減額しております。

次に93ページをお願いします。10款，3項，1目．中学校管理費、14節．学校設備改修工事。エレベーター設置に係る工事請負費として計上してはりましたが、実施するに至らなかったため6,585万3,000円を減額しております。

なお歳入のほうでも関連しているため、戻りまして34ページをお願いします。本工事請負費については、国庫補助金との対象となるため学校施設環境改善交付金を活用するようにしてはりましたが、14款，2項，5目．教育費国庫補助金2節．中学校費、補助金の3,405万6,000円を減額しております。

次に94ページをお願いします。10款，4項，2目．文化財保護費12節．無形民俗文化財映像記録業務委託料として120万円を減額しております。これは令和5年度繰越分を令和6年度に実施したことにより減額したものであります。

次に同じページとなります。10款，4項，4目．総合文化会館管理費10節．光熱水費として、143万1,000円を実績に伴い減額しております。

次に97ページをお願いします。10款，6項，1目．管理費18節．学校給食支援事業補助金として、予算額の6,000万円に対して、実績額が5,430万円だったため、その差額分の570万円を減額しております。

以上で、議案第43号（専決第4号）令和6年度波佐見町一般会計補正予算（第9号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくをお願いします。

○議長（尾上和孝君）

会議の途中ですが、しばらく休憩します。11時10分より再開します。

午前10時59分 休憩

午前11時10分 再開

○議長（尾上和孝君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

68ページ。3款，2項，2目．19節の児童手当費でございますが、1,023万円の減額とかなりの減額になっております。この予算額、それから決算額について受給すべき保護者数それから対象となる児童数。これを予算額と決算額に分けて概数で説明をお願いします。

○議長（尾上和孝君） 石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

この児童手当につきましては、対象となる方が10月から拡大をしまして、それまでは中学生までが対象だったものが高校生も対象となるということになって。加えて子供のカウントは、大学生までのお子さんを対象に——大学生の上から数えて範囲をすることで第3子というところの区分が、金額が変わるとかそういうふうになりました。

住民票上で子供の数というのは分かるのですが、実際それを扶養されてる方というのが把握が難しく。またこの町として支給する対象の方というのは、公務員以外の方を支給する。公務員の方はその事業所のほうが支給をするというところになりますので、あくまでこれはざっくり算定をしたところですので、当初の数字は、おおむね前年度と同じぐらいで計上していましたところ、そういう制度改正に伴って、大きく見込んで支給させていただいております。

ちょっと今手持ちで、何人で計算したかという資料を持ち合わせておりませんので後ほど報告をさせていただきます。

○議長（尾上和孝君） 脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

そしたら概数で結構でございますので、ピーク時と申しますか。そういった数字でお願いをしたいと思います。

あとですね、次に移りますが58ページの2款，1項，19目．20節．定額減税補足給付費でございますが。国県支出金の476万9,000円が減になって、一般財源 476万9,000円。同額ですが財源組替となっているわけですが、この理由は何だったのでしょうか。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

58ページ。2款，1項，20目．定額減税補足給付金の財源組替の件ですが、補助額の調整によるものとなっております。以上です。

○議長（尾上和孝君）

皆様をお願いします。マイクはしっかり上げて、議員の方は議席番号をしっかり発言してお願いいたします。

脇坂議員。

○2番（脇坂正孝君）

今補助額の調整ということでしたが、それは具体的にはどんなことですか。

○議長（尾上和孝君） 松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

申し訳ございません。先ほどの分ですが事業組替えをいたしまして、来年度令和7年度に実施する分で減額をして一般財源化しているものでございます。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○8番（城後光君）

89ページをお願いします。9款、消防費1項、消防費の5目、災害対策費12節、委託料の3D都市モデル構築業務委託料なんですけど778万9,000円減額ですね。これは当初予算では、ほかの事業と合わせて予算化されていたので、現実この事業にあたっては業務委託料は幾らになったのかを教えてください。

○議長（尾上和孝君） 福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

3D都市モデルの事業内容は、これまでも説明しているとおりでございます。質問の内容でございますが、最終的な契約金額について、3,381万1,800円であります。なお、当初は4,160万1,000円計上しておりますので、入札減で減額補正をさせております。以上です。

○議長（尾上和孝君） 三石議員。

○7番（三石孝君）

ページまず93ページのほうに中学の中学校管理費の中の14節ですね、工事請負費6,585万3,000円の減額ということですが。このほかにも学校施設関係で工事の着手に至らなかったと。そういう段取りまでいってなかったという御説明がございましたが、工事に入るまでに至らなかった理由とか、というのはどういうことですか。

○議長（尾上和孝君） 林田教育次長。

○教育次長（林田孝行君）

10款、3項、1目、中学校管理費14節、でございます。ここに学校設備改修工事ということで、6,585万3,000円減をさせていただいております。先ほどの説明で申し上げましたが、実施に至らなかったということですが、これは昨年、エレベーターの設置を予定しておりました。

それがエレベーターの設置にした場合、先ほど申し上げました交付金が2分の1の交付を受けられるようになるわけですが、これが当初こちらのほうが予定をしておりましたその対象となるものが最終的にエレベーターのみになるということではございました。それがエレベーターのみの価格で言いますと約1,900万円。この交付金が2分の1でございますので、約900万円程度ということではございましたが、当初の予定では3,600万円の予定をしておまして、その差額が生じたわけではございます。そこが財政と調整をした中で、エレベーターの設置は厳しいということでの判断で、今回実施に至らなかったものでございます。ただそれをエレベーターにかわるものとして、今年度昇降機

ということで、現在着手をしているところでございます。以上でございます。

○議長（尾上和孝君） 岡村真由美議員。

○5番（岡村真由美君）

失礼いたしました。81ページ。7款，1項，1目，17節です。すいません。額はものすごく小さいんですけど、電動キックボード購入費が25万円の減額となっております。これは何月だったか忘れましたが、キックボードの購入についてちょっと疑問を呈したところ、この25万円の減額となっているんですが、これは何台分か購入についても断念されたのか。そこら辺をちょっとお聞かせいただきたいと思います。

○議長（尾上和孝君） 太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

81ページ。7款，1項，3目，17節。備品購入費の電動キックボード購入費の件で御質問ですが。議員おっしゃるとおり昨年度、この電動キックボードの購入につきまして非常に安全性とか、そういったところの観点から、懸念されるというふうな御意見も頂いております。

ですので、いろんな自治体での導入事例も広がってはきているものですね、やはり交通事故とかも起きているような状況も踏まえまして、令和6年度につきましては電動キックボードの購入については見送りをしたというふうなことでございます。以上です。

○議長（尾上和孝君） 城後議員。

○8番（城後光君）

すいません、ちょっとページ数が分からない……。すみません、いいです。

○議長（尾上和孝君）

ほかにありませんか。

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第43号 専決処分の承認を求めることについてを採決します。本案は原案のとおり承認することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（尾上和孝君）

起立全員であります。したがって、議案第43号は原案のとおり承認されました。

日程第6 議案第44号

○議長（尾上和孝君）

日程第6．議案第44号 専決処分の承認を求めることについてを議題とします。本案について内容説明を求めます。

石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

議案第44号（専決第5号）令和6年度波佐見町国民健康保険事業特別会計補正予算（第4号）について、地方自治法第179条第1項の規定により、次のとおり専決処分しましたので、承認を求めるものです。

歳入歳出の総額にそれぞれ500万円を追加し、総額を17億4,800万円とするものです。内容につきましては、決算見込みに伴う調整となっております。

2ページをお願いします。歳入については主なものとして、1款，1項，国民健康保険料は実績見込みで調整し398万3,000円減額し、4款，1項，県負担金を1,047万4,000円増額、6款，2項，他会計繰入金を148万4,000円減額します。

3ページをお願いします。歳出の主なものとして、2款，保険給付費を総額で2,045万1,000円減額しますが、1項，療養諸費から4項出産育児費までの実績に応じた減額です。

4款，1項，保健事業費は健診を普及推進する事業ですが、282万4,000円を減額しています。町内医療機関での短期総合検診で予算を確保していましたが、昨年並みの実績となっております。

2項，特定健康診査等事業費は400万1,000円減額しています。主なものとしては、特定健診委託料の減額になりますが、受診率が昨年度よりもやや下がっており、目標の60%の達成が困難となっております。

5款，1項，基金積立金は令和6年度の決算見込みで剰余が見込まれましたので、1,700万円を増額しています。7款，1項，償還金及び還付加算金は、令和6年度の実績見込みで181万2,000円を減額。8款，1項，予備費については、歳入歳出予算の調整で1,953万8,000円を増額しています。以上で、令和6年度波佐見町国民健康保険事業特別会計補正予算（第4号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（尾上和孝君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第44号 専決処分の承認を求めることについてを採決します。本案は原案のとおり承認することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（尾上和孝君）

起立全員であります。したがって、議案第44号は原案のとおり承認されました。

日程第7 議案第45号

○議長（尾上和孝君）

日程第7. 議案第45号 専決処分の承認を求めることについてを議題とします。本案について内容説明を求めます。

石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

議案第45号（専決第6号）令和6年度波佐見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）について、地方自治法第179条第1項の規定により、次のとおり専決処分しましたので承認を求めるものです。

歳入歳出の総額からそれぞれ120万円を減額し、総額を2億2,380万円とするものです。内容につきましては、決算見込みに伴う調整となっております。

2ページをお願いします。歳入の主なものについては、5款、3項、雑入の健診委託料の実績に応じて、広域連合から補填されるもので、124万円を減額しています。

続いて3ページで歳出について説明します。1款、1項、総務管理費の135万8,000円の減額は、先ほどの雑入の減額と関連するものです。

以上で、令和6年度波佐見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）の説明を終わります。御審議のほどよろしく願いいたします。

○議長（尾上和孝君）

これから質疑を行います。質疑はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第45号 専決処分の承認を求めることについてを採決します。本案は原案のとおり承認することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（尾上和孝君）

起立全員であります。したがって、議案第45号は原案のとおり承認されました。

日程第8 議案第46号

○議長（尾上和孝君）

日程第8. 議案第46号 専決処分の承認を求めることについてを議題とします。本案について内容説明を求めます。

井関長寿支援課長。

○長寿支援課長（井関昌男君）

議案第46号（専決第7号）令和6年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算（第4号）について、地方自治法第179条第1項の規定により、次のとおり専決処分したのでここに報告し、承認を求めるものでございます。

歳入歳出予算の補正でございますが、歳入・歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ3,500万円を減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ14億300万円とするものでございます。今回の補正は決算を見込み、全体の整理を行ったものでございます。

2ページをお願いします。1款, 1項, 介護保険料について収納実績に基づき、全体で47万2,000円を増額しております。4款, 国庫支出金から6款, 県支出金までは国や県、支払い基金それぞれが定めた事業費から、算定された交付決定額により整理を行っております。8款, 繰入金1項, 一般会計繰入金については、それぞれ精算見込みから減額を行っております。

3ページをお願いします。歳出になります。2款, 保険給付費については、1項, 介護サービス等諸費から6項, 特定入所者介護サービス等費までについて利用者のサービス利用に伴うもので、精算見込みによりそれぞれ整理を行い、総額で2,785万円の減額を行っております。

3款, 地域支援事業費については、高齢者の地域での生活を支援する事業で、精算見込みにより、521万7,000円を減額しております。以上で令和6年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算（第4号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願ひいたします。

○議長（尾上和孝君）

これから質疑を行います。質疑はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第46号 専決処分の承認を求めることについてを採決します。本案は原案のとおり、承認することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（尾上和孝君）

起立全員であります。したがって、議案第46号は、原案のとおり承認されました。

日程第9 報告第2号

○議長（尾上和孝君）

日程第9. 報告第2号 波佐見町私債権管理条例に基づく債権放棄についてを議題とします。本件について報告を求めます。

伊藤水道課長。

○水道課長（伊藤幸治君）

それでは報告第2号 波佐見町私債権管理条例に基づく債権放棄について。波佐見町債権管理条例第13条第1項の規定により、債権を放棄したもので同条第2項の規定により議会に報告するものです。

放棄した債権の名称、水道料金です。放棄した年月日は、令和7年3月31日となります。放棄した債権の件数は39件で、月々の水道料金の件数になります。放棄した債権の額は、合計で10万9,040円となります。

放棄した理由につきましては、同条第13条第1項第2号、第3号、第6号の該当するもので対象条項については表以下のですね、下段に記載しておりますので御覧ください。

表に記載している分につきましては、平成22年11月～令和5年6月分で内訳につきましては、第2号に該当するものが14件、3万3,580円で個人2名、法人1件分になります。次に第3号に該当するものが17件、6万6,110円で個人1名分になります。次に第6号に該当するものが8件、9,350円で個人8件分になります。

現在では全てが閉栓されており、料金等もかかっていない状況でございます。なお、債権放棄しました39件。10万9,040円につきましては、不納欠損処理を行っております。以上で報告といたします。

日程第10 報告第3号

○議長（尾上和孝君）

日程第10. 報告第3号 令和6年度波佐見町一般会計予算繰越明許費繰越計算書の報告についてを議題とします。本件について報告を求めます。

松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

報告第3号 令和6年度波佐見町一般会計予算繰越明許費繰越計算書を別紙のとおり調製しましたので、地方自治法施行令第146条第2項の規定により報告するものでございます。

2ページをお願いいたします。対象となる事業は西ノ原土地区画整理事業や災害復旧事業費など合計14事業、8億7,920万円を繰越明許費として令和7年度に繰越しました。

その財源内訳につきましては、右側記載のとおりです。以上で報告を終わります。

日程第11 報告第4号

○議長（尾上和孝君）

日程第11. 報告第4号 令和6年度波佐見町一般会計予算事故繰越計算書の報告についてを議題とします。本件について報告を求めます。

松添税務財政課長。

○税務財政課長（松添博君）

報告第4号 令和6年度波佐見町一般会計予算事故繰越し繰越計算書を別紙のとおり調製しましたので、地方自治法施行令第150条第3項の規定により報告するものでございます。

2ページをお願いします。対象となる事業は、農地農業用施設災害復旧事業を事故繰越しとして4,370万円を令和7年度に繰越しました。その財源内訳については、右側記載のとおりです。なお事故の内容につきましては、令和3年度の豪雨等により被災した箇所において、工期の確保ができず、年度内の完了が困難になったことによるものです。

以上で報告を終わります。

○議長（尾上和孝君）

以上3件は報告でございますので、これで了承願います。

日程第12 閉会中の継続調査申出について

○議長（尾上和孝君）

日程第12. 閉会中の継続調査申出についてを議題とします。

文教厚生委員長、産業建設委員長、議会運営委員長から会議規則第83条の規定による申出がっております。お諮りします。お手元に配付しましたとおり、閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

異議なしと認めます。したがって、各委員長からの申出のとおり閉会中の継続調査とすることに決定しました。

お諮りします。会議規則第44条の規定により、今定例会において議決されました案件について、字句、数字、その他の整理に要するものがあつた場合、その整理を議長に委任されたいと思います。これに御異議ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（尾上和孝君）

異議なしと認めます。よつてこれらの整理に要するものについて、議長に委任することに決定しました。

これで本日の会議は全部終了しました。以上で、本日の会議を閉じます。

令和7年第2回波佐見町議会定例会を閉会します。

午前11時43分 閉会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

議 長

署名議員

署名議員